

感染症発生動向調査事業報告書

平成22年(2010年)



東京都福祉保健局

序

感染症発生動向調査事業は、感染症の発生状況を把握・分析し、情報提供することにより、感染症の発生及びまん延を防止することを目的として行われている事業で、「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律(感染症法)」に基づく事前対応型感染症対策として位置づけられています。

東京都健康安全研究センターでは、一類感染症から五類感染症、新型インフルエンザなど、全症例の届出が義務付けられている疾患、定点医療機関からの届出対象となる五類感染症等について、発生状況や病原体の検出状況等を迅速に把握し、解析・評価を行ったうえで都民や医療機関等に情報提供を行っております。

その中で、国においては平成 24 年までに麻しんを排除することを目標として掲げ、麻しん排除計画を策定しており、この計画に基づき取組を進めております。

都でも、麻しん対策会議において今後の対策のあり方について検討を進めております。ここでの議論を踏まえて、当センターでは平成 22 年度から、麻しんに係る病原体レファレンス事業を開始しました。

この事業では、医療機関や保健所等の協力を得て、届出のあった麻しん患者から咽頭拭い液等の検体を収集し、ウイルスの分離や遺伝子型分析などを行っております。このことにより、より正確な検査診断とともに、都内の流行状況等を詳細に把握することが可能となります。

併せて、より効果的な麻しん対策に資することを目的に、得られたデータ等については関係機関等に迅速に情報提供し、情報の共有を図っております。

本報告書は、東京都医師会感染症予防検討委員会において行われた、平成 22 年の感染症発生情報の評価や、予防策の検討の結果をまとめたものです。各疾患の動向については、「一、二、三、四、五類(全数届出)」は増田和貴委員に、「小児科・内科疾患(インフルエンザ)」と「基幹定点における疾患」は長岡常雄委員長に、「眼科疾患」は福田敏雅委員に、「性感染症」は小島弘敬委員に執筆をお願いし、「病原体検索成績」につきましては当センター微生物部の検査担当者が執筆いたしました。

末筆になりましたが、感染症発生動向調査事業にご協力いただいた東京都医師会、定点医療機関、保健所等の関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

関係各位におかれましては、本書を広くご活用いただき、感染症対策の一助としていただくようお願い申し上げます。

平成 23 年 7 月

東京都健康安全研究センター所長 住友 眞佐美

目 次

第1章 東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告	3
1 発生動向調査の概略	
(1) 調査対象疾病	4
(2) 定点医療機関	4
表1 東京都感染症発生動向調査事業定点数	4
(3) 運営方法	4
(4) 情報発信	5
2 本年（2010年）の概況	
(1) 一類、二類、三類、四類、五類（全数把握対象）、新型インフルエンザ等感染症	5
(2) 五類感染症（定点把握対象）	7
(3) 疑似症（法第14条第1項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）	9
表2-1-(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（一、二、三、四、五類全数）	10
表2-1-(2) 東京都感染症発生動向調査年別患畜報告数（全数動物）	11
表2-2 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点）	12
表2-3 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）	13
表2-4 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点週報告分）	13
表2-5 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（基幹定点月報告分）	14
表2-6 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（STI 定点）	14
3 各疾患の動向	
(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症（全数把握対象）	15
ア 一類感染症	15
イ 二類感染症	15
ウ 三類感染症	15
エ 四類感染症	21
オ 五類感染症（全数把握対象）	31
表3-1 一、二、三、四、五類全数把握対象疾病 週別患者報告数	51
表3-2 一、二、三、四、五類全数把握対象疾病 保健所別患者報告数	54
表3-3 一、二、三、四、五類全数把握対象疾病 年齢階級別患者報告数	57
(2) 小児科・内科疾患	
ア インフルエンザ	60
イ RSウイルス感染症	61

ウ	咽頭結膜熱	62
エ	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	63
オ	感染性胃腸炎	64
カ	水痘	65
キ	手足口病	66
ク	伝染性紅斑	67
ケ	突発性発しん	68
コ	百日咳	69
サ	ヘルパンギーナ	70
シ	流行性耳下腺炎	71
ス	不明発しん症	72
セ	MC L S（川崎病）	73
(3) 眼科疾患		
ア	急性出血性結膜炎	74
イ	流行性角結膜炎	75
(4) 基幹定点における週報告疾患		
ア	細菌性髄膜炎	76
イ	無菌性髄膜炎	77
ウ	マイコプラズマ肺炎	78
エ	クラミジア肺炎（オウム病を除く）	79
(5) 基幹定点における月報告疾患		
ア	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	80
イ	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	81
ウ	薬剤耐性緑膿菌感染症	82
(6) 性感染症（STI）		
ア	性器クラミジア感染症	83
イ	性器ヘルペスウイルス感染症	85
ウ	尖圭コンジローマ	86
エ	淋菌感染症	87
オ	膺トリコモナス症	88
カ	梅毒様疾患	89
表4-1	週別患者報告数	90
表4-2	週別定点当たり患者報告数	92
表5-1	保健所別患者報告数	94

表 5-2	保健所別定点当たり患者報告数	96
表 6-1	年齢階級別患者報告数	98
表 6-2	年齢階級別患者報告数	99
表 7-1	二次医療圏別患者報告数	100
表 7-2	二次医療圏別定点当たり患者報告数	101
表 8-1	月別患者報告数（基幹）	102
表 8-2	月別定点当たり患者報告数（基幹）	102
表 8-3	月別・性別患者報告数（基幹）	102
表 8-4	年齢階級別患者報告数（基幹）	103
表 9-1	月別患者報告数（STI）	103
表 9-2	月別定点当たり患者報告数（STI）	103
表 9-3	月別・性別患者報告数（STI）	104
表 9-4	月別・性別定点当たり患者報告数（STI）	104
表 9-5	保健所別、二次医療圏別患者報告数（STI）	105
表 9-6	保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（STI）	106
表 9-7	年齢階級別患者報告数（STI）	107

第2章 東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索情報

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア	臨床診断名別にみた検体搬入状況	111
イ	臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況	112
ウ	臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況	113
エ	臨床診断名別にみたウイルス検出状況	115
オ	臨床診断名別にみた血中抗体検査状況	119
カ	東京都における麻疹ウイルスの検出状況について	120

(2) 内科病原体定点から搬入された検体の検査結果

2 細菌検査結果

(1)	二類感染症の病原体検索	125
(2)	三類感染症の病原体検索	125
(3)	四類感染症の病原体検索	125
(4)	五類感染症（全数把握対象）の病原体検索	125
(5)	五類感染症（定点把握対象）の病原体検索	125

3 性感染症（STI）病原体定点から搬入された検体の検査結果

(1) クラミジア・淋菌遺伝子検査・細菌分離同定	127
(2) ヒトパピローマウイルス（HPV）の遺伝子検査	129
(3) 単純ヘルペスウイルス（HSV：HSV-1 型及び HSV-2 型）の遺伝子検査	130

第3章 資 料

1 東京都感染症発生動向調査定点名簿	133
2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿	151
3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ	152
4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱	153

別表1 感染症法に基づく感染症の分類

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症	160
2 五類感染症（全数把握）	163
3 新型インフルエンザ等感染症	163
4 五類感染症（定点把握）	164
5 疑似症	165

別表2 五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期

別表3 疑似症の調査単位と報告時期

別記様式一覧表

別記様式 1

別記様式 2

別記様式 3

別記様式 4

別記様式 5

別記様式 6

別記様式 7

別記様式 8

別記様式 9

別記様式 10

第 1 章

東京都感染症発生動向調査事業における患者情報

東京都感染症発生動向調査事業報告

(2010年)

(2010年1月4日～2011年1月2日)

2010年の感染症発生動向調査では発生から2年目を迎える新型インフルエンザ(A/H1N1)の動向が注目されました。

2009年4月にメキシコで新型インフルエンザの発生が確認されて以降、東京都内では5月20日にニューヨークから帰国した高校生が最初の感染者として確認されました。当初の感染者は海外からの帰国者が主でしたが、6月に入ると国内での感染者も見られるようになり、7月中旬にはほとんどが国内での感染者となりました。2009/10シーズンが開始となる2009年36週(8月31日～9月6日)にはすでに定点当たりの報告数は3.67件となり、島しょ地区を除いて都内全域が流行開始の目安となる1.00件を超えていました。その後も患者報告数は増加を続け、44週(10月26日～11月1日)には、定点当たりの報告数が28.03件とピークに達しました。この間36週～46週(8月31日～11月29日)に定点医療機関で検出されたインフルエンザウイルス468件のうち実に467件がAH1pdmでした。44週のピーク以降は減少に転じ、2009年最後の53週(12月28日～1月3日)では定点当たり4.16件となりました。例年であれば1月中旬から3月にかけてインフルエンザ流行の大きな山があるので、2010年1月からの新型インフルエンザの大規模な再流行が懸念されていましたが、2010年1週(1月4日～1月10日)に定点当たり5.55件となるも、その後も大きなピークを迎えることなく、9週(3月1日～3月7日)に定点当たり0.62件となり、流行は終息しました。2010/11シーズンは2010年49週(12月6日～12月12日)に定点当たり1.04件と流行期に入りました。36週～49週(9月6日～12月12日)に東京都健康安全研究センターで検出された53件の内訳ではAH3亜型が64%と最も多く、次いでAH1pdmが30%、Bが6%となっており、AH1pdmがかならずしも主流とはなりませんでした。

このような状況を踏まえ国は、新型インフルエンザに季節性インフルエンザと異なる大きな流行等の特別な事情が確認されなかったとして、2011年4月以降は通常の季節性インフルエンザ(インフルエンザA/H1N1 2009)の1つとして取り扱うことになりました。しかし、この新タイプのインフルエンザの消長は今後も注意深く見てゆく必要があります。

本事業報告にあたり、ご指導いただいた都医師会担当理事の道永麻里先生、副委員長の沼口俊介先生、岡部信彦先生を始めとする各委員の先生方、そして委員会をスムーズに運営していただいた事務局の皆様に感謝申し上げます。

平成23年7月

東京都医師会感染症予防検討委員会
委員長 長 岡 常 雄

1 発生動向調査の概略

(1) 調査対象疾病

「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」および「感染症発生動向調査事業実施要綱」に指定している全数把握対象疾患および五類定点把握対象 28 疾患のほかに、都単独に不明発しん症と MCLS (川崎病) 及び性感染症として膣トリコモナス症と梅毒様疾患を調査対象としている。また、厚生労働省令で定める 2 疑似症を疑似症サーベイランス対象としている。(第 3 章別表 1 参照)

(2) 定点医療機関

都立府中病院が 2010 年 2 月末に、都立清瀬小児病院が 3 月末に閉院となったため、4 月 1 日より多摩総合医療センター、小児総合医療センター及び多摩北部医療センターが新たに基幹定点となった。2010 年は、小児科定点 150、内科定点 140、眼科定点 39、基幹定点 25 (4 ヶ所は小児科定点を兼ねる)、性感染症定点 55、合計 409 定点から患者情報を収集した。病原体定点は、2009 年と同様、56 医療機関が患者定点と兼ねて指定されている。なお、小児科定点と内科定点はインフルエンザ定点としても機能している。また、2008 年 7 月より開始した疑似症サーベイランスでは、インフルエンザ定点 290 と疑似症単独定点 26 から情報を収集した。なお、疑似症定点の都立府中病院は、4 月より多摩総合医療センターに変更になっている。

表1 東京都感染症発生動向調査事業定点数

(2010 年 12 月 31 日現在)

定 点 種 別 (疾病数)	患 者 定 点 定 点 数	病 原 体 定 点 定 点 数
小 児 科 定 点 (14)	150	15
内 科 定 点 (1)	140	14
眼 科 定 点 (2)	39	4
基 幹 定 点 (7)	25	19
性 感 染 症 定 点 (6)	55	4
疑似症単独定点 (2)	26	
合 計	435	56

(3) 運営方法

小児科定点、内科定点、眼科定点及び基幹定点からの報告は週単位で、性感染症 (STI) 定点からの報告は月単位でなされる。ただし、基幹定点から報告される一部の疾病については月単位となっている。

週単位で報告される疾病については、毎週月曜日から日曜日までに診断された患者に関して、小児科、内科、眼科の各定点医療機関においては年齢別の患者数を、基幹定点医療機関においては年齢、検出病原体名を、所定の調査票に記入し、保健所に FAX または郵便で送付する。

月単位で報告される月報告疾患については、性感染症定点医療機関が当該月の年齢別患者数を、基幹定点医療機関が患者の年齢、検体採取部位を、所定の調査票に記入し、保健所に FAX または郵便で送付する。

疑似症サーベイランスについては、報告基準を満たす患者が発生した場合には、症例分類、年齢、性別を、所定の調査票に記入し、直ちに保健所に FAX で送付する（疑似症単独定点については、疑似症サーベイランスシステムへ直接入力する）。なお、発生がない場合であっても、その旨、週単位で報告する。

定点医療機関から届いた情報は、保健所が発生動向調査システム及び疑似症サーベイランスシステムに入力する。健康安全研究センター疫学情報室（基幹地方感染症情報センター）は、保健所からの情報を確認後、国へ送信する。

(4) 情報発信

患者情報は、全国の情報及び病原体定点で採取された検体からの病原体検出結果と共に、「感染症週報」として東京都感染症情報センターホームページ (<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp>) で公開され、保健所を通じて定点医療機関へ提供されると共に、都民にも広く情報還元が図られている。

また、隔月第 4 木曜日に、感染症予防検討委員会が開催され、直近 2 か月分の情報について討議し、その情報は東京都医師会雑誌に「感染症だより」として掲載している。さらに都医ニュースに特定の感染症を取り上げ「感染症豆知識」を掲載している。

2 本年（2010 年）の概況

（１）一類、二類、三類、四類、五類（全数把握対象）、新型インフルエンザ等感染症

2009 年（平成 21 年）4 月 28 日に新型インフルエンザ等感染症に位置づけられた新型インフルエンザ（A/H1N1）は、2009 年 8 月 25 日以降、届出は不要となった。

ア 一類感染症

一類感染症《エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱》の届出はなかった。

イ 二類感染症

二類感染症のうち《急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）》の届出はなかった。結核の動向については、別途、健康安全部感染症対策課が扱っている。

ウ 三類感染症

三類感染症は総計 444 件の届出があった。

コレラは 2 件届出があった。どちらも O1 エルトール小川で、推定感染地は国外であった。

細菌性赤痢は 86 件届出があった。フレキシネル菌 24 件、ボイド菌 1 件、ソンネ菌 61 件であった。推定感染地は国内 18 件、国外 68 件であった。

腸管出血性大腸菌感染症は 339 件届出があった。O157VT1 が 14 件、O157VT2 が 76 件、O157VT1VT2 が 149 件、O26VT1 が 21 件、O26VT1VT2 が 3 件、O103VT1 が 11 件、O91VT1 が 6 件、O111VT2 が 2 件、O121VT2 が 2 件、O145VT2 が 2 件、O146VT2 が 2 件、その他が 51 件であった。症状別では、患者 232 人（うち HUS 7 人）、無症状病原体保有者 107 人であった。

腸チフスは 12 件届出があった。推定感染地は国内 1 件、国外 11 件であった。

パラチフスは 5 件届出があった。推定感染地は全て国外であった。

エ 四類感染症

四類感染症は総計 228 件の届出があった。

E 型肝炎は 9 件届出があった。推定感染地は全て国内であった。

A 型肝炎は 45 件届出があった。推定感染地は国内 36 件、国外 9 件であった。

エキノコックス症は 1 件届出があった。多包条虫で、推定感染地は国外であった。

コクシジオイデス症は 1 件届出があった。推定感染地は国外であった。

つつが虫病は 14 件届出があった。推定感染地は全て国内であった。

デング熱は 70 件届出があり、うち 2 件はデング出血熱であった。推定感染地は全て国外であった。

日本紅斑熱は 1 件届出があった。推定感染地は国内であった。

マラリアは 28 件届出があった。三日熱マラリア 6 件、卵形マラリア 3 件、熱帯熱マラリア 19 件であった。推定感染地は全て国外であった。

ライム病は 1 件届出があった。推定感染地は国内であった。

類鼻疽は 1 件届出があった。推定感染地は国外であった。

レジオネラ症は 55 件届出があった。全て肺炎型であった。推定感染地は国内 53 件、国外 1 件、国内及び国外 1 件で、温泉等入浴施設での感染が推定されているものは 22 件であった。

レプトスピラ症は 2 件届出があった。推定感染地は国内 1 件、国外 1 件であった。

《ウエストナイル熱、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、Q 熱、狂犬病、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ (H5N1 を除く)、ニパウイルス感染症、日本脳炎、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、発しんチフス、ボツリヌス症、野兔病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、ロッキー山紅斑熱》の届出はなかった。

オ 五類感染症

五類感染症は総計 1087 件の届出があった。

アメーバ赤痢は 180 件届出があった。腸管アメーバ症 150 件、腸管外アメーバ症 20 件、腸管及び腸管外アメーバ症 10 件であった。推定感染地は国内 147 件、国外 27 件、国内及び国外 6 件であった。

ウイルス肝炎は 48 件届出があった。B 型肝炎 42 件、C 型肝炎 6 件であった。

急性脳炎は 14 件届出があった。病原体は新型インフルエンザウイルス、香港型インフルエンザウイルス、水痘帯状疱疹ウイルス、ヘルペスウイルス、アデノウイルス、RS ウイルスが各 1 件、不明 8 件であった。

クリプトスポリジウム症は 3 件届出があった。推定感染地は国内 2 件、国外 1 件であった。

クロイツフェルト・ヤコブ病は 15 件届出があった。孤発性プリオン病・古典型 CJD 12 件、遺伝性プリオン病・GSS 2 件、感染性プリオン病・医原性 CJD 1 件であった。推定感染地は国内 4 件、不明 11 件であった。

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 19 件届出があった。血清群は A 群 11 件、B 群 1 件、G 群 6 件、不明 1 件であった。死亡は 8 件報告された。

後天性免疫不全症候群は 509 件届出があった。HIV 感染者 365 件、AIDS 患者 107 件、その他 37 件であった。推定感染地は国内 420 件、国外 26 件、国内及び国外 1 件、不明 62 件で、推定感染経路は性的接触 449 件（同性間 334 件、異性間 94 件、両性間 21 件）、静注薬物 2 件、母子感染 1 件、その他 1 件、性的接触/静注薬物 4 件、不明 52 件であった。

ジアルジア症は 13 件届出があった。推定感染地は国内 6 件、国外 7 件であった。

梅毒は 173 件届出があった。早期顕症梅毒Ⅰ期 17 件、早期顕症梅毒Ⅱ期 96 件、晩期顕症梅毒 7 件、無症候 53 件であった。推定感染地は国内 168 件、国外 5 件であった。

破傷風は 5 件届出があった。推定感染地は全て国内であった。

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は 17 件届出があった。耐性遺伝子型は *vanA* 2 件、*vanB* 3 件、*vanC* 5 件、不明 7 件であった。

風しんは 15 件届出があった。検査診断例 12 件、臨床診断例 3 件であった。

麻疹は 76 件届出があった。麻疹（検査診断例）17 件、麻疹（臨床診断例）32 件、修飾麻疹（検査診断例）27 件であった。

《髄膜炎菌性髄膜炎、先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症》の届出はなかった。

（２）五類感染症（定点把握対象）

ア 小児科・内科疾患

2009 年と比較して 2010 年に減少した疾患は、インフルエンザのみであり、報告数が前年並みに推移した疾患は、突発性発しん、流行性耳下腺炎、不明発しん症の 3 疾患、前年より増加した疾患は、ヘルパンギーナ、RS ウイルス感染症、百日咳、伝染性紅斑、手足口病、感染性胃腸炎、咽頭結膜熱、水痘、MCLS（川崎病）、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の 10 疾患であった。

〔前年比減少疾患〕

インフルエンザ：2010 年は 12,614 件、定点当たり 43.97 件の報告数があった。前年が大流行の年であったので、定点当たりで見ると、当年／前年比で 0.09 と大幅に減少した。過去 10 年間でみても 2001 年に次いで 2 番目に少ない報告数であった。

〔前年比横這であった疾患〕

突発性発しん：2010 年は 4,397 件、定点当たり 29.74 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 0.98 であった。

流行性耳下腺炎：2010 年は 5,154 件、定点当たり 34.87 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 0.99 であった。

不明発しん症：2010 年は 622 件、定点当たり 4.21 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 0.94 であった。

〔前年比増加疾患〕

ヘルパンギーナ：2010 年は 8,400 件、定点当たり 57.06 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 3.24 であり、過去 10 年間で最多の報告数であった。

RS ウイルス感染症：2010 年は 2,153 件、定点当たり 14.52 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 2.53 であった。2003 年に報告が開始されて以降 8 年間で最多の報告数であった。

百日咳：2010 年は 506 件、定点当たり 3.42 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 2.24 であった。過去 10 年間で最多の報告数であった。

伝染性紅斑：2010 年は 2,929 件、定点当たり 19.79 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は

1.88 であった。

手足口病：2010 年は 6,257 件、定点当たり 42.52 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 1.82 であった。過去 10 年間では 2003 年に次ぎ 2 番目に多い報告数であった。

感染性胃腸炎：2010 年は 63,372 件、定点当たり 427.41 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 1.68 であった。過去 10 年間で最多の報告数であった。

咽頭結膜熱：2010 年は 1,979 件、定点当たり 13.37 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 1.47 であった。

水痘：2010 年は 9,472 件、定点当たり 63.93 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 1.33 であった。過去 10 年間で最多の報告数であった。

MCLS（川崎病）：2010 年は 89 件、定点当たり 0.60 件の報告があり、定点当たり当年／前年比は 1.25 であった。

A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎：2010 年は 11,231 件、定点当たり 75.80 件の報告があり、定点当たりの当年／前年比は 1.11 であった。

イ 眼科疾患

急性出血性結膜炎：年間 74 件（1.91／定点）が報告された。前年比 36.9%の増加となり、このところ減少傾向にあったが 2007 年の水準に戻った。全国と比較すると多い傾向にあった。

流行性角結膜炎：年間 951 件（24.60／定点）が報告された。前年比 35.3%の増加となり、このところ減少傾向にあったが 2007 年の水準に戻った。全国と比較するとやや少ない傾向にあった。

ウ 基幹定点における週報告疾患

細菌性髄膜炎：2010 年は 18 件、定点当たり 0.76 件報告された。過去 10 年間では平均的な報告数であった。

無菌性髄膜炎：2010 年は 38 件、定点当たり 1.61 件報告された。過去 10 年間では平均的な報告数であった。

マイコプラズマ肺炎：2010 年は 416 件、定点当たり 17.76 件報告された。過去 10 年間で最多の報告数であった。

クラミジア肺炎：2010 年は 20 件、定点当たり 0.85 件報告された。前年まで報告数が増加してきたが 2010 年は減少している。

エ 基幹定点における月報告疾患

メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症（MRSA）：2010 年は 1,312 件、定点当たり 55.36 件報告された。過去 10 年間の報告数に大きな変動はない。

ペニシリン耐性肺炎球菌感染症：2010 年は 635 件、定点当たり 26.77 件報告された。過去 10 年間の報告数に大きな変動はないが、2010 年は最多の報告数であった。

薬剤耐性緑膿菌感染症：2010 年は 26 件、定点当たり 1.10 件報告された。ここ数年報告数の減少が見られる。

オ 性感染症（STI）

性器クラミジア感染症：2010 年は 2,376 件、定点当たり 44.07 件報告された。定点当たりの報告数

は過去 10 年間で 2 番目に少ない報告数であった。

性器ヘルペスウイルス感染症：2010 年は 1,194 件、定点当たり 22.15 件報告された。定点当たりの報告数は過去 10 年間で平均的な報告数であった。

尖圭コンジローマ：2010 年は 842 件、定点当たり 15.62 件報告された。定点当たりの報告数は過去 10 年間で 3 番目に多い報告数であった。

淋菌感染症：2010 年は 1,067 件、定点当たり 19.81 件報告された。定点当たりの報告数は過去 10 年間で 3 番目に少ない報告数であった。

膣トリコモナス症：2010 年は 150 件、定点当たり 2.78 件報告された。定点当たりの報告数は過去 10 年間で 2 番目に少ない報告数であった。

梅毒様疾患：2010 年は 83 件、定点当たり 1.54 件報告された。定点当たりの報告数は過去 10 年間で平均的な報告数であった。

（３）疑似症（法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症）

摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）は 20 件、発熱及び発しん又は水疱は 9 件報告された。

表2-1-(1) 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(一、二、三、四、五類全数)

分類	疾 病 名	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
一 類	エボラ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	痘そう *1	-	-	-	-	-	-	-
	南米出血熱 *2	/	/	/	/	-	-	-
	ペスト	-	-	-	-	-	-	-
	マールブルグ病	-	-	-	-	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-	-	-	-	-
二 類	急性灰白髄炎	-	-	-	-	-	-	-
	結核 *2 (2011年3月9日現在の報告数)	-	-	-	3,305	3,228	3,219	4,332
	ジフテリア	-	-	-	-	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群 *3	-	-	-	-	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1) *4	/	/	/	/	/	-	-
三 類	コレラ *5	12	13	8	3	6	3	2
	細菌性赤痢 *5	133	89	67	86	64	48	86
	腸管出血性大腸菌感染症	273	238	268	476	409	317	339
	腸チフス *5	17	11	19	11	13	11	12
	パラチフス *5	15	4	12	7	7	12	5
四 類	E型肝炎 *1	4	8	4	3	7	6	9
	ウエストナイル熱 *6	-	-	-	-	-	-	-
	A型肝炎 *1	21	24	28	19	31	24	45
	エキノкокクス症	-	1	1	3	-	1	1
	黄熱	-	-	-	-	-	-	-
	オウム病	3	3	4	1	-	1	-
	オムスク出血熱 *2	/	/	/	/	-	-	-
	回帰熱	-	-	-	-	-	-	-
	キャサナル森林病 *2	/	/	/	/	-	-	-
	Q熱	1	3	-	2	1	1	-
	狂犬病	-	-	-	-	-	-	-
	コクシジオイデス症	1	1	1	2	-	1	1
	サル痘 *1	-	-	-	-	-	-	-
	腎症候性出血熱	-	-	-	-	-	-	-
	西部ウマ脳炎 *2	/	/	/	/	-	-	-
	ダニ媒介脳炎 *2	/	/	/	/	-	-	-
	炭疽	-	-	-	-	-	-	-
	つつが虫病	7	6	1	15	18	14	14
	デング熱	27	29	18	23	32	32	70
	東部ウマ脳炎 *2	/	/	/	/	-	-	-
	鳥インフルエンザ(H5N1を除く) *7	-	-	-	-	-	-	-
	ニパウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	-	-	-	-	1
	日本脳炎	-	-	-	-	-	-	-
	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	-	-	-	-
	Bウイルス病	-	-	-	-	-	-	-
	鼻疽 *2	/	/	/	/	-	-	-
	ブルセラ症	-	1	1	-	-	1	-
	ベネズエラウマ脳炎 *2	/	/	/	/	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症 *2	/	/	/	/	-	-	-
	発しんチフス	-	-	-	-	-	-	-
	ボツリヌス症 *8	-	1	-	-	-	-	-

分類	疾 病 名	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
四 類	マラリア	22	21	16	23	23	26	28
	野兔病 *1	-	-	-	-	-	-	-
	ライム病	-	4	2	3	-	1	1
	リッサウイルス感染症 *1	-	-	-	-	-	-	-
	リフトバレー熱 *2					-	-	-
	類鼻疽 *2					-	-	1
	レジオネラ症	18	24	62	53	80	53	55
	レプトスピラ症 *1	3	3	4	4	4	-	2
	ロッキー山紅斑熱 *2					-	-	-
五 類 (全数届出)	アメーバ赤痢 *9	141	183	181	166	189	140	180
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く) *9	58	36	34	40	30	35	48
	急性脳炎 *1	8	16	6	20	11	45	14
	クリプトスポリジウム症 *9	8	1	5	1	4	4	3
	クロイツフェルト・ヤコブ病 *9	20	15	22	16	15	19	15
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症 *9	6	7	14	6	19	10	19
	後天性免疫不全症候群 *9	411	417	453	515	545	471	509
	ジアルジア症 *9	18	13	28	19	20	24	13
	髄膜炎菌性髄膜炎 *9	7	3	1	3	2	1	-
	先天性風しん症候群 *9	3	-	-	-	-	-	-
	梅毒 *9	65	98	132	162	205	196	173
	破傷風 *9	2	2	8	1	5	7	5
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症 *1 *9	-	-	-	-	-	-	-
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 *9	10	13	20	17	15	15	17
	風しん *10					46	19	15
	麻しん *10					1,174	110	76
新型	新型インフルエンザ *11						1,160	

*1 2003年11月5日より新たに追加指定された。

*2 2007年4月1日より新たに追加指定された。

*3 2003年11月5日より新たに追加指定された。2007年4月1日に一類から二類に分類が変更になった。

*4 2008年5月12日より新たに追加指定された。

*5 2007年4月1日に二類から三類に分類が変更になった。

*6 2002年11月1日より四類感染症に追加され、急性脳炎に含まれなくなった。

*7 2003年11月5日より「高病原性鳥インフルエンザ」として新たに追加指定、2007年4月1日より「鳥インフルエンザ」に変更。

*8 2003年11月5日より新たに追加指定された。11/4までは「乳児ボツリヌス症」を含む。

*9 2003年11月5日より「四類(全数届出)」から「五類(全数届出)」に分類が変更になった。

*10 2008年1月1日より五類(定点届出)から五類(全数届出)に分類が変更になった。

*11 2009年4月28日に新型インフルエンザ等感染症に指定された。全数届け出は2009年7月23日まで。

表2-1-(2) 東京都感染症発生動向調査年別患畜報告数(全数動物)

疾 病 名	2004年	2005年	2006年	2007年	2008年	2009年	2010年
エボラ出血熱のサル							
マールブルグ病のサル							
ペストのプレーリードッグ							
重症急性呼吸器症候群のイタチアナグマ							
重症急性呼吸器症候群のタヌキ							
重症急性呼吸器症候群のハクビシン							
結核のサル							
鳥インフルエンザ(H5N1)の鳥類						1	
細菌性赤痢のサル		1	1				
ウエストナイル熱の鳥類							
エキノコックス症の犬							

2009年の報告は動物実験による感染

表２－２ 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（インフルエンザ定点・小児科定点）

上段：年間報告数

下段：定点当たり

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
小児科定点数 *1	142	142	142	142	142	142	150	150	150	150
インフルエンザ 定点数 *2	178	178	178	178	178	178	290	290	290	290
インフルエンザ	6,114 34.35	14,877 83.58	27,007 151.72	18,958 106.51	43,336 243.46	23,953 134.57	53,927 191.41	23,059 80.47	142,140 495.53	12,614 43.97
RSウイルス感染症 *3			68 0	432 3	848 6	818 6	1,403 9.57	1,722 11.71	845 5.73	2,153 14.52
咽頭結膜熱	645 4.54	600 4.23	1,353 9.53	2,123 14.95	2,468 17.38	3,929 27.67	2,793 18.96	2,927 19.86	1,339 9.07	1,979 13.37
A群溶血性 レンサ球菌咽頭炎	2,936 20.68	3,772 26.56	4,261 30.01	5,842 41.14	7,564 53.27	11,213 78.96	11,913 81.32	13,925 93.97	10,058 68.03	11,231 75.80
感染性胃腸炎	31,639 222.81	34,659 244.08	35,718 251.54	39,464 277.92	42,578 299.85	51,945 365.81	46,783 318.41	58,681 395.92	37,599 254.50	63,372 427.41
水 痘	6,877 48.43	7,079 49.85	6,439 45.35	6,845 48.20	7,565 53.27	8,345 58.77	8,874 60.77	8,682 58.68	7,079 47.94	9,472 63.93
手足口病	2,133 15.02	3,213 22.63	6,872 48.39	3,585 25.25	3,296 23.21	2,885 20.32	4,382 29.73	4,487 30.60	3,426 23.36	6,257 42.52
伝染性紅斑	2,510 17.68	1,574 11.08	1,471 10.36	2,771 19.51	2,035 14.33	3,109 21.89	2,879 19.73	1,168 7.90	1,558 10.54	2,929 19.79
突発性発しん	3,507 24.70	3,632 25.58	3,777 26.60	4,043 28.47	4,048 28.51	4,119 29.01	4,691 31.95	4,944 33.49	4,463 30.24	4,397 29.74
百日咳	23 0.16	32 0.23	34 0.24	47 0.33	28 0.20	23 0.16	151 1.02	278 1.88	225 1.53	506 3.42
風しん *4	114 0.80	71 0.50	143 1.01	234 1.65	40 0.28	21 0.15	35 0.24			
ヘルパンギーナ	6,314 44.46	5,067 35.68	5,064 35.66	5,275 37.15	6,909 48.65	5,900 41.55	6,804 46.10	6,470 44.08	2,574 17.63	8,400 57.06
麻しん *4	628 4.42	377 2.65	376 2.65	78 0.55	49 0.35	25 0.18	303 2.05			
流行性耳下腺炎	6,284 44.25	3,678 25.90	1,290 9.08	3,250 22.89	7,321 51.56	4,481 31.56	1,940 13.24	3,662 24.83	5,175 35.05	5,154 34.87
不明発しん症	585 4.12	613 4.32	579 4.08	540 3.80	461 3.25	966 6.80	665 4.52	734 4.98	657 4.48	622 4.21
MCLS(川崎病)	75 0.53	60 0.42	66 0.46	69 0.49	56 0.39	101 0.71	110 0.75	109 0.73	71 0.48	89 0.60

*1 2007年は、12月 末時点の定点数

*2 2007年は、12月 末時点の定点数

*3 2003年45週より実施

*4 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

表２－３ 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数（眼科定点）

上段：年間報告数
下段：定点当たり

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
定点数＊	14	14	14	14	14	14	39	39	39	39
急性出血性結膜炎	16	12	18	6	7	8	82	64	53	74
	1.14	0.86	1.29	0.43	0.50	0.57	2.15	1.66	1.37	1.91
流行性角結膜炎	1,008	925	880	719	567	535	968	865	703	951
	72.00	66.07	62.86	51.36	40.50	38.21	32.04	22.41	18.28	24.60

＊ 2007年は、12月末時点の定点数

表２－４ 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
（基幹定点週報告分）

上段：年間報告数
下段：定点当たり

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
定点数	25	25	25	25	25	25	25	24	24	25
細菌性髄膜炎	12	24	18	25	17	15	28	24	24	18
	0.48	0.96	0.72	1.00	0.68	0.60	1.14	1.01	1.02	0.76
無菌性髄膜炎	36	66	66	27	28	40	50	34	28	38
	1.44	2.64	2.64	1.08	1.12	1.60	2.03	1.42	1.17	1.61
マイコプラズマ肺炎	45	163	173	184	164	218	247	298	305	416
	1.80	6.52	6.92	7.36	6.56	8.72	10.11	12.53	12.93	17.76
クラミジア肺炎	0	2	3	4	9	13	20	25	46	20
	0.00	0.08	0.12	0.16	0.36	0.52	0.81	1.05	1.96	0.85
成人麻しん ＊1	181	116	144	16	1	3	262			
	7.24	4.64	5.76	0.64	0.04	0.12	10.70			

＊1 2008年1月1日から五類全数把握対象疾患に変更

**表２－５ 東京都感染症発生動向調査年別患者報告数
(基幹定点月報告分)**

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
定点数	25	25	25	25	25	25	25	24	24	25
メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	1,365 54.60	1,759 70.36	1,761 70.44	1,552 62.08	1,539 61.56	1,536 61.44	1,758 70.53	1,606 66.92	1,290 54.44	1,312 55.36
ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	355 14.20	557 22.28	617 24.68	444 17.76	534 21.36	579 23.16	624 25.08	554 23.08	552 23.30	635 26.77
薬剤耐性緑膿菌感染症	69 2.76	107 4.28	61 2.44	39 1.56	35 1.40	41 1.64	48 1.93	26 1.08	22 0.93	26 1.10

表２－６ 東京都感染症発生動向調査年別報告数（ＳＴＩ定点）

上段:年間報告数
下段:定点当たり

年	2001	2002	2003	2004	2005	2006	2007	2008	2009	2010
定点数＊	41	41	41	41	41	41	55	55	55	55
性器クラミジア感染症	2,789 68.02	2,536 61.85	2,422 59.07	2,476 60.39	2,132 52.00	2,133 52.02	2,485 48.08	2,605 47.51	2,295 42.51	2,376 44.07
性器ヘルペスウイルス感染症	1,019 24.85	950 23.17	865 21.10	982 23.95	923 22.51	963 23.49	989 19.40	946 17.25	954 17.69	1,194 22.15
尖圭コンジローマ	549 13.39	502 12.24	518 12.63	627 15.29	555 13.54	646 15.76	801 15.39	926 16.88	727 13.47	842 15.62
淋菌感染症	1,364 33.27	1,249 30.46	1,298 31.66	1,171 28.56	1,006 24.54	868 21.17	1,013 19.63	1,096 19.99	950 17.61	1,067 19.81
膣トリコモナス症	367 8.95	447 10.90	343 8.37	298 7.27	212 5.17	233 5.68	233 4.69	169 3.08	138 2.55	150 2.78
梅毒様疾患	63 1.54	41 1.00	68 1.66	42 1.02	43 1.05	74 1.80	103 1.99	82 1.50	94 1.74	83 1.54

＊ 2007年は、12月末時点の定点数

3 各疾患の動向

(1) 一類、二類、三類、四類、五類感染症 (全数把握対象)

ア 一類感染症

一類感染症（以下参照）の届出はなかった。

エボラ出血熱、クリミア・コンゴ出血熱、痘そう、南米出血熱、ペスト、マールブルグ病、ラッサ熱

イ 二類感染症

① 結核

結核の動向は別途、健康安全部感染症対策課が扱っている。

② その他の二類感染症

以下の4疾患は届出がなかった。

急性灰白髄炎、ジフテリア、重症急性呼吸器症候群、鳥インフルエンザ（H5N1）

ウ 三類感染症

① コレラ

コレラは2件届出があった。全てO1エルトル小川であった。

性別は男性1人、女性1人で、年齢別はどちらも30歳代であった。

推定感染地は全て国外（マレーシア1件、インド1件）であった。

コレラ（N=2）

No	受理日	受理週	性別	年齢	菌型	推定感染地
1	1/19	3	男	32	O1 エルトール小川	マレーシア
2	9/2	35	女	39	O1 エルトール小川	インド

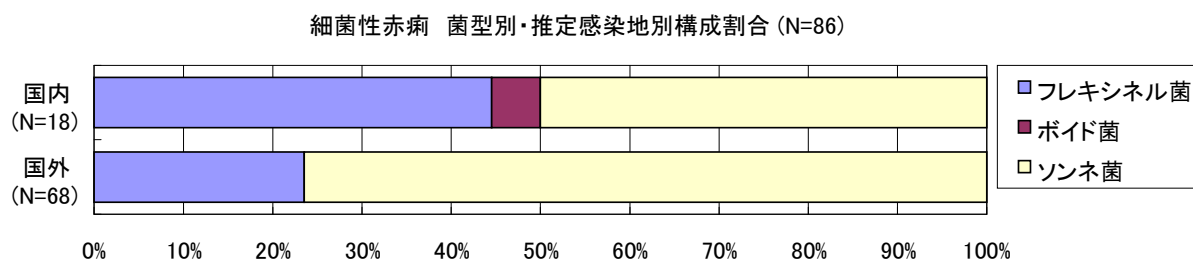
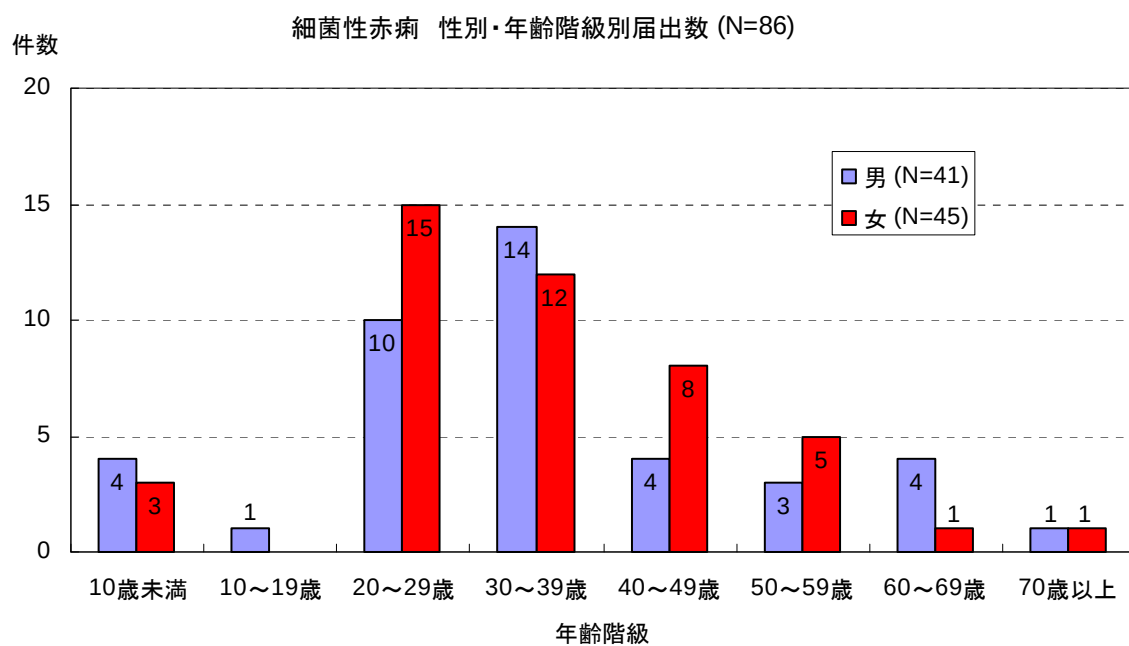
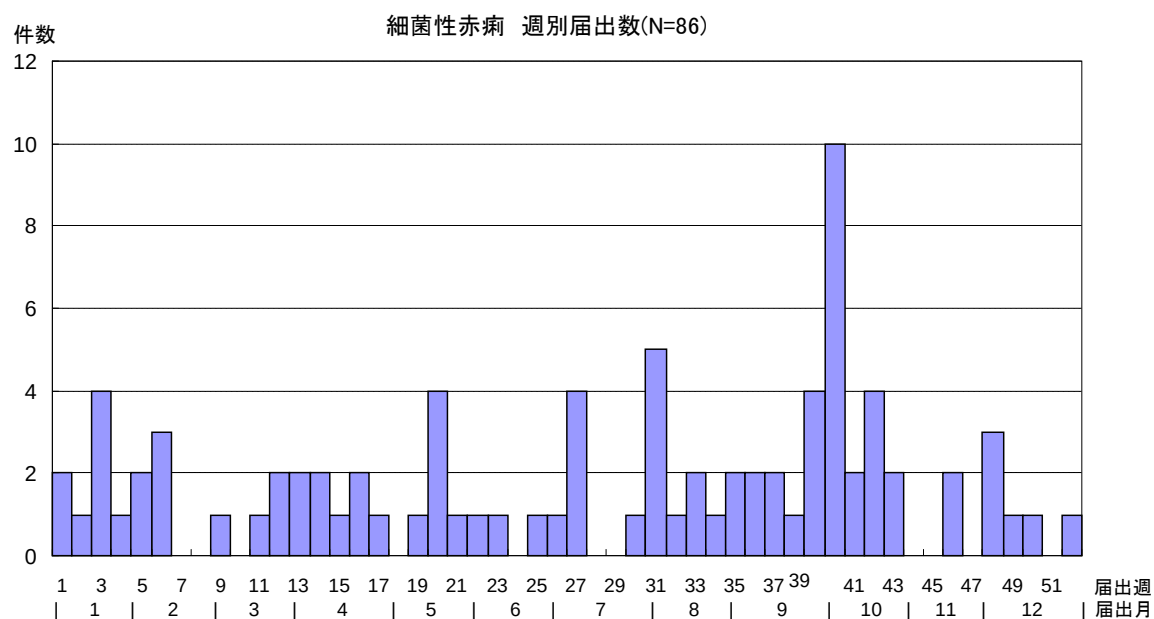
② 細菌性赤痢

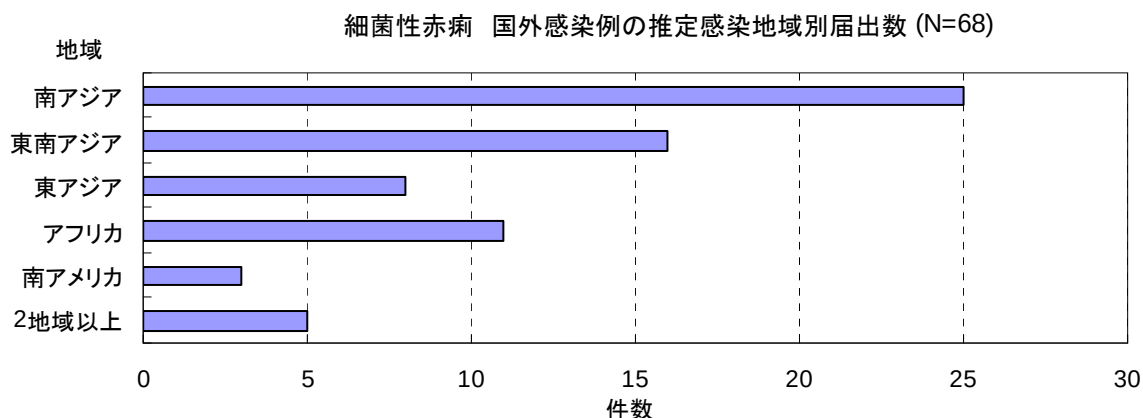
細菌性赤痢は86件届出があった。菌型はフレキシネル菌24件、ボイド菌1件、ソンネ菌61件であった。

性別は男性41人、女性45人で、年齢は10歳未満7人（うち5歳未満4人）、10歳代1人、20歳代25人、30歳代26人、40歳代12人、50歳代8人、60歳代5人、70歳以上2人であった。

推定感染地は国内18件、国外68件であった。国外感染例68件を推定感染地域別にみると、南アジア25件、東南アジア16件、アフリカ11件、東アジア8件が多く、推定感染国別にみると、インド22件、インドネシア9件、中国7件、モロッコ5件、エジプト3件、ブラジル3件、カンボジア2件、バングラデシュ2件が多かった。症例の集積は、第21～22週インドネシアへの渡航者2人（ソンネ）、第27週モロッコへの渡航者2人（ソンネ）、第39～40週ブラジルへの渡航者3人（フレキシネル）、第39～43週モロッコへの渡航者3人（ソンネ）に認められた。

国内感染が疑われる18件の年齢は、10歳未満2人、10歳代1人、20歳代3人、30歳代3人、40歳代2人、50歳代4人、60歳代2人、70歳以上1人であった。症例の集積は、第31週に3人（フレキシネル1件、ソンネ2件）、第42週に2人（フレキシネル1件、ソンネ1件）認められた。





細菌性赤痢 国外感染例の推定感染地域別・国別届出数 (N=68)

推定感染地域	件数	推定感染国	件数
南アジア	25	インド	22
		バングラデシュ	2
		パキスタン	1
東南アジア	16	インドネシア	9
		カンボジア	2
		フィリピン	2
		ベトナム	1
		ラオス	1
		ミャンマー	1
東アジア	8	中国	7
		韓国	1
アフリカ	11	モロッコ	5
		エジプト	3
		タンザニア	1
		ニジェール	1
		マダガスカル	1
南米	3	ブラジル	3
2地域以上	5	インド/バングラデシュ	1
		カンボジア/タイ	1
		エジプト /トルコ/ギリシャ	1
		エジプト/ヨルダン	1
		メキシコ/パナマ	1
計	68		

細菌性赤痢 国内感染例 (N=18)

No	受理日	受理週	性別	年齢	菌型	症状	推定感染地	備考
1	1/4	1	男	7	フレキシネル	有	東京	生貝の喫食歴あり
2	2/8	6	女	50	ソンネ	有	東京	
3	4/5	14	男	65	フレキシネル	有	東京	
4	4/12	15	男	55	フレキシネル	有	東京	
5	5/21	20	男	10	ソンネ	有	東京	
6	6/11	23	女	54	ソンネ	有	東京	
7	7/6	27	男	69	ボイド	有	不明	
8	8/3	31	男	39	ソンネ	有	不明	
9	8/4	31	男	0	ソンネ	有	東京	
10	8/6	31	男	33	フレキシネル	有	不明	
11	9/14	37	女	83	ソンネ	有	不明	
12	9/21	38	女	21	フレキシネル	有	不明	
13	10/9	40	女	23	フレキシネル	無	東京	
14	10/14	41	女	46	ソンネ	有	東京	
15	10/18	42	女	30	ソンネ	有	東京	
16	10/21	42	女	26	フレキシネル	有	東京	
17	11/29	48	男	57	ソンネ	無	不明	
18	12/28	52	女	45	フレキシネル	有	東京	

③ 腸管出血性大腸菌感染症

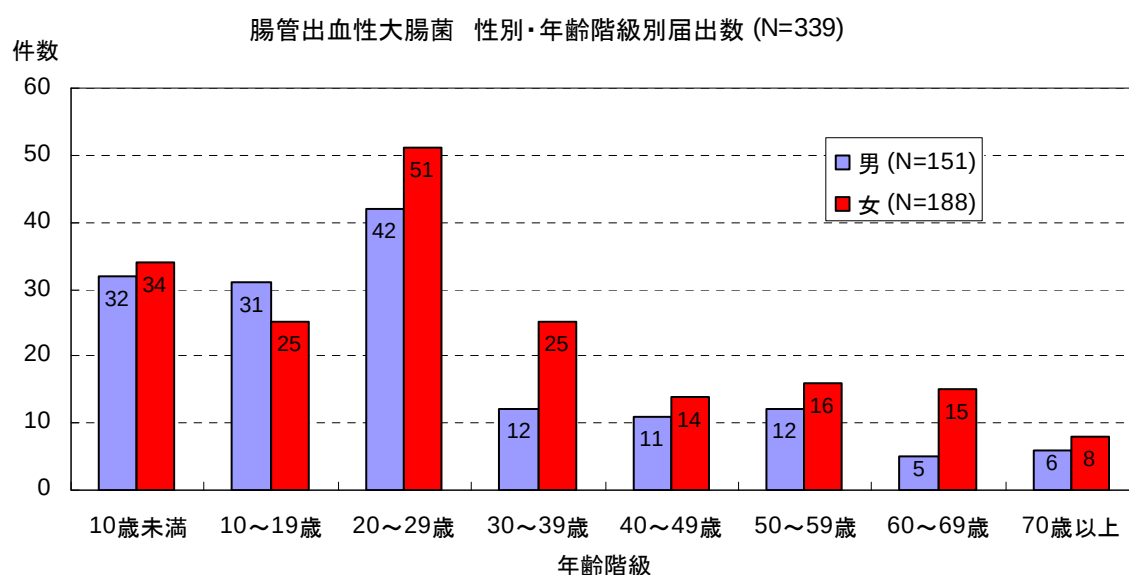
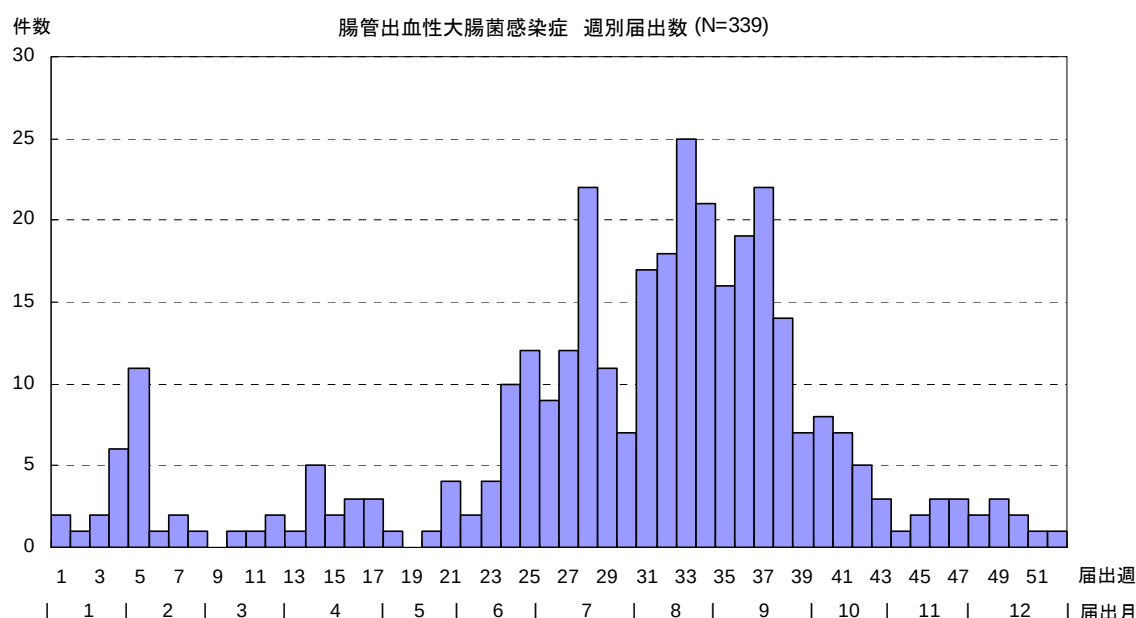
腸管出血性大腸菌感染症は 339 件届出があった。

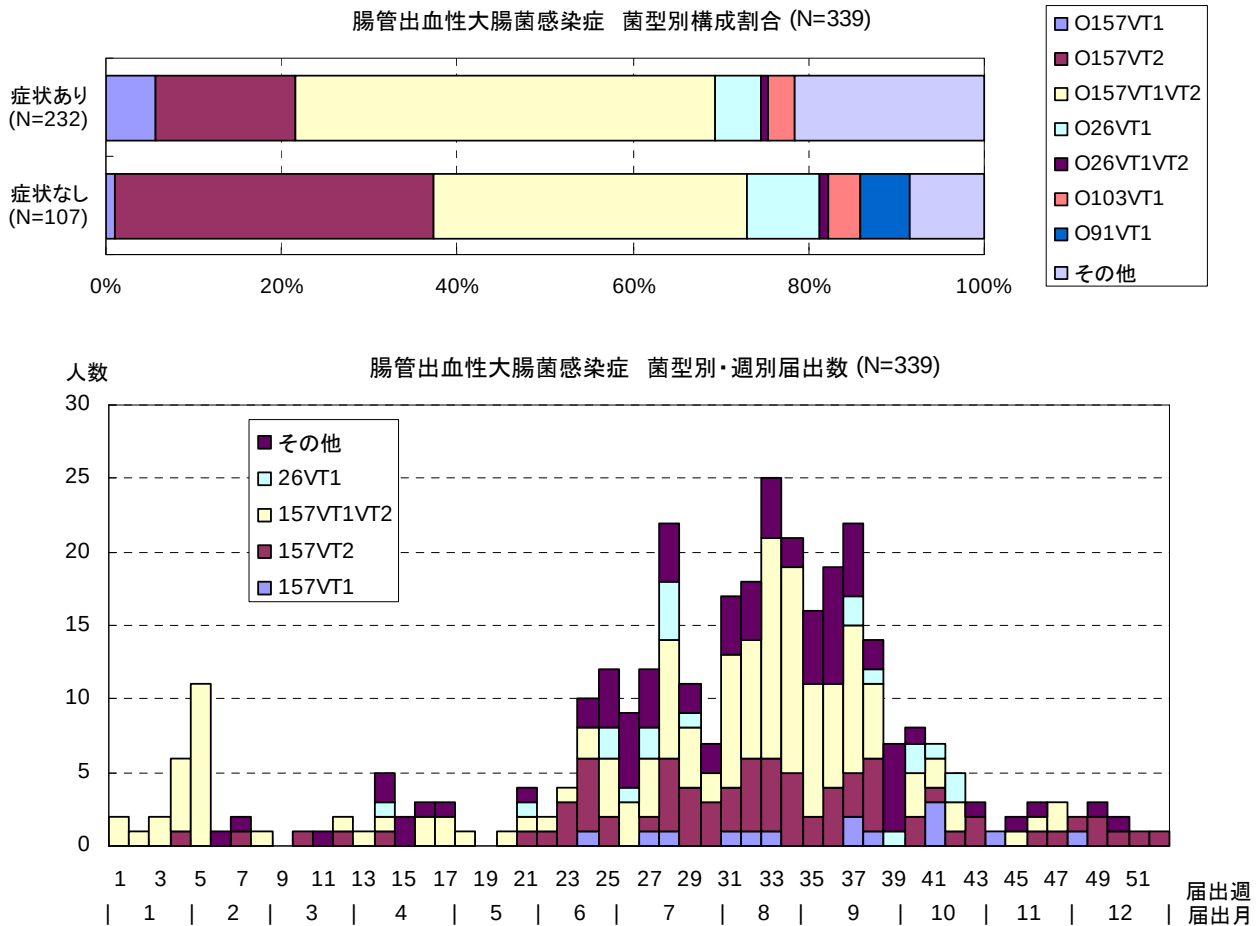
性別は男性 151 人、女性 188 人で、年齢は 10 歳未満 66 人（うち 5 歳未満 34 人）、10 歳代 56 人、20 歳代 93 人、30 歳代 37 人、40 歳代 25 人、50 歳代 28 人、60 歳代 20 人、70 歳以上 14 人であった。

菌型は O157VT1 が 14 件、O157VT2 が 76 件、O157VT1VT2 が 149 件、O26VT1 が 21 件、O26VT1VT2 が 3 件、O103VT1 が 11 件、O91VT1 が 6 件、その他が 59 件であった。

症状別では、患者 232 人、無症状病原体保有者 107 人であった。溶血性尿毒症症候群（HUS）と判明している者は 7 人おり、年齢は 10 歳未満 6 人（うち 5 歳未満 4 人）、10 歳代 1 人で、菌型は O157VT2 が 1 件、O157VT1VT2 が 1 件、O157 毒素型不明が 3 件、血清型不明毒素型不明が 2 件であった。推定感染地は国内 331 件、国外 7 件、国内及び国外 1 件であった。死亡例の報告はなかった。

症例の集積は、第 4～5 週に同一の社会福祉施設関連が 8 人（全て O157VT1VT2）、第 32～34 週に別の社会福祉施設関連が 3 人（O157VT1 が 1 人、O157VT1VT2 が 2 人）認められた。



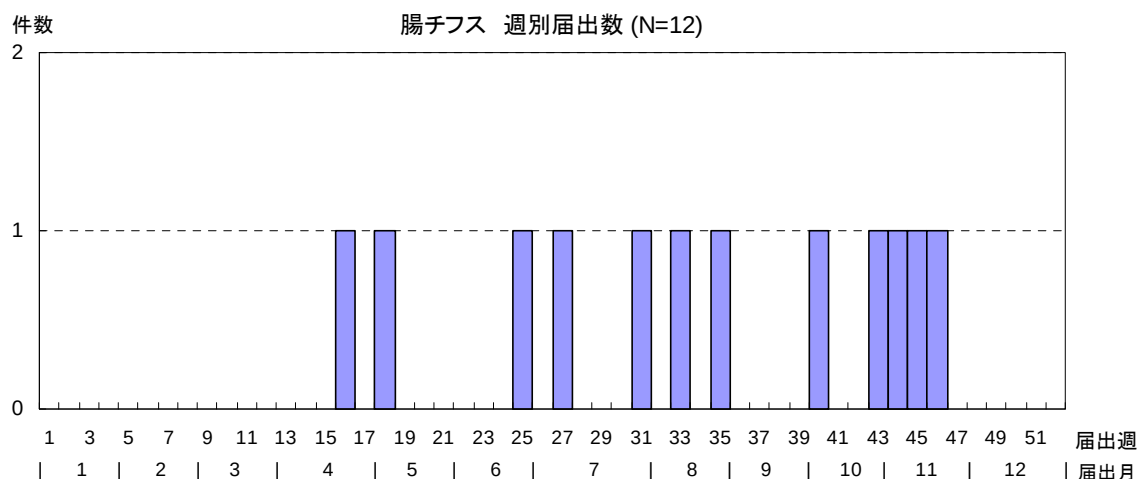


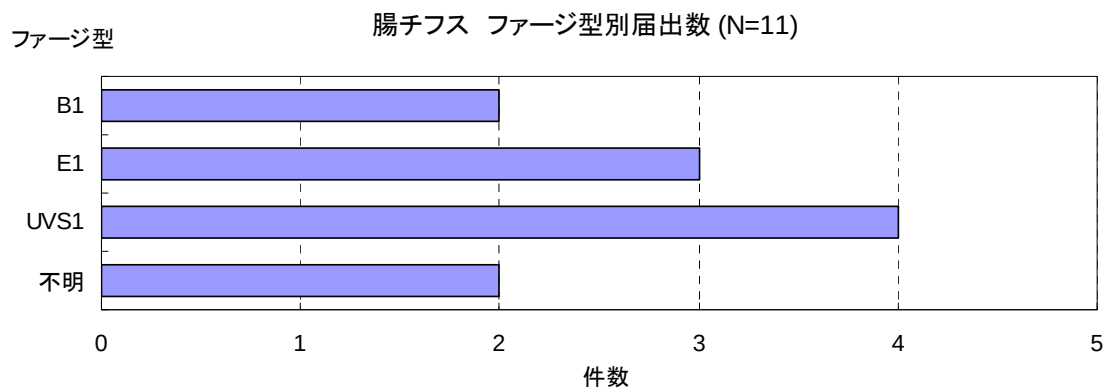
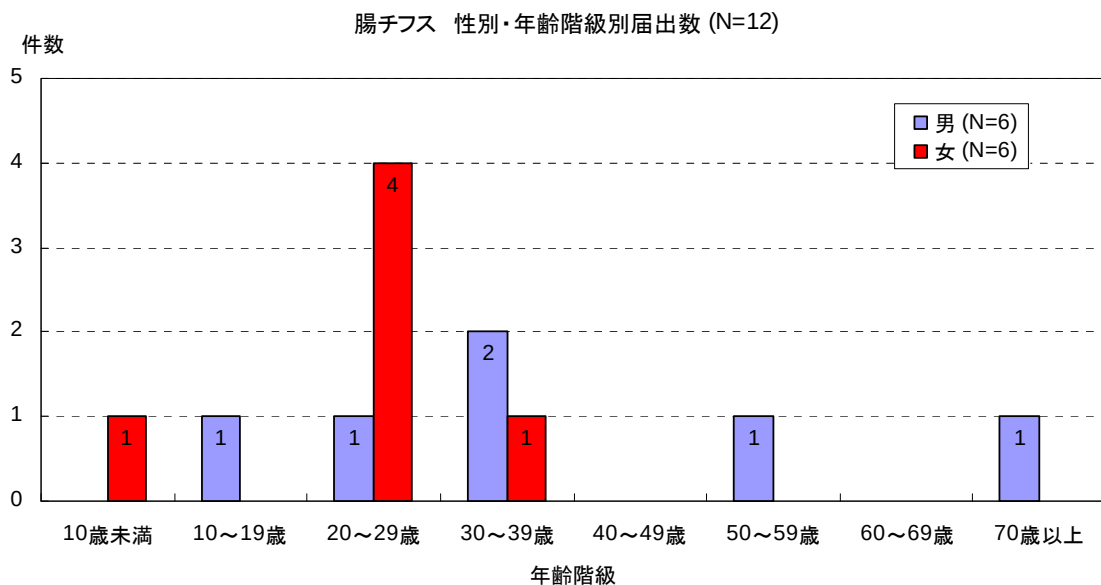
④ 腸チフス

腸チフスは12件届出があった。

性別は男性6人、女性6人で、年齢は10歳未満1人、10歳代1人、20歳代5人、30歳代3人、50歳代1人、70歳以上1人であった。

推定感染地は国内1件、国外11件であった。国外感染例11件を推定感染地域別では、南アジア7件、東南アジア2件、2地域以上2件で、推定感染国別では、インド4件、ネパール2件、バングラデシュ、ミャンマー、インドネシア、タイ/カンボジア、バングラデシュ/セネガル、各1件であった。



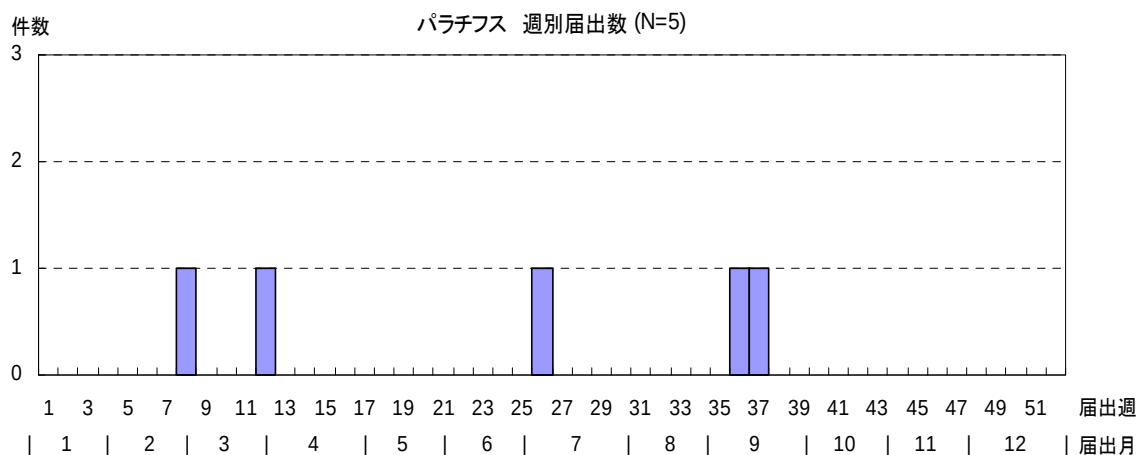


腸チフス 国内感染例 (N=1)

No	受理日	受理週	性別	年齢	ファージ型	症状	推定感染地
1	5/6	18	男	71	不明	有	不明

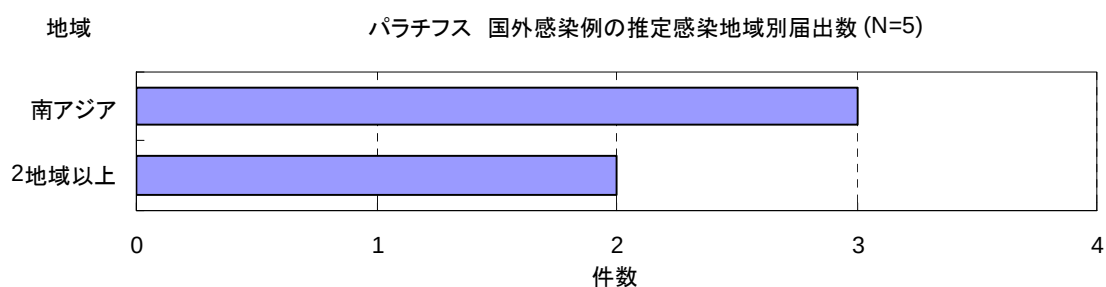
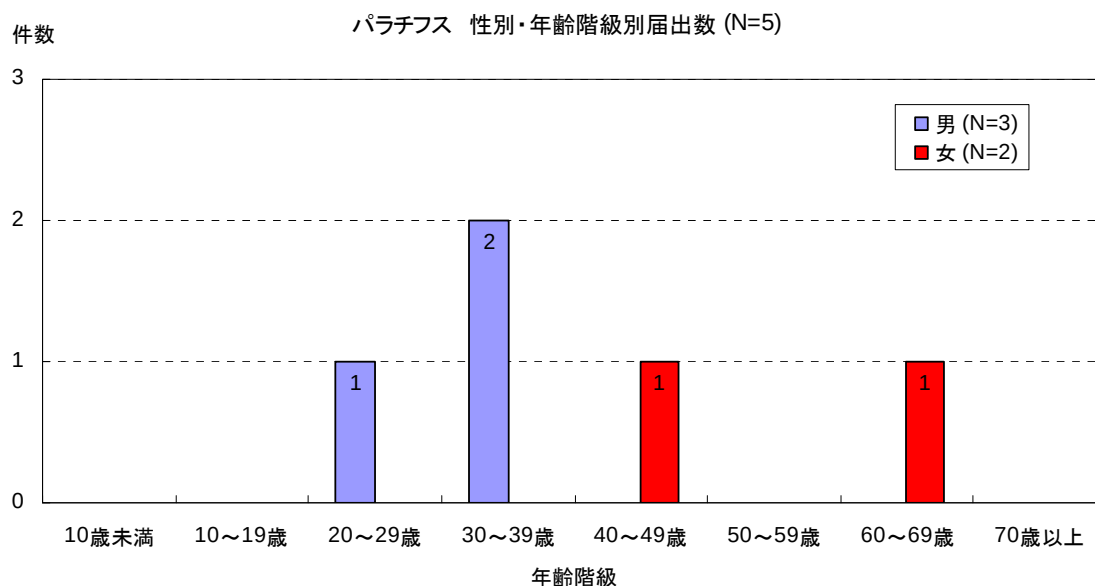
⑤ パラチフス

パラチフスは5件届出があった。



性別は男性3人、女性2人で、年齢は20歳代1人、30歳代2人、40歳代1人、60歳代1人であった。

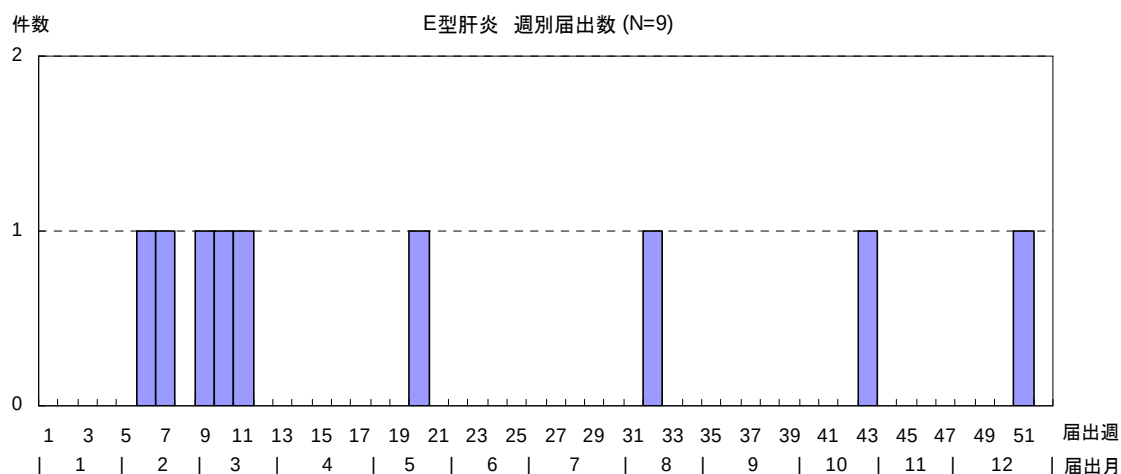
推定感染地は全て国外であった。推定感染地域別では、南アジア3件、2地域以上2件で、推定感染国別では、インド、ネパール、バングラデシュ、インド/ネパール、バングラデシュ/タイ/インドネシア、各1件であった。



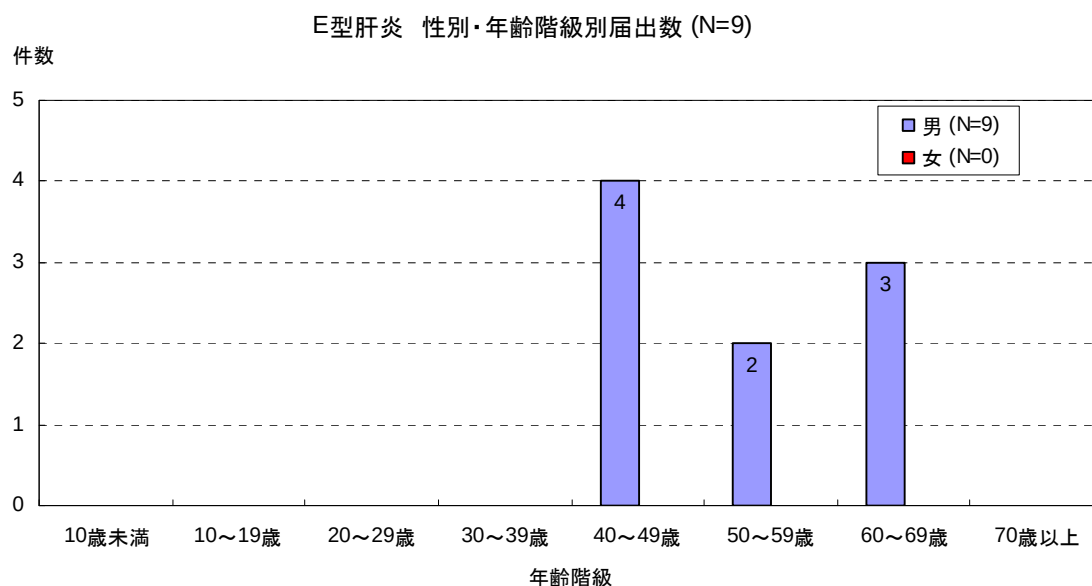
エ 四類感染症

① E型肝炎

E型肝炎は9件届出があった。



性別は全員男性で、年齢は 40 歳代 4 人、50 歳代 2 人、60 歳代 3 人であった。
推定感染地は全て国内であった。



E型肝炎 (N=9)							
No	受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
1	2/10	6	男	48	発熱、全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染（生肉）
2	2/18	7	男	63	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染（猪肉）
3	3/5	9	男	61	発熱、黄疸、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染（猪肉）
4	3/11	10	男	40	発熱、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染（猪肉）
5	3/17	11	男	47	全身倦怠感、食欲不振、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染（生鹿肉）
6	5/18	20	男	47	全身倦怠感	国内	不明
7	8/12	32	男	63	全身倦怠感、食欲不振、黄疸、肝機能異常	国内	飲食物による経口感染（生レバー）
8	10/28	43	男	56	食欲不振、黄疸	国内	飲食物による経口感染
9	12/20	51	男	58	発熱、全身倦怠感、肝機能異常、肝腫大	国内	飲食物による経口感染（生肉）

② A型肝炎

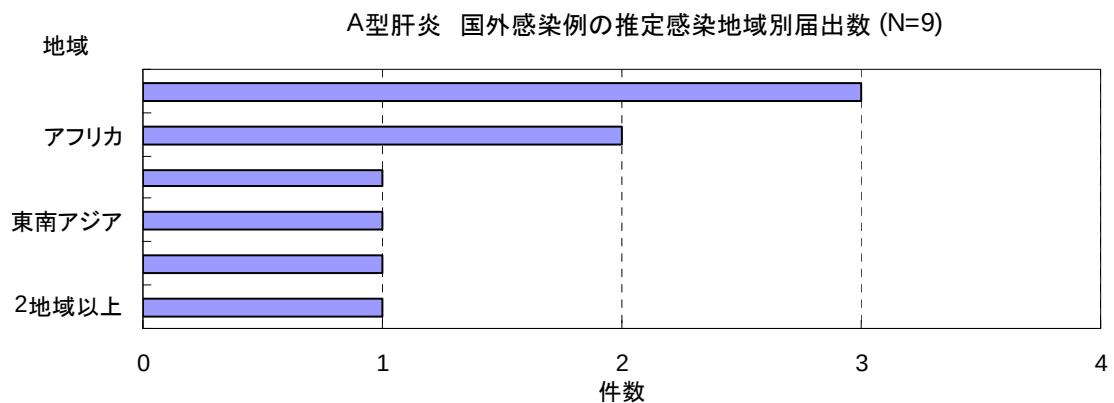
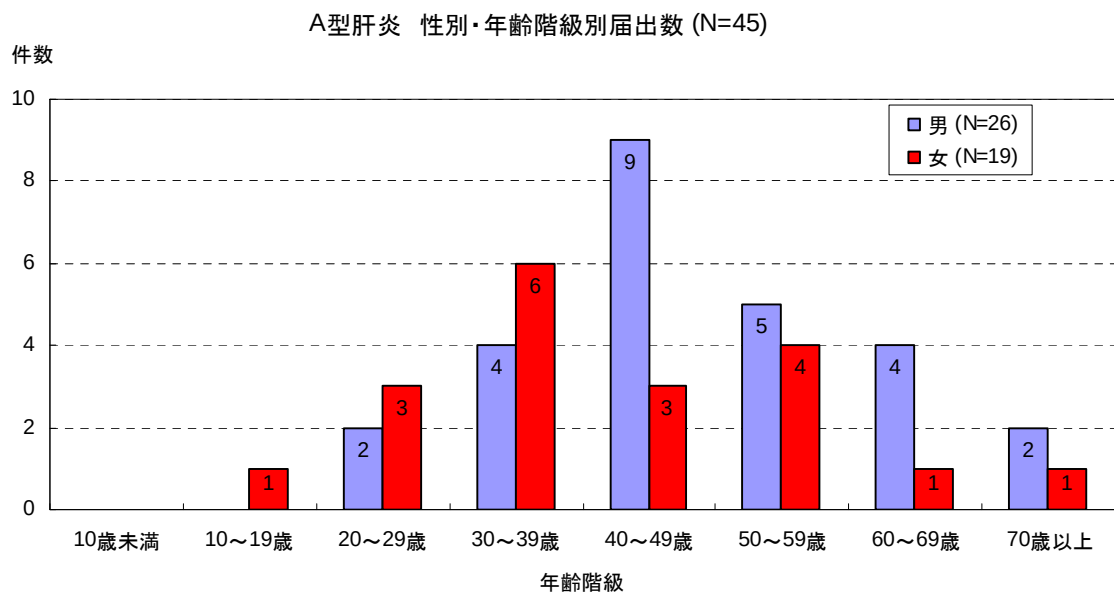
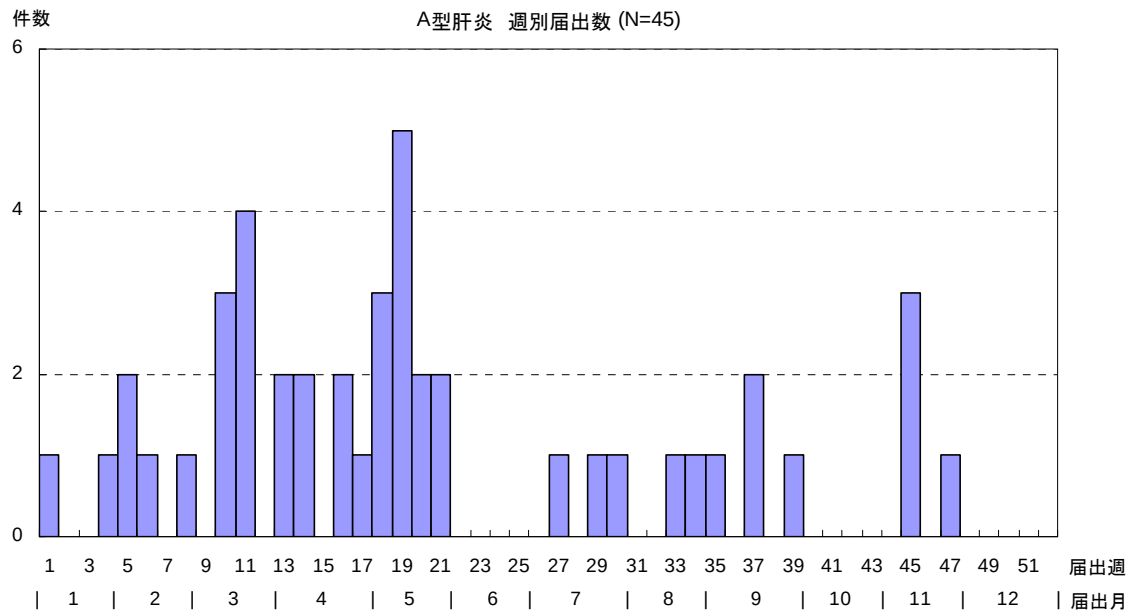
A型肝炎は 45 件届出があった。

性別は男性 26 人、女性 19 人で、年齢は 10 歳代 1 人、20 歳代 5 人、30 歳代 10 人、40 歳代 12 人、50 歳代 9 人、60 歳代 5 人、70 歳以上 3 人であった。

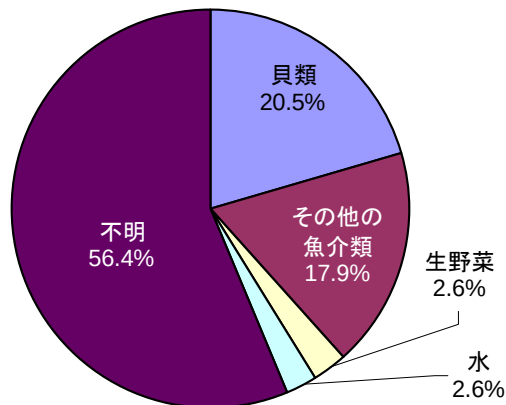
推定感染地は国内 36 件、国外 9 件であった。国外の推定感染地域別では、南アジア 3 件、アフリカ 2 件、東アジア 1 件、東南アジア 1 件、中央アメリカ 1 件、2 地域以上 1 件で、推定感染国別では、インド 3 件、エチオピア 2 件、韓国、フィリピン、ドミニカ共和国、ナミビア/ジンバブエ/南アフリカが各 1 件であった。

推定感染経路は、飲食物による経口感染 39 件、経口/家族内感染 1 件、その他（不明）5 件であった。飲食物による経口感染 39 件のうち推定原因食材は、貝類が 8 件（20.5%）、その他の魚介類が 7

件（17.9%）、生野菜が1件（2.6%）、水が1件（2.6%）、不明22件（56.4%）であった。



A型肝炎 感染原因として疑われた飲食物
(N=39)



③ エキノコックス症

エキノコックス症は1件届出があった。

症例は20歳代女性で、推定感染地はカナダ、推定感染経路は飲食物による経口感染であった。

エキノコックス症 (N=1)

No	受理日	受理週	性別	年齢	原因寄生虫種	症状	推定感染地	推定感染経路
1	10/21	42	女	27	多包条虫	腹痛、低血糖	カナダ	飲食物による経口感染

④ コクシジオイデス症

コクシジオイデス症は1件届出があった。

症例は20歳代男性で、推定感染地はアメリカ（カリフォルニア州）であった。

コクシジオイデス症 (N=1)

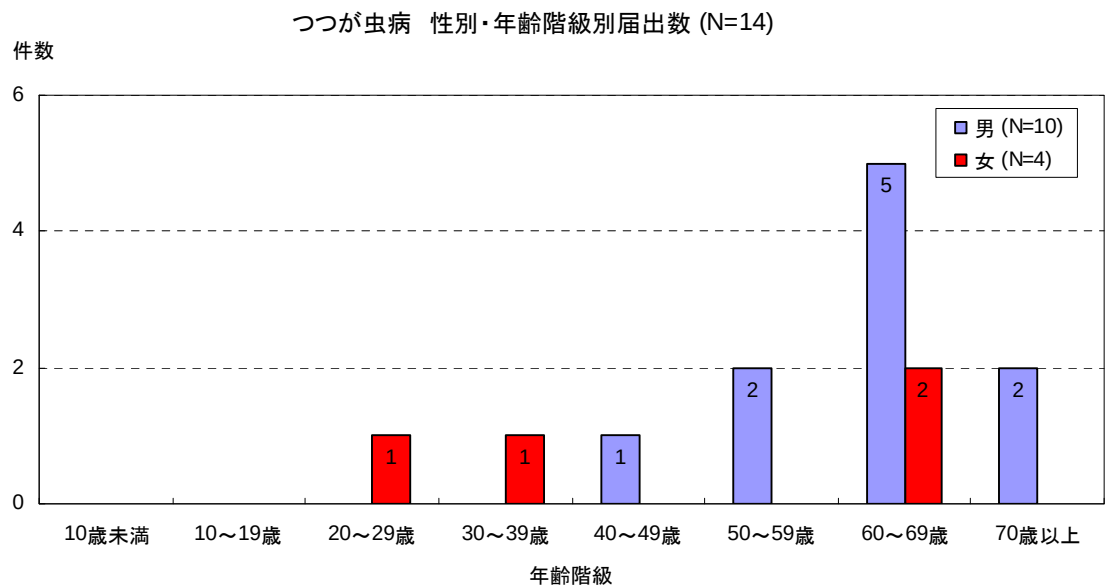
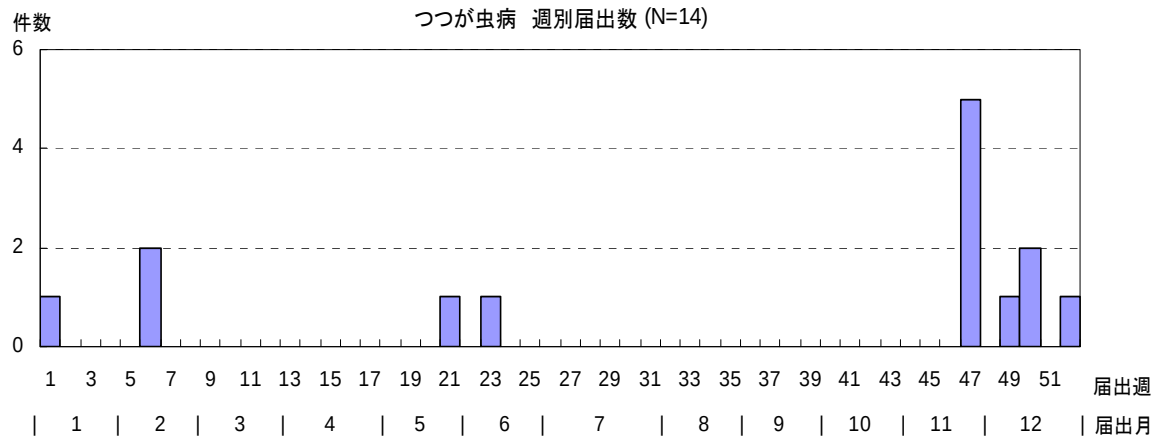
No	受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
1	11/15	46	男	25	なし	アメリカ(カリフォルニア州)	不明

⑤ つつが虫病

つつが虫病は14件届出があった。

性別は男性10人、女性4人で、年齢は20歳代1人、30歳代1人、40歳代1人、50歳代2人、60歳代7人、70歳以上2人であった。

推定感染地は東京都12件（島しょ地域6件、多摩地域6件）、秋田県1件、山梨県1件であった。



No	受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	媒介動物との接触状況
1	1/8	1	男	63	頭痛、刺し口、発疹	島しょ地区	
2	2/9	6	男	64	頭痛、発熱、刺し口、発疹	島しょ地区	
3	2/10	6	女	39	発熱、リンパ節腫脹、発疹	島しょ地区	
4	5/24	21	女	25	頭痛、発熱、発疹	多摩地区	
5	6/8	23	男	51	頭痛、発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹、肺炎	秋田県	
6	11/24	47	男	48	頭痛、発熱、刺し口、発疹	島しょ地区	
7	11/25	47	男	66	頭痛、発熱、刺し口、発疹	多摩地区	野良仕事
8	11/25	47	男	67	頭痛、発熱、刺し口、発疹、眩暈、痺れ	多摩地区	土木作業
9	11/25	47	女	68	発熱、刺し口、発疹、嘔気、嘔吐	多摩地区	
10	11/25	47	男	72	頭痛、発熱、刺し口、発疹、全身倦怠感、ふらつき	多摩地区	山林伐採作業
11	12/9	49	男	54	頭痛、発熱、刺し口、発疹、筋肉痛	山梨県	
12	12/14	50	男	61	発熱、刺し口、発疹、肝機能障害	島しょ地区	
13	12/16	50	女	65	発熱、刺し口、リンパ節腫脹、発疹	島しょ地区	畑作業
14	12/28	52	男	84	発熱、刺し口、発疹	多摩地区	

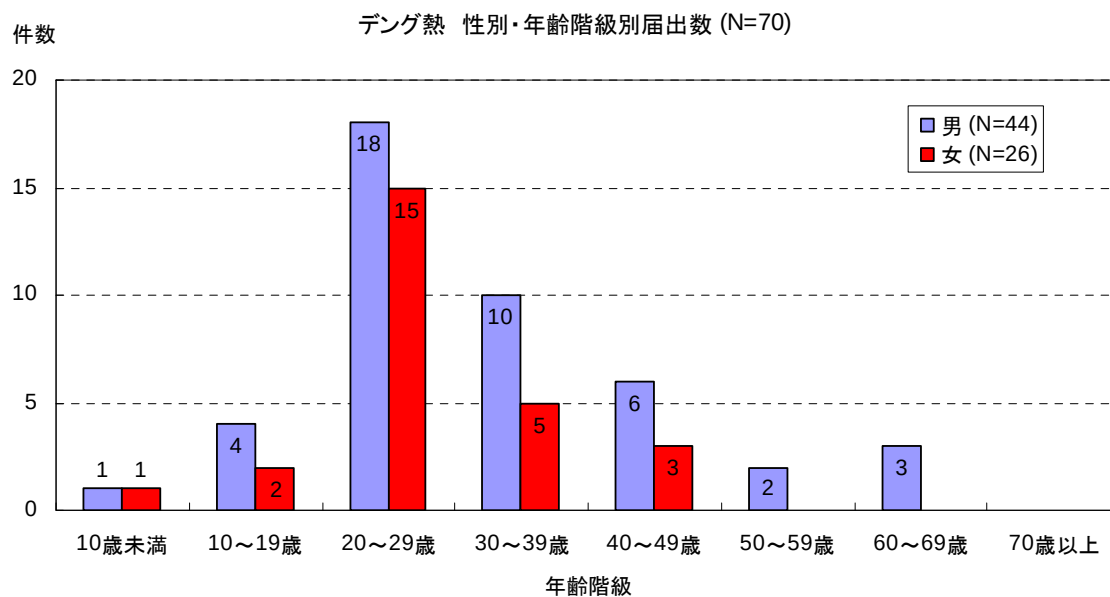
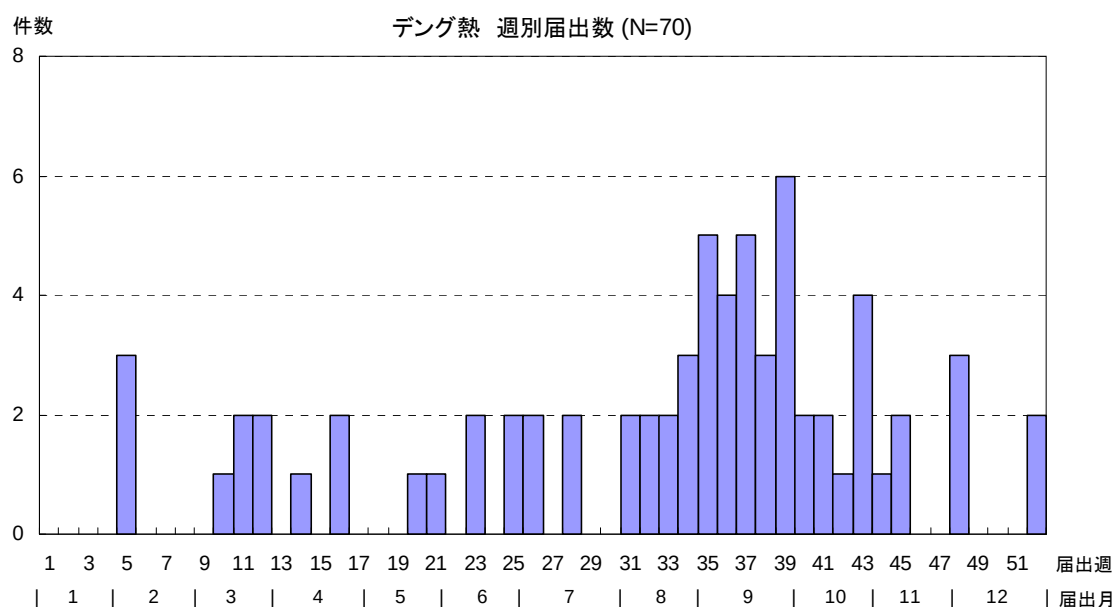
⑥ デング熱

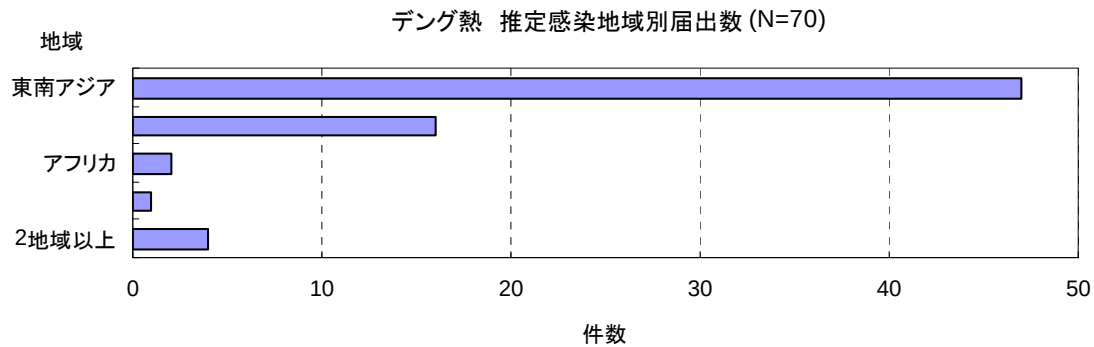
デング熱は 70 件届出があり、そのうち 2 件はデング出血熱であった。

性別は男性 44 人、女性 26 人で、年齢は 10 歳未満 2 人、10 歳代 6 人、20 歳代 33 人、30 歳代 15 人、40 歳代 9 人、50 歳代 2 人、60 歳代 3 人であった。

推定感染地は全て国外で、推定感染地域別では、東南アジア 47 件、南アジア 16 件、アフリカ 2 件、南アメリカ 1 件、2 地域以上 4 件であった。推定感染国別では、インドネシア 17 件、インド 13 件、フィリピン 11 件、タイ 6 件、ベトナム 3 件、ラオス 3 件、カンボジア 3 件、マレーシア 2 件、バングラデシュ 2 件、シンガポール、東ティモール、パキスタン、ベナン、タンザニア、コロンビア、ラオス/カンボジア、ラオス/タイ、インドネシア/フィリピン、フィリピン/スリランカ、各 1 件であった。

血清型は 20 件について報告されており、1 型 7 件、2 型 8 件、3 型 5 件であった。





デング出血熱 (N=2)

No	受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	血清型
1	3/23	12	男	41	発熱、頭痛、発疹、血小板減少、白血球減少、血清蛋白の低下、Tourniquet テスト陽性	コロンビア	不明
2	9/7	36	男	38	発熱、骨関節痛、発疹、血小板減少、白血球減少、ヘマトクリットの上昇、点状出血	タイ	不明

⑦ 日本紅斑熱

日本紅斑熱は1件届出があった。

症例は40歳代男性で、推定感染地は東京都（特別区）であった。

日本紅斑熱 (N=1)

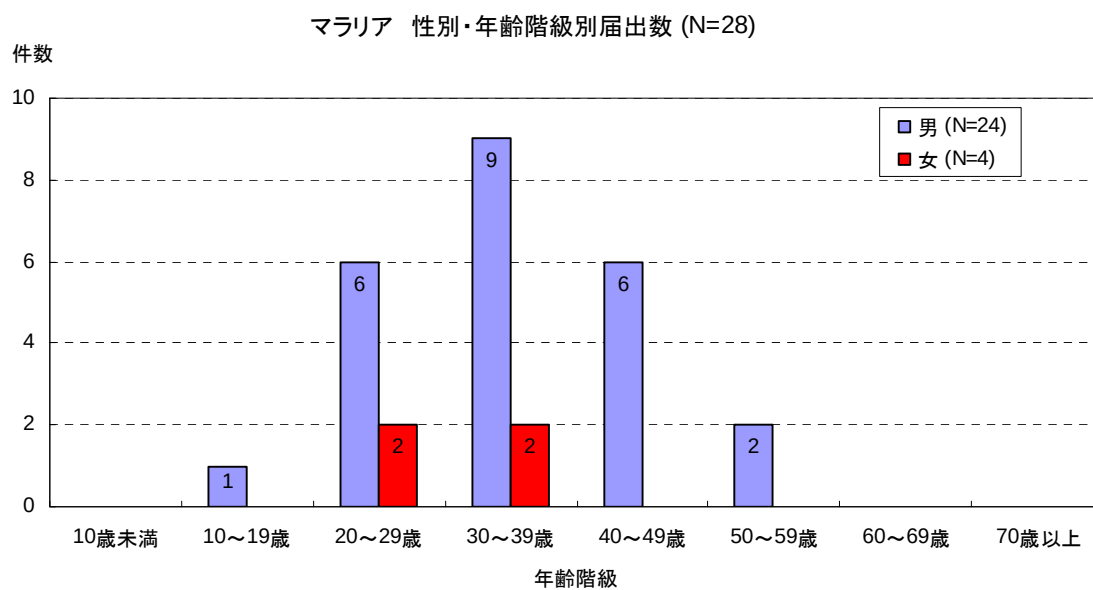
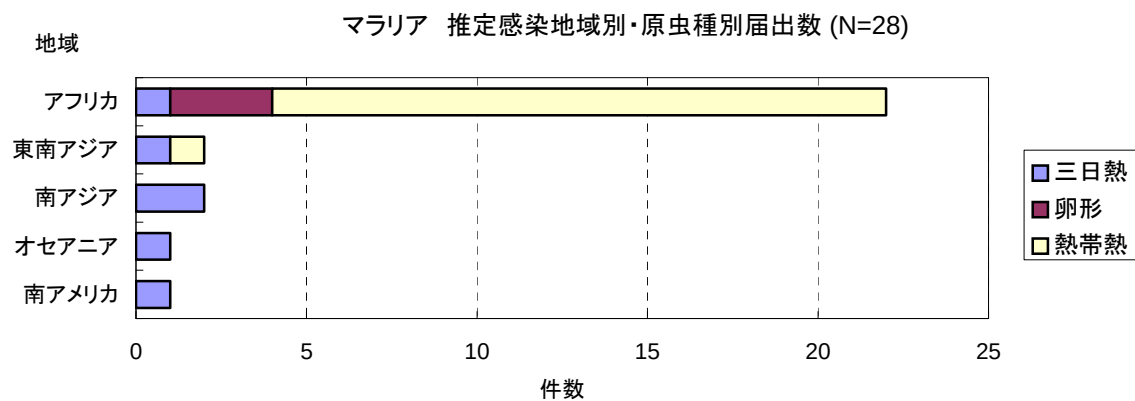
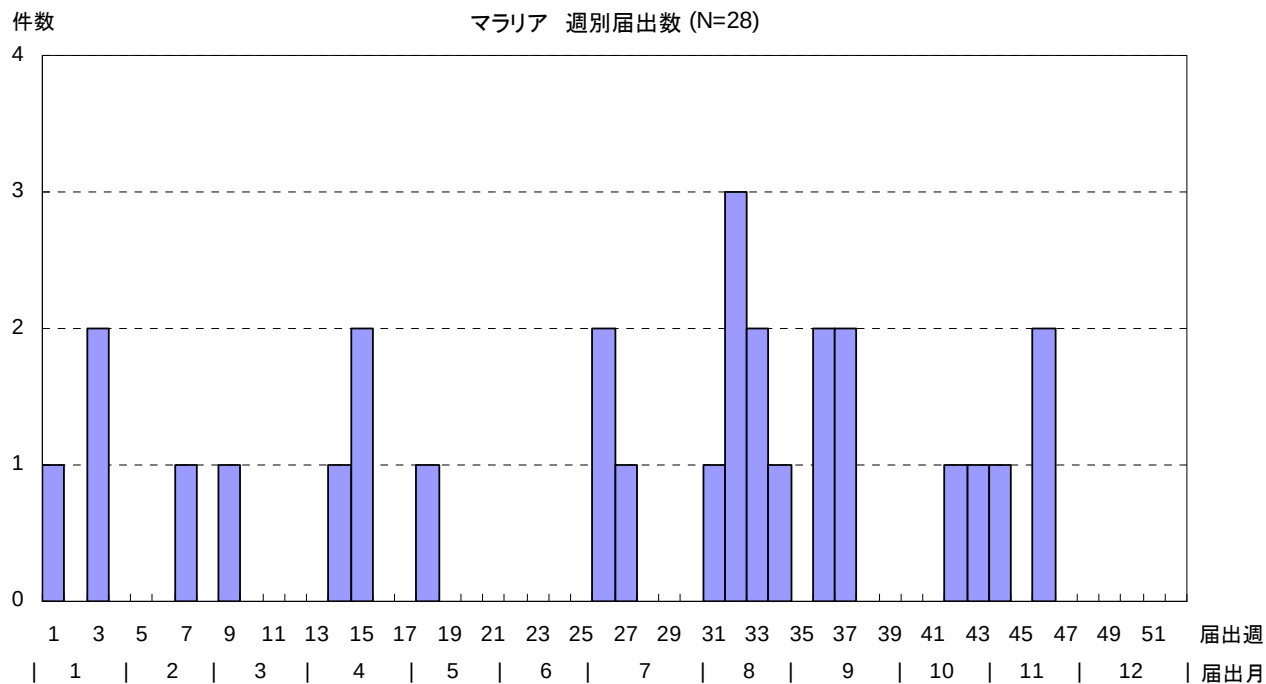
No	受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	媒介動物との接触状況
1	1/28	4	男	42	発熱、頭痛、発疹、肝機能異常	特別区	不明

⑧ マラリア

マラリアは28件届出があった。三日熱マラリア6件、卵形マラリア3件、熱帯熱マラリア19件であった。

性別は男性24人、女性4人で、年齢は10歳代1人、20歳代8人、30歳代11人、40歳代6人、50歳代2人であった。

推定感染地は全て国外で、推定感染地域別では、アフリカ22件、東南アジア2件、南アメリカ2件、オセアニア、南アメリカ、各1件であった。推定感染国別では、ナイジェリア5件、ウガンダ5件、ガーナ4件、カメルーン2件、インドネシア2件、インド2件、セネガル、ブルキナファソ、ベナン、スーダン、コンゴ共和国、ケニア、パプアニューギニア、ブラジル、各1件であった。



⑨ ライム病

ライム病は1件届出があった。

症例は37歳代男性で、推定感染地は長野県であった。

ライム病 (N=1)

No	受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	媒介動物との接触状況
1	2/24	8	男	37	遊走性紅斑	長野県	不明

⑩ 類鼻疽

類鼻疽は1件届出があった。

症例は72歳代男性で、基礎疾患として糖尿病を認めた。推定感染地はタイ（バンコク）で、創傷感染が疑われた。

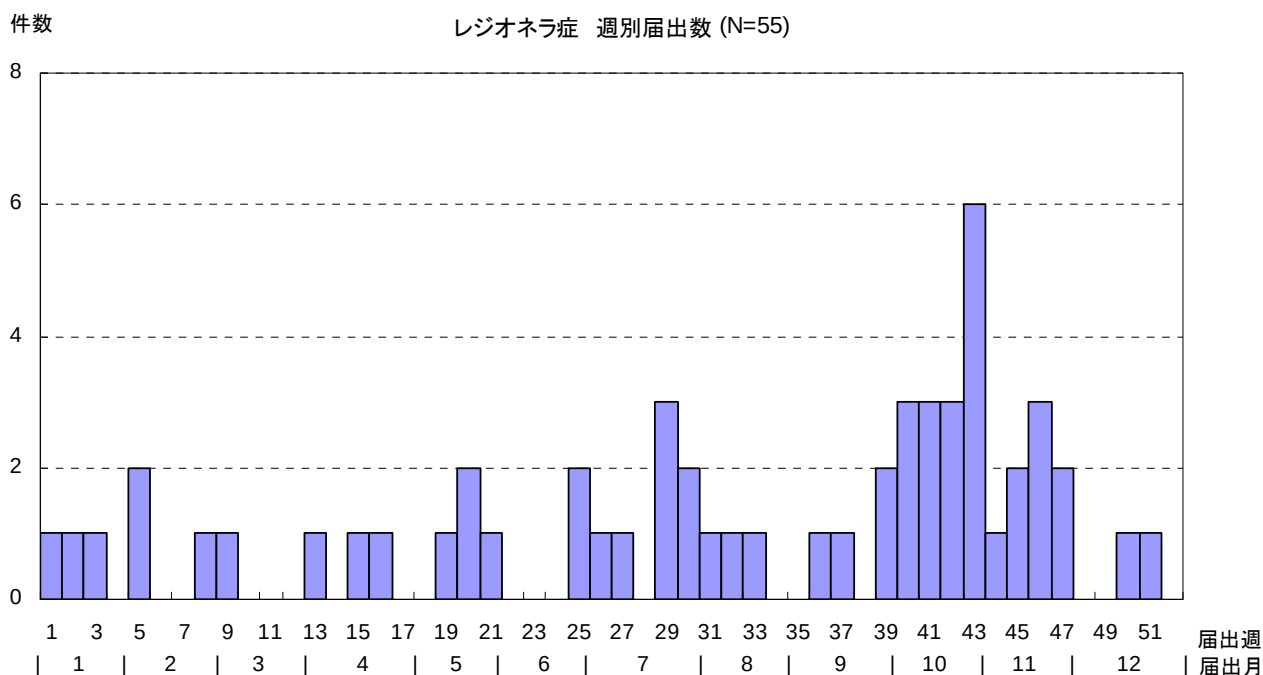
類鼻疽 (N=1)

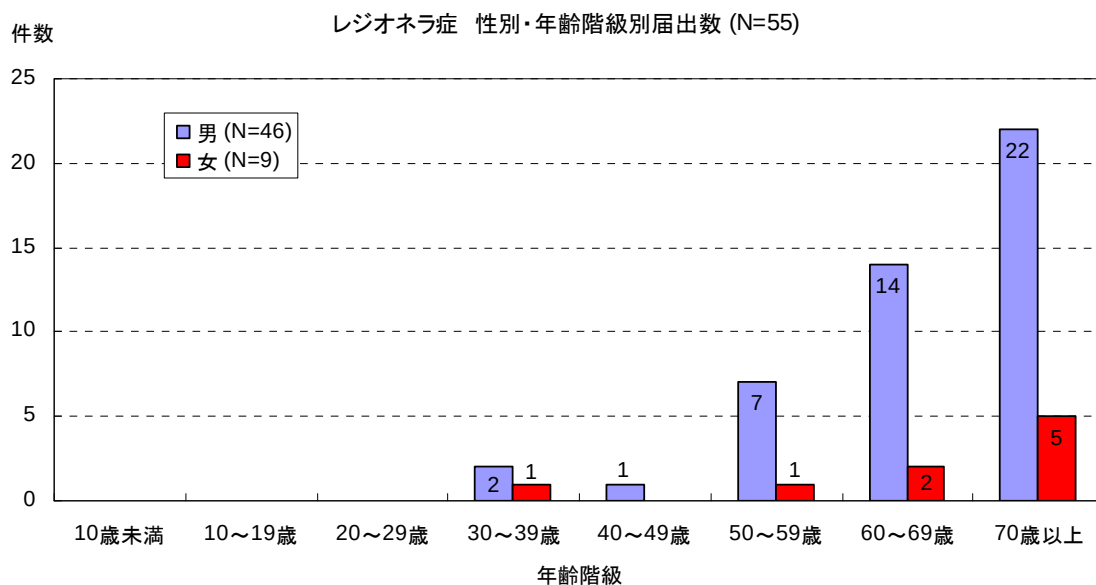
No	受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
1	2/16	7	男	72	発熱、骨髄炎	タイ(バンコク)	創傷感染 (ゴルフを素足でプレー)

⑪ レジオネラ症

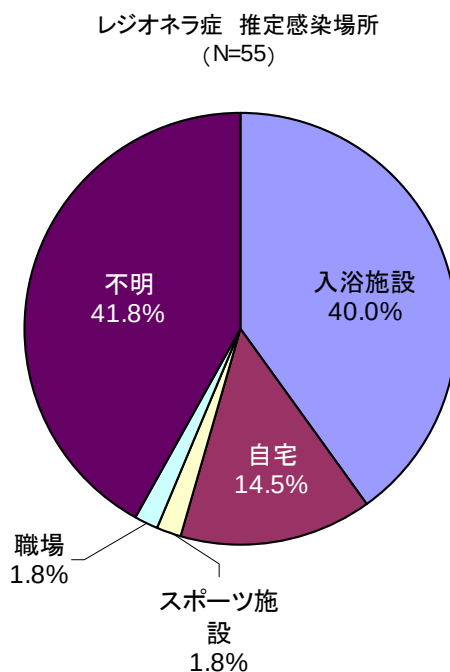
レジオネラ症は55件届出があった。病型は全て肺炎型であった。

性別は男性46人、女性9人で、年齢は30歳代3人、40歳代1人、50歳代8人、60歳代16人、70歳以上27人であった。





推定感染地は国内 53 件、国外（台湾）1 件、国内及び国外（渡航先不明）1 件であった。温泉等入浴施設での感染が推定されているものは 22 件だった。



⑫ レプトスピラ症

レプトスピラ症は 2 件届出があった。

性別はどちらも男性で、年齢は、20 歳代 1 人、40 歳代 1 人であった。

推定感染地は国内（多摩地区）1 件、国外（マレーシア）1 件であった。推定感染原因はどちらもネズミとの接触が疑われた。

レプトスピラ症 (N=2)

No	受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染原因
1	3/18	11	男	48	発熱、結膜充血、黄疸、蛋白尿	マレーシア	ネズミと接触
2	6/7	23	男	24	発熱、筋肉痛、結膜充血、黄疸、出血症状、蛋白尿、腎不全	多摩地区	ネズミと接触

⑬ その他の四類感染症

以下の 29 疾患は届出がなかった。

ウエストナイル熱、黄熱、オウム病、オムスク出血熱、回帰熱、キャサヌル森林病、Q 熱、狂犬病、サル痘、腎症候性出血熱、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、炭疽、東部ウマ脳炎、鳥インフルエンザ (H5N1 を除く。)、ニパウイルス感染症、日本脳炎、発しんチフス、ハンタウイルス肺症候群、B ウイルス病、鼻疽、ブルセラ症、ベネズエラウマ脳炎、ヘンドラウイルス感染症、ボツリヌス症、野兔病、リッサウイルス感染症、リフトバレー熱、ロッキー山紅斑熱

オ 五類感染症 (全数把握対象)

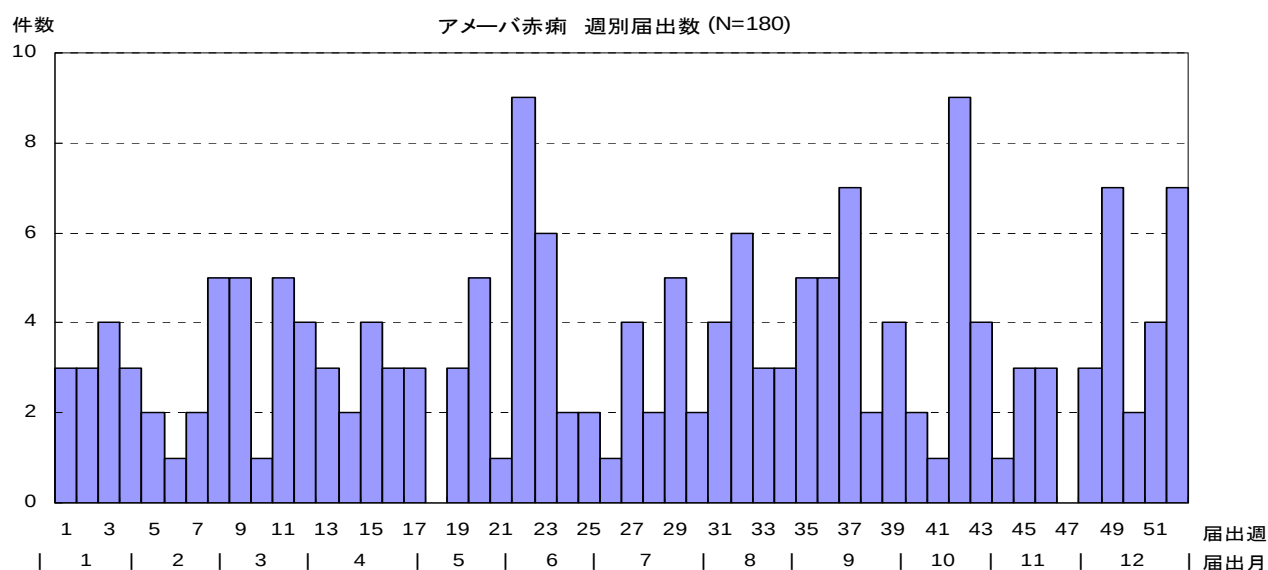
① アメーバ赤痢

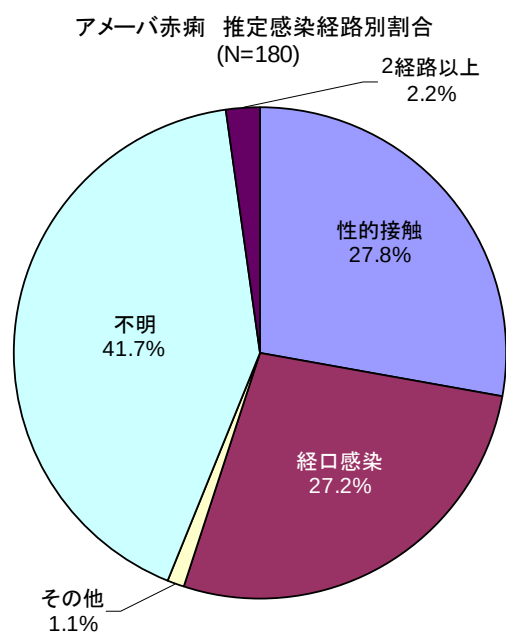
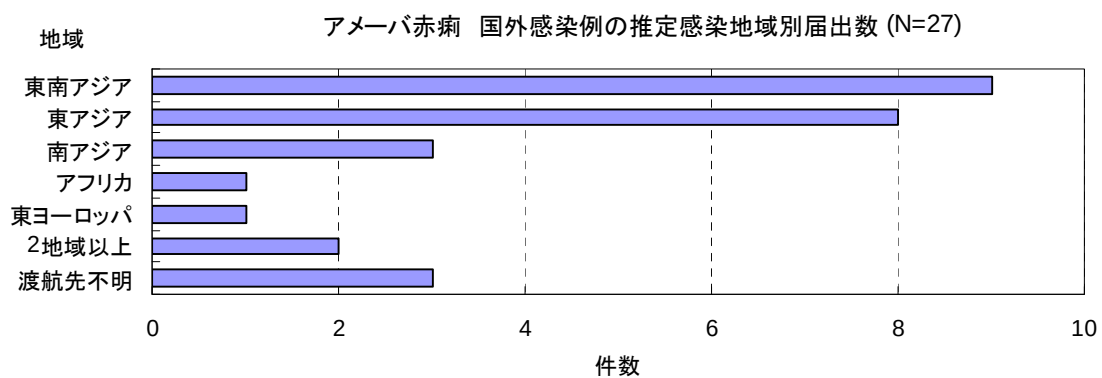
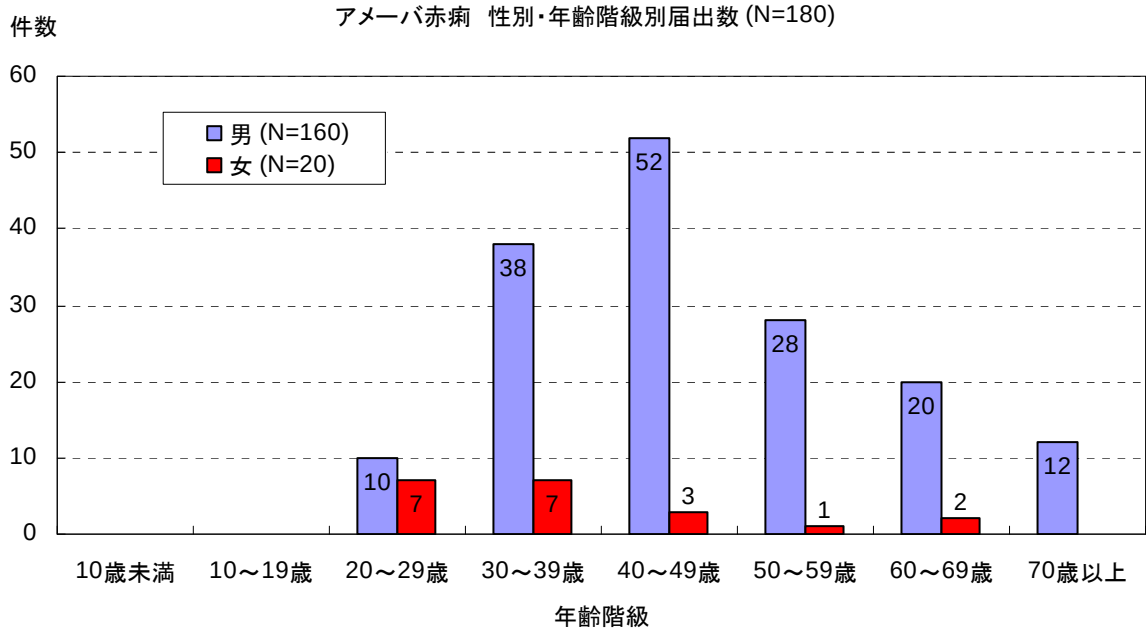
アメーバ赤痢は 180 件届出があった。腸管アメーバ症 150 件、腸管外アメーバ症 20 件、腸管及び腸管外アメーバ症 10 件であった。

性別は男性 160 人、女性 20 人で、年齢は 20 歳代 17 人、30 歳代 45 人、40 歳代 55 人、50 歳代 29 人、60 歳代 22 人、70 歳以上 12 人であった。

推定感染地は国内 147 件、国外 27 件、国内及び国外 6 件であった。国外感染例 27 件を推定感染地域別にみると、東南アジア 9 件、東アジア 8 件、南アジア 3 件、アフリカ 1 件、東ヨーロッパ 1 件、2 地域以上 2 件、渡航先不明 3 件で、推定感染国別にみると、中国 5 件、韓国 3 件、タイ 3 件、インド 3 件、フィリピン 2 件、ベトナム、シンガポール、インドネシア、東南アジア、モーリシャス、ロシア、中国/インド、中国/インドネシア/ブラジル、各 1 件、渡航先不明 3 件であった。

推定感染経路は、性的接触 50 件 (同性間 20 件、異性間 18 件、両性間 2 件、性別不明 10 件)、飲食物による経口感染 49 件、その他 2 件、2 経路以上 4 件、不明 75 件であった。





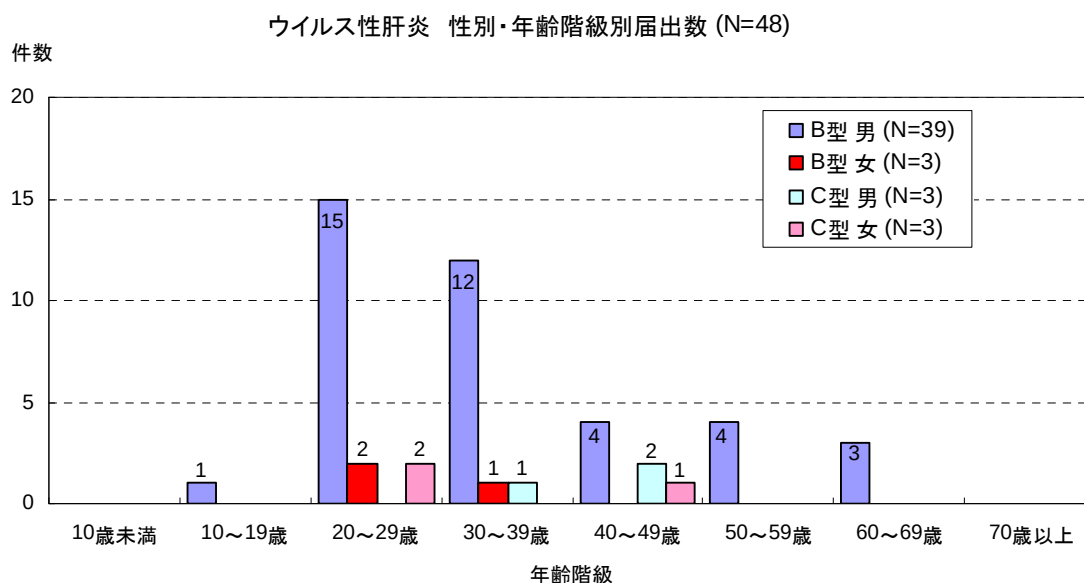
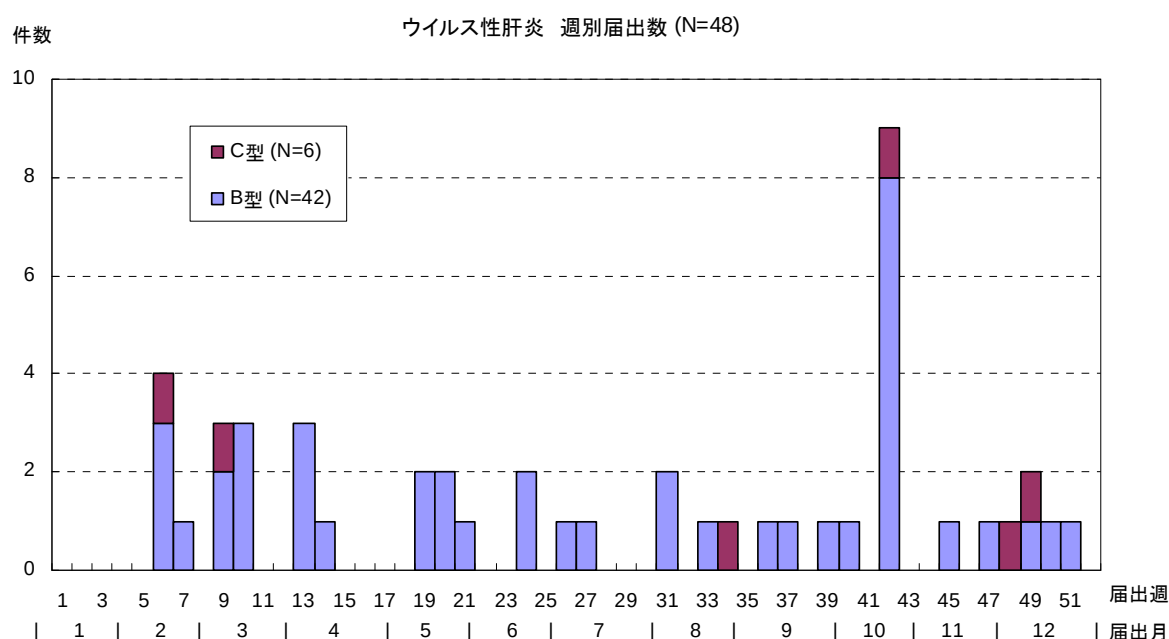
② ウイルス性肝炎（E型肝炎及びA型肝炎を除く。）

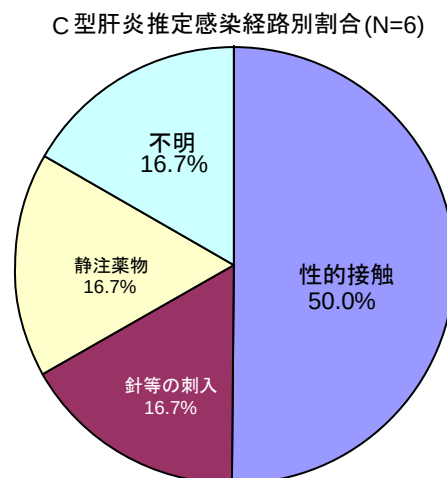
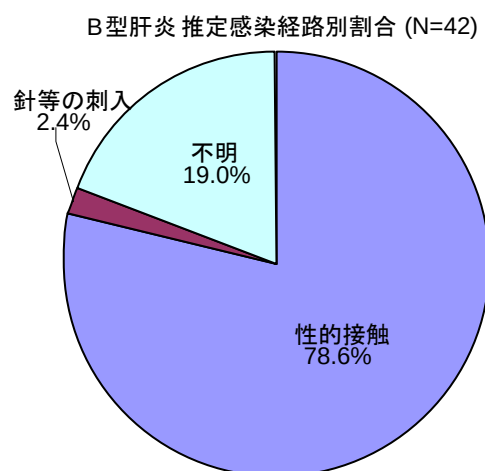
ウイルス肝炎は48件届出があった。B型肝炎42件、C型肝炎6件であった。

B型肝炎42件について記述すると、性別は男性39人、女性3人で、年齢は10歳代1人、20歳代17人、30歳代13人、40歳代4人、50歳代4人、60歳代3人であった。推定感染経路は、性的接触33件（同性間7件、異性間19件、両性間2件、性別不明5件）、針等の刺入1件、不明8件で、推定感染地は、国内39件、国外3件（フィリピン、北朝鮮、中国/カンボジア、各1件）であった。

C型肝炎6件について記述すると、性別は男性3人、女性3人で、年齢は20歳代2人、30歳代1人、40歳代3人であった。推定感染経路は、性的接触3件（同性間2件、性別不明1件）、針等の刺入、静注薬物、不明、各1件で、推定感染地は全て国内であった。

42週にB型肝炎を中心とした報告の集積が認められる。これは1医療機関の報告遅れが同週に届出られたためである。



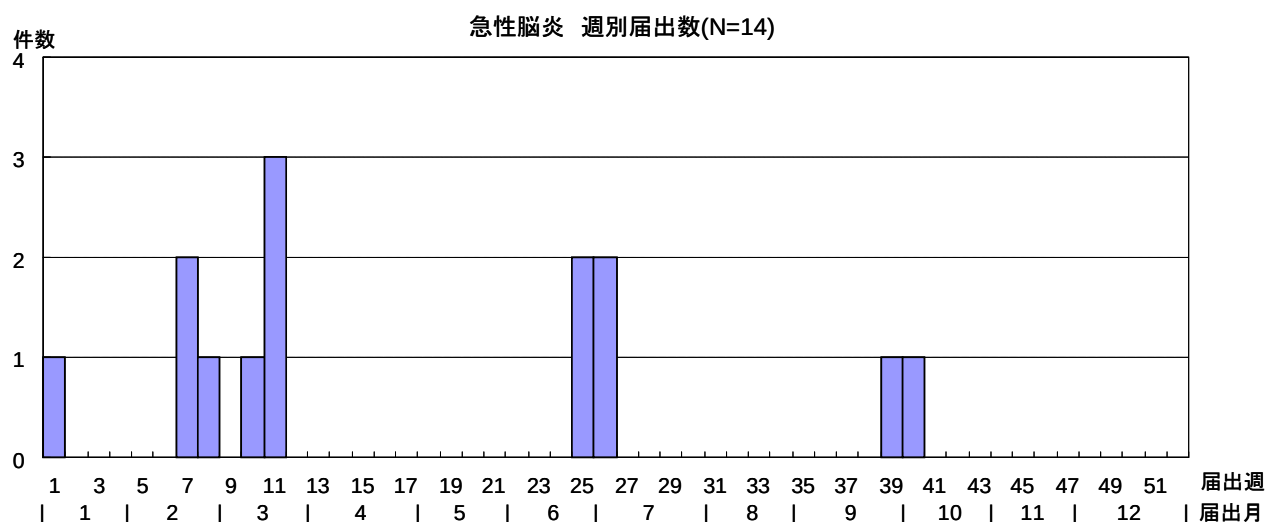


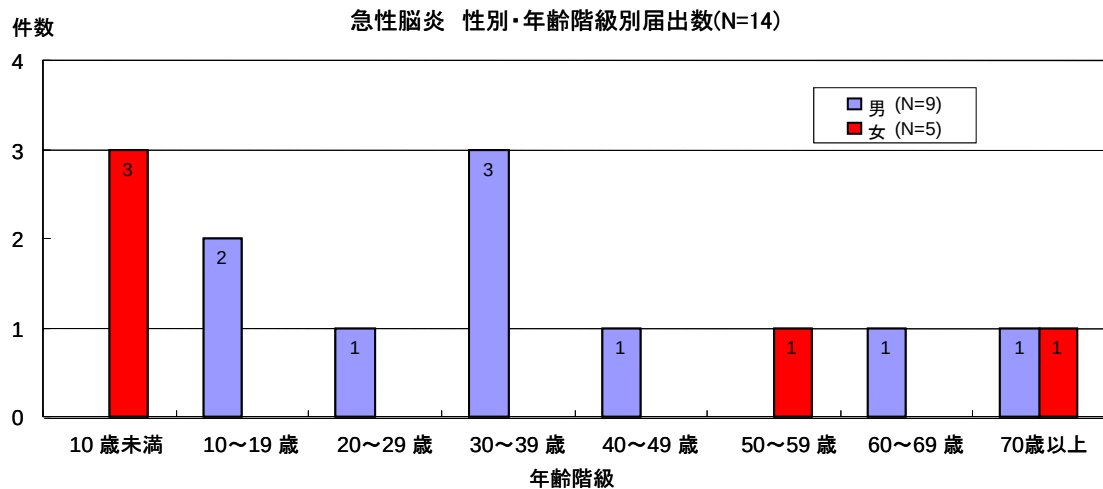
③ 急性脳炎（ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介性脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。）

急性脳炎は14件届出があった。病原体は新型インフルエンザウイルス、香港型インフルエンザウイルス、水痘帯状疱疹ウイルス、ヘルペスウイルス、アデノウイルス、RSウイルスが各1件、不明8件であった。

性別は男性9人、女性5人で、年齢は10歳未満3人（うち5歳未満2人）、10歳代2人、20歳代1人、30歳代3人、40歳代1人、50歳代1人、60歳代1人、70歳以上2人であった。推定感染地は国内13件、国外（中国）1件であった。

死亡は1件（病原体不明）報告された。





急性脳炎 (N=14)

No	受理日	受理週	性別	年齢	病原体	症状・所見	推定感染地	備考
1	1/8	1	女	8	不明	発熱、頭痛、嘔吐、意識障害	国内	
2	2/16	7	男	41	不明	発熱、頭痛、項部硬直、意識障害、髄液細胞数の増加	国内	
3	2/18	7	男	16	不明	発熱、頭痛、項部硬直、意識障害	国内	
4	2/26	8	男	16	新型インフルエンザウイルス	発熱、意識障害、異常行動	国内	
5	3/11	10	男	36	不明	発熱、頭痛、嘔吐、項部硬直、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加、心停止	国内	死亡
6	3/19	11	男	68	不明	発熱、項部硬直、痙攣、意識障害、髄液細胞数の増加	国内	
7	3/19	11	男	36	不明	意識障害	国内	
8	3/19	11	男	71	水痘帯状疱疹ウイルス	項部硬直、意識障害	国内	
9	6/21	25	男	36	不明	発熱、嘔吐、意識障害、髄液細胞数の増加	国内	
10	6/23	25	男	20	不明	発熱、頭痛、嘔吐、項部硬直、髄液細胞数の増加、見当識障害	国内	
11	6/29	26	女	2	アデノウイルス	発熱、意識障害、体幹失調	国内	
12	6/29	26	女	75	ヘルペスウイルス	発熱、意識障害	国内	
13	9/28	39	女	57	香港型インフルエンザウイルス	発熱、項部硬直、意識障害	中国	
14	10/6	40	女	1	RSウイルス	発熱、痙攣、意識障害	国内	

④ クリプトスポリジウム症

クリプトスポリジウム症は3件届出があった。

性別は全て男性で、年齢は全て30歳代であった。

推定感染地は、国内2件、国外（ベナン）1件で、推定感染経路は、性的接触（同性間）1件、経口/水系感染1件、その他（基礎疾患があるため）1件であった。

クリプトスポリジウム症 (N=3)

No	受理日	受理週	性別	年齢	症状	推定感染地	推定感染経路
1	1/8	1	男	39	下痢、嘔気、嘔吐、食欲不振	国内	その他（基礎疾患があるため）
2	7/1	26	男	32	下痢	ベナン	経口/水系感染
3	7/29	30	男	31	腹痛、下痢、発熱、食欲不振	国内	性的接触（同性間）

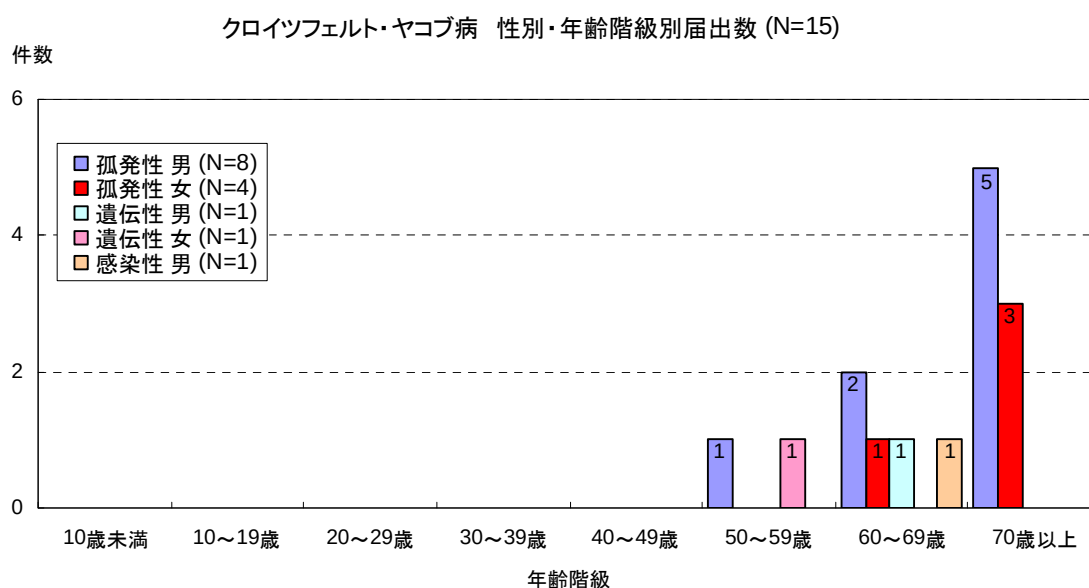
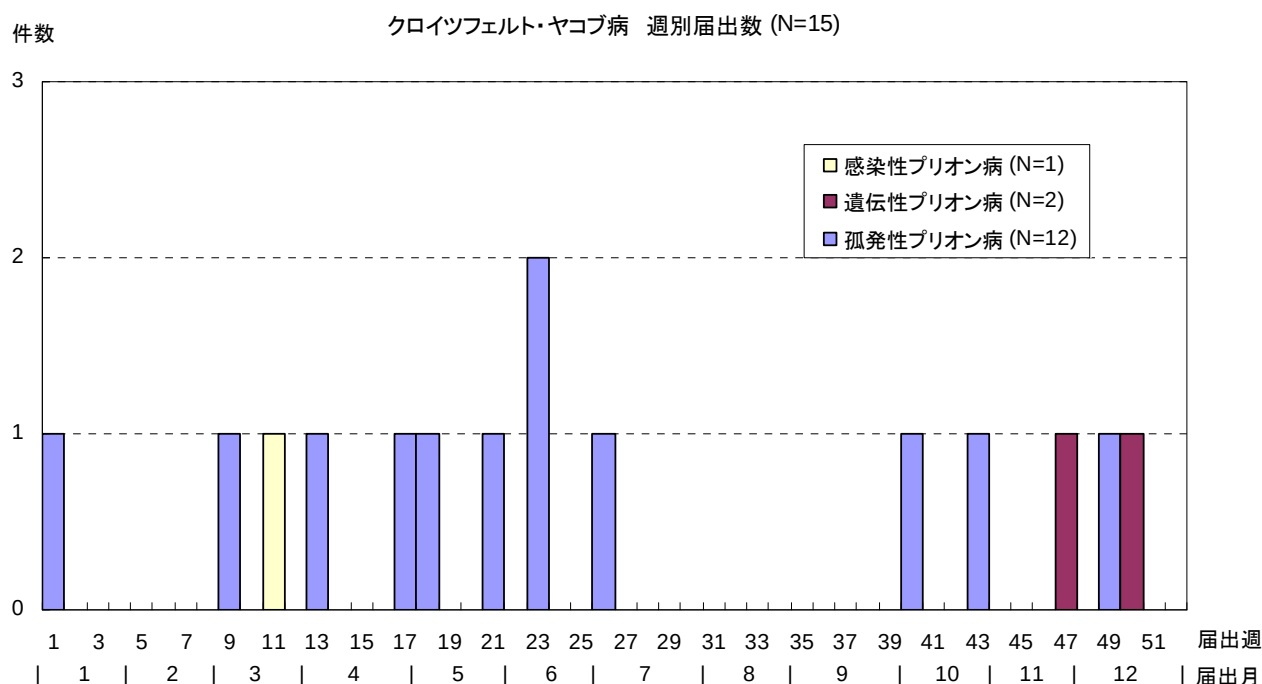
⑤ クロイツフェルト・ヤコブ病

クロイツフェルト・ヤコブ病は15件届出があった。孤発性プリオン病・古典型 CJD 12 件（ほぼ確実 8 件、疑い 4 件）、遺伝性プリオン病・GSS（ほぼ確実）2 件、感染性プリオン病・医源性 CJD（疑い）1 件であった。

性別は男性が 10 人、女性が 5 人で、年齢は 50 歳代 2 人、60 歳代 5 人、70 歳以上 8 人であった。

症状は進行性認知症 13 件（86.7%）、ミオクローヌス 9 件（60%）、錐体路症状 9 件（60%）、錐体外路症状 6 件（40%）、小脳症状 6 件（40%）、視覚異常 7 件（46.7%）、無動性無言状態 5 件（33.3%）、記憶障害 9 件（60%）、精神・知能障害 7 件（46.7%）、臨床的に頑固な不眠 2 件（13.3%）、異常感覚 2 件（13.3%）、筋強剛 2 件（13.3%）、その他（失行）1 件（6.7%）であった。

プリオン蛋白遺伝子検査による診断がなされていたのは 1 件（遺伝性 GSS）であった。



クロイツフェルト・ヤコブ病 (N=15)

No	受理日	受理週	性別	年齢	病型	確実度	推定感染地	推定感染経路
1	1/4	1	男	81	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	不明	不明
2	3/1	9	男	68	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	不明	不明
3	3/19	11	男	62	感染性-医原性 CJD	疑い	国内	親血的処置 及び輸血
4	3/30	13	女	63	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	不明	不明
5	4/27	17	男	52	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	不明	不明
6	5/6	18	男	71	孤発性-古典型 CJD	疑い	不明	不明
7	5/28	21	女	86	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	不明	不明
8	6/10	23	男	61	孤発性-古典型 CJD	疑い	国内	不明
9	6/11	23	男	82	孤発性-古典型 CJD	疑い	不明	不明
10	7/2	26	女	78	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	不明	不明
11	10/4	40	男	73	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	不明	不明
12	10/25	43	男	78	孤発性-古典型 CJD	ほぼ確実	不明	不明
13	11/26	47	男	62	遺伝性-GSS	ほぼ確実	不明	不明
14	12/6	49	女	79	孤発性-古典型 CJD	疑い	国内	不明
15	12/16	50	女	55	遺伝性-GSS	ほぼ確実	国内	不明

クロイツフェルト・ヤコブ病 (N=15) 別表

No	発病日	初診日	診断日	症状												診断方法				
				進行性認知症	ミオクローヌス	錐体路症状	錐体外路症状	小脳症状	視覚異常	無動性無言状態	記憶障害	精神・知能障害	臨床的に頑固な不眠	異常感覚	痙性対麻痺	筋強剛	その他	脳波 PSD	脳 MRI	14-3-3 蛋白
1		20091221	20091228	+	+	+		+	+								+	+		
2	20091200	20100126	20100227	+	+				+	+							+	+		
3	20100100	20100309	20100309	+	+			+	+	+	+							+		
4	20091200	20100302	20100329	+				+	+		+						+	+		
5	20100423	20100318	20100423	+	+		+		+					+			+	+	+	
6	20100100	20100421	20100430	+		+			+			+						+		
7	20100300	20100323	20100521	+	+	+	+			+	+					+	+	+	+	
8	20100506	20100518	20100601	+		+	+	+	+	+	+	+								
9	20100200	20100511	20100602	+			+	+			+		+					+	+	
10	20100500	20100624	20100630	+	+	+			+	+	+						+			
11		20100927	20101004	+	+	+	+		+			+	+				+	+		
12	20100900	20101021	20101021	+	+	+			+	+	+					+	+	+		
13		20101029	20101126			+		+			+							+		
14		20100704	20101107	+	+	+	+			+								+		
15※		20100811	20101215											+						
計				13	9	9	6	6	7	5	9	7	2	2	0	2	1	15	14	3

※ プリオン蛋白遺伝子検査による診断(1件) : No15 コドン 102 の異常

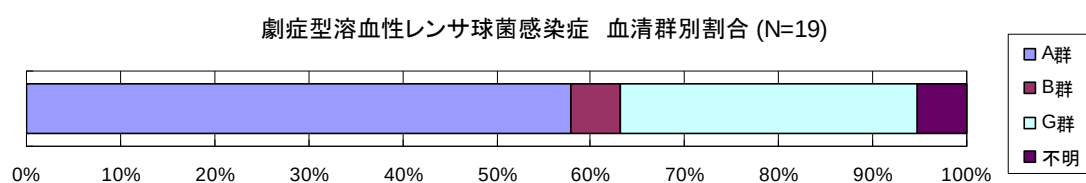
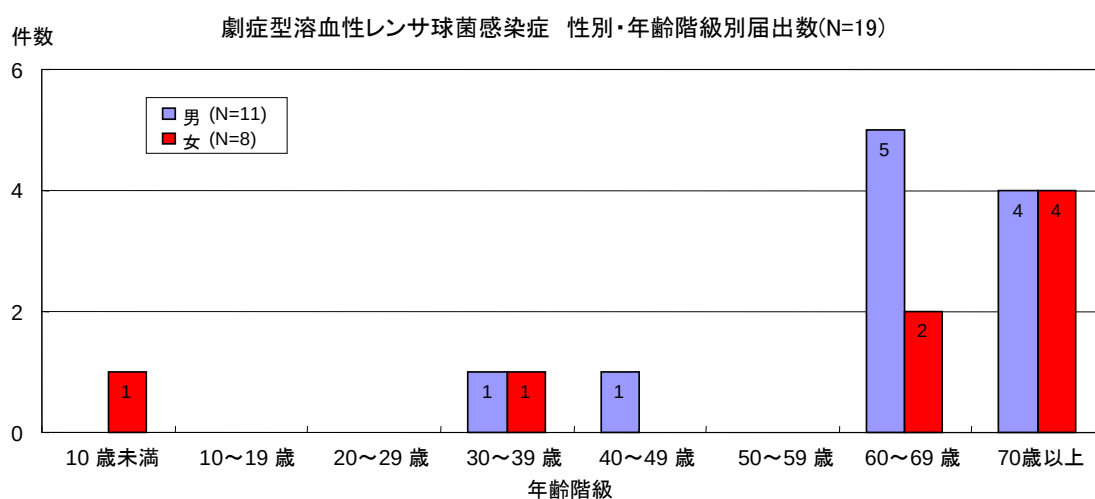
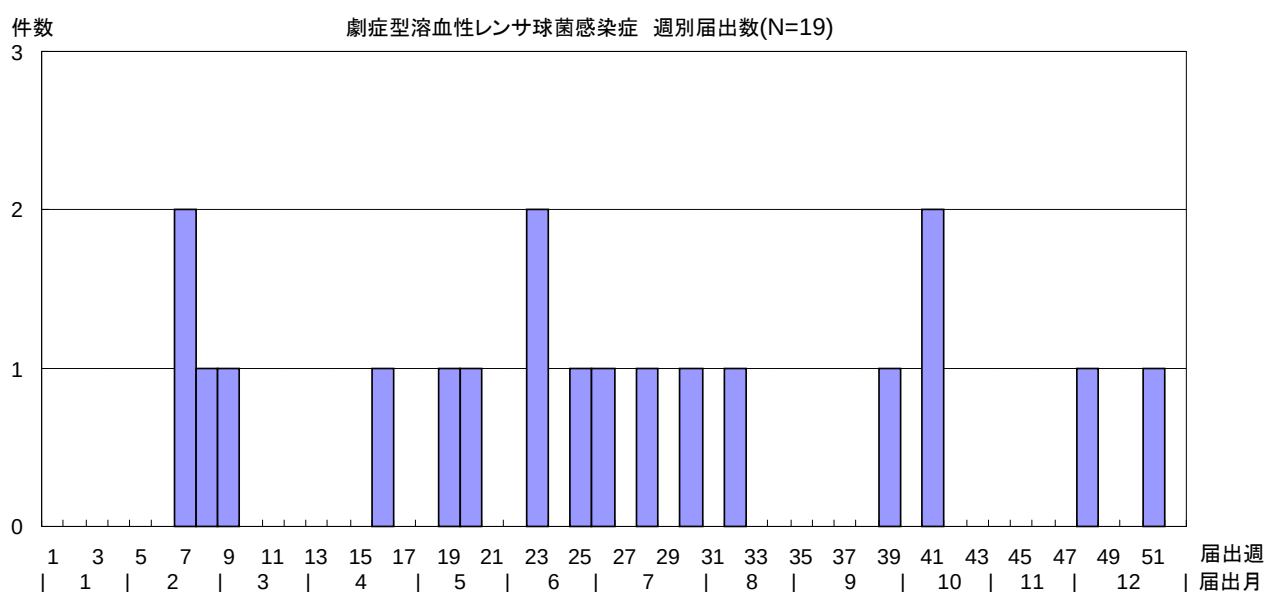
⑥ 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

劇症型溶血性レンサ球菌感染症は 19 件届出があった。血清群は、A 群 11 件、B 群 1 件、G 群 6 件、不明 1 件であった。

性別は男性 11 人、女性 8 人で、年齢は 10 歳未満 1 人、30 歳代 2 人、40 歳代 1 人、60 歳代 7 人、70 歳以上 8 人であった。

推定感染地は全て国内で、推定感染原因は、創傷感染 6 件、飛沫・飛沫核感染 1 件、創傷感染/その他 1 件、その他 2 件、不明 9 件であった。

死亡は 8 件（30 歳代 2 人、60 歳代 2 件、70 歳以上 4 件）報告された。



劇症型溶血性レンサ球菌感染症 (N=19)

No	受理日	受理週	性別	年齢	血清群	症状	推定感染原因	備考
1	2/16	7	女	38	A 群	ショック、肝不全、腎不全、 急性呼吸窮迫症候群、DIC	不明	死亡
2	2/16	7	男	36	A 群	ショック、DIC、軟部組織炎、 全身性紅斑性発疹	その他(新型 インフルエンザに 重複感染)	死亡
3	2/24	8	男	72	A 群	ショック、肝不全、腎不全、 急性呼吸窮迫症候群、DIC	不明	死亡
4	3/5	9	女	8	A 群	ショック、DIC、軟部組織炎、 肝腎機能障害	飛沫・飛沫核感染	
5	4/20	16	男	61	G 群	ショック、DIC、軟部組織炎、 壊死性筋膜炎	その他 (既往に糖尿病)	死亡
6	5/10	19	男	67	A 群	ショック、肝不全、腎不全、DIC、 軟部組織炎、全身性紅斑性発疹	創傷感染 (右指先)	
7	5/18	20	男	72	A 群	ショック、肝不全、腎不全、 急性呼吸窮迫症候群、DIC、 軟部組織炎、壊死性筋膜炎	不明	死亡
8	6/7	23	女	88	G 群	ショック、肝不全、腎不全、 急性呼吸窮迫症候群、DIC、 軟部組織炎、全身性紅斑性発疹	創傷感染	
9	6/11	23	女	66	A 群	ショック、腎不全、軟部組織炎、 多発関節炎 多発脊髄炎	不明	
10	6/22	25	男	64	不明	ショック、肝不全、腎不全、 急性呼吸窮迫症候群、DIC、 全身性紅斑性発疹	不明	
11	7/2	26	男	76	G 群	ショック、腎不全、DIC	不明	
12	7/16	28	男	48	A 群	ショック、腎不全、軟部組織炎	創傷感染 (左前腕)	
13	7/30	30	女	80	G 群	ショック、腎不全、DIC、 軟部組織炎、全身性紅斑性発疹、 中枢神経症状	不明	死亡
14	8/10	32	男	65	A 群	ショック、腎不全、軟部組織炎	創傷感染/その他 (基礎疾患として 前立腺癌、 心房細動)	
15	9/28	39	男	64	A 群	ショック、急性呼吸窮迫症候群、 軟部組織炎、中枢神経症状	創傷感染(右膝)	死亡
16	10/12	41	男	80	G 群	ショック、肝不全、DIC、 中枢神経症状	創傷感染(両足 爪周囲の創、手足 症候群による創)	死亡
17	10/14	41	女	76	G 群	ショック、肝不全、腎不全、DIC、 中枢神経症状	不明	
18	11/30	48	女	88	B 群	ショック、腎不全、DIC、 軟部組織炎	創傷感染(褥創)	
19	12/21	51	女	67	A 群	ショック、腎不全、急性呼吸窮迫 症候群、軟部組織炎	不明	

⑦ 後天性免疫不全症候群

後天性免疫不全症候群は 509 件届出があった。HIV 感染者 365 件、AIDS 患者 107 件、その他 37 件であった。

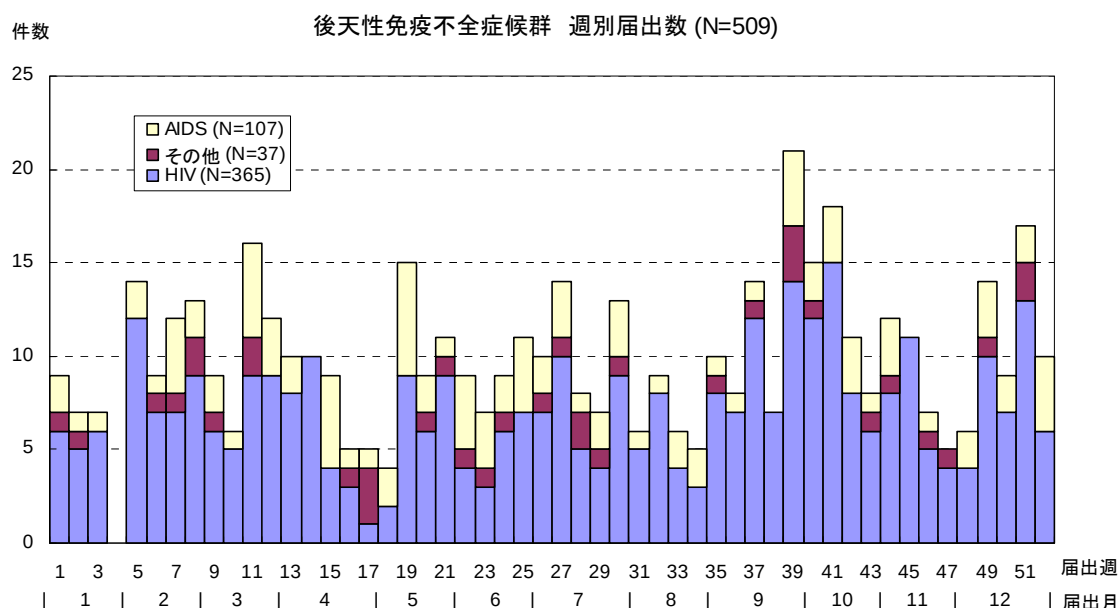
HIV 感染者・その他 402 件について記述すると、性別は男性 380 人、女性 22 人で、年齢は 10 歳未満 1 人、10 歳代 5 人、20 歳代 139 人、30 歳代 147 人、40 歳代 65 人、50 歳代 27 人、60 歳代 14 人、70 歳以上 4 人であった。

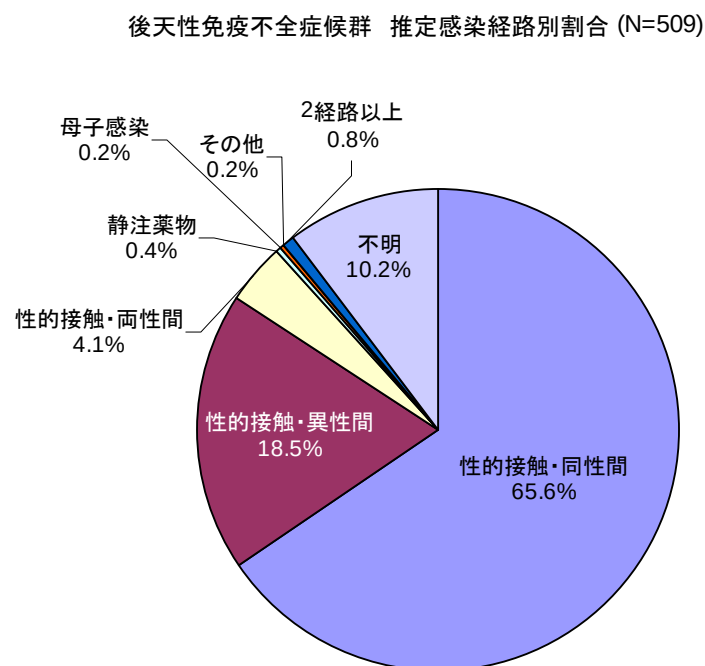
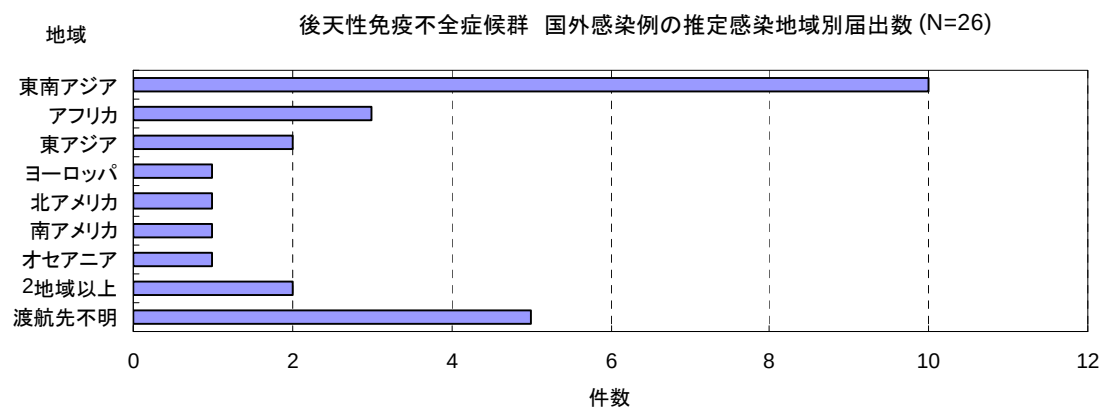
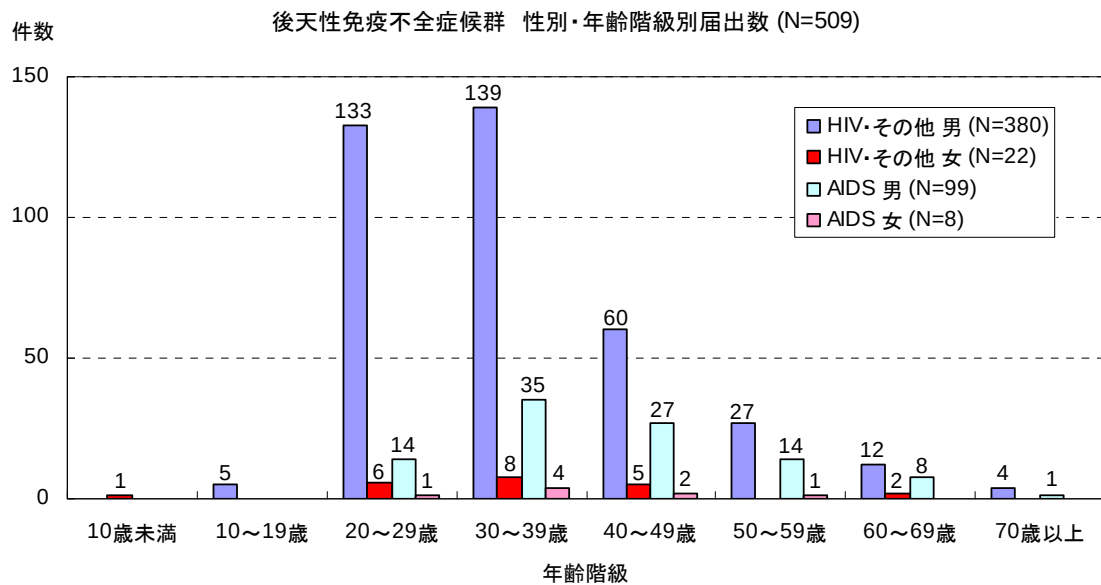
AIDS 患者について記述すると、性別は男性 99 人、女性 8 人で、年齢は 20 歳代 15 人、30 歳代 39 人、40 歳代 29 人、50 歳代 15 人、60 歳以上 8 人、70 歳以上 1 人であった。

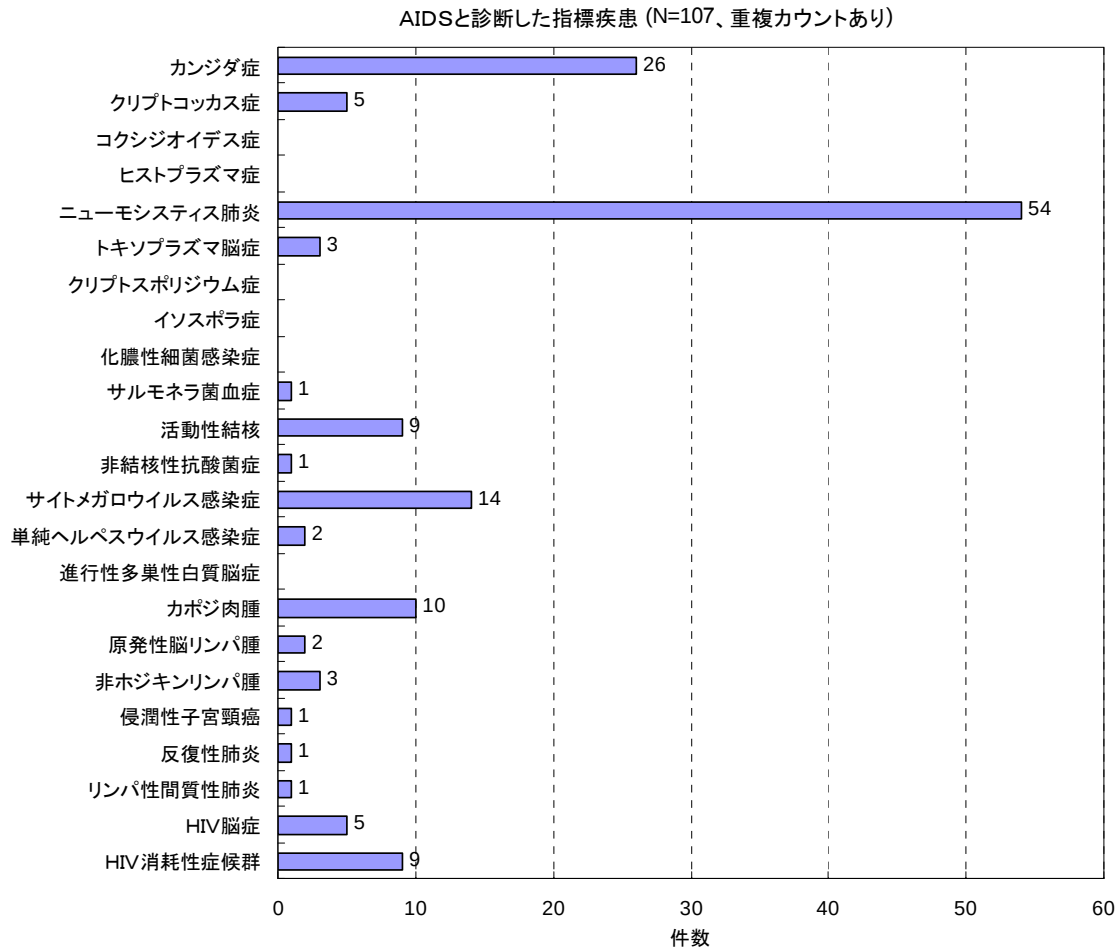
推定感染地は国内 420 件、国外 26 件、国内及び国外 1 件、不明 62 件であった。国外感染例 26 件を推定感染地域別にみると、東南アジア 10 件、アフリカ 3 件、東アジア 2 件、ヨーロッパ 1 件、北アメリカ 1 件、南アメリカ 1 件、オセアニア 1 件、2 地域以上が 2 件、渡航先不明 5 件であった。推定感染国別にみると、タイ 5 件、インドネシア 3 件、ミャンマー 2 件、中国 2 件、ナイジェリア 1 件、ケニア 1 件、ザンビア 1 件、ドイツ 1 件、アメリカ 1 件、ブラジル 1 件、サイパン 1 件、台湾/タイ 1 件、韓国/アメリカ/サイパン 1 件、渡航先不明 5 件であった。

推定感染経路は性的接触 449 件（同性間 334 件、異性間 94 件、両性間 21 件）、静注薬物 2 件、母子感染 1 件、その他（国外での医療器具）1 件、2 経路以上 4 件（同性間性的接触/静注薬物 2 件、異性間性的接触/静注薬物 2 件）、不明 52 件であった。

AIDS と診断した指標疾患は 147 件あり内訳は、ニューモシスティス肺炎 54 件、カンジダ症 26 件、サイトメガロウイルス感染症 14 件、カポジ肉腫 10 件、HIV 消耗性症候群 9 件、活動性結核 9 件、HIV 脳症 5 件、クリプトコッカス症 5 件、非ホジキンリンパ腫 3 件、トキソプラズマ脳症 3 件、原発性脳リンパ腫 2 件、単純ヘルペスウイルス感染症 2 件、リンパ性間質性肺炎、反復性肺炎、侵潤性子宮頸癌、非結核性抗酸菌症、サルモネラ菌血症、各 1 件であった。これらの中には複数疾患発症者の報告 31 件が含まれている（2 疾患 23 人、3 疾患 7 人、4 疾患 1 人）。



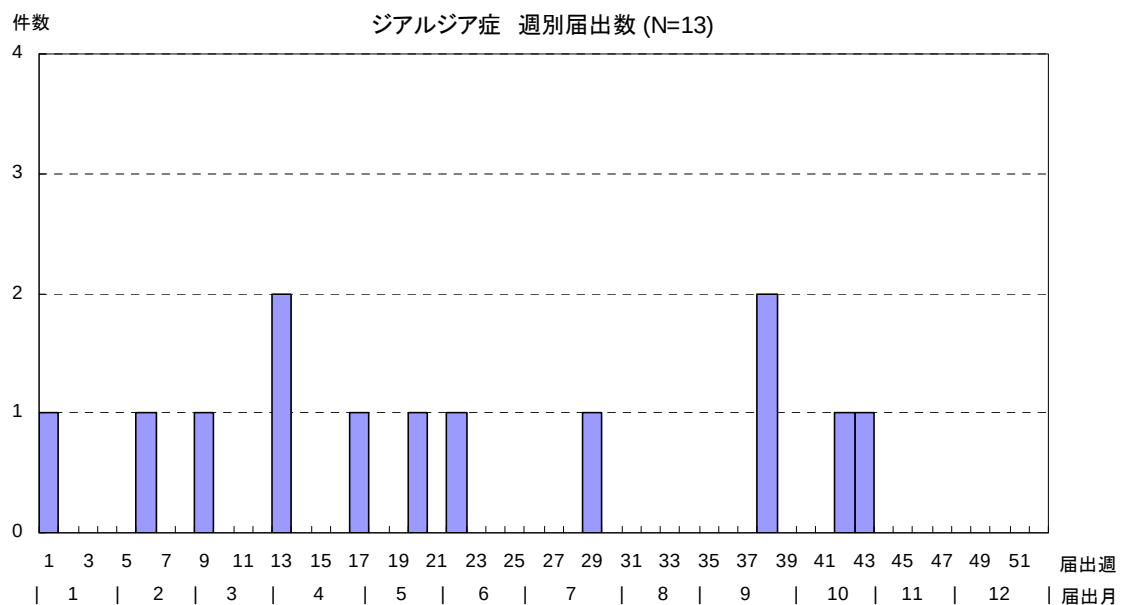




⑧ ジアルジア症

ジアルジア症は 13 件届出があった。

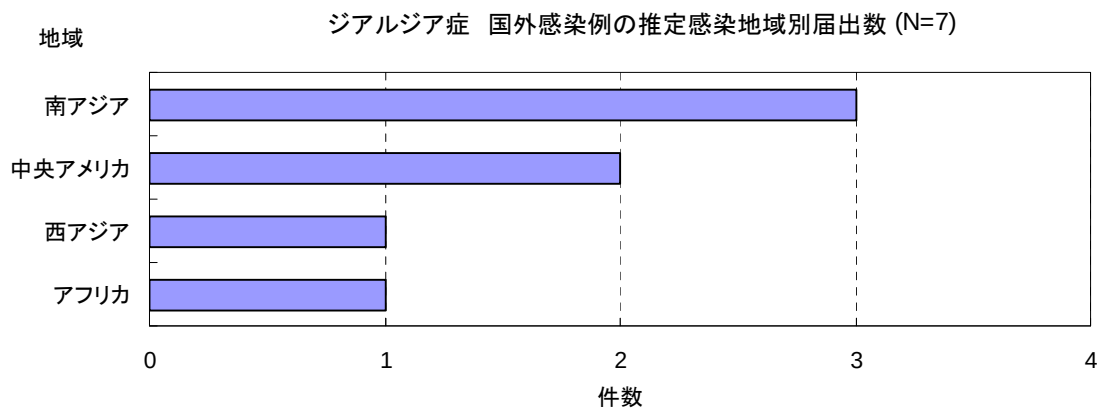
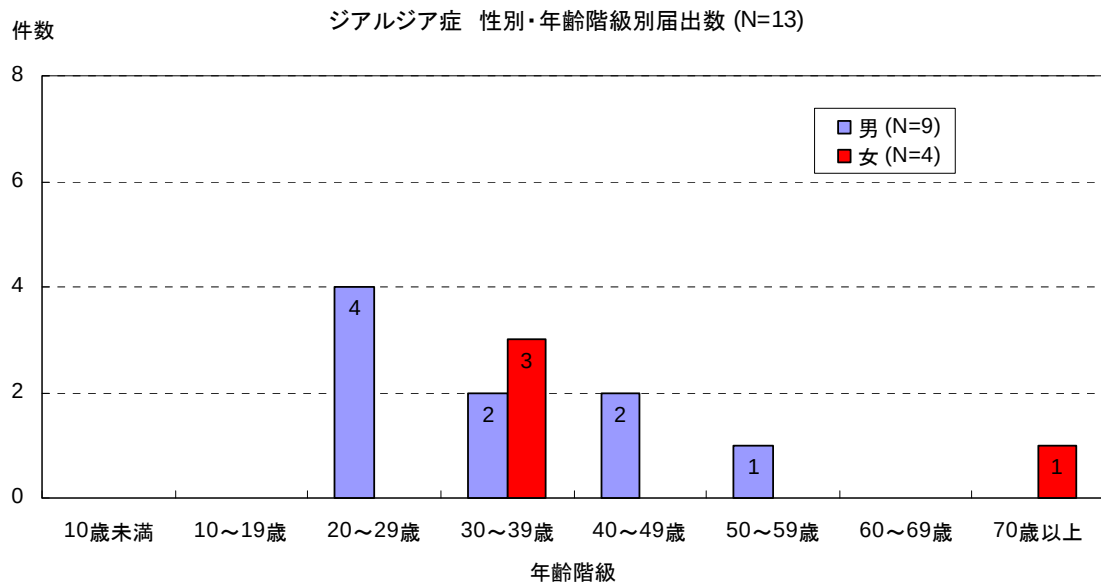
性別は男性 9 人、女性 4 人で、年齢は 20 歳代 4 人、30 歳代 5 人、40 歳代 2 人、50 歳代 1 人、70 歳以上 1 人であった。



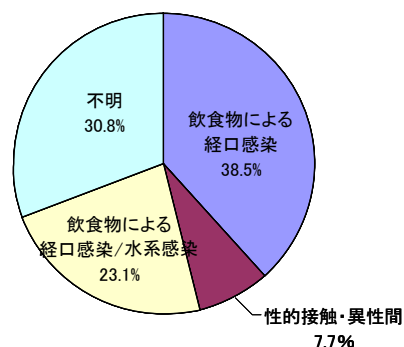
推定感染地は国内 6 件、国外 7 件であった。国外感染例 7 件を推定感染地域別にみると、南アジア 3 件、中央アメリカ 2 件、西アジア、アフリカが各 1 件で、推定感染国別にみると、インド 3 件、ハイチ 2 件、トルコ、ギニアが各 1 件であった。

推定感染経路は、飲食物による経口感染 5 件、性的接触（異性間）1 件、経口/水系感染 3 件、不明 4 件であった。

推定感染地インドの 1 件は、アメーバ赤痢にも重複感染していた。



ジアルジア症 推定感染経路別割合 (N=13)



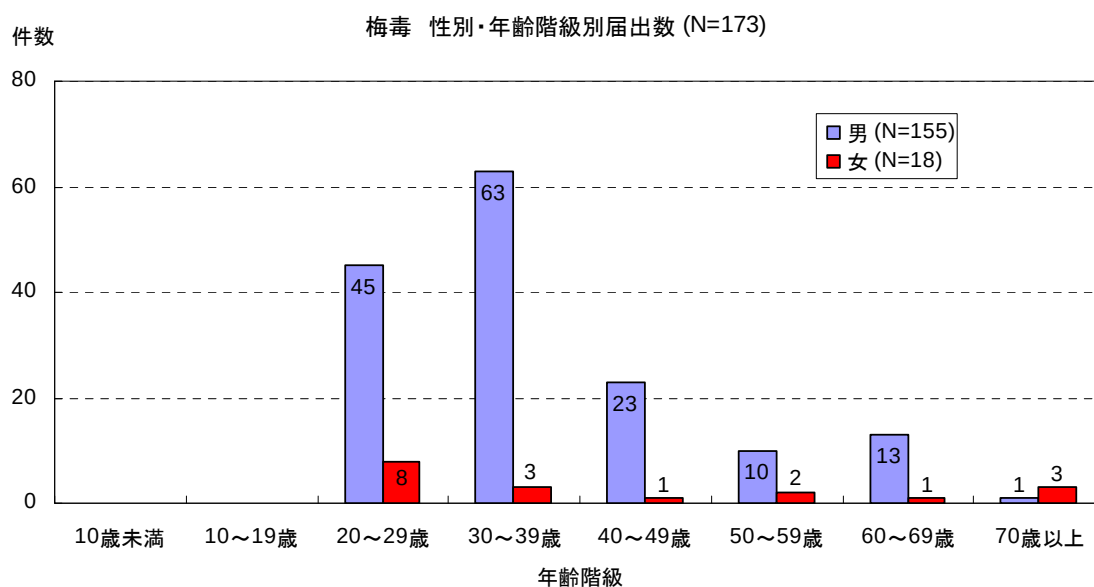
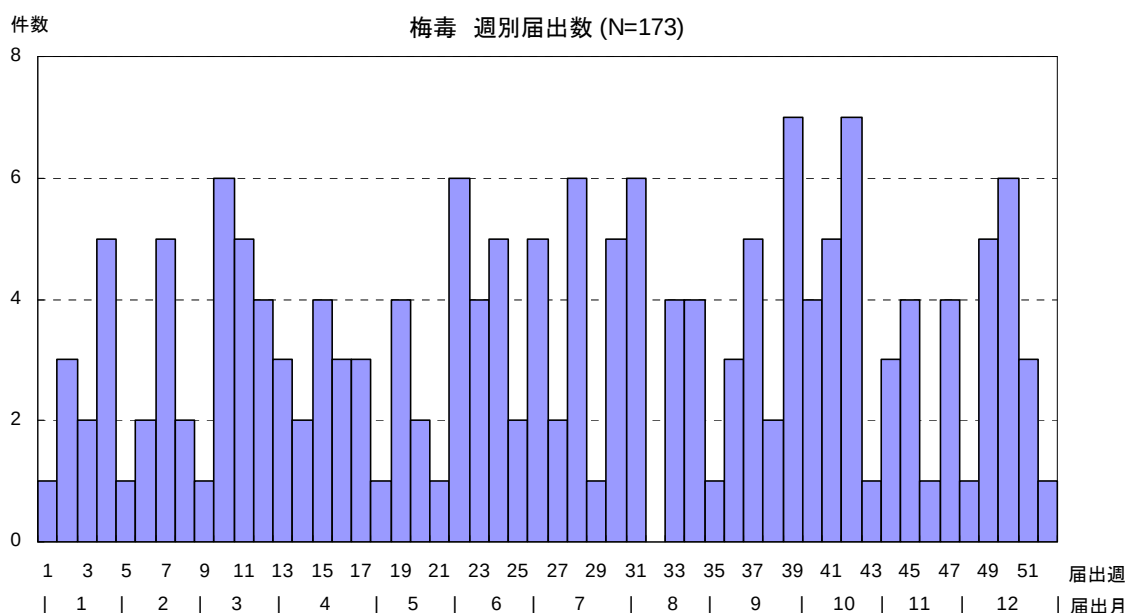
⑨ 梅毒

梅毒は173件届出があった。早期顕症梅毒Ⅰ期17件、早期顕症梅毒Ⅱ期96件、晩期顕症梅毒7件、無症候53件であった。

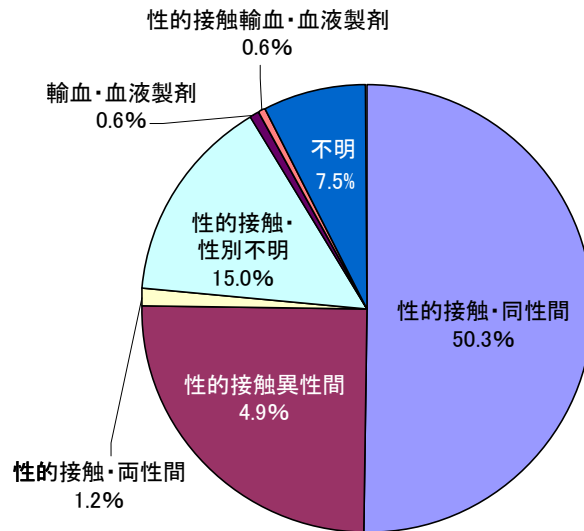
性別は男性155人、女性18人で、年齢は20歳代53人、30歳代66人、40歳代24人、50歳代12人、60歳代14人、70歳以上4人であった。

推定感染地は国内168件、国外5件で、国外感染例5件の内訳は、フィリピン1件、中国1件、東南アジア1件、渡航先不明2件であった。

推定感染経路は、性的接触158件（同性間87件、異性間43件、両性間2件、性別不明26件）、輸血・血液製剤1件、性的接触/輸血・血液製剤1件、不明13件であった。



梅毒 推定感染経路別割合(N=173)



⑩ 破傷風

破傷風は5件届出があった。

性別は男性4人、女性1人、年齢は10歳未満1人、50歳代1人、60歳代1人、70歳以上2人であった。

破傷風 (N=5)

No	受理日	受理週	性別	年齢	診断方法	症状	推定感染地	推定感染経路
1	3/23	12	女	70	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、強直性痙攣、呼吸困難(痙攣性)、易興奮性、反弓緊張	国内	その他(歯科治療)
2	4/30	17	男	3	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、強直性痙攣、易興奮性	国内	創傷感染(手指)
3	8/24	34	男	56	臨床決定	開口障害、発語障害、強直性痙攣、呼吸困難(痙攣性)、反弓緊張	国内	針等の刺入による感染
4	10/12	41	男	82	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害	国内	創傷感染(頭部、顔面、胸部、膝部)
5	10/13	41	男	69	臨床決定	筋肉のこわばり、開口障害、嚥下障害、発語障害、強直性痙攣、反弓緊張	国内	創傷感染(頭部)

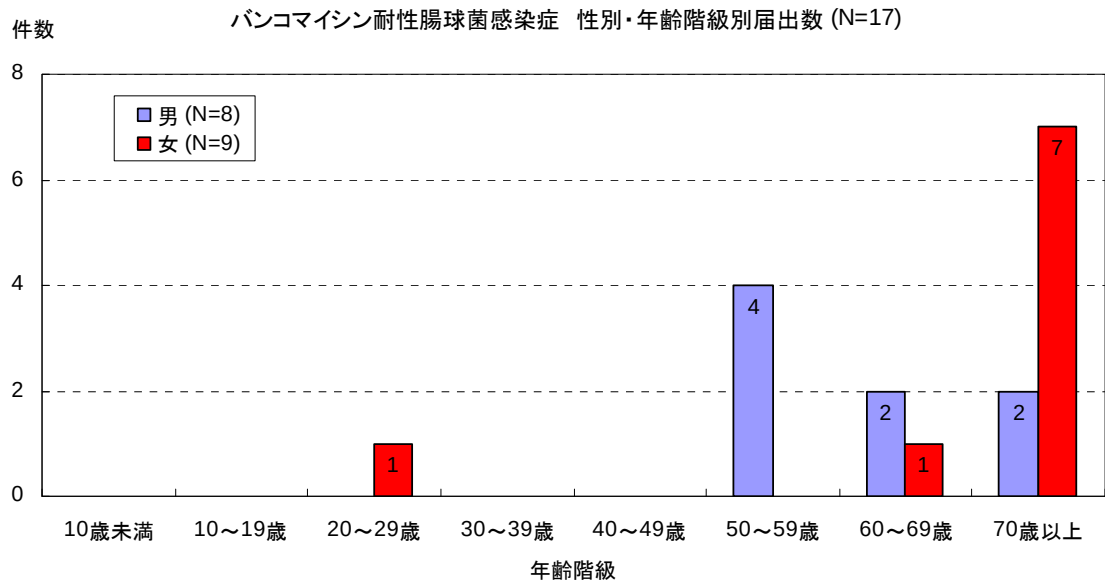
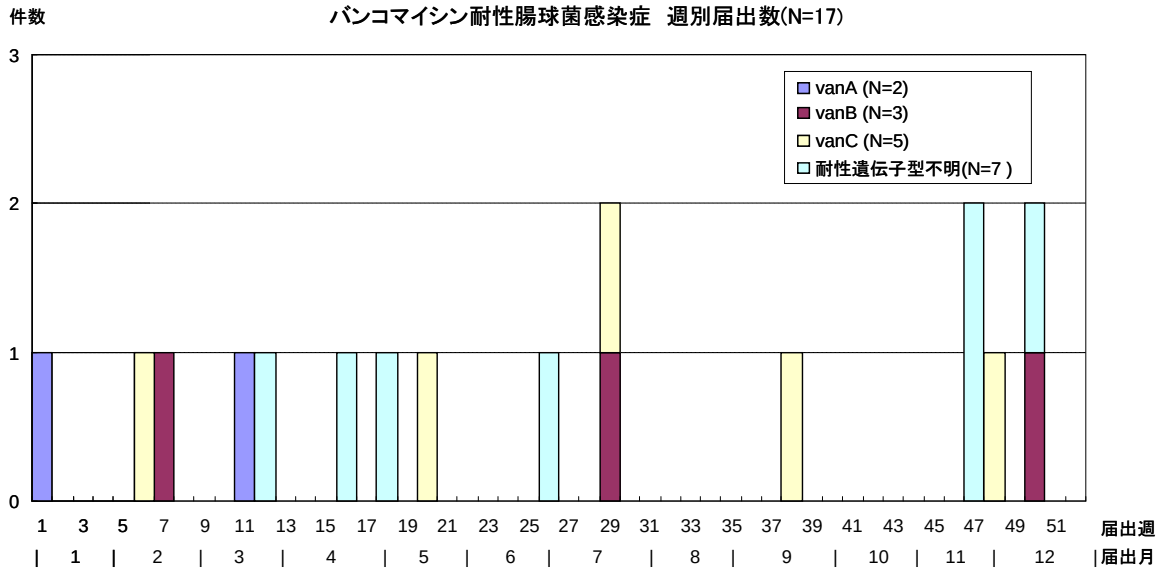
⑪ バンコマイシン耐性腸球菌感染症

バンコマイシン耐性腸球菌感染症は17件届出があった。

菌種は *Enterococcus faecium* 8件、*Enterococcus faecalis* 1件、*Enterococcus gallinarum* 1件、*Enterococcus casseliflavus* 4件、不明3件で、耐性遺伝子型は *vanA* 2件、*vanB* 3件、*vanC* 5件、不明7件であった。

性別は男性8人、女性9人で、年齢は20歳代1人、50歳代4人、60歳代3人、70歳以上9人であった。

70歳以上の症例の死亡が1件報告されており、症状は菌血症で、感染経路は不明であった。



バンコマイシン耐性腸球菌感染症 菌種と耐性遺伝子型 (N=17)

菌種	vanA	vanB	vanC	不明	計
<i>E. faecium</i>	2	2	0	4	8
<i>E. faecalis</i>	0	1	0	0	1
<i>E. gallinarum</i>	0	0	1	0	1
<i>E. casseliflavus</i>	0	0	3	1	4
不明	0	0	1	2	3
計	2	3	5	7	17

バンコマイシン耐性腸球菌感染症 (N=17)

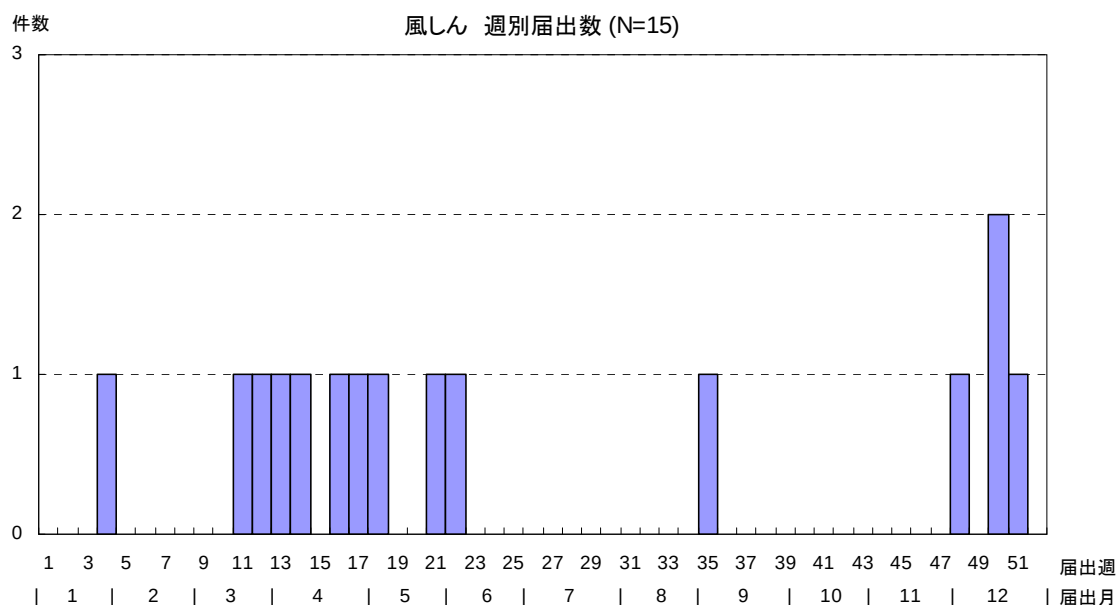
No	受理日	受理週	性別	年齢	検体	菌種	耐性遺伝子型	症状	推定感染経路
1	1/6	1	男	59	血液、便	<i>E. faecium</i>	vanA	発熱、腸炎、菌血症	消化管から血管内への細菌移行
2	2/8	6	男	50	腹水	<i>E. casseliflavus</i>	vanC	発熱、閉塞性黄疸	不明
3	2/19	7	女	85	尿	<i>E. faecalis</i>	vanB	尿路感染症	再発性膀胱炎、尿閉
4	3/16	11	男	58	尿	<i>E. faecium</i>	vanA	発熱、尿路感染症、骨盤内感染症	不明
5	3/26	12	男	94	血液	不明	不明	発熱	不明
6	4/21	16	女	86	血液	<i>E. casseliflavus</i>	不明	発熱	不明
7	5/6	18	男	68	血液	不明	不明	腸炎、菌血症、免疫不全	不明
8	5/18	20	女	97	血液	<i>E. casseliflavus</i>	vanC	発熱、胆管炎	飲食物による経口感染
9	7/2	26	女	76	血液、便	<i>E. faecium</i>	不明	菌血症	不明
10	7/20	29	男	50	血液、便	<i>E. faecium</i>	vanB	発熱、菌血症	不明
11	7/22	29	男	85	血液	<i>E. gallinarum</i>	vanC	発熱、菌血症、胆管炎	不明
12	9/22	38	女	78	血液	不明	vanC	発熱、菌血症	日和見感染、術後感染
13	11/22	47	男	67	血液	<i>E. faecium</i>	不明	発熱、腸炎、菌血症、免疫不全	抗菌薬投与による選択圧
14	11/25	47	女	22	便	<i>E. faecium</i>	不明	発熱、下痢	不明
15	11/30	48	女	70	血液	<i>E. casseliflavus</i>	vanC	発熱、菌血症、急性閉塞性化膿性胆管炎	自家感染
16	12/14	50	女	62	便	<i>E. faecium</i>	不明	腸炎	接触感染
17	12/14	50	女	75	便	<i>E. faecium</i>	vanB	発熱、腸炎、免疫不全	接触感染

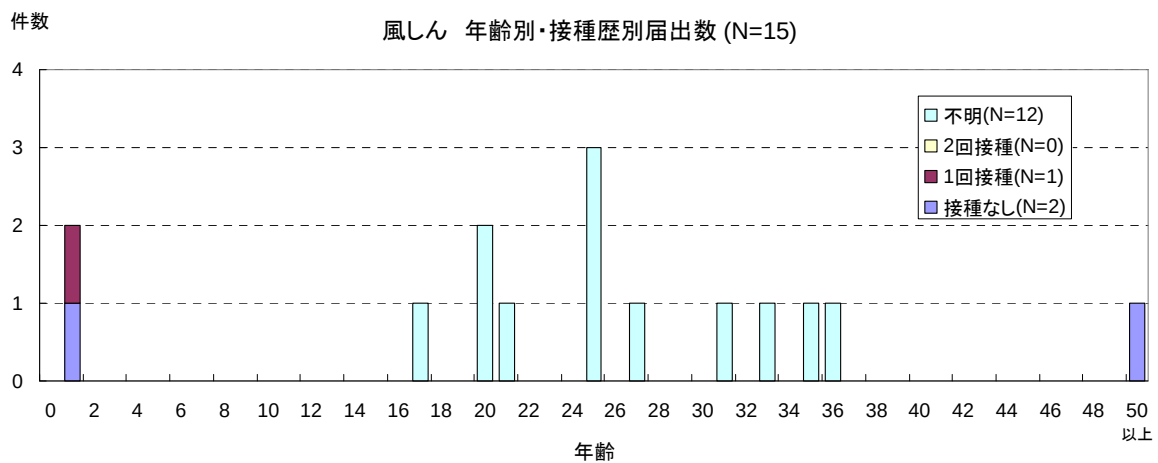
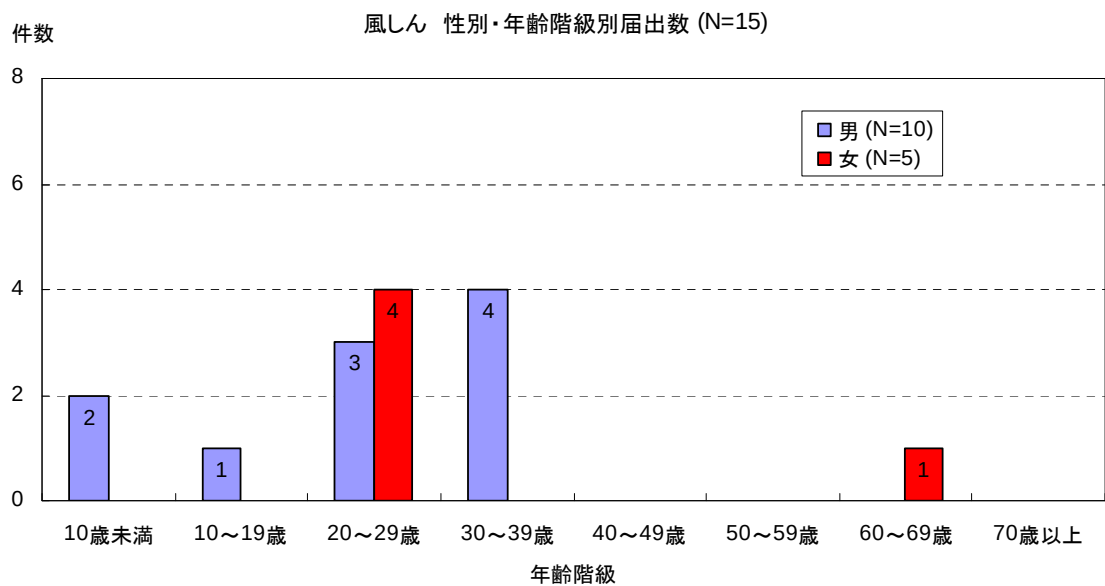
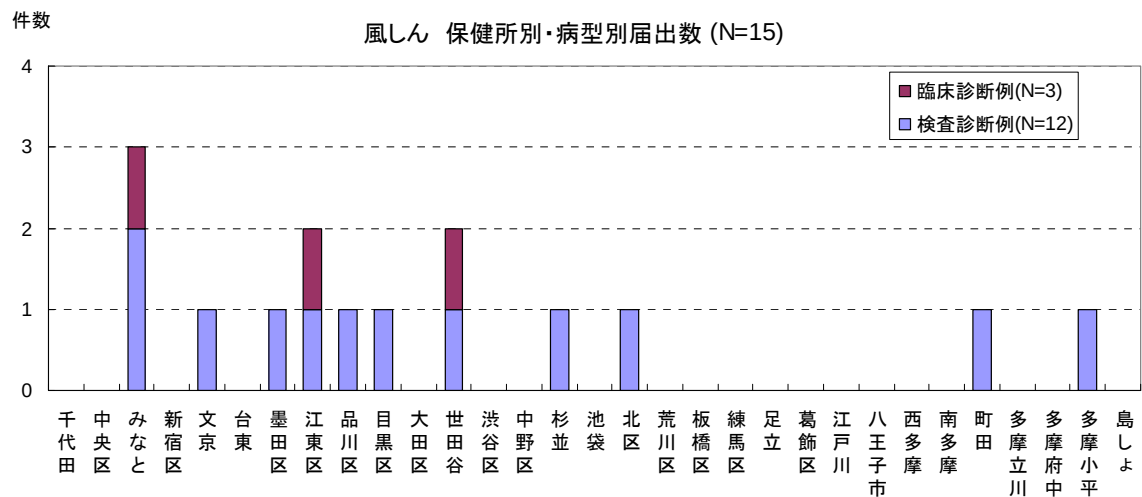
⑫ 風しん

風しんは 15 件届出があった。検査診断例 12 件、臨床診断例 3 件であった。

性別は男性 10 人、女性 5 人で、年齢は 5 歳未満 2 人、10 歳代 1 人、20 歳代 7 人、30 歳代 4 人、60 歳代 1 人であった。

風しん含有ワクチン接種歴は、なし 2 件 (13.3%)、1 回 1 件 (6.7%)、不明 12 件 (80.0%) であった。





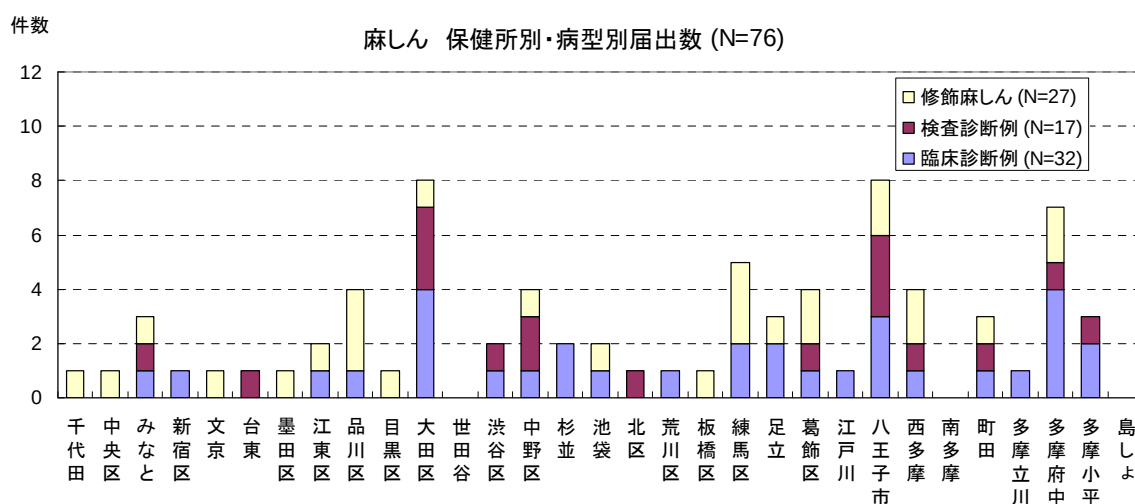
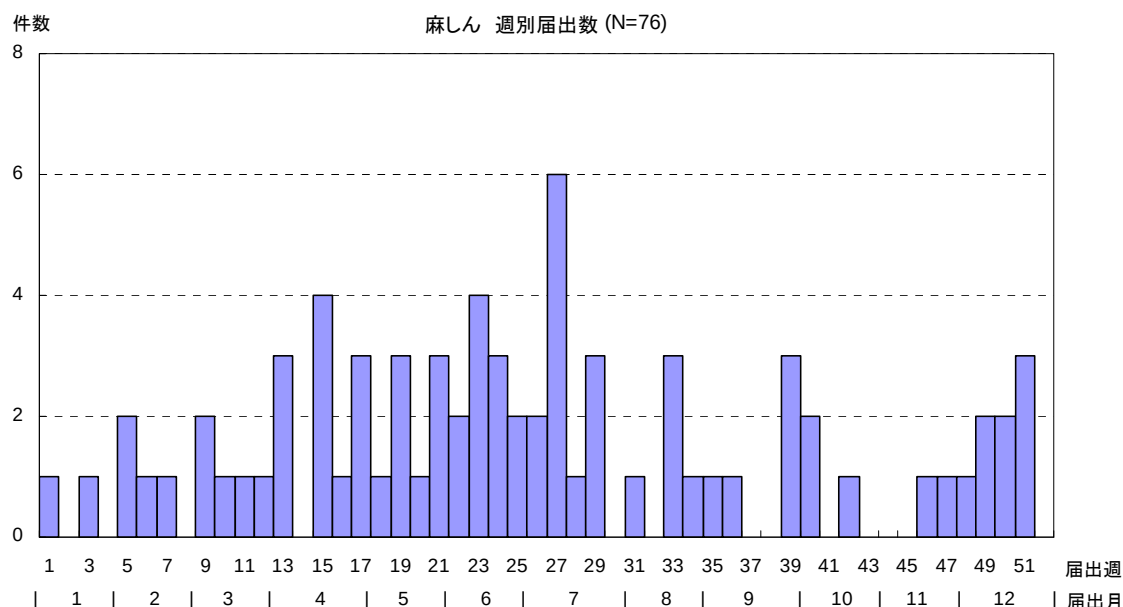
⑬ 麻しん

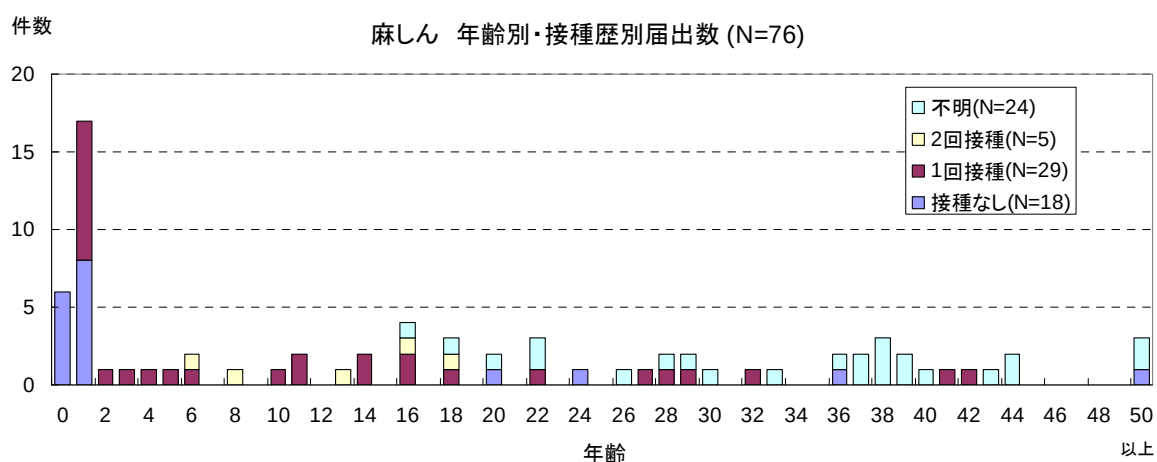
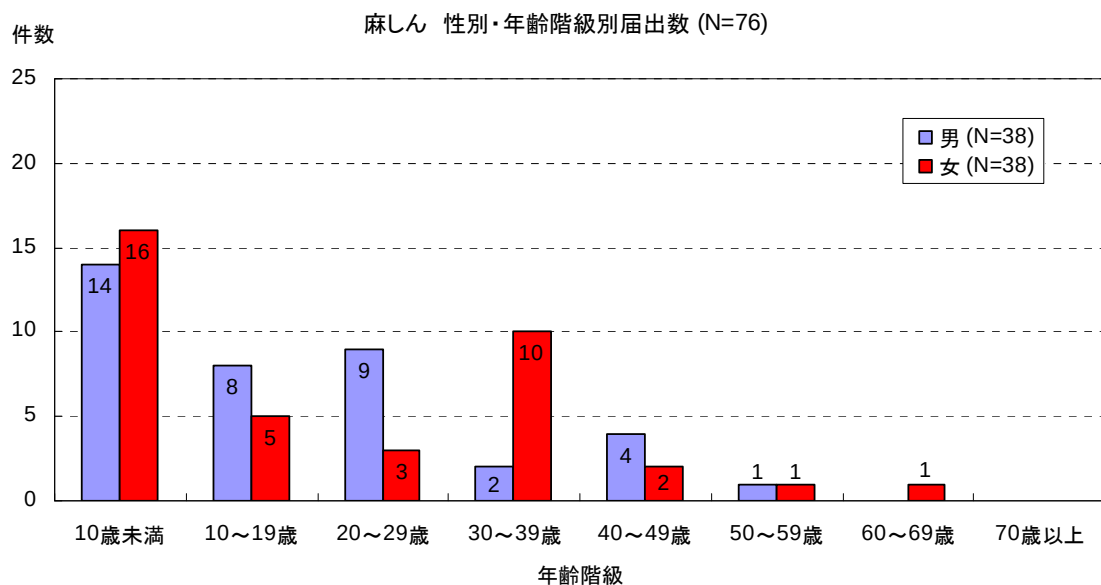
麻しんは 76 件届出があった。麻しん（検査診断例）17 件、麻しん（臨床診断例）32 件、修飾麻しん（検査診断例）27 件であった。

性別は男性 38 人、女性 38 人で、年齢は 10 歳未満 30 人（うち 5 歳未満 26 人）、10 歳代 13 人、20 歳代 12 人、30 歳代 12 人、40 歳代 6 人、50 歳代 2 人、60 歳代 1 人であった。

麻しん含有ワクチン接種歴は、なし 18 件（23.7%）、1 回 29 件（38.2%）、2 回 5 件（6.6%）、不明 24 件（31.6%）であった。

肺炎合併の報告は 3 件あり、年齢は、0 歳、6 歳、39 歳、各 1 人で、麻しん含有ワクチン接種歴は、なし、1 回、不明、各 1 件であった。脳炎合併の報告はなかった。





⑭ その他の五類感染症

以下の3疾患は届出がなかった。

髄膜炎菌性髄膜炎、先天性風しん症候群、バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症

表3-1(1) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 週別患者報告数
2010年第1週～2010年第52週

週	期間	一 類							二 類					三類				
		エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
1	1. 4～ 1.10								82					2	2			
2	1.11～ 1.17								65					1	1			
3	1.18～ 1.24								99				1	4	2			
4	1.25～ 1.31								77					1	6			
5	2. 1～ 2. 7								81					2	11			
6	2. 8～ 2.14								89					3	1			
7	2.15～ 2.21								85						2			
8	2.22～ 2.28								90						1		1	
9	3. 1～ 3. 7								77				1					
10	3. 8～ 3.14								72						1			
11	3.15～ 3.21								71					1	1			
12	3.22～ 3.28								63					2	2		1	
13	3.29～ 4. 4								89					2	1			
14	4. 5～ 4.11								61					2	5			
15	4.12～ 4.18								78					1	2			
16	4.19～ 4.25								65					2	3	1		
17	4.26～ 5. 2								90					1	3			
18	5. 3～ 5. 9								42						1	1		
19	5.10～ 5.16								94					1				
20	5.17～ 5.23								129					4	1			
21	5.24～ 5.30								119					1	4			
22	5.31～ 6. 6								90					1	2			
23	6. 7～ 6.13								86					1	4			
24	6.14～ 6.20								95						10			
25	6.21～ 6.27								94					1	12	1		
26	6.28～ 7. 4								81					1	9		1	
27	7. 5～ 7.11								115					4	12	1		
28	7.12～ 7.18								68						22			
29	7.19～ 7.25								82						11			
30	7.26～ 8. 1								70					1	7			
31	8. 2～ 8. 8								92					5	17	1		
32	8. 9～ 8.15								88					1	18			
33	8.16～ 8.22								93					2	25	1		
34	8.23～ 8.29								75					1	21			
35	8.30～ 9. 5								96				1	2	16	1		
36	9. 6～ 9.12								65					2	19		1	
37	9.13～ 9.19								82					2	22		1	
38	9.20～ 9.26								61					1	14			
39	9.27～10. 3								87					4	7			
40	10. 4～10.10								75					10	8	1		
41	10.11～10.17								55					2	7			
42	10.18～10.24								107					4	5			
43	10.25～10.31								92					2	3	1		
44	11. 1～11. 7								68						1	1		
45	11. 8～11.14								94						2	1		
46	11.15～11.21								98					2	3	1		
47	11.22～11.28								83						3			
48	11.29～12. 5								86					3	2			
49	12. 6～12.12								85					1	3			
50	12.13～12.19								92					1	2			
51	12.20～12.26								108						1			
52	12.27～ 1. 2								51					1	1			
	合 計								4,332				2	86	339	12	5	

* 2011年3月9日現在の報告数

表3-1 (2) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 週別患者報告数
2010年第1週～2010年第52週

週	期間	四類											
		E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	コクシジオイデス症	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症
1	1. 4～ 1.10		1			1			1			1	
2	1.11～ 1.17											1	
3	1.18～ 1.24								2			1	
4	1.25～ 1.31		1					1					
5	2. 1～ 2. 7		2				3					2	
6	2. 8～ 2.14	1	1			2							
7	2.15～ 2.21	1							1		1		
8	2.22～ 2.28		1							1		1	
9	3. 1～ 3. 7	1							1			1	
10	3. 8～ 3.14	1	3				1						
11	3.15～ 3.21	1	4				2						1
12	3.22～ 3.28						2						
13	3.29～ 4. 4		2									1	
14	4. 5～ 4.11		2				1		1				
15	4.12～ 4.18								2			1	
16	4.19～ 4.25		2				2					1	
17	4.26～ 5. 2		1										
18	5. 3～ 5. 9		3						1				
19	5.10～ 5.16		5									1	
20	5.17～ 5.23	1	2				1					2	
21	5.24～ 5.30		2			1	1					1	
22	5.31～ 6. 6												
23	6. 7～ 6.13					1	2						1
24	6.14～ 6.20												
25	6.21～ 6.27						2					2	
26	6.28～ 7. 4						2		2			1	
27	7. 5～ 7.11		1						1			1	
28	7.12～ 7.18						2						
29	7.19～ 7.25		1									3	
30	7.26～ 8. 1		1									2	
31	8. 2～ 8. 8						2		1			1	
32	8. 9～ 8.15	1					2		3			1	
33	8.16～ 8.22		1				2		2			1	
34	8.23～ 8.29		1				3		1				
35	8.30～ 9. 5		1				5						
36	9. 6～ 9.12						4		2			1	
37	9.13～ 9.19		2				5		2			1	
38	9.20～ 9.26						3						
39	9.27～10. 3		1				6					2	
40	10. 4～10.10						2					3	
41	10.11～10.17						2					3	
42	10.18～10.24			1			1		1			3	
43	10.25～10.31	1					4		1			6	
44	11. 1～11. 7						1		1			1	
45	11. 8～11.14		3				2					2	
46	11.15～11.21				1				2			3	
47	11.22～11.28		1			5						2	
48	11.29～12. 5						3						
49	12. 6～12.12					1							
50	12.13～12.19					2						1	
51	12.20～12.26	1										1	
52	12.27～ 1. 2					1	2						
	合 計	9	45	1	1	14	70	1	28	1	1	55	2

表3-1(3) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 週別患者報告数
2010年第1週～2010年第52週

週	期間	五類															
		アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ブ病 クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	バイコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻しん
1	1. 4～ 1.10	3		1	1	1		9	1			1			1		1
2	1.11～ 1.17	3						7				3					
3	1.18～ 1.24	4						7				2					1
4	1.25～ 1.31	3										5				1	
5	2. 1～ 2. 7	2						14				1					2
6	2. 8～ 2.14	1	4					9	1			2			1		1
7	2.15～ 2.21	2	1	2			2	12				5			1		1
8	2.22～ 2.28	5		1			1	13				2					
9	3. 1～ 3. 7	5	3				1	9	1			1					2
10	3. 8～ 3.14	1	3	1				6				6					1
11	3.15～ 3.21	5		3			1	16				5			1	1	1
12	3.22～ 3.28	4						12				4	1		1	1	1
13	3.29～ 4. 4	3	3				1	10	2			3				1	3
14	4. 5～ 4.11	2	1					10				2				1	
15	4.12～ 4.18	4						9				4					4
16	4.19～ 4.25	3					1	5				3			1	1	1
17	4.26～ 5. 2	3					1	5	1			3	1			1	3
18	5. 3～ 5. 9						1	4				1			1	1	1
19	5.10～ 5.16	3	2				1	15				4					3
20	5.17～ 5.23	5	2				1	9	1			2			1		1
21	5.24～ 5.30	1	1				1	11				1				1	3
22	5.31～ 6. 6	9						9	1			6				1	2
23	6. 7～ 6.13	6					2	7				4					4
24	6.14～ 6.20	2	2					9				5					3
25	6.21～ 6.27	2		2				1	11			2					2
26	6.28～ 7. 4	1	1	2	1	1	1	10				5			1		2
27	7. 5～ 7.11	4	1					14				2					6
28	7.12～ 7.18	2						8				6					1
29	7.19～ 7.25	5						7	1			1			2		3
30	7.26～ 8. 1	2			1		1	13				5					
31	8. 2～ 8. 8	4	2					6				6					1
32	8. 9～ 8.15	6						9									
33	8.16～ 8.22	3	1					6				4					3
34	8.23～ 8.29	3	1					5				4	1				1
35	8.30～ 9. 5	5						10				1				1	1
36	9. 6～ 9.12	5	1					8				3					1
37	9.13～ 9.19	7	1					14				5					
38	9.20～ 9.26	2						7	2			2			1		
39	9.27～10. 3	4	1	1			1	21				7					3
40	10. 4～10.10	2	1	1		1		15				4					2
41	10.11～10.17	1					2	18				5	2				
42	10.18～10.24	9	9					11	1			7					1
43	10.25～10.31	4				1		8	1			1					
44	11. 1～11. 7	1						12				3					
45	11. 8～11.14	3	1					11				4					
46	11.15～11.21	3						7				1					1
47	11.22～11.28		1			1		5				4			2		1
48	11.29～12. 5	3	1				1	6				1			1	1	1
49	12. 6～12.12	7	2			1		14				5					2
50	12.13～12.19	2	1			1		9				6			2	2	2
51	12.20～12.26	4	1				1	17				3				1	3
52	12.27～ 1. 2	7						10				1					
	合 計	180	48	14	3	15	19	509	13			173	5		17	15	76

表3-2(1) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別患者報告数
2010年第1週～2010年第52週

保健所	一 類							二 類					三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
千代田									142					4	2		
中央区									24					1	10	1	
みなと									92					9	13	2	
新宿区									191					8	6	2	3
文京									73					9	3	2	1
台東									127				1		4		
墨田区									103					7	12	1	
江東区									149						7		
品川区									118				1	1	11		
目黒区									66					1	13		
大田区									220					9	21		
世田谷									228					2	20		
渋谷区									72					2	12		
中野区									111					2	5		
杉並									114					6	10		1
池袋									132					1	6	2	
北区									161					2	7		
荒川区									95					2	15	1	
板橋区									233					2	21		
練馬区									200					4	12		
足立									245					2	19		
葛飾区									142						4		
江戸川									251					3	14		
西多摩									72					1	18		
南多摩									82					1	14		
町田									82						7		
多摩立川									127					2	8		
多摩府中									287					3	24	1	
多摩小平									252					1	15		
島しょ									10								
八王子市									131					1	6		
合 計									4,332				2	86	339	12	5

* 2011年3月9日現在の報告数

表3-2(2) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別患者報告数
2010年第1週～2010年第52週

保健所	四類											
	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	コクシジオイデス症	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症
千代田	2	3							1	1	4	
中央区		1				2		1			3	
みなと	1	3		1		9		4			4	
新宿区	3	9				20		14			3	1
文京		5				18		1			2	
台東											2	
墨田区		1				4	1	4				
江東区					1							
品川区	1	1						1			3	
目黒区		1									3	
大田区	1	6			1	2					4	
世田谷											1	
渋谷区					1	3		2			4	1
中野区		1						1			1	
杉並		2	1			2						
池袋												
北区		2										
荒川区												
板橋区						1					3	
練馬区												
足立		2									1	
葛飾区		2									1	
江戸川		1				1					2	
西多摩		1			6						1	
南多摩											1	
町田												
多摩立川	1	1									6	
多摩府中		3				6					2	
多摩小平						1					4	
島しょ					5							
八王子市						1						
合 計	9	45	1	1	14	70	1	28	1	1	55	2

表3-2(3) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 保健所別患者報告数

2010年第1週～2010年第52週

保健所	五類															
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ブ病 クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	バイコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	風しん	麻疹
千代田	12						3	1								1
中央区	4		3			2	6				3					1
みなと	19	3		1		1	50				17			2	3	3
新宿区	19	17		2		1	147	2			90			1		1
文京	12				3	2	44	1			11			5	1	1
台東	4	1			1		5				1			1		1
墨田区	6		3			2	4	2			2	1			1	1
江東区	2		1				1				3				2	2
品川区	4				1		7	1			2	1		1	1	4
目黒区	3		2				5				1			1	1	1
大田区	9	4			1		8				5	1		2		8
世田谷	12	2			1		11	1			5				2	
渋谷区	3		1			3	105	2			2			1		2
中野区	12	1					17				3					4
杉並		9				1	8				2				1	2
池袋	6						7				5					2
北区	1						2				1				1	1
荒川区	1					1	3				2	1				1
板橋区	4					1	17				1					1
練馬区	8				1		5				1					5
足立	7										1					3
葛飾区	2						2									4
江戸川	1		1				4				2			1		1
西多摩	1	3					5				2					4
南多摩	5	1														
町田					1	1	3				2			1	1	3
多摩立川	7	4			1	1	5	1			5					1
多摩府中	5	3	3		3	1	24	1			3					7
多摩小平	7				1	1	8				1			1	1	3
島しょ																
八王子市	4				1	1	3	1				1				8
合 計	180	48	14	3	15	19	509	13			173	5		17	15	76

表3-3(1) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 年齢階級別患者報告数

2010年第1週～2010年第52週

年齢階級	一 類							二 類					三 類				
	エボラ出血熱	クリミア・コンゴ出血熱	痘そう	南米出血熱	ペスト	マールブルグ病	ラッサ熱	急性灰白髄炎	結核 ＊	ジフテリア	重症急性呼吸器症候群	インフルエンザ (H5N1)	コレラ	細菌性赤痢	腸管出血性大腸菌感染症	腸チフス	パラチフス
0歳									26					1	2		
1～4歳									45					3	32		
5～9歳									27					3	32	1	
10～14歳									67					1	34		
15～19歳									93						22	1	
20～24歳									248					5	41	2	1
25～29歳									288					20	52	3	
30～34歳									305				1	11	21	3	1
35～39歳									325				1	15	16		1
40～44歳									281					7	16		1
45～49歳									272					5	9		
50～54歳									240					3	12	1	
55～59歳									306					5	16		
60～64歳									319					2	12		1
65～69歳									264					3	8		
70歳以上									1,226					2	14	1	
合 計									4,332				2	86	339	12	5

* 2011年3月9日現在の報告数

表3-3(2) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 年齢階級別患者報告数
2010年第1週～2010年第52週

年齢階級	四類											
	E型肝炎	A型肝炎	エキノコックス症	コクシジオイデス症	つつが虫病	デング熱	日本紅斑熱	マラリア	ライム病	類鼻疽	レジオネラ症	レプトスピラ症
0歳												
1～4歳												
5～9歳						2						
10～14歳						4						
15～19歳		1				2		1				
20～24歳		2				19		4				1
25～29歳		3	1	1	1	14		4				
30～34歳		6				7		6			2	
35～39歳		4			1	8		5	1		1	
40～44歳	1	5				4	1	4			1	
45～49歳	3	7			1	5		2				1
50～54歳		4			2	2					2	
55～59歳	2	5						2			6	
60～64歳	3	3			3	3					6	
65～69歳		2			4						10	
70歳以上		3			2					1	27	
合 計	9	45	1	1	14	70	1	28	1	1	55	2

表3-3(3) 一、二、三、四、五類全数把握疾病 年齢階級別患者報告数
2010年第1週～2010年第52週

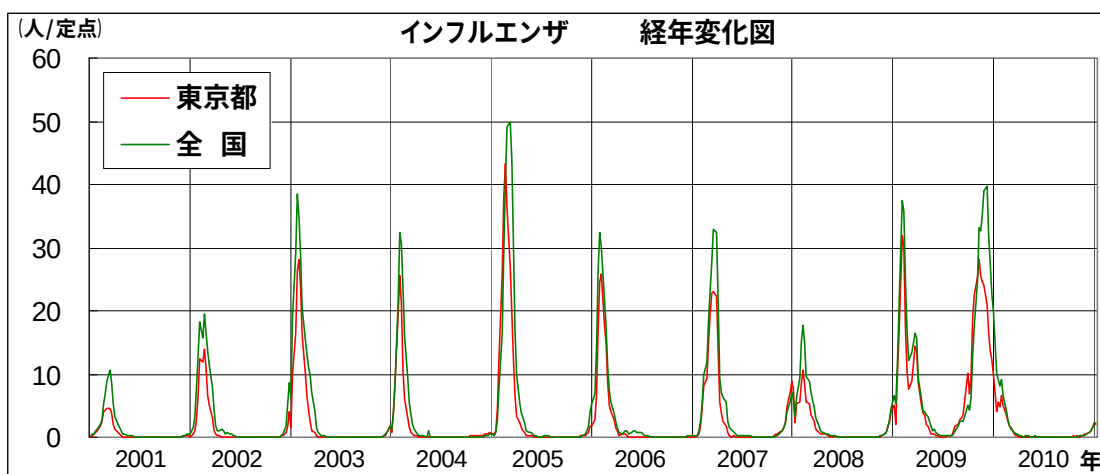
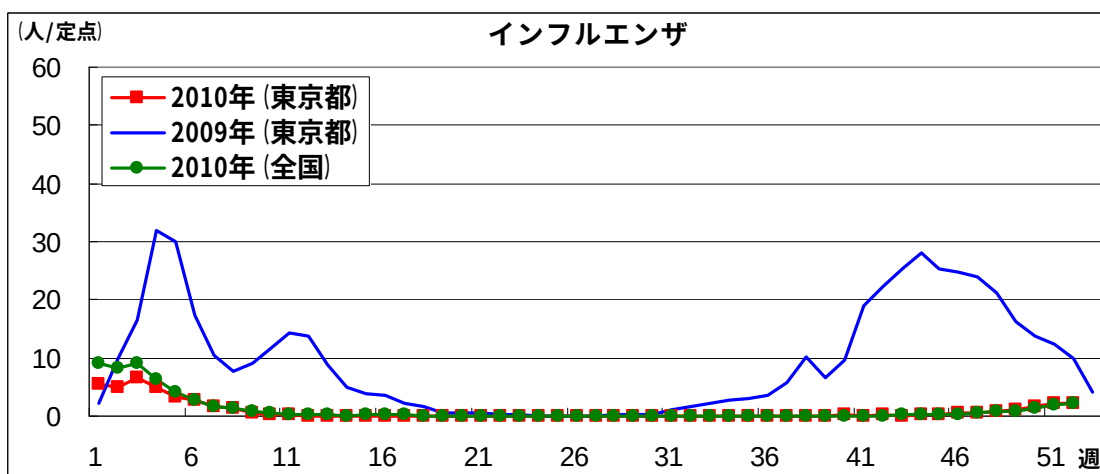
年齢階級	五類																		
	アメーバ赤痢	ウイルス性肝炎	急性脳炎	クリプトスポリジウム症	ブ病	クロイツフェルト・ヤコブ病	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	後天性免疫不全症候群	ジアルジア症	髄膜炎菌性髄膜炎	先天性風しん症候群	梅毒	破傷風	ブドウ球菌感染症	バイコマイシン耐性黄色	菌感染症	バンコマイシン耐性腸球	風しん	麻疹
0歳								1											6
1～4歳			2										1					2	20
5～9歳			1				1												4
10～14歳																			6
15～19歳		1	2					5										1	7
20～24歳	6	8	1					52	1			18				1		3	6
25～29歳	11	11						102	3			35						4	6
30～34歳	20	9		2				80	3			36						2	3
35～39歳	25	5	3	1			2	106	2			30						2	9
40～44歳	25	6	1					52	2			13							6
45～49歳	30	1					1	42				11							
50～54歳	13	2				1		23				7				2			2
55～59歳	16	2	1			1		19	1			5	1			2			
60～64歳	17	2				4	3	14				8				1			1
65～69歳	5	1	1			1	4	8				6	1			2	1		
70歳以上	12		2			8	8	5	1			4	2			9			
合 計	180	48	14	3	15	19	509	13				173	5			17	15		76

(2) 小児科・内科疾患

ア インフルエンザ

インフルエンザは例年 1 月中旬から 3 月中旬に流行のピークを迎えるが 2009/10 シーズンのインフルエンザの流行は新型インフルエンザ (A/H1N1 2009) の流行にともない、例年とは異なった流行パターンを示した。2009 年 36 週 (8 月 31 日～9 月 6 日) にはすでに定点当たりの患者報告数は 3.66 件と島しょ地区を除く都内全域で流行の目安となる定点当たり 1.00 件を超えている。その後 44 週 (10 月 26 日～11 月 1 日) には定点当たりの報告数が 28.09 件となりピークに達した。その後は減少に転じ 53 週 (12 月 28 日～1 月 3 日) では定点当たり 4.16 件となった。その後、2010 年 1 週 (1 月 4 日～1 月 10 日) に定点当たり 5.55 件となるがその後も大きなピークを迎えることなく 9 週 (3 月 1 日～3 月 7 日) に定点当たり 0.62 件と 1.00 件を割り込み流行は終息している。

2010/11 シーズンは、49 週 (12 月 6 日～12 月 12 日) に定点当たり 1.04 件と 1.00 を超え流行期に入った。2010 年のインフルエンザの流行は例年の 1～3 月の流行のピークがないため、過去 10 年間では 2001 年に次いで報告数の少ない年となっている。



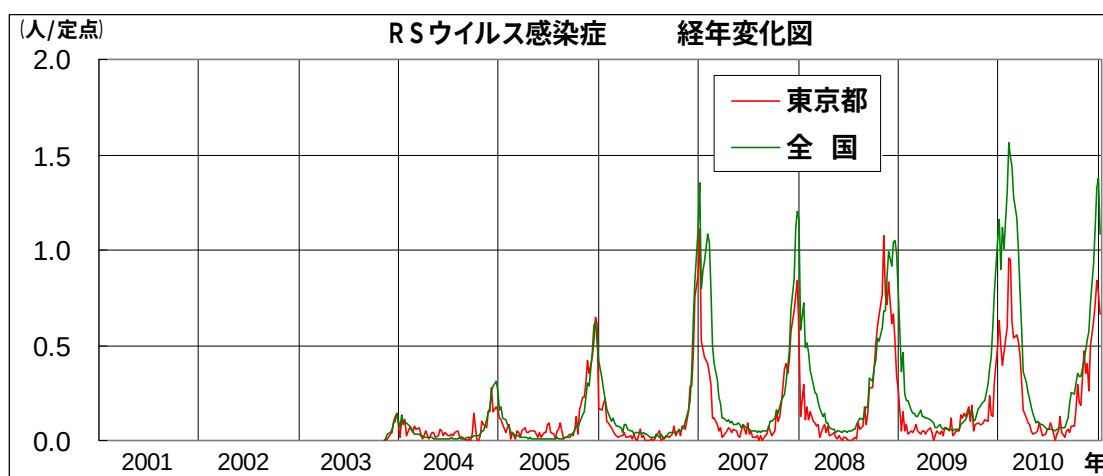
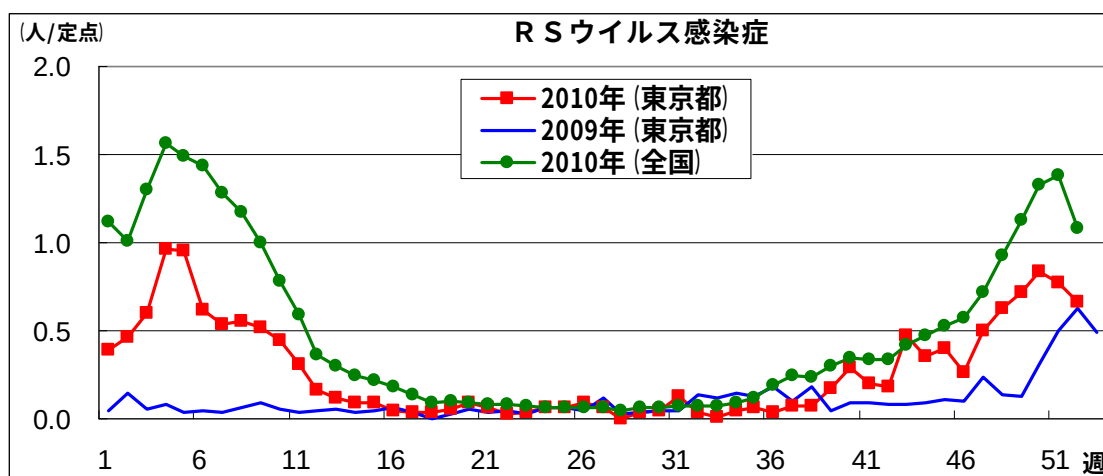
イ RSウイルス感染症

2010年の報告数は2,153件、定点当たり14.52件であった。RSウイルス感染症は2003年11月より五類定点把握対象疾患として調査が開始された。報告数は2008年まで年々増加する傾向にあったが2009年に減少した。しかし2010年には再び増加し調査開始後最多の報告数となった。

週別報告数を見ると、定点当たり0.50件以上の報告があるものは、3～9週（1月18日～3月7日）及び47～52週（11月22日～1月2日）でありピークは4週（1月25日～1月31日）の0.96件となっている。

保健所管内別の定点当たり報告数が多いのは、多摩小平 56.33件、南多摩 47.75件、八王子 39.25件、みなと 34.47件、大田区 30.78件となっている。

年齢階級別で見ると、報告数2,153件中、6ヶ月未満295件、12ヶ月未満485件、1歳代752件、2歳代335件であり2歳以下で全体の86.6%を占めている。



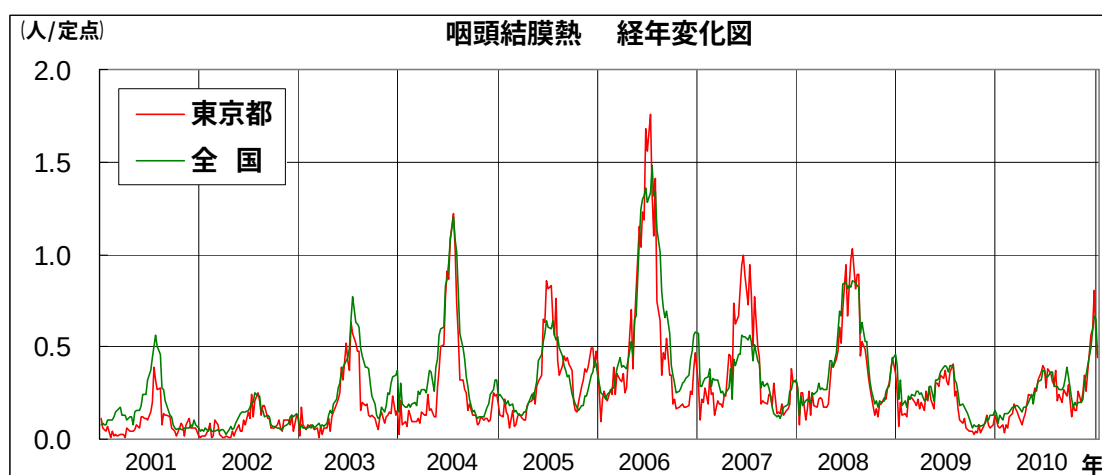
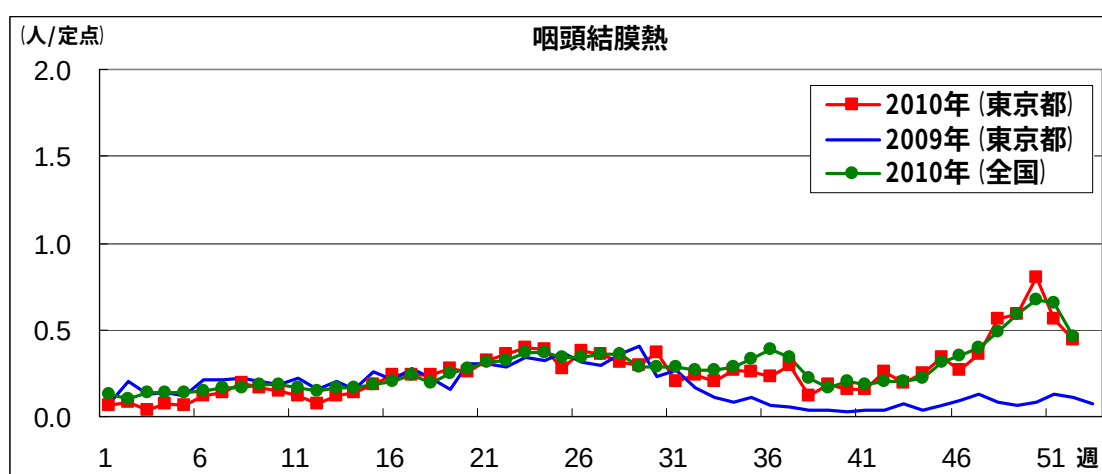
ウ 咽頭結膜熱

2010年の報告数は1,979件、定点当たり13.37件の報告数となっている。過去10年間の定点当たりの報告数の平均が13.96件であるので、通常の流行状況であったと考えられる。

週別報告数では48～51週（11月29日～12月26日）に定点当たりの報告数が0.50件を超える山が見られる。

保健所別定点当たり報告数は、大田区48.68件、荒川区42.00件が多くなっている。

年齢階級別では1歳代にピークがあり5歳以下で全報告数の81.4%を占めており前年と同様である。



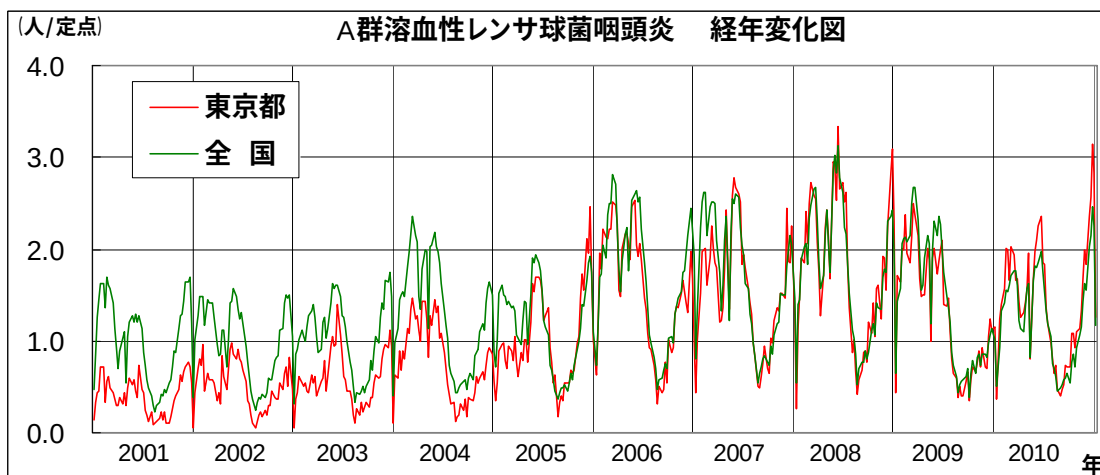
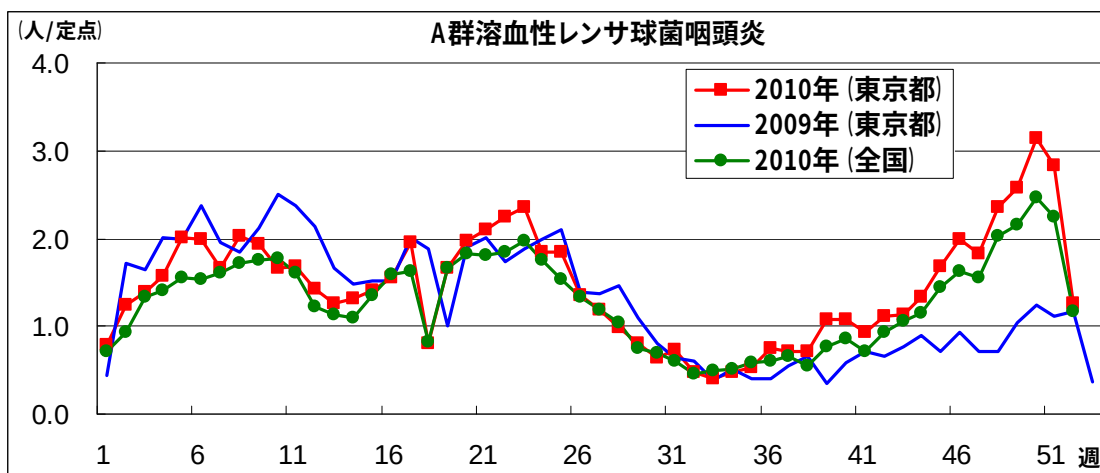
エ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2010年の報告数は11,231件、定点当たり75.80件となっている。過去10年間を見ると2001年から2008年まで報告数の増加が見られたが2009年一度減少し2010年は再度増加が見られる。

週別報告数では、49～51週（12月6日～12月26日）に定点当たり2.50件を超える山が見られる。ピークは50週（12月13日～12月19日）の3.15件である。

保健所別定点当たり報告数は、八王子市330.83件、町田267.75件、足立188.40件で報告数が多い。

年齢階級別報告数では5歳代の1,633件をピークに4歳代から7歳代で全報告数の51.9%を占めている。



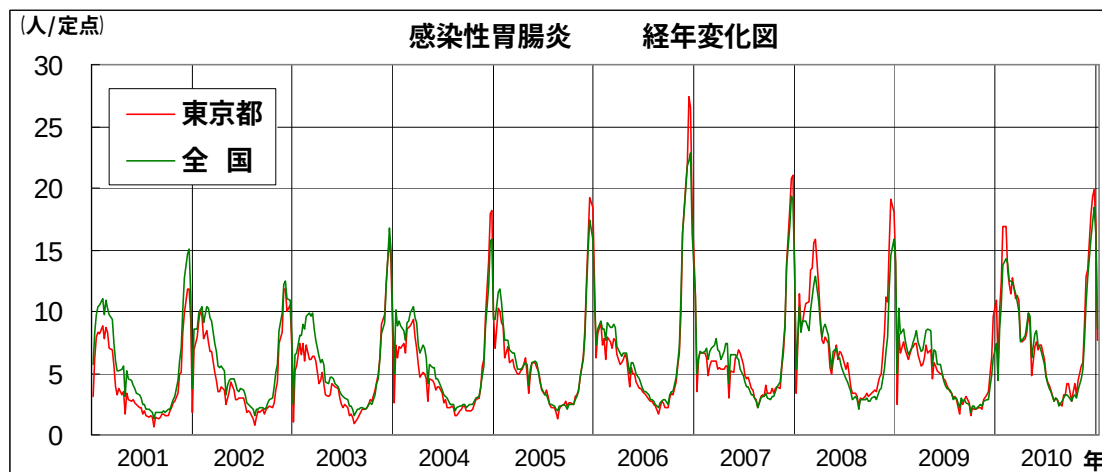
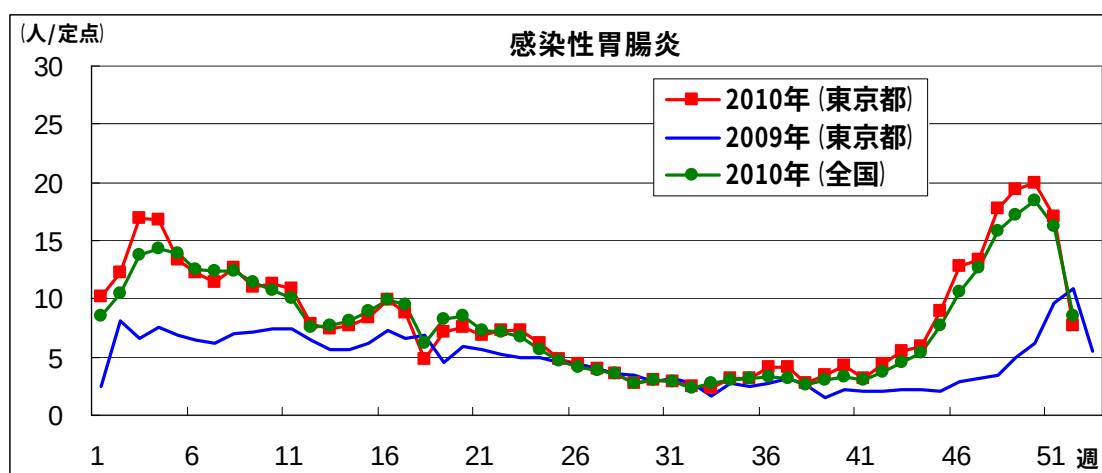
オ 感染性胃腸炎

2010年の報告数は63,372件、定点当たり427.41件で、過去10年間では最多の報告数である。

週別報告数では3～4週（1月18日～1月31日）及び48～51週（11月29日～12月26日）に定点当たり15.00件を超える山が見られる。ピークは50週（12月13日～12月19日）の19.90件である。

保健所別定点当たり報告数は、八王子市1071.42件、町田1084.00件、江東区984.50件と多くなっている。

年齢階級別報告数では1歳代にピークがあるのは前年と同様である。



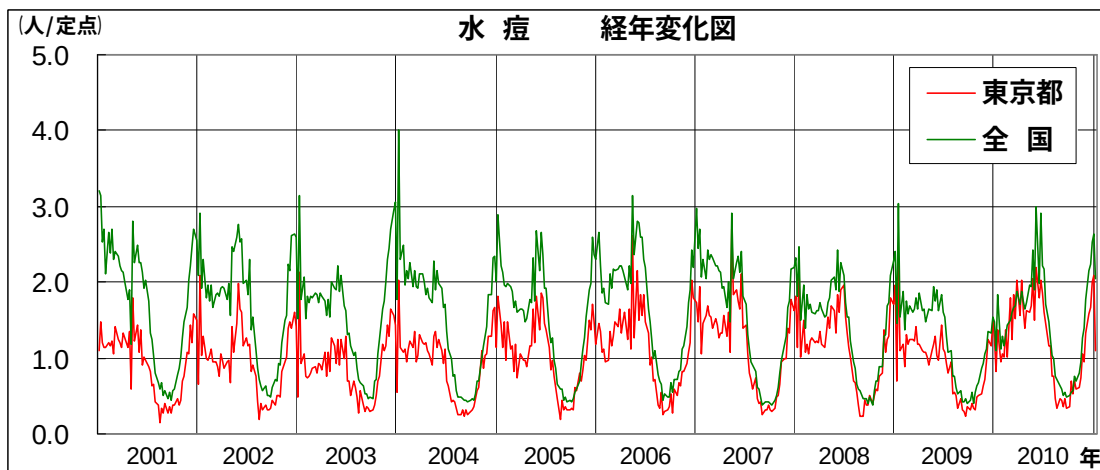
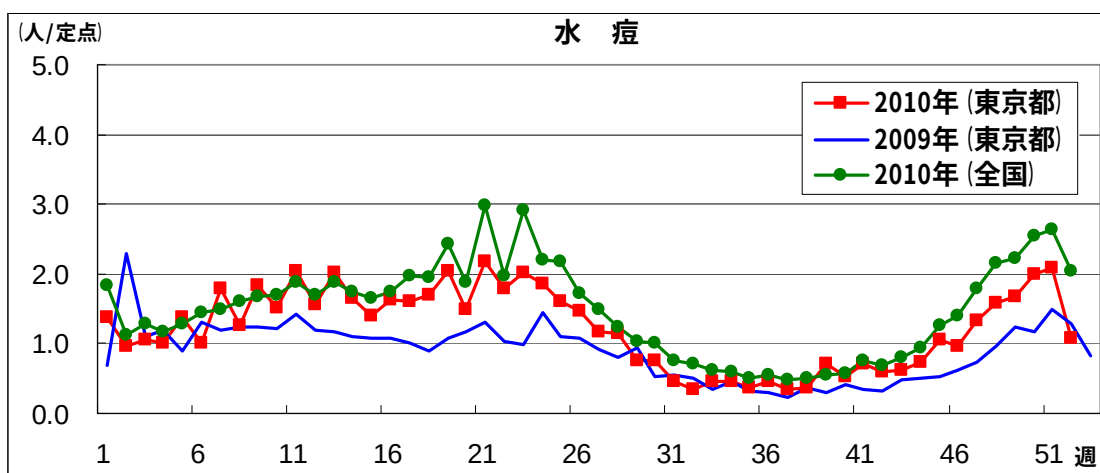
カ 水 痘

2010 年の報告数は 9,472 件、定点当たり 63.93 件と過去 10 年間で最多の報告数であった。

週別報告数は、定点当たりで見ると、9～25 週（3 月 1 日～6 月 27 日）及び 48～51 週（11 月 29 日～12 月 26 日）に 1.50 件を超える低い山が見られる。ピークは 21 週（5 月 24 日～5 月 30 日）の 2.19 件である。

保健所別定点当たり報告数は、町田 224.50 件、八王子市 185.83 件、多摩小平 112.00 件、江戸川 106.05 件が多くなっている。

年齢階級別報告数では 3 歳代の 1,608 件が最も多く 1 歳代～5 歳代で 7,156 件と全体の 75.5%を占めている。



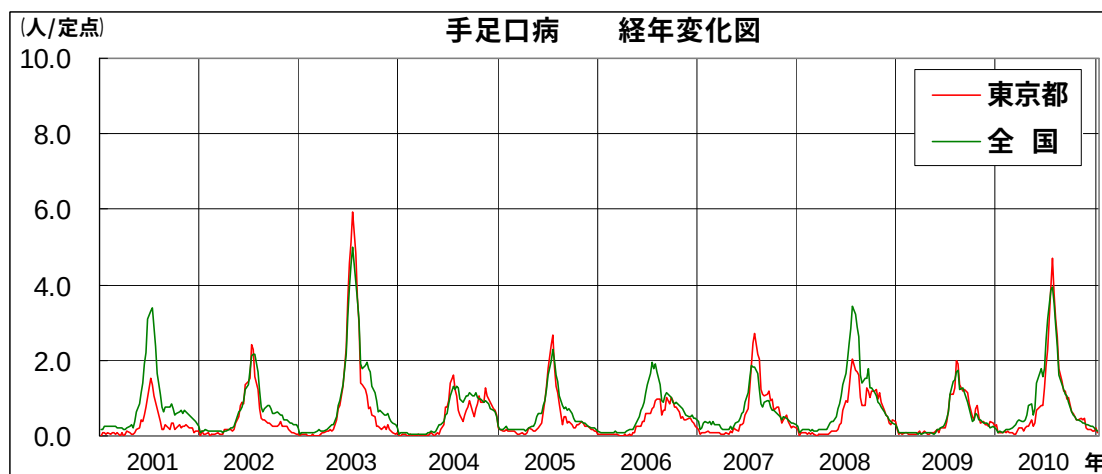
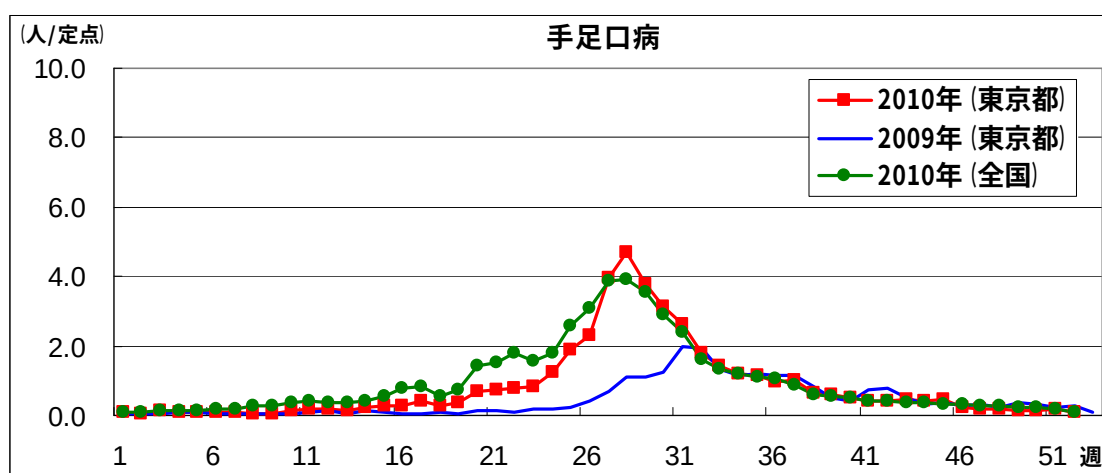
キ 手足口病

2010年の報告数は6,257件、定点当たり42.52件であった。過去10年間では2003年に次いで報告数が多かった。

週別報告数は、定点当たりで見ると、26～31週（6月28日～8月1日）に2.00を超える山がありピークは28週（7月12日～7月18日）の4.69件であった。

保健所別定点当たり報告数は、町田103.50件、江東区92.25件が多くなっている。前年56.00件と増加が見られた島しょは5.00件と減少している。

年齢階級別報告数では1歳代が1,708件と最多であり前年と同様である。



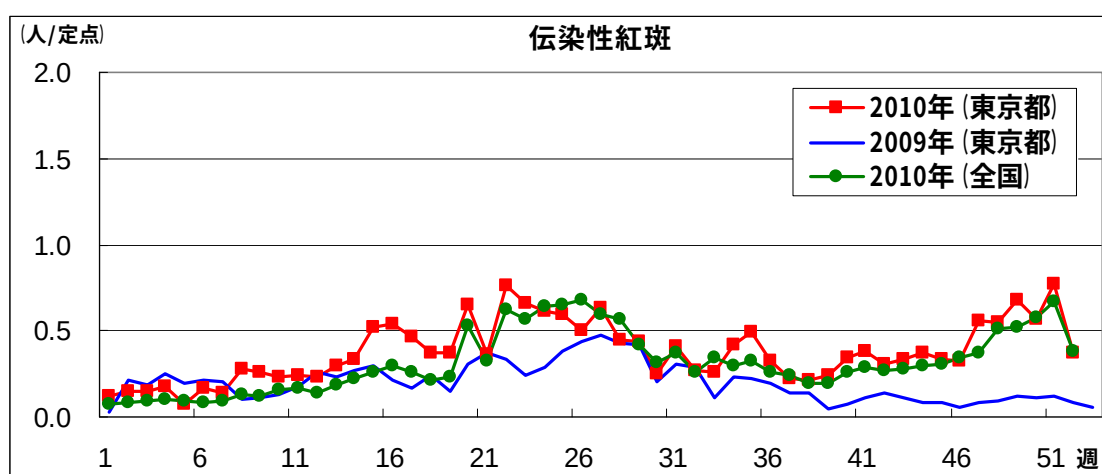
ク 伝染性紅斑

2010年の報告数は2,929件、定点当たり19.79件であり、過去10年間では2006年に次いで報告数は多くなっている。

週別定点当たりの報告数では、15～16週（4月12日～4月25日）、22～27週（5月31日～7月11日）、47～51週（11月22日～12月26日）に0.50件を超える山が見られる。ピークは22週（5月31日～6月6日）と51週（12月20日～12月26日）の0.77件である。

保健所別定点当たり報告数では、葛飾区75.00件、八王子市62.17件が多い。

年齢階級別報告数では5歳代が496件と最も多くなっている。



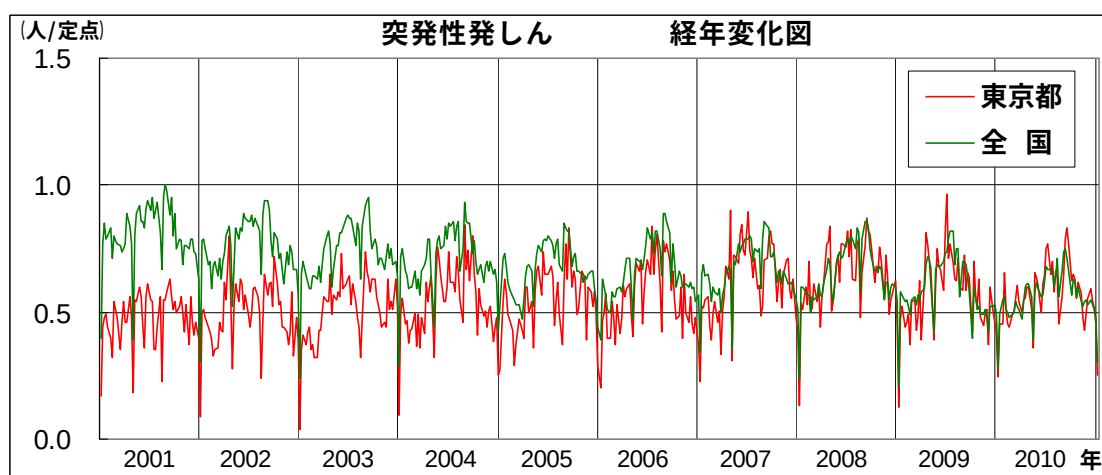
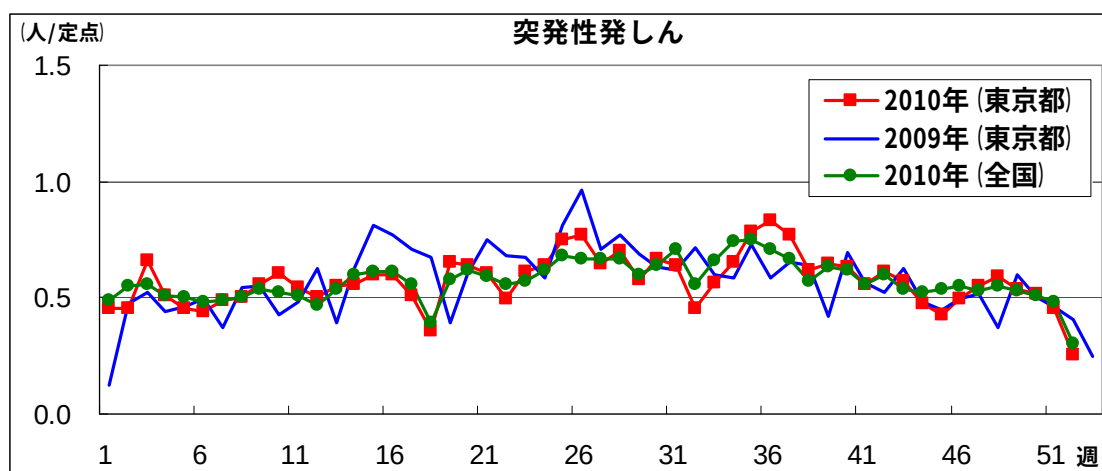
ケ 突発性発しん

2010 年の報告数は 4,397 件、定点当たり 29.74 件で、過去 10 年間では平均的な流行状況であった。

週別定点当たりの報告数は、35～37 週（8 月 30 日～9 月 19 日）にかけて 0.70 件を超える低い山があるが例年どおり季節変動は少ない。

保健所別定点当たり報告数では、町田 71.75 件、八王子市 69.25 件など前年と同様に報告数が多くなっている。

年齢階級別では 4,397 件中 4,009 件（91.2%）が 1 歳以下である。



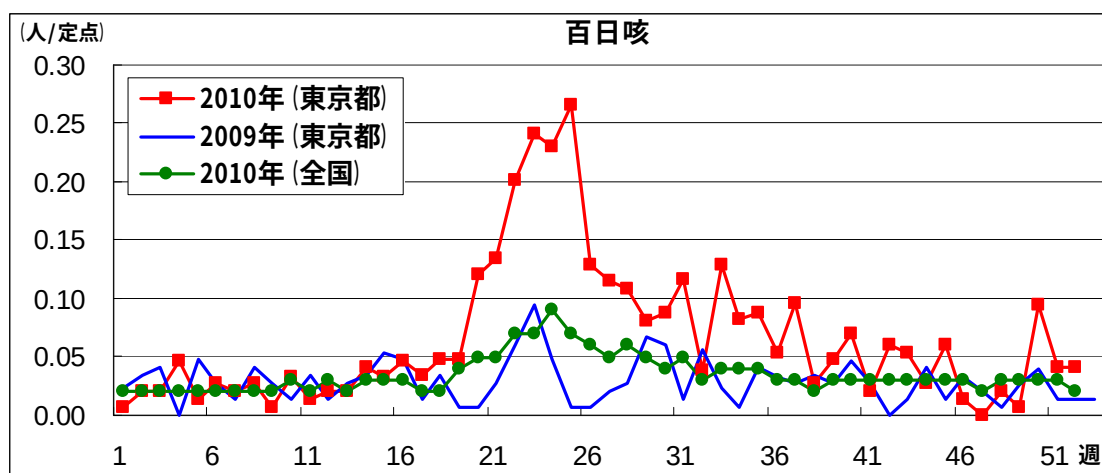
コ 百日咳

2010 年は 506 件、定点当たり 3.42 件が報告され、過去 10 年間で最多の報告数である。2009 年に報告数が前年より減少したが、過去 10 年で見ると報告数は増加する傾向にある。

週別定点当たりの報告数は 25 週（6 月 21 日～6 月 27 日）の 0.27 件をピーク、その後は前年（2009 年）と比べやや高い値で推移した。

保健所別定点当たりの報告数では江戸川が 24.55 件と突出して多くなっている。

年齢階級別では 0～4 歳 60 件、5～9 歳 98 件、10～14 歳 81 件、15～19 歳 17 件、20～29 歳 250 件となっている。



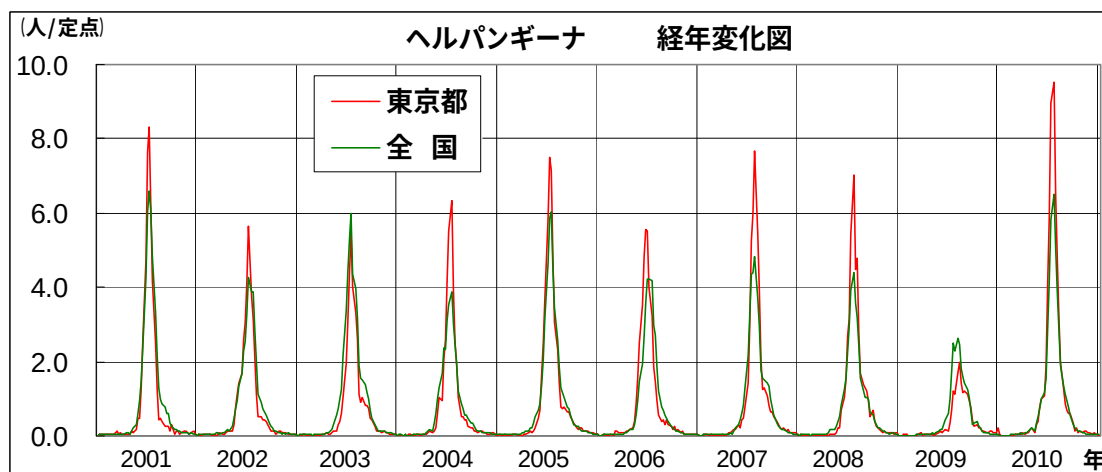
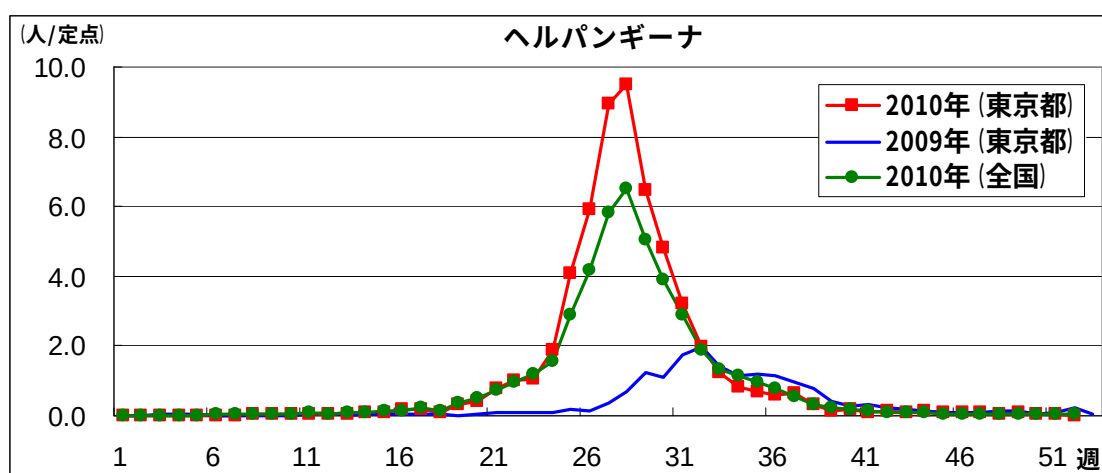
サ ヘルパンギーナ

2010年の報告数は8,400件、定点当たり57.06件であり、過去10年間で最多の報告数であった。

週別定点当たり報告数は25～31週（6月21日～8月8日）に3.00件を超え、ピークは28週（7月12日～7月18日）の9.51件であった。

保健所別定点当たりの患者報告数は、江戸川 193.55件、町田 148.25件、多摩小平 116.00件、荒川区 112.00件の順に報告が多かった。

年齢階級別では8,400件中6,653件が5歳未満であり79.2%を占めている。



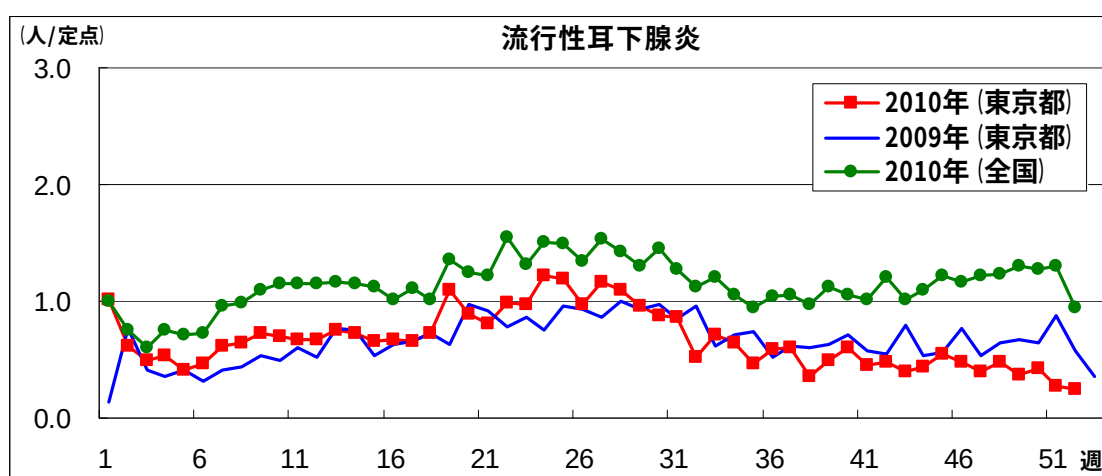
シ 流行性耳下腺炎

2010年の報告数は5,154件、定点当たり34.87件であった。過去10年間の定点当たりの報告数の平均は29.32件であるので通常の流行であったと思われる。

週別定点当たり報告数は19～31週（5月10日～8月8日）に0.80件を超えておりピークは24週（6月14日～6月20日）の1.22件である。

保健所別定点当たりの患者報告数は、島しょが209.00件で突出しており、次いで町田が121.75件と報告数が多かった。

年齢階級別報告数では、4歳代が841件と最も多くその前後の3～6歳で5,154件中2,891件（56.1%）を占めている。



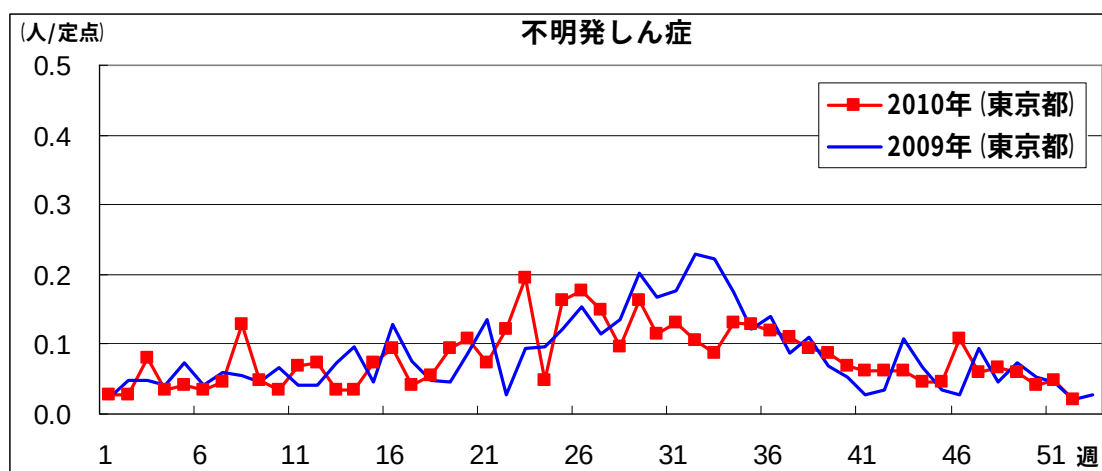
ス 不明発しん症

2010年の報告数は622件、定点当たり4.21件であり、過去10年間の報告数にあまり変動は見られていない。

週別定点当たり報告数では23～29週（6月7日～7月25日）にかけて0.15件を超える週が見られる。ピークは23週（6月7日～6月13日）の0.19件である。

保健所別定点当たり患者報告数では、町田29.00件、八王子市19.67件、荒川区12.00件が多くなっている。

年齢階級別報告数では1歳代が174件と多く3歳以下が454件と全体の73.0%を占めている。



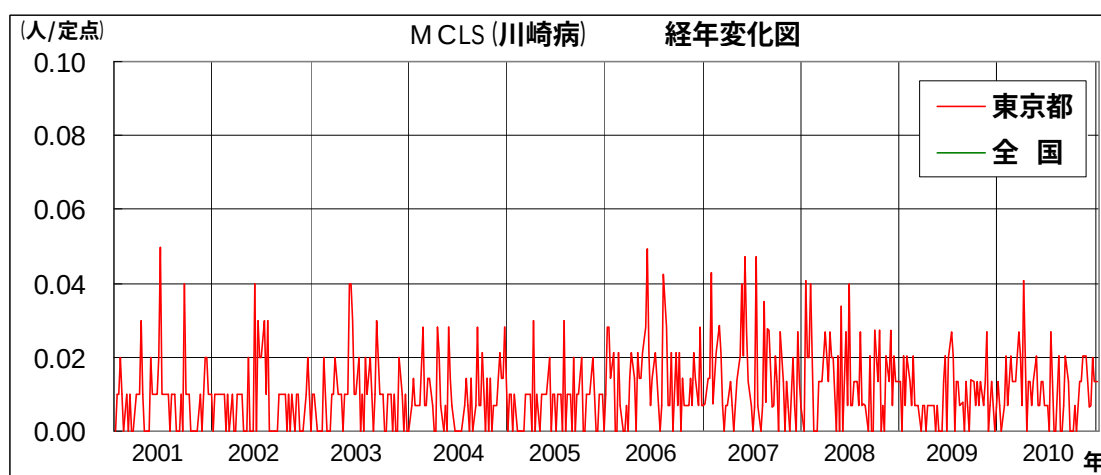
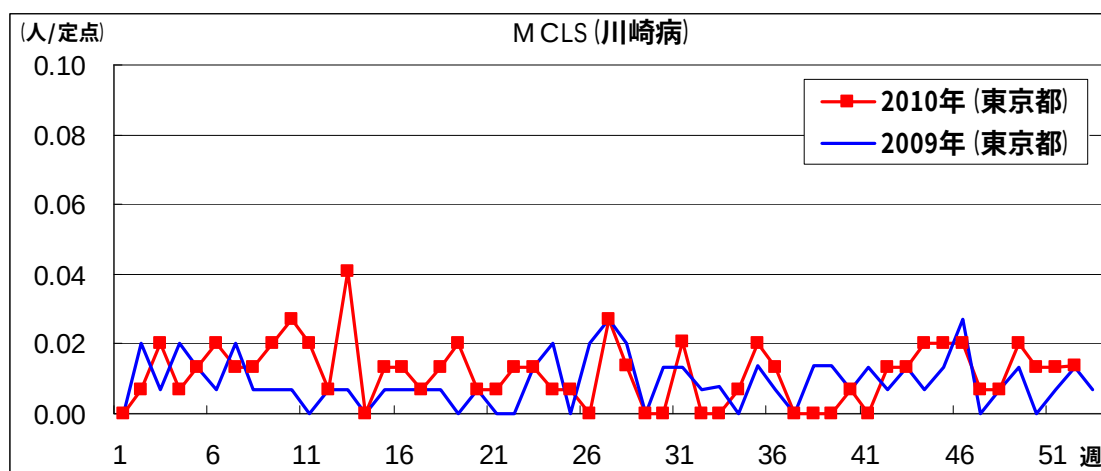
セ MCLS (川崎病)

2010 年の報告数は 89 件、定点当たり 0.60 件で、過去 10 年間大きな報告数の変動はない。

週別報告数では 13 週（3 月 29 日～4 月 4 日）に最多の 6 件が報告された。

保健所別患者報告数では千代田より 16 件、みなとより 14 件が報告されている。

年齢階級別報告数では 1 歳代が 23 件と最も多く 2 歳以下が 59 件と 66.3%を占めている。



(3) 眼科疾患

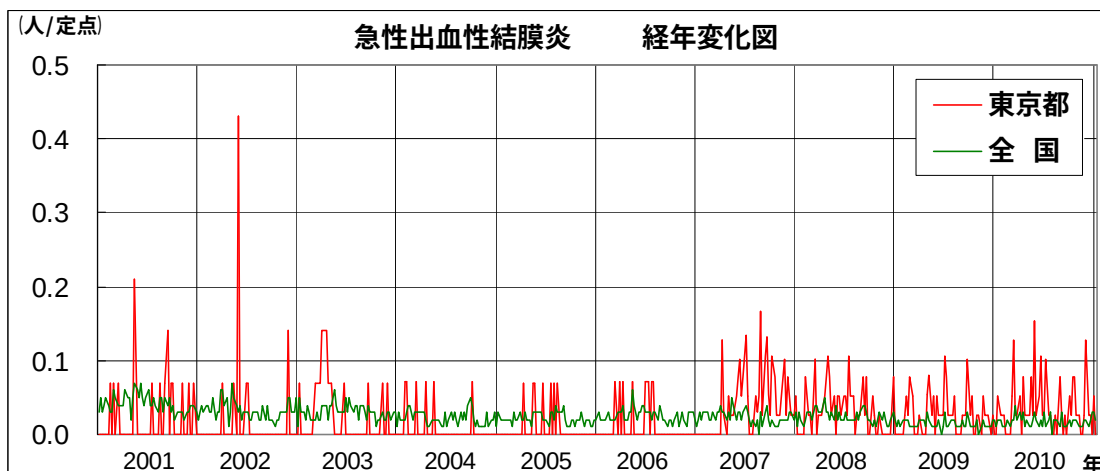
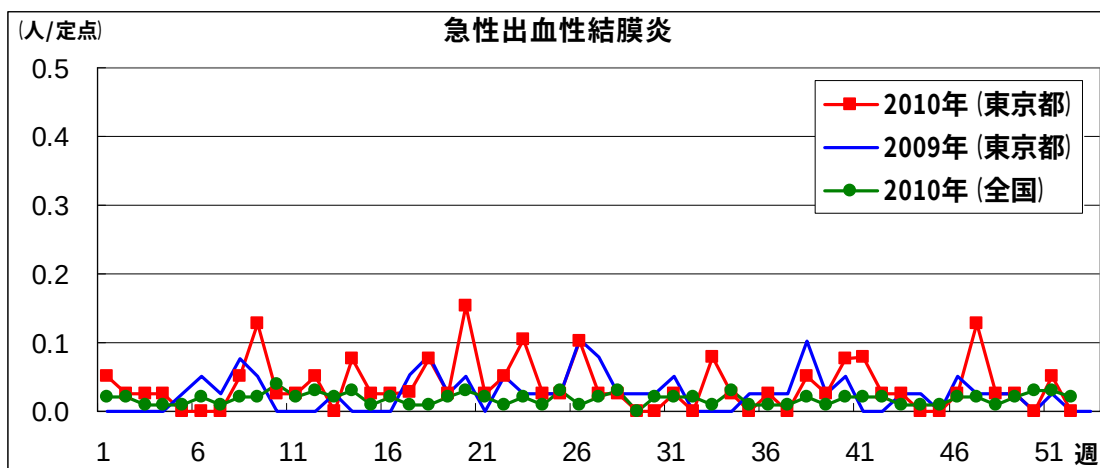
ア 急性出血性結膜炎

2010年の報告数は74件（1.91／定点）であった。眼科定点が増加した2007年以来発生は減じていたが、再び2007年の水準に戻った。

患者発生数の推移にはあまり特徴がなく、3月、5月、11月に5件／週以上の発生をみたが、年間13週は発生がみられず、一定の特徴無く比較的分散して発生しており、定点当たりでは平均0.04／週であった。全国的にも低いレベルで分散した発生が続いていたが、東京は若干多かった。

保健所別では、足立区が18.00／定点と突出しており、次いで多摩府中（3.67／定点）、世田谷区（3.50／定点）に多くみられた。眼科定点のある12医療圏のうち、報告のあったのは11医療圏で区東北部圏が突出して多く、北多摩西部圏からは報告がなかった。

罹患年齢は分散していたが、20歳以上の成人が45件と全体の60.8%を占める一方で、1歳未満の乳児には発生がみられなかった。幼児では1歳児に6件（8.1%）みられたが、その他の年齢層では分散して発生がみられた。



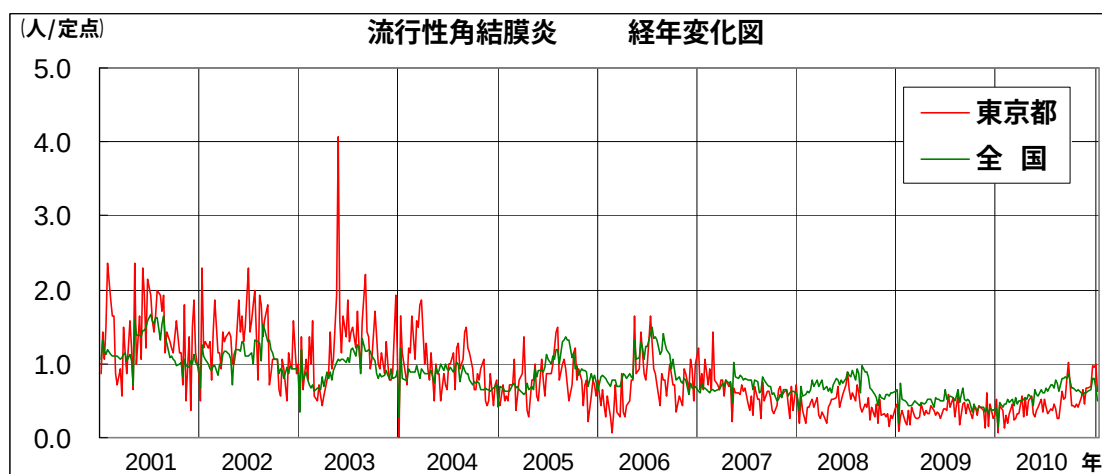
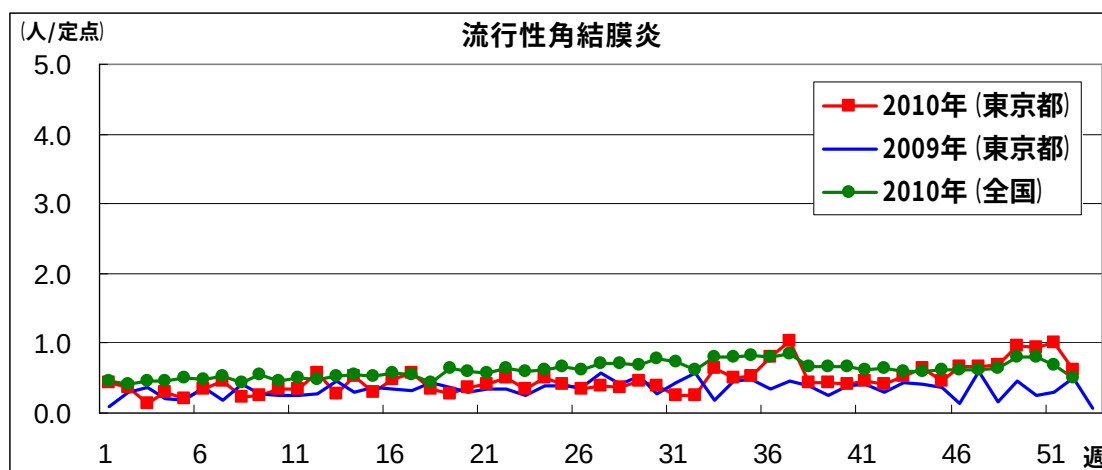
イ 流行性角結膜炎

2010 年の報告数は 951 件（24.60／定点）であった。2000 年以来減少傾向にあったが、昨年の 703 件（18.28／定点）から増加に転じ、2007 年をやや下回る水準に戻った。しかしながら、2000 年には 88.57／定点の発生があり、依然低水準であることには変わりなく、2008 年以降は 30／定点を割り込んでいる。

患者発生数は、9 月と 12 月に僅かなピークを認めるものの、年間を通じて週 5～39 件の発生があった。定点当たりでは 0.13～1.03／週となり、平均すると 0.46／週／定点と通年にわたり散发していた。全国と比較すると若干低い水準であった。

保健所別では、多摩小平（59.00／定点）、文京（52.00／定点）、中央区（50.00／定点）、新宿区（43.00／定点）が突出しており、定点当たり年間 40 件を越えていた。23 区部での発生は 687 件（25.44／定点）、多摩地区では 26 件（22.00／定点）で、定点当たりでは両者に差がなかった。

罹患年齢は、20 歳から 49 歳が 548 件と 57.6%を占め、20 歳以上の成人が 754 件（79.3%）であった。10 歳未満は 132 件（13.9%）で、各年齢層に分散してみられた。



(4) 基幹定点における週報告疾病

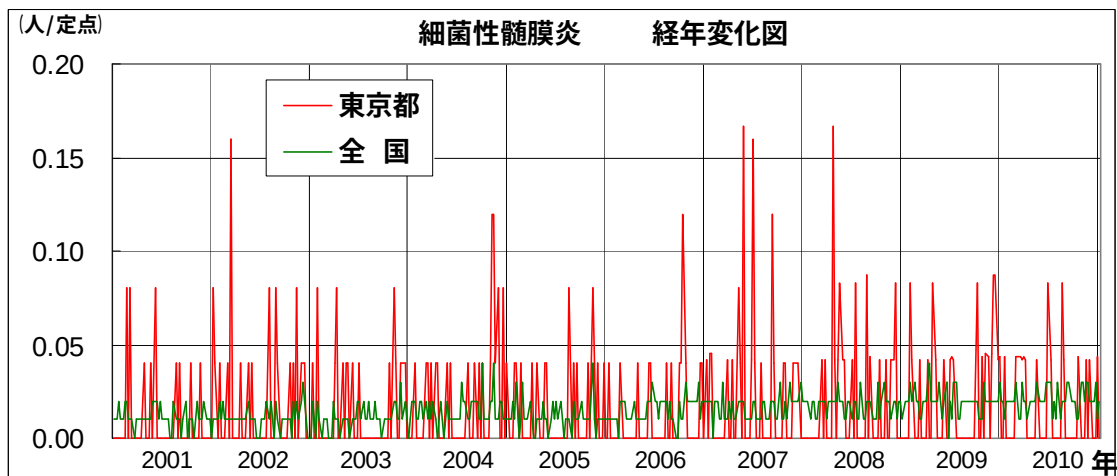
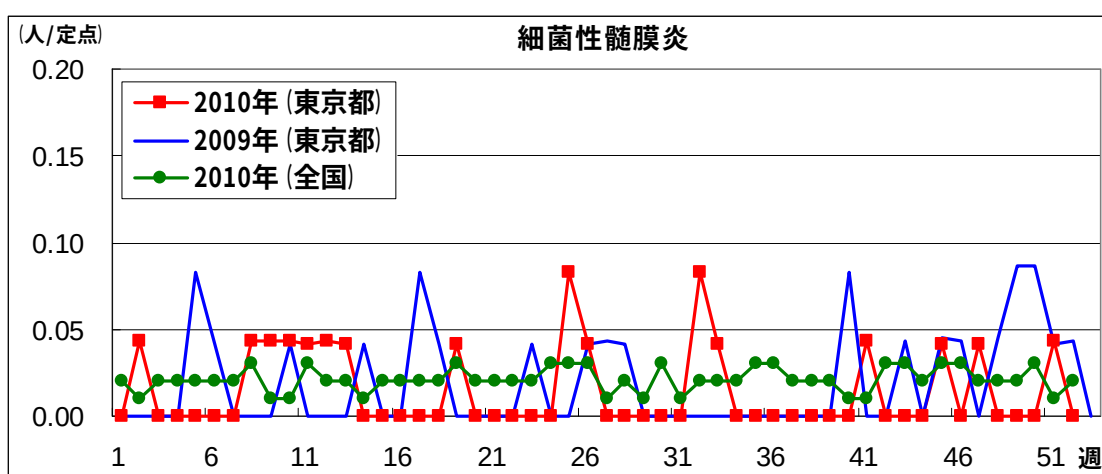
ア 細菌性髄膜炎

2010 年の患者報告数は 18 件、定点当たり 0.76 件であった。過去 10 年間の定点当たりの平均報告数は 0.84 件である。

週別報告数を見ると、報告数がないか、1～2 件の報告がほとんどであり、特に集積していると思われる週は見られない。

保健所別報告数を見ると 18 件中 12 件が多摩府中より報告されている。前年（2009 年）の報告数でも 24 件中、多摩府中からの報告が 12 件を占めており同様の傾向が見られた。

年齢階級別報告数では 3 歳以下が 10 件で 55.6%を占めている。



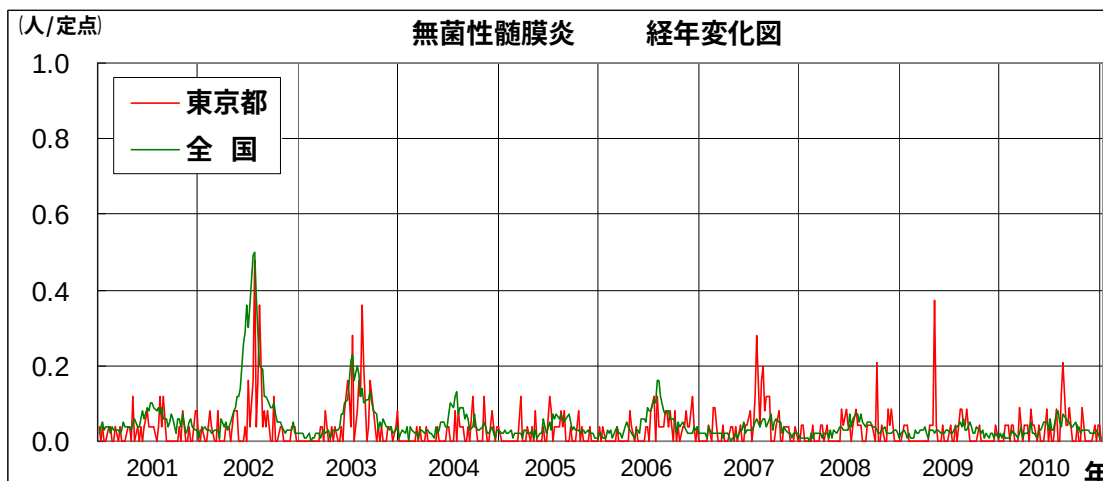
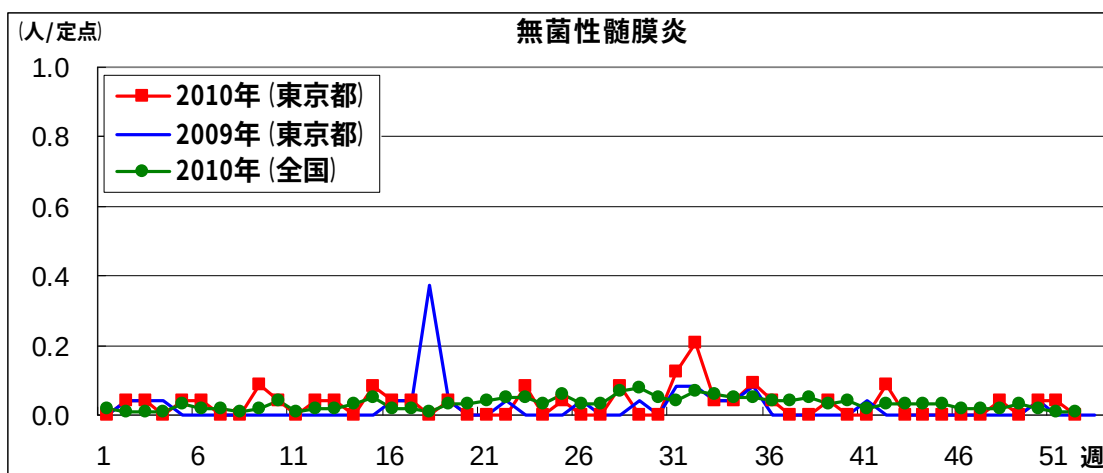
イ 無菌性髄膜炎

2010 年の患者報告数は 38 件、定点当たり 1.61 件であった。過去 10 年間の定点当たりの平均報告数は 1.68 件である。

週別報告数では 31～32 週（8 月 2 日～8 月 15 日）で定点当たり 0.10 件を超えている。

保健所別定点当たり患者報告数では、みなと 6.00 件、杉並 6.00 件、多摩府中 5.17 件、西多摩 4.00 件などが多くなっている。

年齢階級別報告数では 0～9 歳 19 件、10～19 歳 5 件、20 歳以上 14 件となっている。



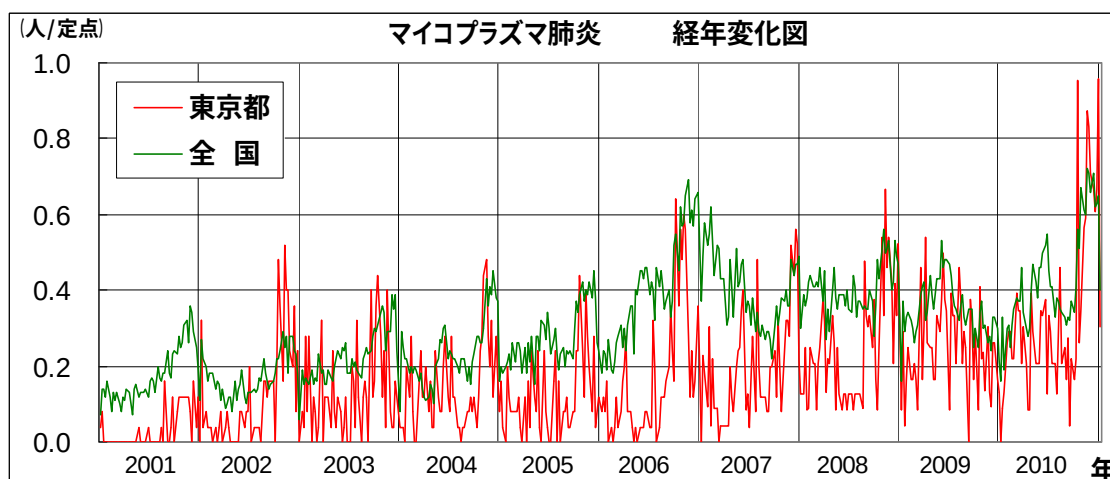
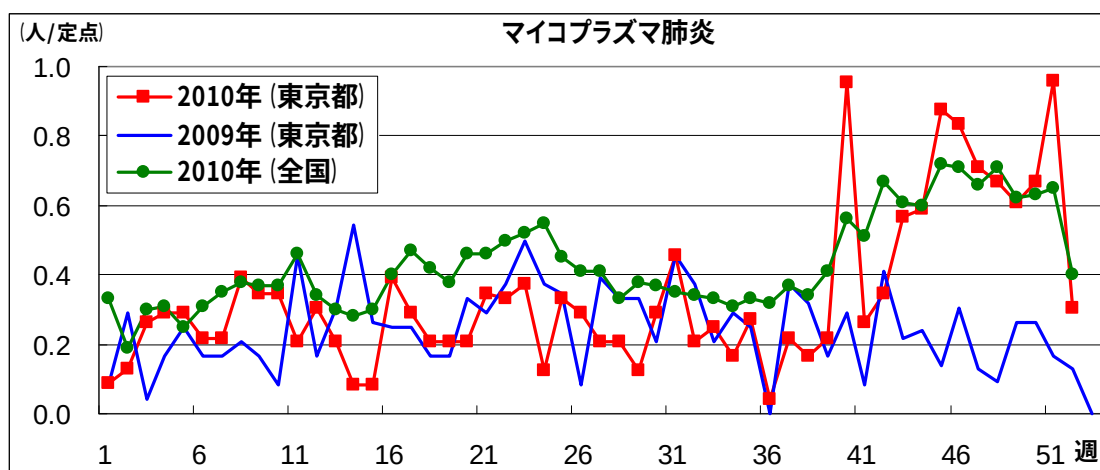
ウ マイコプラズマ肺炎

2010年の患者報告数は416件、定点当たり17.76件であった。過去10年間の報告数は増加を続け、2010年は最多の報告数となった。

週別定点当たり報告数では40～51週（10月4日～12月26日）にかけて一部少ない週もあるがおおむね0.50件を超えており、ピークは51週（12月20日～12月26日）の0.96件である。

保健所別定点当たり患者報告数では、葛飾区201.00件、新宿区65.50件が多い。

年齢階級別報告数では9歳以下が331件で全体の79.6%を占めている。

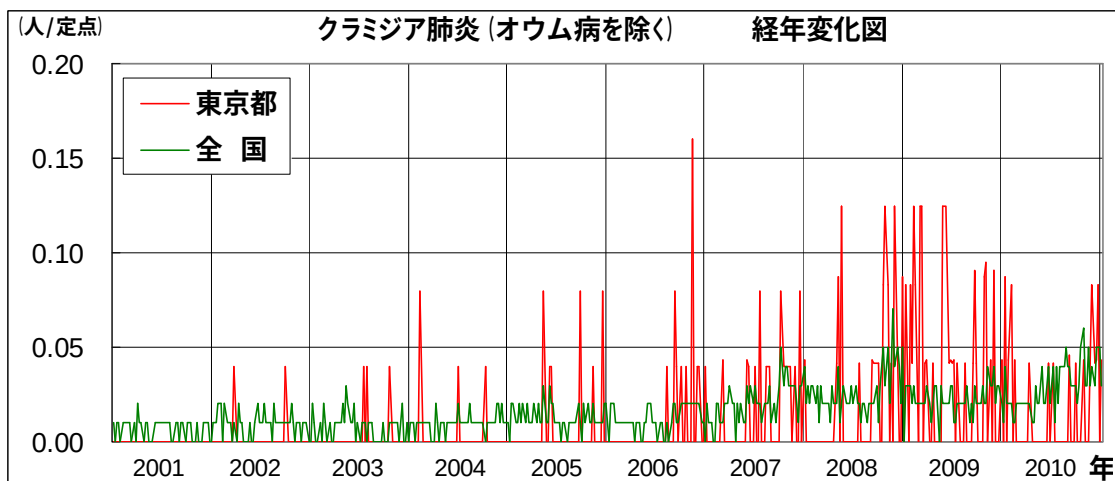
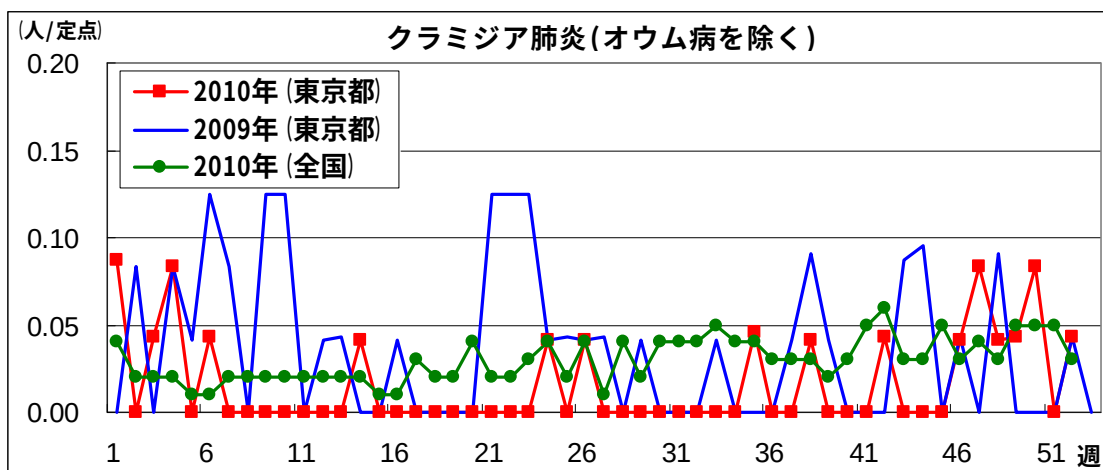


エ クラミジア肺炎(オウム病を除く)

2010年の報告数は20件。定点当たり0.85件であった。2009年は46件の報告があり、過去10年間で最多であったが2010年は減少している。

週別定点当たりの報告数は例数が少なく季節性ははっきりしない。

保健所別報告数は葛飾区が20件中14件であり、前年の報告数でも46件中33件を占めており同様の傾向が見られた。



(5) 基幹定点における月報告疾病

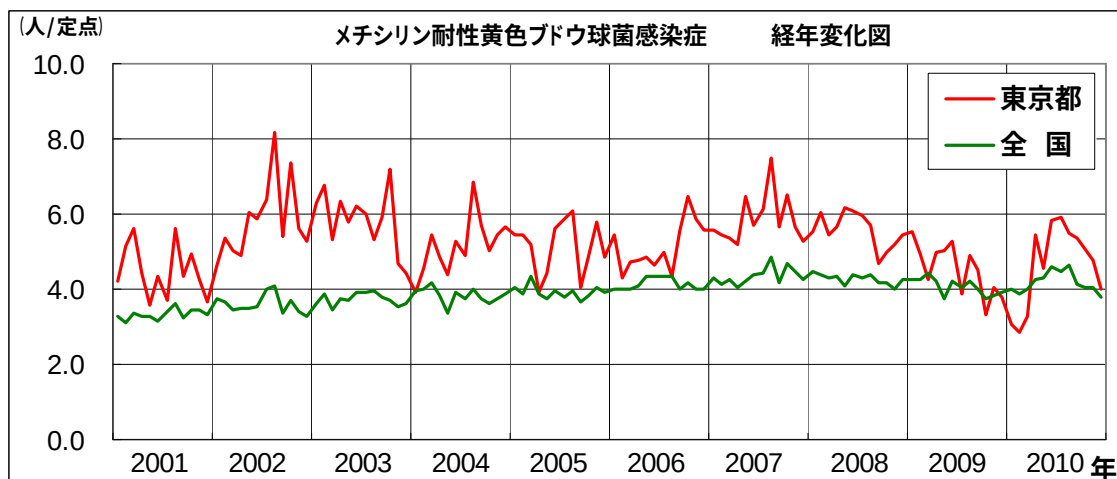
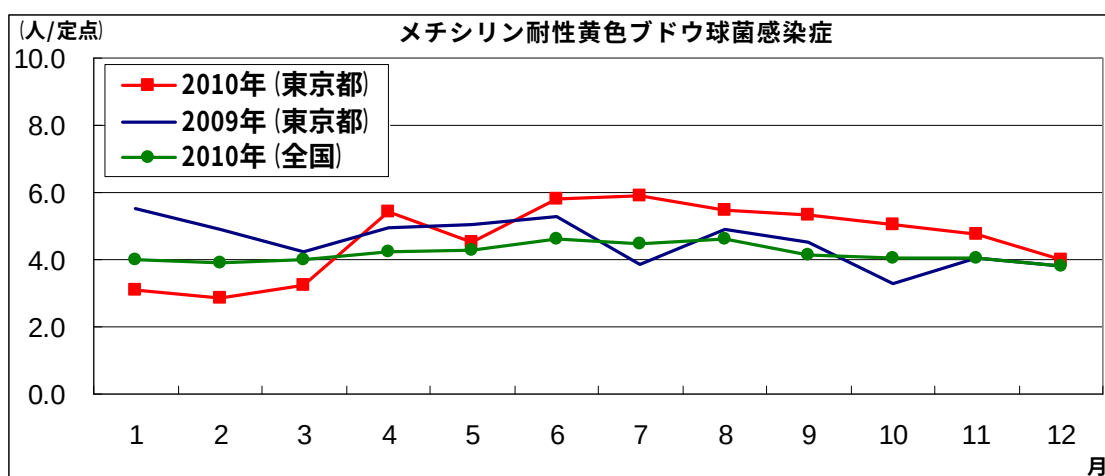
ア メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症

2010年の報告数は1,312件、定点当たり55.36件であった。過去10年間の定点当たりの報告数は平均で62.77件である。ここ数年報告数の増加は見られない。

月別定点当たり報告数は7月が5.92件で最多、2月が2.87件で最小であった。しかし前年は1月が最多の5.54件、10月が3.30件で最少であり、季節変動ははっきりしない。

男女別では男性837件、女性475件であり前年と同様で男性に多い。しかし9歳以下では性差はない。

年齢階級別では9歳以下が253件で全体の19.3%、60歳以上が839件で63.9%を占めている。



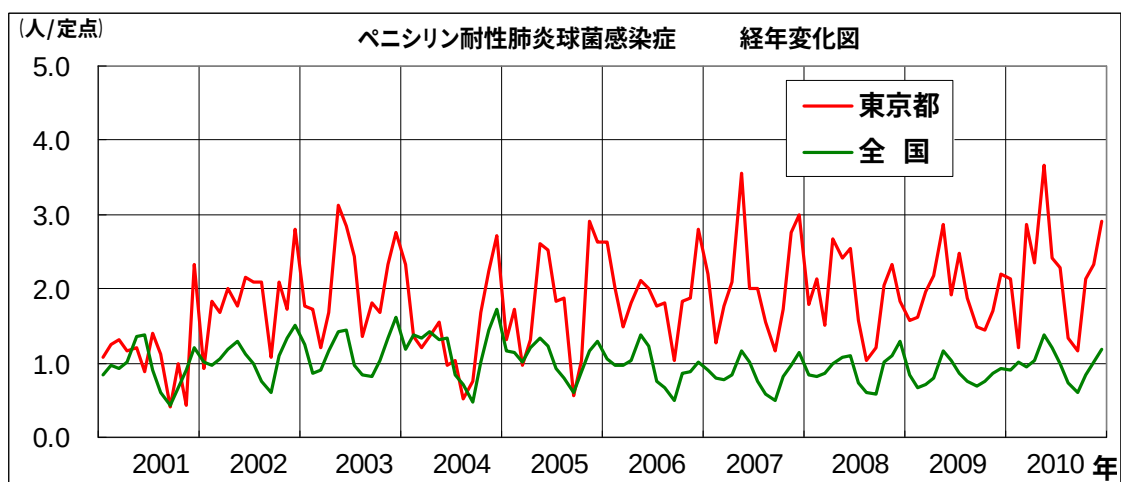
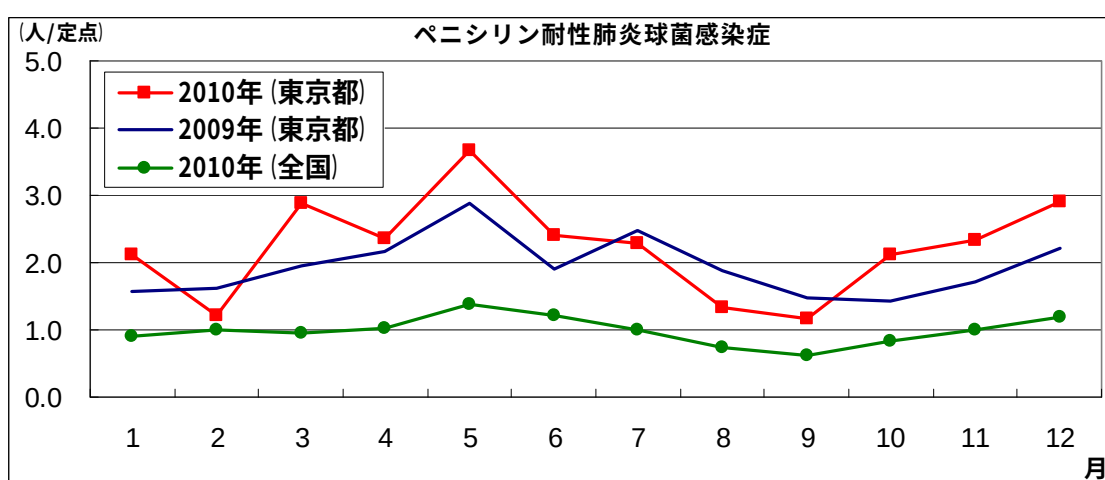
イ ペニシリン耐性肺炎球菌感染症

2010 年の報告数は 635 件、定点当たり 26.77 件であった。過去 10 年間では最多の報告数であった。

月別定点当たり報告数は 5 月が 3.67 件で最多、9 月が 1.17 件で最少であるが季節変動ははっきりしない。

男女別では男性 377 件、女性 258 件で男性に多い。

年齢階級別では 9 歳以下が 437 件で 68.8%、60 歳以上が 140 件で 22.0%を占めている。



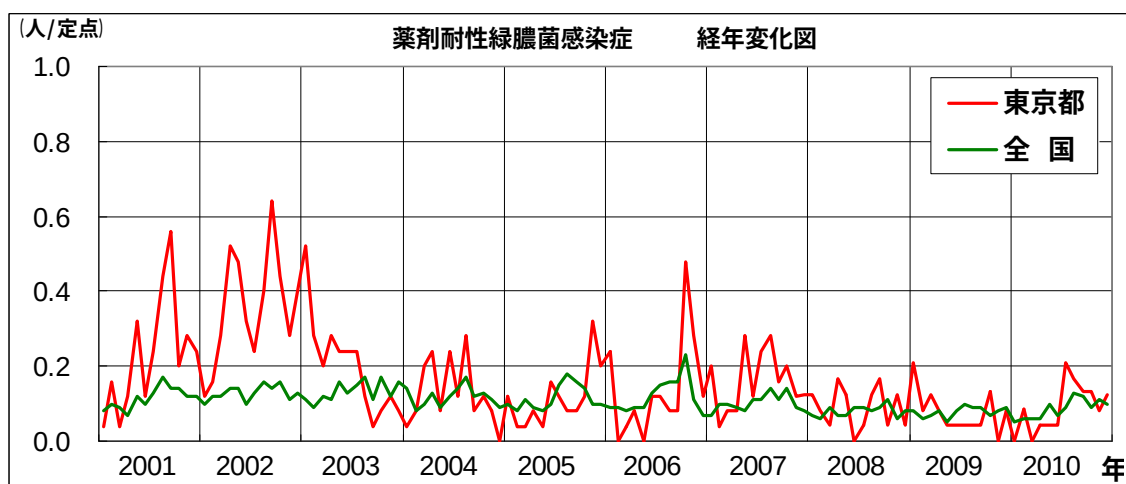
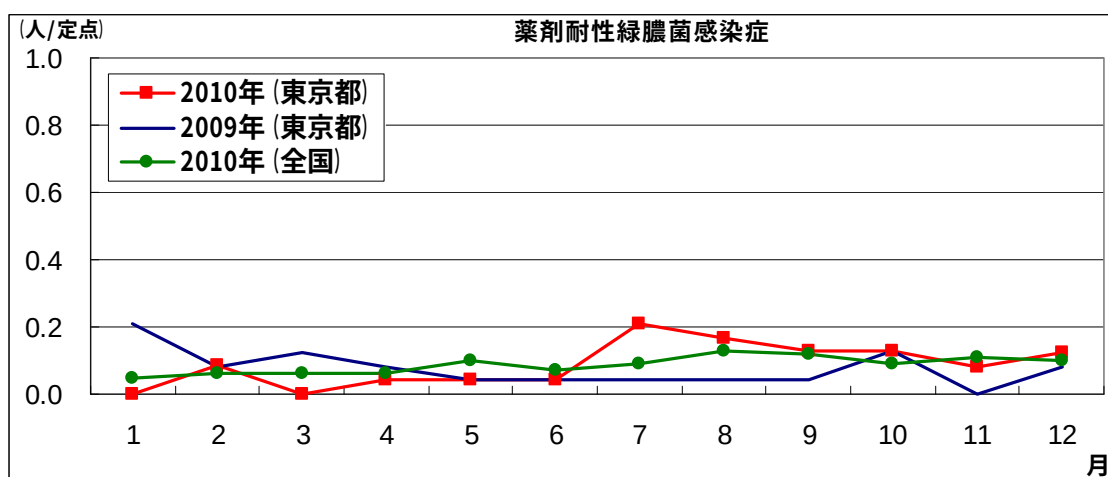
ウ 薬剤耐性緑膿菌感染症

2010年の報告数は26件、定点当たり1.10件であった。過去3年間は年間20件台の報告数であり増加は見られない。

月別報告数では7月5件、8月4件とやや多い。

男女別では男性17件、女性9件で男性に多い。

年齢階級別では70歳以上が16件と61.5%を占めている。



(6) 性感染症 (STI)

東京都 STI 報告数は 2000 年以後右肩下りの減少傾向が続いてきたが、2010 年はやや様相を異にしている。第 9 表-5 の対前年比で前年を下回ったのは性器クラミジア感染症の女性、淋菌感染症の女性、膣トリコモナス症の男性、梅毒様疾患の男性、梅毒様疾患の女性で、他は全て増加しており、性器ヘルペスウイルス感染症の男性は対前年比 1.34、尖圭コンジローマの男性は対前年比 1.22 となった。

経年変化図では性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマ、性器クラミジア感染症、淋菌感染症の男性の本年の増加が目立つが、いずれも女性の増加は少なく、性器クラミジア感染症の女性、淋菌感染症の女性は共に 0.97 とやや減少している。性器ヘルペスウイルス感染症の男性、尖圭コンジローマの男性の 2010 年前期、中期の増加傾向は 12 月には減少となっているが、性器クラミジア感染症の男性の増加傾向は 2009 年後半から持続しているようにも見受けられる。定点の設定にバラツキが大きく東京都に比して増減の変化が少ない全国の報告数によっても性器クラミジア感染症と淋菌感染症の男性はわずかながら増加している。各疾患の増加傾向はいずれも男性、女性に共通してはいない。STI 各疾患の自覚症状、他覚症状、診療機会、正診率は各々異なり、男性、女性で相違が大きい。このため性器ヘルペスウイルス感染症、尖圭コンジローマの増加傾向はそれらの影響を反映している可能性もある。

クラミジア検出法のアンプリコア PCR は全世界で繁用されているが、標的であるクラミジア各血清型に共通する遺伝子部位の変異によりアンプリコアが偽陽性の結果となる変異株が 2006 年スウェーデンで発見された。2007 年に変異株の分離比率は 48%に達したが、2010 年には 18%に減少している。変異株は他法により検出可能である。この変異株は予想に反してこれまでスカンジナビア以外の欧米諸国ではほとんど検出されず、性器クラミジア感染症の疫学の指標になるかもしれないが、日本では未だ検討がなされていない。

性器ヘルペスウイルス感染症の初発、再発症例の鑑別は容易ではなく、再発症例が多い女性では、初発に限られる報告数に再発症例が混入している可能性もある。

尖圭コンジローマでは 2007 年に免疫賦活剤と称するイミキモドが保険適用とされた。インターフェロンなどサイトカインの産生促進と細胞性免疫賦活作用がうたわれているが、クリームの 1 日数回の患部塗布と除去を患者自身が行なうもので、尖圭コンジローマの消失には 4~16 週を要し、従来の切除、電気メス、レーザーによる焼灼、ポドフィリンなどによる化学的除去などに対する本剤による治療の優越性はない。とくに病変が可視的で本剤使用の機会が多い男子について、イミキモド使用の機会が多くなり、これによる治療期間の長期化によるサーベイランス報告数の見かけ上の増加が生じている可能性がある。

淋菌感染症は、とくに男性で診断が容易であり、STI 疫学の指標疾患であるため、その増加傾向は注目される。淋菌については咽頭、結膜などの性器外感染を含め、セフトリアキソンによる単回投与療法が確立されており、順調な右肩下りの減少傾向が続いていた経緯がある。ただし、増加傾向ではあるものの、淋菌男性の定点当り報告数は、1980 年代以降の最高値である 1991 年の 58 に対して 2010 年は 14 にすぎず、抑制の限界でのわずかな反発にすぎない可能性もある。

ア 性器クラミジア感染症

2010 年の報告数は 2,376 件、定点当たり 44.07 件であった。

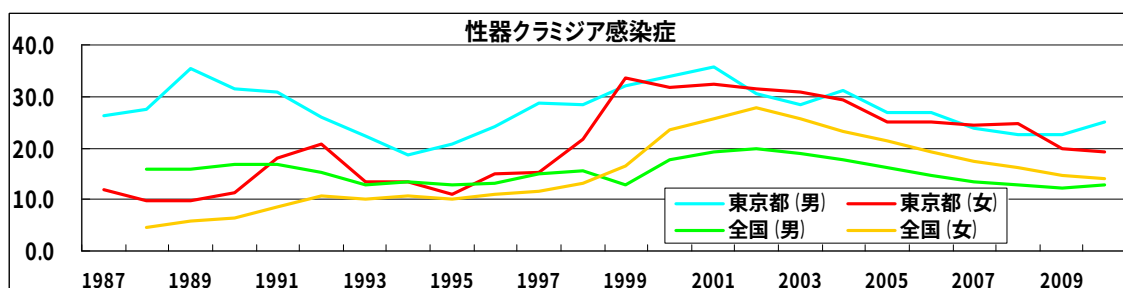
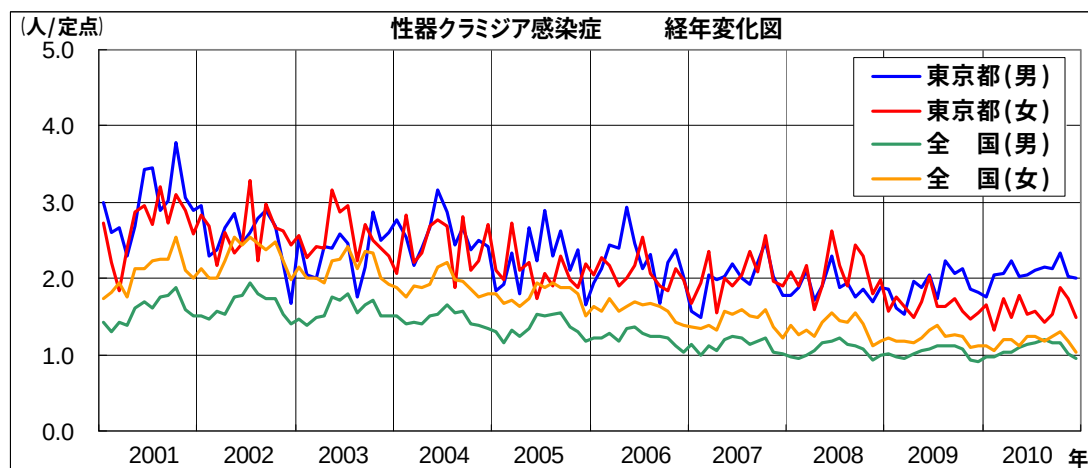
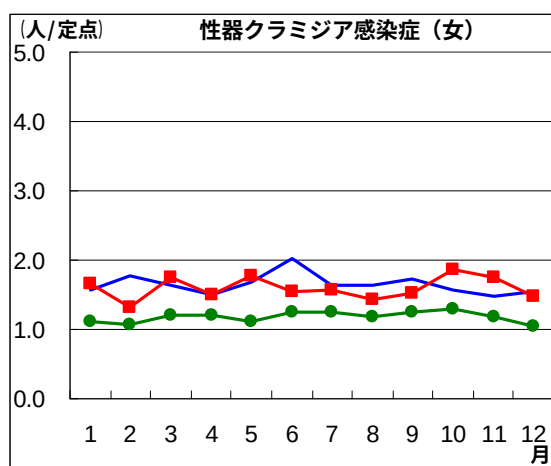
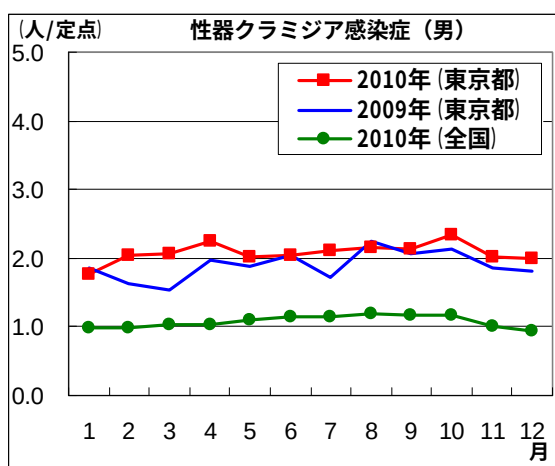
男女別では、男性の報告数は 1,343 件、定点当たり 24.92 件（前年比 1.10）、女性の報告数は 1,033 件、定点当たり 19.15 件（前年比 0.97）で男性に多い。この 10 年の定点当たりの報告数は男女とも減

少傾向にある。

月別定点当たり報告数は男性で10月が2.33件で最多、1月が1.76件で最小、女性で10月が1.87件で最多、2月が1.33件で最小であるが季節変動ははっきりしない。

年齢階級別では、男性では20～39歳が905件で男性全体の67.4%を占め、女性では20～29歳が585件で女性全体の56.6%を占めている。

保健所別定点当たり患者報告数では、男性は、文京60.00件、江東60.00件、女性は、多摩立川90.50件、江戸川54.50件などが多くなっている。全国ではこの10年、女性が男性を上回る形で推移してきたが、東京都では男女が拮抗し2009年後半以後は男性が女性を上回る状況が続いている。



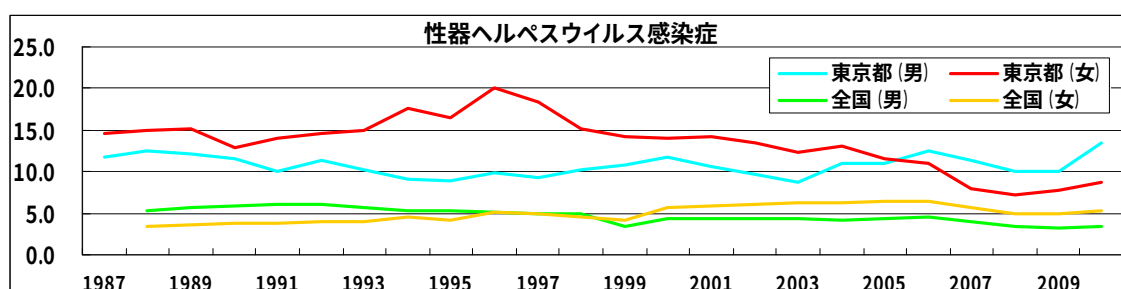
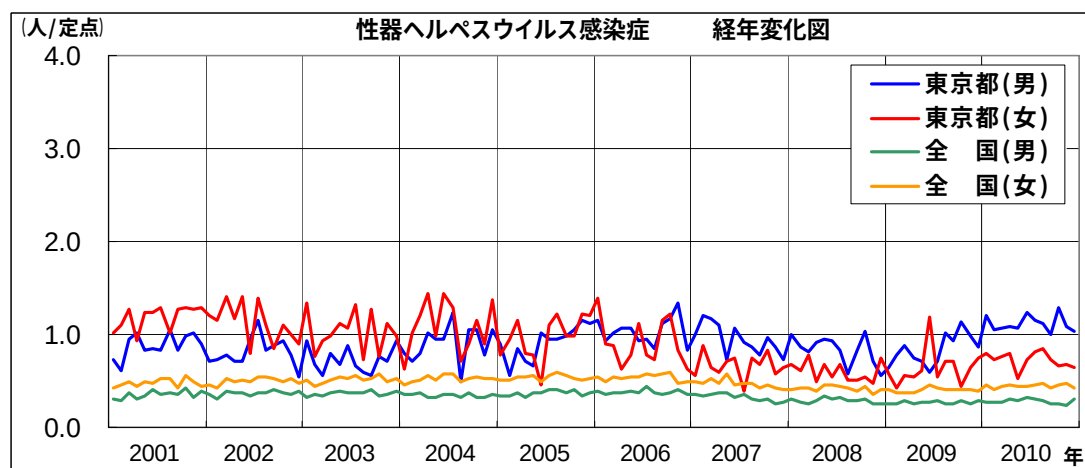
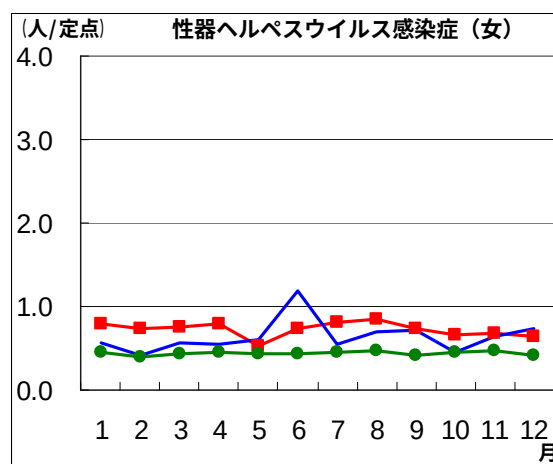
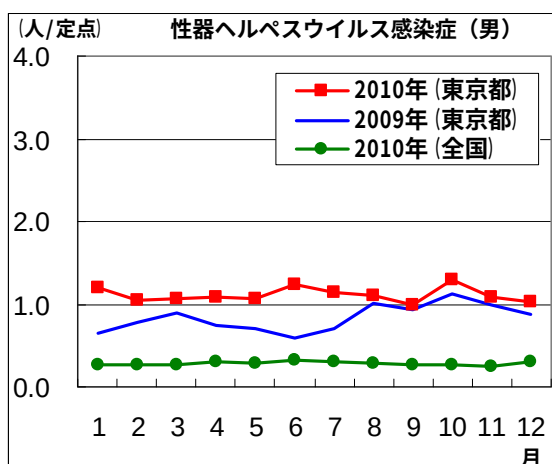
イ 性器ヘルペスウイルス感染症

2010年の報告数は1,194件、定点当たり22.15件であった。

男女別では、男性の報告数は723件、定点当たり13.41件（前年比1.34）、女性の報告数は471件、定点当たり8.74件（前年比1.14）で男性に多い。

月別定点当たり報告数は男性で10月が1.30件で最多、9月が1.00件で最小、女性で8月が0.85件で最多、5月が0.53件で最小であるが季節変動ははっきりしない。

年齢階級別では、男性では30～49歳が427件で男性全体の59.1%を占め、女性では20～39歳が328件で女性全体の69.6%を占めている。保健所別定点当たり患者報告数では、男性は、みなと149.00件、江東25.50件、新宿区25.05件、女性は、みなと50.50件、池袋18.67件、渋谷区18.30件などが多くなっている。全国では1999年以後女性が男性を上回り続け、東京都では2006年まで女性が男性を上回り続けたがそれ以後逆転している。



ウ 尖圭コンジローマ

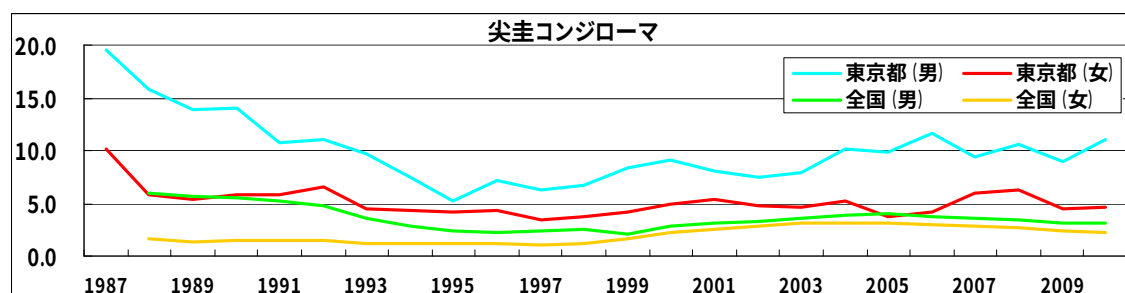
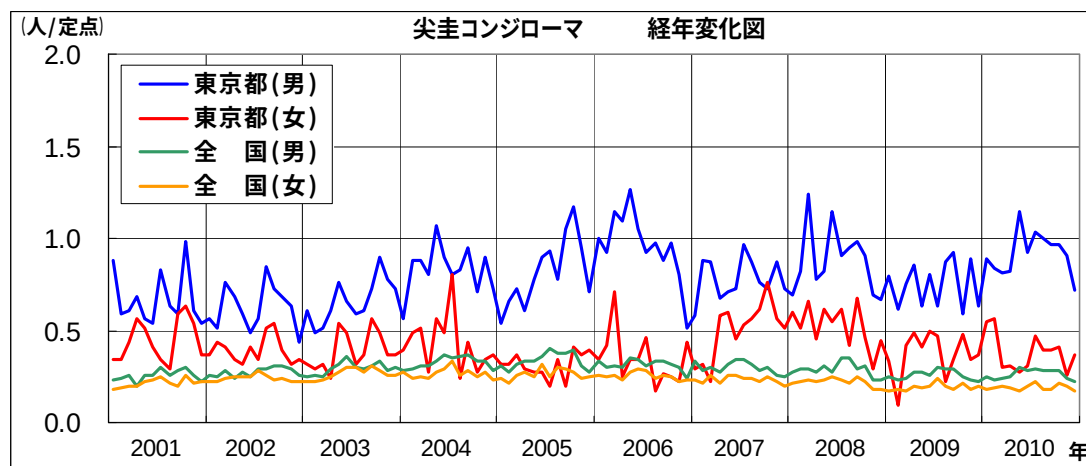
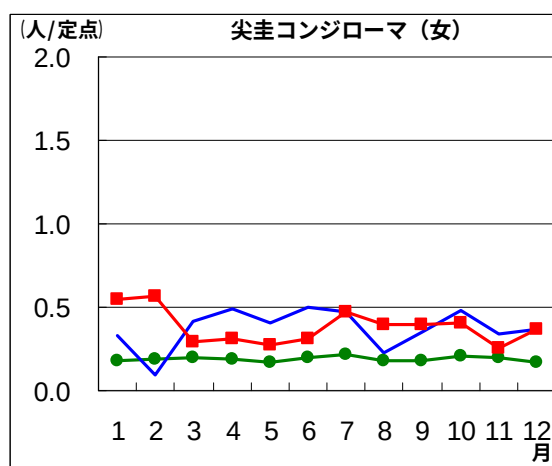
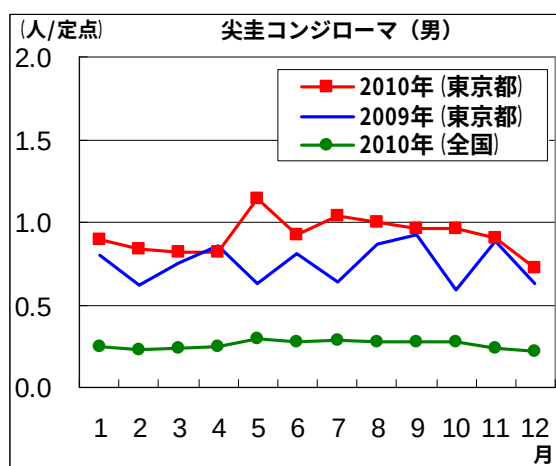
2010年の報告数は842件、定点当たり15.62件であった。

男女別では、男性の報告数は594件、定点当たり11.02件（前年比1.22）、女性の報告数は248件、定点当たり4.60件（前年比1.03）で男性に多い。

月別定点当たり報告数は男性で5月が1.15で最多、12月が0.72件で最小、女性で2月が0.56件で最多、11月が0.26件で最小であるが季節変動ははっきりしない。

年齢階級別では、男性では30～49歳が385件で男性全体の64.8%を占め、女性では20～39歳が211件で女性全体の85.1%を占めている。

保健所別定点当たり患者報告数では、男性は、みなと54.50件、新宿区37.05件、女性は、新宿区12.76件、池袋12.67件などが多くなっている。全国、東京都ともに1980年代から男性が女性を上回り続けているが、東京都の男女差は全国より大きく、増大傾向にある。



エ 淋菌感染症

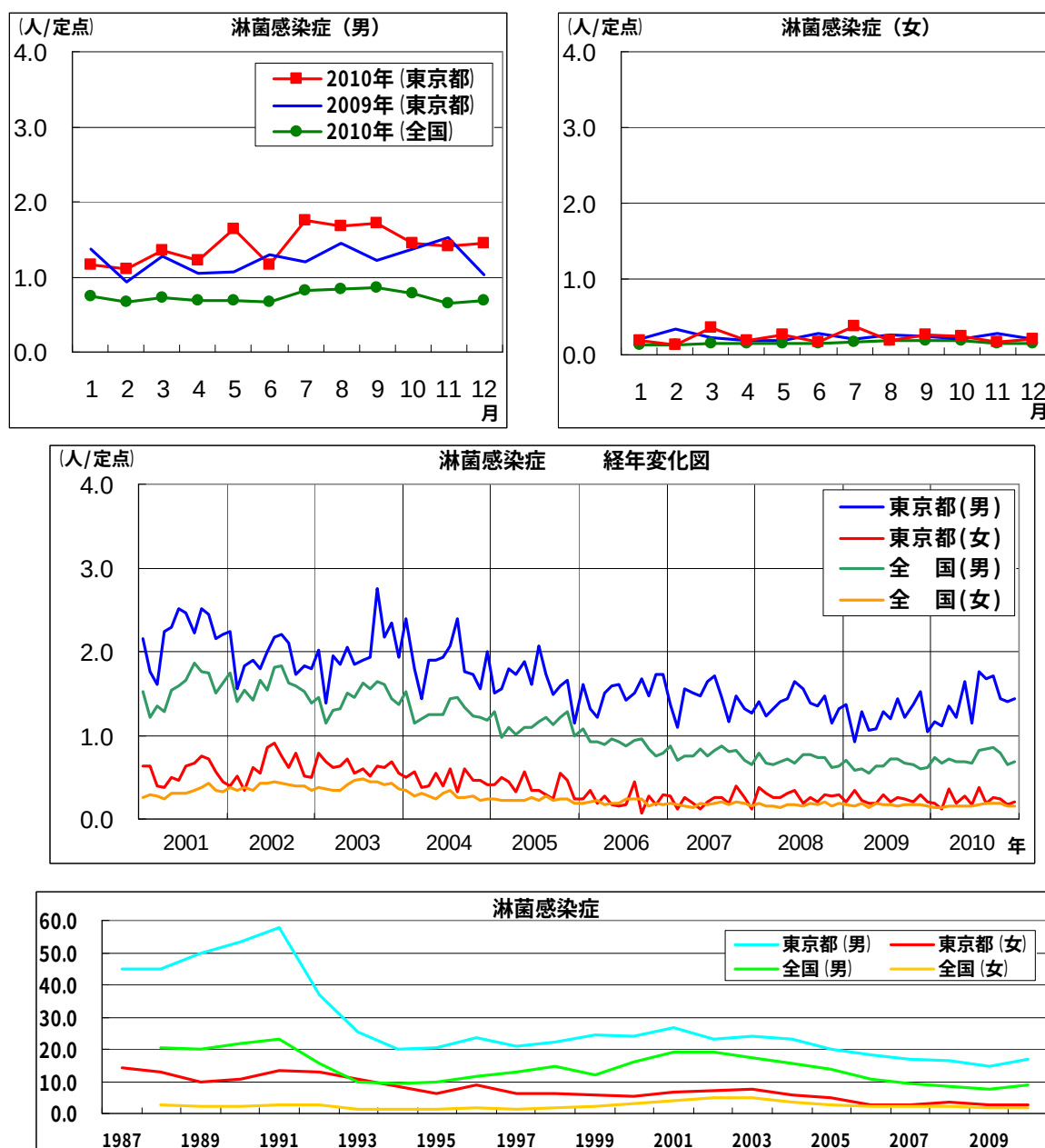
2010年の報告数は1,067件、定点当たり19.81件であった。

男女別では、男性の報告数は920件、定点当たり17.08件（前年比1.15）、女性の報告数は147件、定点当たり2.73件（前年比0.97）で男性に多い。

月別定点当たり報告数は男性で7月が1.75で最多、2月が1.11件で最小、女性で7月が0.38件で最多、2月が0.13件で最小であるが季節変動ははっきりしない。

年齢階級別では、男性では20～39歳が686件で男性全体の74.6%を占め、女性では20～29歳が100件で女性全体の68.0%を占めている。

保健所別定点当たり患者報告数では、男性は、千代田49.00件、江東区48.50件、女性は、多摩立川10.00件、新宿区8.12件などが多くなっている。この10年、国の動向と同様に減少傾向が続いていたが、本年はわずかに増加に転じ、今後の動向に注目を要する。



オ 臈トリコモナス症

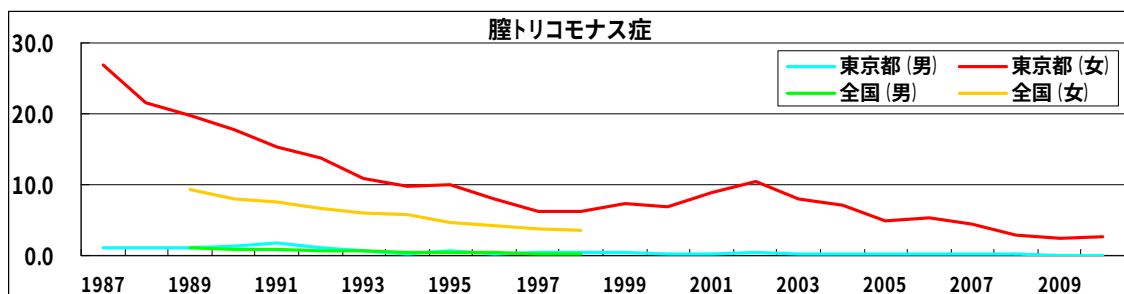
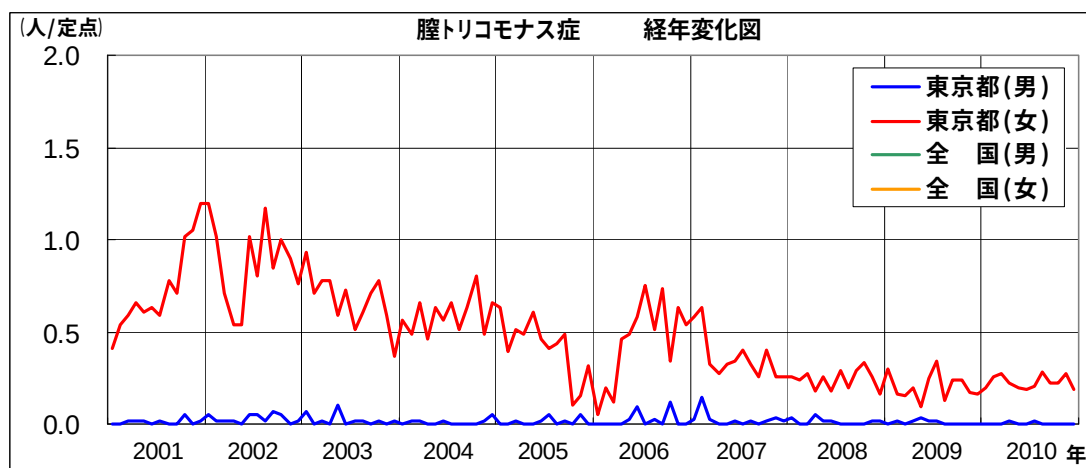
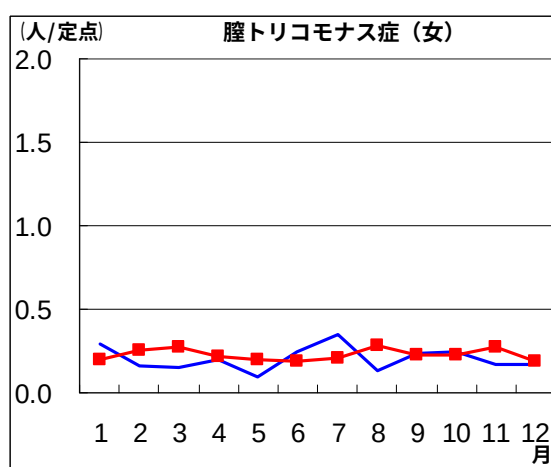
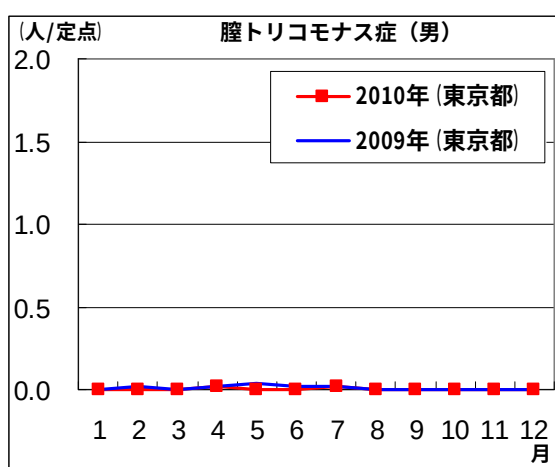
2010年の報告数は150件、定点当たり2.78件であった。

男女別では、男性の報告数は2件、定点当たり0.04件（前年比0.33）、女性の報告数は148件、定点当たり2.74件（前年比1.12）で女性に多い。

月別定点当たり報告数は、男性では4月と7月のみ報告があり、いずれも0.02件、女性では3月、8月、11月の0.28件が最多、6月と12月の0.19件が最小であるが季節変動ははっきりしない。

年齢階級別では、男性では20～24歳と40～44歳がそれぞれ1件ずつ、女性では20～39歳が94件で女性全体の63.5%を占めている。

保健所別定点当たり患者報告数では、男性は、町田1.00件、女性は、町田20.00件などが多くなっている。この10年、女性では減少傾向が続いている。



カ 梅毒様疾患

2010年の報告数は83件、定点当たり1.54件であった。

男女別では、男性の報告数は79件、定点当たり1.47件（前年比0.93）、女性の報告数は4件、定点当たり0.07件（前年比0.44）で男性に多い。

月別定点当たり報告数は男性で10月が0.19で最多、2月が0.05件で最小、女性では1月、2月、10月、12月のみ報告があり、いずれも0.02件で、季節変動ははっきりしない。

年齢階級別では、男性では30～39歳が37件で男性全体の46.8%を占め、女性では30～44歳が3件で女性全体の75.0%を占めている。

保健所別定点当たり患者報告数では、男性は、新宿区7.81件、女性は、墨田区1.00件などが多くなっている。近年、女性での報告の減少が著しい。

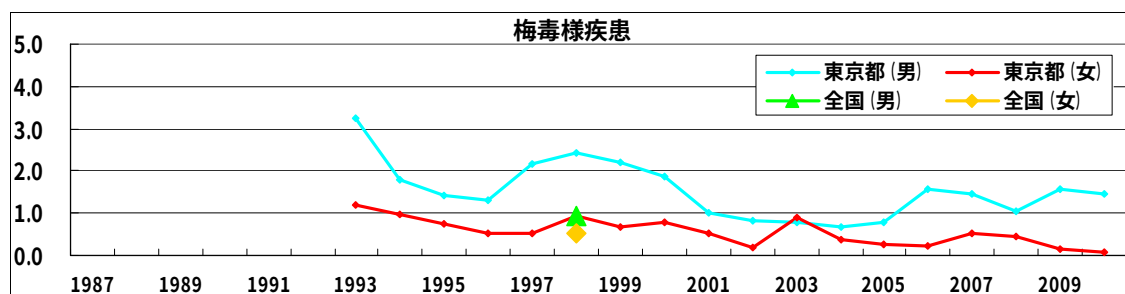
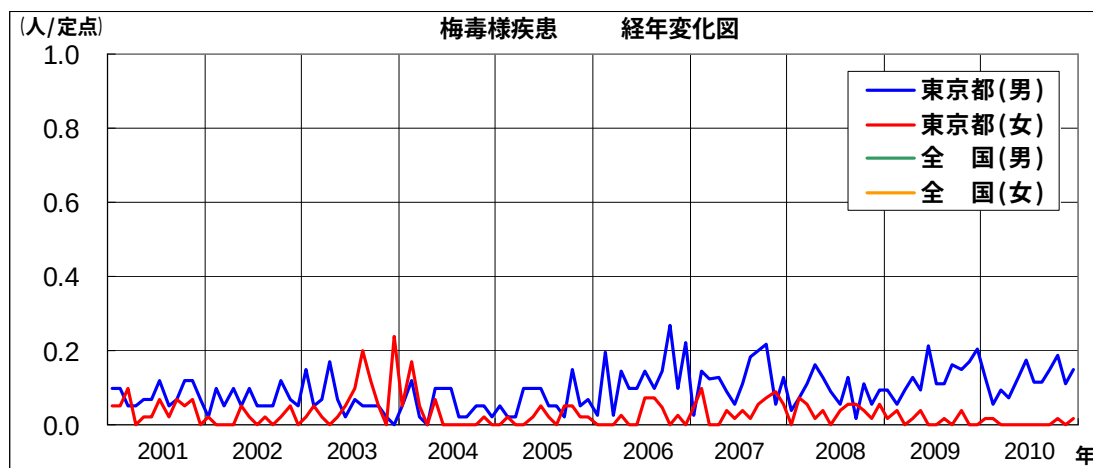
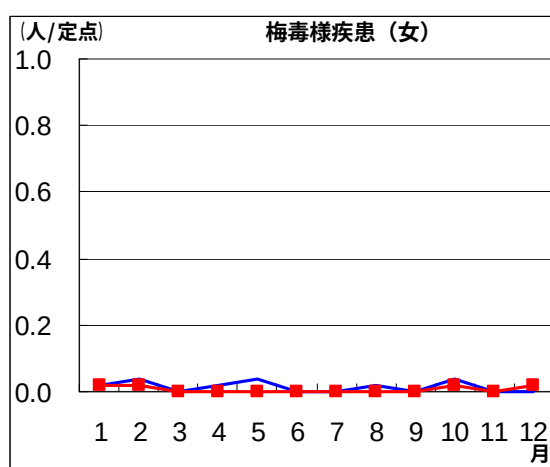
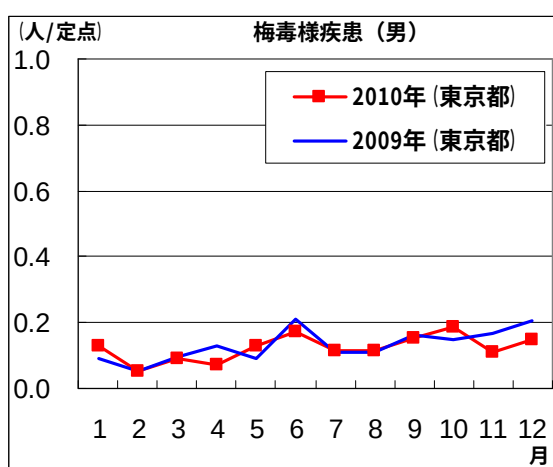


表4-1 (1) 週別患者報告数 (インフルエンザ・小児科)

2010 年第1 週～2010 年第52 週

週	期間	報告 インフル エンザ	定 点 数 人	報告 小児科 定 点 数	感 染 症 R S ウ イ ル ス	咽 頭 結 膜 熱	球 菌 咽 頭 炎	A 群 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎	人
1	1. 4～ 1. 10	255	1,598	126	58	9	116	1,498	203	11	18	67	1	3	151		
2	1. 11～ 1. 17	286	1,388	148	69	12	183	1,818	142	10	22	67	3	3	91		
3	1. 18～ 1. 24	286	1,908	147	89	5	207	2,516	158	19	22	98	3	1	74		
4	1. 25～ 1. 31	287	1,441	148	143	11	233	2,511	150	11	26	76	7	3	79		
5	2. 1～ 2. 7	286	988	148	141	9	298	1,985	202	17	11	67	2	3	61		
6	2. 8～ 2. 14	284	754	146	91	18	294	1,796	149	14	25	65	4		69		
7	2. 15～ 2. 21	287	486	149	80	21	248	1,712	267	11	21	73	3	3	92		
8	2. 22～ 2. 28	287	405	148	83	29	301	1,892	187	8	41	75	4	9	96		
9	3. 1～ 3. 7	288	179	149	77	24	286	1,627	271	8	38	82	1	7	108		
10	3. 8～ 3. 14	287	95	149	66	22	247	1,690	225	22	34	90	5	8	105		
11	3. 15～ 3. 21	286	89	147	46	18	246	1,595	299	29	35	80	2	6	99		
12	3. 22～ 3. 28	287	27	149	24	11	211	1,152	230	30	34	74	3	10	99		
13	3. 29～ 4. 4	287	20	148	17	17	184	1,101	298	19	44	81	3	7	110		
14	4. 5～ 4. 11	287	23	147	14	20	195	1,144	243	32	50	82	6	11	107		
15	4. 12～ 4. 18	289	13	149	13	28	210	1,245	208	38	77	89	5	16	98		
16	4. 19～ 4. 25	287	27	147	7	36	232	1,468	243	41	80	89	7	27	99		
17	4. 26～ 5. 2	286	27	147	5	35	287	1,303	235	63	68	75	5	30	96		
18	5. 3～ 5. 9	283	8	147	6	35	118	709	251	39	55	53	7	15	107		
19	5. 10～ 5. 16	289	15	149	8	41	247	1,055	302	53	55	97	7	47	163		
20	5. 17～ 5. 23	287	25	148	14	39	295	1,125	222	103	97	95	18	61	133		
21	5. 24～ 5. 30	288	18	148	9	48	312	1,035	326	107	54	90	20	113	120		
22	5. 31～ 6. 6	287	24	148	4	54	335	1,092	266	118	114	74	30	150	147		
23	6. 7～ 6. 13	288	13	149	5	59	351	1,077	302	122	98	91	36	158	144		
24	6. 14～ 6. 20	286	15	147	9	57	274	910	275	187	91	95	34	281	181		
25	6. 21～ 6. 27	285	7	148	9	41	270	706	237	276	88	110	39	602	176		
26	6. 28～ 7. 4	287	6	150	14	56	201	643	217	340	75	114	19	875	143		
27	7. 5～ 7. 11	288	18	148	10	53	176	587	173	584	94	96	17	1,325	173		
28	7. 12～ 7. 18	288	14	149		46	145	527	170	690	65	103	16	1,398	161		
29	7. 19～ 7. 25	289	7	149	5	44	119	412	112	560	65	86	12	954	142		
30	7. 26～ 8. 1	287	5	149	7	55	96	444	112	464	37	99	13	716	131		
31	8. 2～ 8. 8	286	14	148	18	30	106	415	68	382	60	93	17	470	127		
32	8. 9～ 8. 15	280	4	144	5	32	63	336	45	236	36	60	5	260	69		
33	8. 16～ 8. 22	258	5	130	2	30	60	339	68	213	38	83	19	185	106		
34	8. 23～ 8. 29	275	7	143	7	39	70	465	66	176	61	95	12	123	95		
35	8. 30～ 9. 5	284	17	147	9	38	79	479	55	174	73	117	13	100	70		
36	9. 6～ 9. 12	290	19	150	6	35	111	616	69	148	49	125	8	89	88		
37	9. 13～ 9. 19	287	28	148	11	43	105	599	50	146	33	113	14	91	89		
38	9. 20～ 9. 26	282	20	146	11	18	106	409	54	94	32	92	4	49	53		
39	9. 27～10. 3	284	27	147	25	27	160	513	104	90	36	96	7	20	74		
40	10. 4～10. 10	289	41	149	42	22	156	606	77	72	49	91	10	28	86		
41	10. 11～10. 17	286	25	148	30	23	138	475	104	64	57	82	3	13	67		
42	10. 18～10. 24	289	53	149	27	38	164	645	87	64	46	91	9	22	70		
43	10. 25～10. 31	288	33	148	70	29	168	817	91	68	50	85	8	15	59		
44	11. 1～11. 7	288	44	148	53	37	198	878	109	65	56	71	4	20	66		
45	11. 8～11. 14	288	107	149	60	51	250	1,342	156	72	50	64	9	17	82		
46	11. 15～11. 21	289	143	149	39	39	294	1,899	141	34	48	73	2	11	71		
47	11. 22～11. 28	288	172	148	75	54	275	2,003	199	27	84	83		11	59		
48	11. 29～12. 5	288	219	149	94	84	352	2,652	236	25	82	88	3	6	71		
49	12. 6～12. 12	289	301	150	108	89	385	2,902	251	19	102	81	1	15	56		
50	12. 13～12. 19	290	451	150	125	120	469	2,965	299	21	84	77	14	6	64		
51	12. 20～12. 26	290	665	150	115	83	419	2,518	308	29	114	67	6	4	41		
52	12. 27～ 1. 2	287	576	150	98	65	186	1,124	160	12	55	37	6	3	36		
合 計			12,614		2,153	1,979	11,231	63,372	9,472	6,257	2,929	4,397	506	8,400	5,154		

表4-1 (2) 週別患者報告数 (小児科・眼科・基幹)

2010年第1週～2010年第52週

週	期間	報告 小児科 定点数	不明 発しん 症	人 (MCLS 川崎病)
1	1. 4～ 1. 10	148	4	
2	1. 11～ 1. 17	148	4	1
3	1. 18～ 1. 24	149	12	3
4	1. 25～ 1. 31	149	5	1
5	2. 1～ 2. 7	148	6	2
6	2. 8～ 2. 14	147	5	3
7	2. 15～ 2. 21	149	7	2
8	2. 22～ 2. 28	149	19	2
9	3. 1～ 3. 7	148	7	3
10	3. 8～ 3. 14	149	5	4
11	3. 15～ 3. 21	147	10	3
12	3. 22～ 3. 28	148	11	1
13	3. 29～ 4. 4	147	5	6
14	4. 5～ 4. 11	148	5	
15	4. 12～ 4. 18	149	11	2
16	4. 19～ 4. 25	149	14	2
17	4. 26～ 5. 2	147	6	1
18	5. 3～ 5. 9	148	8	2
19	5. 10～ 5. 16	148	14	3
20	5. 17～ 5. 23	149	16	1
21	5. 24～ 5. 30	149	11	1
22	5. 31～ 6. 6	149	18	2
23	6. 7～ 6. 13	149	29	2
24	6. 14～ 6. 20	148	7	1
25	6. 21～ 6. 27	147	24	1
26	6. 28～ 7. 4	148	26	
27	7. 5～ 7. 11	148	22	4
28	7. 12～ 7. 18	147	14	2
29	7. 19～ 7. 25	148	24	
30	7. 26～ 8. 1	149	17	
31	8. 2～ 8. 8	146	19	3
32	8. 9～ 8. 15	132	14	
33	8. 16～ 8. 22	148	13	
34	8. 23～ 8. 29	146	19	1
35	8. 30～ 9. 5	149	19	3
36	9. 6～ 9. 12	150	18	2
37	9. 13～ 9. 19	146	16	
38	9. 20～ 9. 26	148	14	
39	9. 27～10. 3	148	13	
40	10. 4～10. 10	144	10	1
41	10. 11～10. 17	148	9	
42	10. 18～10. 24	148	9	2
43	10. 25～10. 31	148	9	2
44	11. 1～11. 7	149	7	3
45	11. 8～11. 14	149	7	3
46	11. 15～11. 21	148	16	3
47	11. 22～11. 28	150	9	1
48	11. 29～12. 5	149	10	1
49	12. 6～12. 12	150	9	3
50	12. 13～12. 19	149	6	2
51	12. 20～12. 26	148	7	2
52	12. 27～ 1. 2	147	3	2
合 計			622	89

報告 眼科 定点 点数	急性 出血 性結 膜炎	人 流行 性角 結膜 炎
39	2	17
39	1	14
39	1	5
39	1	12
39		8
39		13
39		18
39	2	9
39	5	10
39	1	13
39	1	13
39	2	22
39		11
39	3	21
39	1	12
39	1	19
37	1	21
39	3	13
39	1	11
39	6	14
39	1	16
39	2	20
38	4	13
39	1	20
39	1	16
39	4	13
39	1	15
38	1	14
39		18
39		15
39	1	10
36		9
38	3	24
39	1	20
39		21
39	1	31
38		39
39	2	17
39	1	17
39	3	16
38	3	17
39	1	16
39	1	21
37		24
39		18
39	1	26
39	5	26
39	1	27
38	1	37
39		37
39	2	39
37		23
	74	951

報告 基幹 定点 点数	細菌 性髄 膜炎	無菌 性髄 膜炎	マイ コプラ ズマ 肺炎	人 (クラ ミジ ア肺 炎 オウ ム病 は除 く)
23			2	2
23	1	1	3	
23		1	6	1
24			7	2
24		1	7	
23		1	5	1
23			5	
23	1		9	
23	1	2	8	
23	1	1	8	
24	1		5	
23	1	1	7	
24	1	1	5	
24			2	1
24		2	2	
23		1	9	
24		1	7	
24			5	
24	1	1	5	
24			5	
23			8	
24			8	
24		2	9	
24			3	1
24	2	1	8	
24	1		7	1
24			5	
24		2	5	
24			3	
24			7	
24		3	11	
24	2	5	5	
24	1	1	6	
24		1	4	
22		2	6	1
23		1	1	
23			5	
24			4	1
23		1	5	
22			21	
23	1		6	
23		2	8	1
23			13	
22			13	
24	1		21	
24			20	1
24	1		17	2
24		1	16	1
23			14	1
24		1	16	2
23	1	1	22	
23			7	1
	18	38	416	20

表4-2 (1) 週別定点当たり患者報告数（インフルエンザ・小児科）2010年第1週～2010年第52週

週	期間	人／定点		報告 小児科 定点数	感 染 症 R S ウ ィ ル ス	咽 頭 結 膜 熱	球 菌 A 群 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
		報告 イン フル エン ザ 数	イン フル エン ザ												
1	1. 4～ 1. 10	288	5.55	148	0.39	0.06	0.78	10.12	1.37	0.07	0.12	0.45	0.01	0.02	1.02
2	1. 11～ 1. 17	286	4.85	148	0.47	0.08	1.24	12.28	0.96	0.07	0.15	0.45	0.02	0.02	0.61
3	1. 18～ 1. 24	289	6.60	149	0.60	0.03	1.39	16.89	1.06	0.13	0.15	0.66	0.02	0.01	0.50
4	1. 25～ 1. 31	288	5.00	149	0.96	0.07	1.56	16.85	1.01	0.07	0.17	0.51	0.05	0.02	0.53
5	2. 1～ 2. 7	288	3.43	148	0.95	0.06	2.01	13.41	1.36	0.11	0.07	0.45	0.01	0.02	0.41
6	2. 8～ 2. 14	286	2.64	147	0.62	0.12	2.00	12.22	1.01	0.10	0.17	0.44	0.03		0.47
7	2. 15～ 2. 21	288	1.69	149	0.54	0.14	1.66	11.49	1.79	0.07	0.14	0.49	0.02	0.02	0.62
8	2. 22～ 2. 28	288	1.41	149	0.56	0.19	2.02	12.70	1.26	0.05	0.28	0.50	0.03	0.06	0.64
9	3. 1～ 3. 7	287	0.62	148	0.52	0.16	1.93	10.99	1.83	0.05	0.26	0.55	0.01	0.05	0.73
10	3. 8～ 3. 14	287	0.33	149	0.44	0.15	1.66	11.34	1.51	0.15	0.23	0.60	0.03	0.05	0.70
11	3. 15～ 3. 21	287	0.31	147	0.31	0.12	1.67	10.85	2.03	0.20	0.24	0.54	0.01	0.04	0.67
12	3. 22～ 3. 28	287	0.09	148	0.16	0.07	1.43	7.78	1.55	0.20	0.23	0.50	0.02	0.07	0.67
13	3. 29～ 4. 4	287	0.07	147	0.12	0.12	1.25	7.49	2.03	0.13	0.30	0.55	0.02	0.05	0.75
14	4. 5～ 4. 11	287	0.08	148	0.09	0.14	1.32	7.73	1.64	0.22	0.34	0.55	0.04	0.07	0.72
15	4. 12～ 4. 18	289	0.04	149	0.09	0.19	1.41	8.36	1.40	0.26	0.52	0.60	0.03	0.11	0.66
16	4. 19～ 4. 25	288	0.09	149	0.05	0.24	1.56	9.85	1.63	0.28	0.54	0.60	0.05	0.18	0.66
17	4. 26～ 5. 2	277	0.10	147	0.03	0.24	1.95	8.86	1.60	0.43	0.46	0.51	0.03	0.20	0.65
18	5. 3～ 5. 9	283	0.03	148	0.04	0.24	0.80	4.79	1.70	0.26	0.37	0.36	0.05	0.10	0.72
19	5. 10～ 5. 16	284	0.05	148	0.05	0.28	1.67	7.13	2.04	0.36	0.37	0.66	0.05	0.32	1.10
20	5. 17～ 5. 23	287	0.09	149	0.09	0.26	1.98	7.55	1.49	0.69	0.65	0.64	0.12	0.41	0.89
21	5. 24～ 5. 30	286	0.06	149	0.06	0.32	2.09	6.95	2.19	0.72	0.36	0.60	0.13	0.76	0.81
22	5. 31～ 6. 6	287	0.08	149	0.03	0.36	2.25	7.33	1.79	0.79	0.77	0.50	0.20	1.01	0.99
23	6. 7～ 6. 13	285	0.05	149	0.03	0.40	2.36	7.23	2.03	0.82	0.66	0.61	0.24	1.06	0.97
24	6. 14～ 6. 20	285	0.05	148	0.06	0.39	1.85	6.15	1.86	1.26	0.61	0.64	0.23	1.90	1.22
25	6. 21～ 6. 27	283	0.02	147	0.06	0.28	1.84	4.80	1.61	1.88	0.60	0.75	0.27	4.10	1.20
26	6. 28～ 7. 4	286	0.02	148	0.09	0.38	1.36	4.34	1.47	2.30	0.51	0.77	0.13	5.91	0.97
27	7. 5～ 7. 11	285	0.06	148	0.07	0.36	1.19	3.97	1.17	3.95	0.64	0.65	0.11	8.95	1.17
28	7. 12～ 7. 18	283	0.05	147		0.31	0.99	3.59	1.16	4.69	0.44	0.70	0.11	9.51	1.10
29	7. 19～ 7. 25	282	0.02	148	0.03	0.30	0.80	2.78	0.76	3.78	0.44	0.58	0.08	6.45	0.96
30	7. 26～ 8. 1	283	0.02	149	0.05	0.37	0.64	2.98	0.75	3.11	0.25	0.66	0.09	4.81	0.88
31	8. 2～ 8. 8	282	0.05	146	0.12	0.21	0.73	2.84	0.47	2.62	0.41	0.64	0.12	3.22	0.87
32	8. 9～ 8. 15	257	0.02	132	0.04	0.24	0.48	2.55	0.34	1.79	0.27	0.45	0.04	1.97	0.52
33	8. 16～ 8. 22	284	0.02	148	0.01	0.20	0.41	2.29	0.46	1.44	0.26	0.56	0.13	1.25	0.72
34	8. 23～ 8. 29	279	0.03	146	0.05	0.27	0.48	3.18	0.45	1.21	0.42	0.65	0.08	0.84	0.65
35	8. 30～ 9. 5	286	0.06	149	0.06	0.26	0.53	3.21	0.37	1.17	0.49	0.79	0.09	0.67	0.47
36	9. 6～ 9. 12	286	0.07	150	0.04	0.23	0.74	4.11	0.46	0.99	0.33	0.83	0.05	0.59	0.59
37	9. 13～ 9. 19	279	0.10	146	0.08	0.29	0.72	4.10	0.34	1.00	0.23	0.77	0.10	0.62	0.61
38	9. 20～ 9. 26	286	0.07	148	0.07	0.12	0.72	2.76	0.36	0.64	0.22	0.62	0.03	0.33	0.36
39	9. 27～10. 3	286	0.09	148	0.17	0.18	1.08	3.47	0.70	0.61	0.24	0.65	0.05	0.14	0.50
40	10. 4～10. 10	279	0.15	144	0.29	0.15	1.08	4.21	0.53	0.50	0.34	0.63	0.07	0.19	0.60
41	10. 11～10. 17	285	0.09	148	0.20	0.16	0.93	3.21	0.70	0.43	0.39	0.55	0.02	0.09	0.45
42	10. 18～10. 24	284	0.19	148	0.18	0.26	1.11	4.36	0.59	0.43	0.31	0.61	0.06	0.15	0.47
43	10. 25～10. 31	287	0.11	148	0.47	0.20	1.14	5.52	0.61	0.46	0.34	0.57	0.05	0.10	0.40
44	11. 1～11. 7	288	0.15	149	0.36	0.25	1.33	5.89	0.73	0.44	0.38	0.48	0.03	0.13	0.44
45	11. 8～11. 14	287	0.37	149	0.40	0.34	1.68	9.01	1.05	0.48	0.34	0.43	0.06	0.11	0.55
46	11. 15～11. 21	286	0.50	148	0.26	0.26	1.99	12.83	0.95	0.23	0.32	0.49	0.01	0.07	0.48
47	11. 22～11. 28	288	0.60	150	0.50	0.36	1.83	13.35	1.33	0.18	0.56	0.55		0.07	0.39
48	11. 29～12. 5	288	0.76	149	0.63	0.56	2.36	17.80	1.58	0.17	0.55	0.59	0.02	0.04	0.48
49	12. 6～12. 12	289	1.04	150	0.72	0.59	2.57	19.35	1.67	0.13	0.68	0.54	0.01	0.10	0.37
50	12. 13～12. 19	288	1.57	149	0.84	0.81	3.15	19.90	2.01	0.14	0.56	0.52	0.09	0.04	0.43
51	12. 20～12. 26	285	2.33	148	0.78	0.56	2.83	17.01	2.08	0.20	0.77	0.45	0.04	0.03	0.28
52	12. 27～ 1. 2	276	2.09	147	0.67	0.44	1.27	7.65	1.09	0.08	0.37	0.25	0.04	0.02	0.24
平 均			0.83		0.27	0.25	1.43	8.06	1.21	0.80	0.37	0.56	0.06	1.08	0.66

表4-2 (2) 週別定点当たり患者報告数 (小児科・眼科・基幹)

2010年第1週～2010年第52週

週	期間	報告 小児科 定点数	人／定点	
			不明 発し ん症	(M C L S 病)
1	1. 4～ 1. 10	148	0.03	
2	1. 11～ 1. 17	148	0.03	0.01
3	1. 18～ 1. 24	149	0.08	0.02
4	1. 25～ 1. 31	149	0.03	0.01
5	2. 1～ 2. 7	148	0.04	0.01
6	2. 8～ 2. 14	147	0.03	0.02
7	2. 15～ 2. 21	149	0.05	0.01
8	2. 22～ 2. 28	149	0.13	0.01
9	3. 1～ 3. 7	148	0.05	0.02
10	3. 8～ 3. 14	149	0.03	0.03
11	3. 15～ 3. 21	147	0.07	0.02
12	3. 22～ 3. 28	148	0.07	0.01
13	3. 29～ 4. 4	147	0.03	0.04
14	4. 5～ 4. 11	148	0.03	
15	4. 12～ 4. 18	149	0.07	0.01
16	4. 19～ 4. 25	149	0.09	0.01
17	4. 26～ 5. 2	147	0.04	0.01
18	5. 3～ 5. 9	148	0.05	0.01
19	5. 10～ 5. 16	148	0.09	0.02
20	5. 17～ 5. 23	149	0.11	0.01
21	5. 24～ 5. 30	149	0.07	0.01
22	5. 31～ 6. 6	149	0.12	0.01
23	6. 7～ 6. 13	149	0.19	0.01
24	6. 14～ 6. 20	148	0.05	0.01
25	6. 21～ 6. 27	147	0.16	0.01
26	6. 28～ 7. 4	148	0.18	
27	7. 5～ 7. 11	148	0.15	0.03
28	7. 12～ 7. 18	147	0.10	0.01
29	7. 19～ 7. 25	148	0.16	
30	7. 26～ 8. 1	149	0.11	
31	8. 2～ 8. 8	146	0.13	0.02
32	8. 9～ 8. 15	132	0.11	
33	8. 16～ 8. 22	148	0.09	
34	8. 23～ 8. 29	146	0.13	0.01
35	8. 30～ 9. 5	149	0.13	0.02
36	9. 6～ 9. 12	150	0.12	0.01
37	9. 13～ 9. 19	146	0.11	
38	9. 20～ 9. 26	148	0.09	
39	9. 27～10. 3	148	0.09	
40	10. 4～10. 10	144	0.07	0.01
41	10. 11～10. 17	148	0.06	
42	10. 18～10. 24	148	0.06	0.01
43	10. 25～10. 31	148	0.06	0.01
44	11. 1～11. 7	149	0.05	0.02
45	11. 8～11. 14	149	0.05	0.02
46	11. 15～11. 21	148	0.11	0.02
47	11. 22～11. 28	150	0.06	0.01
48	11. 29～12. 5	149	0.07	0.01
49	12. 6～12. 12	150	0.06	0.02
50	12. 13～12. 19	149	0.04	0.01
51	12. 20～12. 26	148	0.05	0.01
52	12. 27～ 1. 2	147	0.02	0.01
	平 均		0.08	0.01

報告 眼科 定点数	急性 出血 性結 膜炎	流行 性角 結膜 炎	人／定点	
39	0.05	0.44		
39	0.03	0.36		
39	0.03	0.13		
39	0.03	0.31		
39		0.21		
39		0.33		
39		0.46		
39	0.05	0.23		
39	0.13	0.26		
39	0.03	0.33		
39	0.03	0.33		
39	0.05	0.56		
39		0.28		
39	0.08	0.54		
39	0.03	0.31		
39	0.03	0.49		
37	0.03	0.57		
39	0.08	0.33		
39	0.03	0.28		
39	0.15	0.36		
39	0.03	0.41		
39	0.05	0.51		
38	0.11	0.34		
39	0.03	0.51		
39	0.03	0.41		
39	0.10	0.33		
39	0.03	0.38		
38	0.03	0.37		
39		0.46		
39		0.38		
39	0.03	0.26		
36		0.25		
38	0.08	0.63		
39	0.03	0.51		
39		0.54		
39	0.03	0.79		
38		1.03		
39	0.05	0.44		
39	0.03	0.44		
39	0.08	0.41		
38	0.08	0.45		
39	0.03	0.41		
39	0.03	0.54		
37		0.65		
39		0.46		
39	0.03	0.67		
39	0.13	0.67		
39	0.03	0.69		
38	0.03	0.97		
39		0.95		
39	0.05	1.00		
37		0.62		
	0.04	0.46		

報告 基幹 定点数	細菌 性髄 膜炎	無菌 性髄 膜炎	マイ コプラ ズマ 肺炎	クラ ミジア 肺炎 (オ ウム 病は 除く)	人／定点	
23			0.09	0.09		
23	0.04	0.04	0.13			
23		0.04	0.26	0.04		
24			0.29	0.08		
24		0.04	0.29			
23		0.04	0.22	0.04		
23			0.22			
23	0.04		0.39			
23	0.04	0.09	0.35			
23	0.04	0.04	0.35			
24	0.04		0.21			
23	0.04	0.04	0.30			
24	0.04	0.04	0.21			
24			0.08	0.04		
24		0.08	0.08			
23		0.04	0.39			
24		0.04	0.29			
24			0.21			
24	0.04	0.04	0.21			
24			0.21			
23			0.35			
24			0.33			
24		0.08	0.38			
24			0.13	0.04		
24	0.08	0.04	0.33			
24	0.04		0.29	0.04		
24			0.21			
24		0.08	0.21			
24			0.13			
24			0.29			
24		0.13	0.46			
24	0.08	0.21	0.21			
24	0.04	0.04	0.25			
24		0.04	0.17			
22		0.09	0.27	0.05		
23		0.04	0.04			
23			0.22			
24			0.17	0.04		
23		0.04	0.22			
22			0.95			
23	0.04		0.26			
23		0.09	0.35	0.04		
23			0.57			
22			0.59			
24	0.04		0.88			
24			0.83	0.04		
24	0.04		0.71	0.08		
24		0.04	0.67	0.04		
23			0.61	0.04		
24		0.04	0.67	0.08		
23	0.04	0.04	0.96			
23			0.30	0.04		
	0.01	0.03	0.34	0.02		

表5-1 (1) 保健所別患者報告数 (インフルエンザ・小児科)

2010 年第 1 週～2010 年第 52 週

保健所	設置 インフル エンザ 定点数	人 インフル エンザ	設置 小児科 定点数	感 染 症 RS ウイ ルス	咽 頭 結 膜 熱	球 菌 咽 頭 炎	A 群 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘ ル パ ン ギ ー ナ	人 流 行 性 耳 下 腺 炎
千代田	5	72	4	45	17	21	455	60	52	7	37	1	97	15	
中央区	4	71	3	2	8	103	696	206	85	16	99		126	34	
みなと	8	297	6	205	165	313	2,355	412	330	74	213	57	216	297	
新宿区	9	343	6	96	70	262	1,492	196	177	59	78	18	198	98	
文京	5	174	3	24	38	175	753	194	60	38	36	3	59	64	
台東	5	176	3	75	63	202	1,785	149	98	47	133	2	151	30	
墨田区	6	331	3	58	20	159	745	145	77	47	101	1	64	82	
江東区	9	393	4	50	25	453	3,938	376	369	74	184	8	246	184	
品川区	10	583	6	35	44	373	2,904	252	214	53	187	1	330	128	
目黒区	6	86	3	6	9	63	687	80	100	21	50	2	64	17	
大田区	16	699	9	277	437	659	5,159	592	484	115	270	70	681	211	
世田谷区	16	687	8	26	82	422	3,369	449	267	114	141	3	373	276	
渋谷区	6	152	4	20	46	106	1,276	149	124	55	92	18	145	39	
中野区	9	324	6	53	51	425	2,695	177	369	157	123		222	61	
杉並	12	500	6	18	25	305	2,883	213	275	122	131	23	92	99	
池袋	8	250	5	20	27	55	882	156	80	16	57	3	93	83	
北区	8	413	4	9	19	206	1,517	214	106	75	150	11	237	89	
荒川区	4	174	2	50	84	156	1,066	148	74	76	82	4	224	17	
板橋区	12	239	6	3	23	112	1,279	178	139	78	59	33	63	79	
練馬区	12	425	5	48	41	411	2,090	278	255	94	140	29	324	146	
足立	12	459	5	28	121	942	2,080	237	150	289	155	10	360	87	
葛飾区	9	439	4	6	11	230	1,521	386	211	299	179	2	316	329	
江戸川	12	598	5	119	143	816	2,865	516	348	211	230	121	958	201	
西多摩	9	396	5	47	43	191	1,847	247	115	44	80	17	180	195	
南多摩	9	400	4	191	27	325	1,636	311	179	39	166	3	325	338	
町田	9	763	4	55	25	1,062	4,302	892	404	86	284	8	583	487	
多摩立川	13	458	6	5	17	140	1,303	282	96	77	78	4	144	149	
多摩府中	21	880	10	83	50	482	2,226	529	334	148	279	6	535	317	
多摩小平	14	936	6	338	162	713	3,284	672	403	150	296	8	696	438	
島しょ	2	233	1	4	6	28	3	33	5		11		12	209	
八王子市	10	663	4	157	80	1,321	4,279	743	277	248	276	40	286	355	
合 計	290	12,614	150	2,153	1,979	11,231	63,372	9,472	6,257	2,929	4,397	506	8,400	5,154	
定点当たり報告数		43.97		14.52	13.37	75.80	427.41	63.93	42.52	19.79	29.74	3.42	57.06	34.87	
前年定点当たり報告数		495.53		5.73	9.07	68.03	254.50	47.94	23.36	10.54	30.24	1.53	17.63	35.05	
当年/前年		0.09		2.53	1.48	1.11	1.68	1.33	1.82	1.88	0.98	2.24	3.24	0.99	

表5-1 (2) 保健所別患者報告数 (小児科・眼科・基幹) 2010年第1週~2010年第52週

保健所	設置小児科定点数	不明発しん症	人		設置眼科定点数	急性出血性結膜炎	人		設置基幹定点数	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	人	
			M	C			L	S					(クラミジア肺炎 （オウム病は除く）	
千代田	4	6	16						2		3	23		
中央区	3	2	3		1		50							
みなと	6	6	14						1	1	6	3	3	
新宿区	6	26	2		2	1	86		2	3	1	131	2	
文京	3	2			1	1	52		1		1	2		
台東	3	5												
墨田区	3	22	1		1		15		1					
江東区	4	18	2		1		28							
品川区	6	22			1		14							
目黒区	3	9	1		1		33							
大田区	9	42	4		2	1	40		1					
世田谷区	8	19	1		2	7	37		2	1				
渋谷区	4	2	1		1		10		1					
中野区	6	29			1	1	27		1					
杉並	6		3		1		31		1		6			
池袋	5	2			1	4	6		1			4		
北区	4	20	2		1		15							
荒川区	2	24	1		1		34							
板橋区	6	19	1		2	2	32		1		1			
練馬区	5	36	1		2	1	48							
足立	5	33	4		2	36	66							
葛飾区	4	23	3		1	3	10		1			201	14	
江戸川	5	6	3		2	3	53							
西多摩	5	10	4		1	1	8		1	1	4	14		
南多摩	4	4	4		1		9							
町田	4	112			1									
多摩立川	6	3	7		2		17		1					
多摩府中	10	17	2		3	11	35		3	12	14	30	1	
多摩小平	6	24	3		2	1	118		2		2	6		
島しょ	1	1							1			2		
八王子市	4	78	6		2	1	77		1					
合 計	150	622	89		39	74	951		25	18	38	416	20	
定点当たり報告数		4.21	0.60			1.91	24.60			0.76	1.61	17.76	0.85	
前年定点当たり報告数		4.48	0.48			1.37	18.28			1.02	1.17	12.93	1.96	
当年/前年		0.94	1.25			1.39	1.35			0.75	1.38	1.37	0.43	

表5-2 (1) 保健所別定点当たり患者報告数 (インフルエンザ・小児科)

2010 年第 1 週～2010 年第 52 週

保健所	人／定点		設置 小児科 定点数	感 染 症 RS ウ イル ス	咽 頭 結 膜 熱	球 菌 咽 頭 炎	A 群 溶 血 性 レ ン サ	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
	設置 イン フル エン ザ 定 点 数	イン フル エン ザ													
千代田	5	18.42	4	15.00	5.67	7.00	151.67	20.00	17.33	2.33	12.33	0.33	32.33	5.00	
中央区	4	17.75	3	0.67	2.67	34.33	232.00	68.67	28.33	5.33	33.00		42.00	11.33	
みなと	8	37.39	6	34.47	27.77	52.63	395.00	69.17	57.80	12.63	36.03	9.87	37.43	50.57	
新宿区	9	38.11	6	16.03	11.90	44.17	248.90	32.90	29.70	9.97	13.03	3.03	33.10	16.37	
文京	5	35.25	3	8.00	12.67	58.33	251.67	64.67	20.17	12.67	12.00	1.00	19.83	21.33	
台東	5	35.20	3	25.00	21.00	67.33	595.00	49.67	32.67	15.67	44.33	0.67	50.33	10.00	
墨田区	6	55.17	3	19.33	6.67	53.00	248.33	48.33	25.67	15.67	33.67	0.33	21.33	27.33	
江東区	9	43.67	4	12.50	6.25	113.25	984.50	94.00	92.25	18.50	46.00	2.00	61.50	46.00	
品川区	10	58.30	6	5.83	7.37	62.27	485.13	42.00	36.70	8.90	31.40	0.17	56.03	21.43	
目黒区	6	14.33	3	2.00	3.00	21.00	229.33	26.67	33.50	7.00	17.00	0.67	21.33	6.00	
大田区	16	43.69	9	30.78	48.68	73.40	574.49	66.00	54.44	12.81	30.22	7.79	76.64	23.69	
世田谷区	16	42.94	8	3.25	10.54	52.75	421.83	56.25	33.63	14.38	17.79	0.42	46.75	34.54	
渋谷区	6	25.70	4	5.00	11.50	26.50	320.08	37.33	32.25	14.00	23.00	4.58	37.67	9.75	
中野区	9	36.00	6	8.83	8.50	70.83	449.17	29.50	61.50	26.17	20.50		37.00	10.17	
杉並	12	42.82	6	3.00	4.17	51.58	485.80	35.75	46.25	20.83	22.10	3.92	16.08	16.53	
池袋	8	31.72	5	4.40	5.70	11.60	187.50	32.45	16.60	3.25	12.10	0.65	18.80	17.70	
北区	8	52.91	4	2.25	4.75	51.50	379.58	53.67	26.92	18.92	37.83	2.75	60.08	22.25	
荒川区	4	43.50	2	25.00	42.00	78.00	533.00	74.00	37.00	38.00	41.00	2.00	112.00	8.50	
板橋区	12	19.92	6	0.50	3.83	18.67	213.17	29.67	23.17	13.00	9.83	5.50	10.50	13.17	
練馬区	12	34.87	5	8.63	7.23	76.20	390.60	52.30	46.93	16.20	25.63	5.47	59.90	27.63	
足立	12	38.81	5	5.60	24.20	188.40	416.00	47.40	30.00	57.80	31.00	2.00	72.00	17.40	
葛飾区	9	48.78	4	1.50	2.75	57.50	380.25	97.50	52.75	75.00	45.25	0.50	80.00	82.50	
江戸川	12	51.45	5	24.90	29.45	168.70	591.45	106.05	70.95	43.25	47.55	24.55	193.55	41.85	
西多摩	9	44.44	5	9.45	8.60	38.75	372.70	49.50	23.05	8.80	16.10	3.40	36.00	39.90	
南多摩	9	45.08	4	47.75	6.75	81.25	409.00	77.75	44.75	9.75	41.50	0.75	81.25	84.50	
町田	9	84.90	4	13.75	6.25	267.75	1084.00	224.50	103.50	21.75	71.75	2.00	148.25	121.75	
多摩立川	13	35.23	6	0.83	2.83	23.33	217.17	47.00	16.00	12.83	13.00	0.67	24.00	24.83	
多摩府中	21	43.10	10	8.49	5.27	50.36	232.41	55.66	37.65	15.71	30.27	0.61	60.09	34.19	
多摩小平	14	66.86	6	56.33	27.00	118.83	547.33	112.00	67.17	25.00	49.33	1.33	116.00	73.00	
島しょ	2	116.50	1	4.00	6.00	28.00	3.00	33.00	5.00		11.00		12.00	209.00	
八王子市	10	66.30	4	39.25	20.25	330.83	1071.42	185.83	69.75	62.17	69.25	10.00	72.00	89.08	

表5-2 (2) 保健所別定点当たり患者報告数 (小児科・眼科・基幹) 2010 年第1週~2010 年第52 週

保健所	人／定点			設置眼科 定点数	人／定点		設置 基幹 定点数	人／定点			
	設置 小児科 定点数	不明 発しん 症	M C L S (川崎 病)		急性 出血性 結膜炎	流行 性角結 膜炎		細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズ マ肺炎	クラミ ジア肺 炎 (オウ ム病は 除く)
千代田	4	2.00	5.33				2		1.50	12.50	
中央区	3	0.67	1.00	1		50.00					
みなと	6	1.00	2.37				1	1.00	6.00	3.00	3.00
新宿区	6	4.43	0.33	2	0.50	43.00	2	1.50	0.50	65.50	1.00
文京	3	0.67		1	1.00	52.00	1		1.00	2.00	
台東	3	1.67									
墨田区	3	7.33	0.33	1		15.00	1				
江東区	4	4.50	0.50	1		28.00					
品川区	6	3.73		1		14.00					
目黒区	3	3.00	0.33	1		33.00					
大田区	9	4.78	0.44	2	0.50	20.00	1				
世田谷区	8	2.42	0.13	2	3.50	18.50	2	1.00			
渋谷区	4	0.50	0.25	1		10.00	1				
中野区	6	4.83		1	1.00	27.00	1				
杉並	6		0.50	1		31.00	1		6.00		
池袋	5	0.40		1	4.00	6.00	1			4.00	
北区	4	5.00	0.50	1		15.00					
荒川区	2	12.00	0.50	1		34.00					
板橋区	6	3.17	0.17	2	1.00	16.00	1		1.00		
練馬区	5	6.40	0.20	2	0.50	24.50					
足立	5	6.60	0.80	2	18.00	33.00					
葛飾区	4	5.75	0.75	1	3.00	10.00	1			201.00	14.00
江戸川	5	1.20	0.60	2	1.50	27.00					
西多摩	5	2.00	0.80	1	1.00	8.00	1	1.00	4.00	14.00	
南多摩	4	1.00	1.00	1		9.00					
町田	4	29.00		1							
多摩立川	6	0.50	1.17	2		8.50	1				
多摩府中	10	1.86	0.20	3	3.67	11.83	3	4.00	5.17	12.50	0.33
多摩小平	6	4.00	0.50	2	0.50	59.00	2		1.00	3.00	
島しょ	1	1.00					1			2.00	
八王子市	4	19.67	1.50	2	0.50	38.50	1				

表6-1 年齢階級別患者報告数（インフルエンザ・小児科）

2010年第1週～2010年第52週

人		人										
年齢階級	インフルエンザ	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
6 か月未満	22	295	16	10	657	129	39	3	116	8	37	
12 か月未満	123	485	101	51	4,077	490	449	54	1,837	6	547	28
1歳	326	752	408	330	8,934	1,463	1,708	134	2,056	9	2,067	215
2歳	396	335	294	540	6,325	1,560	1,171	217	257	9	1,612	353
3歳	539	137	329	899	5,762	1,608	856	315	66	13	1,273	605
4歳	706	71	275	1,420	5,569	1,415	691	422	27	15	1,117	841
5歳	774	25	187	1,633	4,939	1,110	487	496	9	9	725	779
6歳	834	12	103	1,461	4,025	661	275	419	9	16	377	666
7歳	633	6	72	1,316	3,489	347	161	321	7	18	206	509
8歳	605	1	45	960	2,772	260	132	238	2	27	124	381
9歳	509	6	26	725	2,192	140	71	119	1	28	67	217
10～14歳	1,601	4	52	1,134	5,419	203	96	141	3	81	114	400
15～19歳	953	1	8	93	1,187	13	12	5		17	18	27
20～29歳	1,701	23	63	659	8,025	73	109	45	7	250	116	133
30～39歳	1,391											
40～49歳	901											
50～59歳	368											
60～69歳	142											
70～79歳	65											
80歳以上	25											
合 計	12,614	2,153	1,979	11,231	63,372	9,472	6,257	2,929	4,397	506	8,400	5,154

注：小児科定点把握対象疾病の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

表6-2 年齢階級別患者報告数（小児科・眼科・基幹）

2010年第1週～2010年第52週

年齢階級	人		人		人			
	不明発しん症	MCLS（川崎病）	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎（オウム病は除く）
6か月未満	39	3		2	4	1		
12か月未満	121	17		10	1	1	2	
1歳	174	23	6	17	3	1	55	
2歳	74	16	3	15	1	1	43	
3歳	46	9	2	14	1	2	55	1
4歳	41	7	4	16		3	42	
5歳	39	6	3	16	2	2	25	
6歳	16	1	1	14		3	34	
7歳	17	1	1	8		2	25	
8歳	6	2	1	13		2	23	
9歳	10		2	7		1	27	
10～14歳	19	3	3	27		4	57	1
15～19歳	6		3	38		1	7	
20～29歳	14	1	7	159		5	4	
30～39歳			13	241	2	2	5	
40～49歳			11	148		1	3	1
50～59歳			7	74			5	2
60～69歳			7	70	2	4		4
70～79歳				62	1	2	2	6
80歳以上					1		2	5
合 計	622	89	74	951	18	38	416	20

注：小児科定点把握対象疾病の「20～29歳」は「20歳以上」と読みかえる。

注：眼科疾患の「70～79歳」は「70歳以上」と読みかえる。

表7-1 (1) 二次医療圏別患者報告数（インフルエンザ・小児科） 2010年第1週～2010年第52週

二次医療圏	設置 インフルエンザ 定点数	人 インフル エンザ	設置 小児科 定点数	RS ウィルス 感染症	咽頭 結膜熱	A群 溶血性 レンサ 球菌咽 頭炎	感 染 性 胃 腸 炎	水 痘	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	突 発 性 発 し ん	百 日 咳	人 ヘル パン ギ ー ナ	流 行 性 耳 下 腺 炎
1 区中央部圏	27	790	19	351	291	814	6,044	1,021	625	182	518	63	649	440
2 区南部圏	26	1,282	15	312	481	1,032	8,063	844	698	168	457	71	1,011	339
3 区西南部圏	28	925	15	52	137	591	5,332	678	491	190	283	23	582	332
4 区西部圏	30	1,167	18	167	146	992	7,070	586	821	338	332	41	512	258
5 区西北部圏	40	1,327	20	80	110	784	5,768	826	580	263	406	76	717	397
6 区東北部圏	25	1,072	11	84	216	1,328	4,667	771	435	664	416	16	900	433
7 区東部圏	27	1,322	12	227	188	1,428	7,548	1,037	794	332	515	130	1,268	467
8 西多摩圏	9	396	5	47	43	191	1,847	247	115	44	80	17	180	195
9 南多摩圏	28	1,826	12	403	132	2,708	10,217	1,946	860	373	726	51	1,194	1,180
10 北多摩西部圏	13	458	6	5	17	140	1,303	282	96	77	78	4	144	149
11 北多摩南部圏	21	880	10	83	50	482	2,226	529	334	148	279	6	535	317
12 北多摩北部圏	14	936	6	338	162	713	3,284	672	403	150	296	8	696	438
13 島しょ圏	2	233	1	4	6	28	3	33	5	0	11	0	12	209
合 計	290	12,614	150	2,153	1,979	11,231	63,372	9,472	6,257	2,929	4,397	506	8,400	5,154

表7-1 (2) 二次医療圏別患者報告数（小児科・眼科・基幹） 2010年第1週～2010年第52週

二次医療圏	設置 小児科 定点数	人 不明 発しん 症	人 M C L S (川 崎 病)	設置 眼科 定点数	人 急性 出 血 性 結 膜 炎	人 流 行 性 角 結 膜 炎	設置 基 幹 定 点 数	人 細 菌 性 髄 膜 炎	人 無 菌 性 髄 膜 炎	人 マイ コ プ ラ ズ マ 肺 炎	人 ク ラ ミ ジ ア 肺 炎 (オ ウ ム 病 は 除 く)
1 区中央部圏	19	21	33	2	1	102	4	1	10	28	3
2 区南部圏	15	64	4	3	1	54	1				
3 区西南部圏	15	30	3	4	7	80	3	1			
4 区西部圏	18	55	5	4	2	144	4	3	7	131	2
5 区西北部圏	20	77	4	6	7	101	2		1	4	
6 区東北部圏	11	80	8	4	39	110	1			201	14
7 区東部圏	12	46	6	4	3	96	1				
8 西多摩圏	5	10	4	1	1	8	1	1	4	14	
9 南多摩圏	12	194	10	4	1	86	1				
10 北多摩西部圏	6	3	7	2		17	1				
11 北多摩南部圏	10	17	2	3	11	35	3	12	14	30	1
12 北多摩北部圏	6	24	3	2	1	118	2		2	6	
13 島しょ圏	1	1					1			2	
合 計	150	622	89	39	74	951	25	18	38	416	20

表7-2 (1) 二次医療圏別定点当たり患者報告数（インフルエンザ・小児科）

2010年第1週～2010年第52週

人／定点			人／定点											
二次医療圏	設置インフルエンザ定点数	インフルエンザ	設置小児科定点数	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
1 区中央部圏	27	30.60	19	19.53	16.22	45.34	336.60	56.95	35.23	10.17	28.97	3.54	36.61	24.59
2 区南部圏	26	49.33	15	20.84	32.17	68.96	538.92	56.38	47.33	11.25	30.73	4.74	68.53	22.77
3 区西南部圏	28	33.11	15	3.48	9.24	39.46	356.19	45.34	33.17	12.74	19.01	1.55	39.35	22.25
4 区西部圏	30	39.39	18	9.33	8.17	55.36	394.54	32.67	45.85	18.91	18.52	2.29	28.61	14.38
5 区西北部圏	40	33.25	20	3.96	5.45	39.04	286.82	41.28	28.55	12.98	20.15	3.78	35.15	19.76
6 区東北部圏	25	43.12	11	7.66	19.70	120.95	424.54	70.23	39.69	60.46	37.94	1.45	82.24	39.46
7 区東部圏	27	49.56	12	19.21	15.83	120.34	636.46	87.23	66.69	27.95	43.45	10.90	106.08	39.41
8 西多摩圏	9	44.44	5	9.45	8.60	38.75	372.70	49.50	23.05	8.80	16.10	3.40	36.00	39.90
9 南多摩圏	28	65.48	12	33.61	11.14	226.14	853.08	162.44	72.50	31.22	60.69	4.25	100.31	98.72
10 北多摩西部圏	13	35.23	6	0.83	2.83	23.33	217.17	47.00	16.00	12.83	13.00	0.67	24.00	24.83
11 北多摩南部圏	21	43.10	10	8.49	5.27	50.36	232.41	55.66	37.65	15.71	30.27	0.61	60.09	34.19
12 北多摩北部圏	14	66.86	6	56.33	27.00	118.83	547.33	112.00	67.17	25.00	49.33	1.33	116.00	73.00
13 島しょ圏	2	116.50	1	4.00	6.00	28.00	3.00	33.00	5.00		11.00		12.00	209.00

第7表-2 (2) 二次医療圏別定点当たり患者報告数（小児科・眼科・基幹）

2010年第1週～2010年第52週

二次医療圏	人／定点			設置眼科 定点数	人／定点		設置基幹 定点数	人／定点			
	設置小児科 定点数	不明発しん 症	M C L S (川崎病)		急性出血性 結膜炎	流行性角結 膜炎		細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎 (オウム病は除く)
1 区中央部圏	19	1.17	1.84	2	0.50	51.00	4	0.25	2.58	7.17	0.75
2 区南部圏	15	4.38	0.27	3	0.33	18.00	1				
3 区西南部圏	15	2.03	0.20	4	1.75	20.08	3	0.50			
4 区西部圏	18	3.08	0.28	4	0.50	36.83	4	0.75	1.75	32.75	0.50
5 区西北部圏	20	3.79	0.20	6	1.17	17.07	2		0.50	2.00	
6 区東北部圏	11	7.31	0.73	4	9.75	27.50	1			201.00	14.00
7 区東部圏	12	3.87	0.50	4	0.75	24.25	1				
8 西多摩圏	5	2.00	0.80	1	1.00	8.00	1	1.00	4.00	14.00	
9 南多摩圏	12	16.33	0.83	4	0.25	21.67	1				
10 北多摩西部圏	6	0.50	1.17	2		8.50	1				
11 北多摩南部圏	10	1.86	0.20	3	3.67	11.83	3	4.00	5.17	12.50	0.33
12 北多摩北部圏	6	4.00	0.50	2	0.50	59.00	2		1.00	3.00	
13 島しょ圏	1	1.00					1			2.00	

表8-1 月別患者報告数（基幹）
2010年1月～2010年12月

月	報告基幹 定点数	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	緑膿菌感染症 薬剤耐性
1月	24	74	51	0
2月	23	66	28	2
3月	23	75	66	0
4月	24	125	54	1
5月	24	109	88	1
6月	24	140	59	2
7月	24	142	55	5
8月	24	132	32	4
9月	23	123	27	3
10月	23	116	49	3
11月	24	114	56	2
12月	24	96	70	3
合 計		1,312	635	26

表8-2 月別定点当たり患者報告数（基幹）
2010年1月～2010年12月

月	報告基幹 定点数	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症	ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症	緑膿菌感染症 薬剤耐性
1月	24	3.08	2.13	0.00
2月	23	2.87	1.22	0.09
3月	23	3.26	2.87	0.00
4月	24	5.21	2.25	0.04
5月	24	4.54	3.67	0.04
6月	24	5.83	2.46	0.08
7月	24	5.92	2.29	0.21
8月	24	5.50	1.33	0.17
9月	23	5.35	1.17	0.13
10月	23	5.04	2.13	0.13
11月	24	4.75	2.33	0.08
12月	24	4.00	2.92	0.13
平 均		4.61	2.23	0.09

表8-3 月別・性別患者報告数（基幹） 2010年1月～2010年12月

月	メチシリン耐性黄色 ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性 肺炎球菌感染症		薬剤耐性 緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
1月	50	24	26	25		
2月	45	21	16	12	2	
3月	48	27	42	24		
4月	86	39	26	28	1	
5月	64	45	40	48	1	
6月	89	51	43	16	1	1
7月	77	65	36	19	4	1
8月	90	42	22	10	2	2
9月	78	45	20	7	2	1
10月	77	39	29	20	1	2
11月	72	42	33	23	1	1
12月	61	35	44	26	2	1
合計	837	475	377	258	17	9

表8-4 年齢階級別患者報告数（基幹） 2010年1月～2010年12月

年齢階級	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		ペニシリン耐性肺炎球菌感染症		薬剤耐性緑膿菌感染症	
	男	女	男	女	男	女
0歳	60	72	57	43	0	0
1～4歳	43	47	163	134	0	0
5～9歳	18	13	26	14	0	0
10～14歳	16	3	4	0	0	0
15～19歳	2	3	3	0	1	0
20～24歳	4	1	0	1	0	0
25～29歳	12	5	1	4	0	0
30～34歳	13	6	7	3	0	0
35～39歳	12	22	4	3	0	0
40～44歳	8	3	3	4	2	2
45～49歳	19	4	2	0	0	0
50～54歳	29	10	8	0	0	0
55～59歳	38	10	8	3	0	1
60～64歳	71	21	7	9	1	1
65～69歳	68	25	18	5	1	1
70歳以上	424	230	66	35	12	4
合 計	837	475	377	258	17	9
定点当たり報告数	35.32	20.03	15.90	10.86	0.72	0.38
前年定点当たり報告数	34.21	19.54	13.21	9.79	0.58	0.33
当年／前年	1.03	1.03	1.20	1.11	1.23	1.14

表9-1 月別患者報告数（STI）

2010年1月～2010年12月

(男女計)		人					
月	報告STI定点数	性器クラミジア感染症	性器ヘルペス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膺トリコモナス症	梅毒様疾患
1月	55	188	110	79	74	11	8
2月	55	185	98	77	68	14	4
3月	54	206	99	60	92	15	5
4月	55	205	104	62	77	13	4
5月	55	209	88	78	105	11	7
6月	52	186	102	64	69	10	9
7月	53	195	104	80	113	12	6
8月	53	190	104	74	99	15	6
9月	53	194	92	72	105	12	8
10月	54	227	106	74	91	12	11
11月	54	203	96	63	85	15	6
12月	54	188	91	59	89	10	9
合 計		2,376	1,194	842	1,067	150	83

表9-2 月別定点当たり患者報告数（STI）

2010年1月～2010年12月

(男女計)		人／定点					
月	報告STI定点数	性器クラミジア感染症	性器ヘルペス感染症	尖圭コンジローマ	淋菌感染症	膺トリコモナス症	梅毒様疾患
1月	55	3.42	2.00	1.44	1.35	0.20	0.15
2月	55	3.36	1.78	1.40	1.24	0.25	0.07
3月	54	3.81	1.83	1.11	1.70	0.28	0.09
4月	55	3.73	1.89	1.13	1.40	0.24	0.07
5月	55	3.80	1.60	1.42	1.91	0.20	0.13
6月	52	3.58	1.96	1.23	1.33	0.19	0.17
7月	53	3.68	1.96	1.51	2.13	0.23	0.11
8月	53	3.58	1.96	1.40	1.87	0.28	0.11
9月	53	3.66	1.74	1.36	1.98	0.23	0.15
10月	54	4.20	1.96	1.37	1.69	0.22	0.20
11月	54	3.76	1.78	1.17	1.57	0.28	0.11
12月	54	3.48	1.69	1.09	1.65	0.19	0.17
平 均		3.67	1.85	1.30	1.65	0.23	0.13

表9-3 月別・性別患者報告数 (STI) 2010年1月～2010年12月

人

月	報告 STI 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス 症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	97	91	66	44	49	30	64	10		11	7	1
2月	55	112	73	58	40	46	31	61	7		14	3	1
3月	54	112	94	58	41	44	16	73	19		15	5	
4月	55	123	82	60	44	45	17	67	10	1	12	4	
5月	55	111	98	59	29	63	15	90	15		11	7	
6月	52	106	80	64	38	48	16	60	9		10	9	
7月	53	112	83	61	43	55	25	93	20	1	11	6	
8月	53	114	76	59	45	53	21	89	10		15	6	
9月	53	113	81	53	39	51	21	91	14		12	8	
10月	54	126	101	70	36	52	22	78	13		12	10	1
11月	54	109	94	59	37	49	14	76	9		15	6	
12月	54	108	80	56	35	39	20	78	11		10	8	1
合 計		1,343	1,033	723	471	594	248	920	147	2	148	79	4

表9-4 月別・性別定点当たり患者報告数 (STI) 2010年1月～2010年12月

人

月	報告 STI 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス 症		梅毒様疾患	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
1月	55	1.76	1.65	1.20	0.80	0.89	0.55	1.16	0.18	0.00	0.20	0.13	0.02
2月	55	2.04	1.33	1.05	0.73	0.84	0.56	1.11	0.13	0.00	0.25	0.05	0.02
3月	54	2.07	1.74	1.07	0.76	0.81	0.30	1.35	0.35	0.00	0.28	0.09	0.00
4月	55	2.24	1.49	1.09	0.80	0.82	0.31	1.22	0.18	0.02	0.22	0.07	0.00
5月	55	2.02	1.78	1.07	0.53	1.15	0.27	1.64	0.27	0.00	0.20	0.13	0.00
6月	52	2.04	1.54	1.23	0.73	0.92	0.31	1.15	0.17	0.00	0.19	0.17	0.00
7月	53	2.11	1.57	1.15	0.81	1.04	0.47	1.75	0.38	0.02	0.21	0.11	0.00
8月	53	2.15	1.43	1.11	0.85	1.00	0.40	1.68	0.19	0.00	0.28	0.11	0.00
9月	53	2.13	1.53	1.00	0.74	0.96	0.40	1.72	0.26	0.00	0.23	0.15	0.00
10月	54	2.33	1.87	1.30	0.67	0.96	0.41	1.44	0.24	0.00	0.22	0.19	0.02
11月	54	2.02	1.74	1.09	0.69	0.91	0.26	1.41	0.17	0.00	0.28	0.11	0.00
12月	54	2.00	1.48	1.04	0.65	0.72	0.37	1.44	0.20	0.00	0.19	0.15	0.02

表9-5 保健所別、二次医療圏別患者報告数（STI） 2010年1月～2010年12月

人

保健所	設置 定点数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス 感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膣トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	110	13	44	2	33		98			1	1		286	16
中央区	3	100	38	15	1	4	5	27	3		9			146	56
みなと	2	118	60	298	101	109	13	60	5		2	5		590	181
新宿区	6	339	106	173	99	256	88	287	55		11	54		1,109	359
文京	1	60		13		16		37						126	
台東	3		35		22		1		1		7				66
墨田区	2	18	7	10	8	9	8	16	2		8		2	53	35
江東区	2	120	17	51	10	34	4	97	5		2	5		307	38
品川区	1	8		6		4		17				1		36	
大田区	2	21	51		1		1	13						34	53
渋谷区	5	60	43	32	76	9	47	18	4		8	1	2	120	180
中野区	2	55	11	8		5	13	53	2		11	3		124	37
杉並	2	42	18	1	3		1	13	1		1			56	24
池袋	3	168	117	51	56	71	38	87	20		21	8		385	252
北区	1	9	1	4	1	20		4						37	2
荒川区	1		18		8		1		4		2				33
板橋区	2	23	67	2	20	5	1	46	7		4			76	99
足立	2	29	3	10	2	7		24			1			70	6
江戸川	2	42	109	5	7	11	3	14	12		11	1		73	142
町田	1	2	19		10				1	1	20			3	50
多摩立川	2	6	171		13		10	1	20	1	17			8	231
多摩府中	3	11	1			1	2	8						20	3
多摩小平	1		7		6						1				14
八王子市	4	2	121		25		12		5		11			2	174
合 計	55	1,343	1,033	723	471	594	248	920	147	2	148	79	4	3,661	2,051
定点当たり報告数		24.92	19.15	13.41	8.74	11.02	4.60	17.08	2.73	0.04	2.74	1.47	0.07	67.94	38.04
前年定点当たり報告数		22.74	19.77	10.00	7.69	9.00	4.47	14.80	2.82	0.11	2.44	1.58	0.17	58.23	37.36
当年/前年		1.10	0.97	1.34	1.14	1.22	1.03	1.15	0.97	0.33	1.12	0.93	0.44	1.17	1.02

区中央部圏	11	388	146	370	126	162	19	222	9		19	6		1,148	319
区南部圏	3	29	51	6	1	4	1	30				1		70	53
区西南部圏	5	60	43	32	76	9	47	18	4		8	1	2	120	180
区西部圏	10	436	135	182	102	261	102	353	58		23	57		1,289	420
区西北部圏	6	200	185	57	77	96	39	137	27		25	8		498	353
区東北部圏	3	29	21	10	10	7	1	24	4		3			70	39
区東部圏	6	180	133	66	25	54	15	127	19		21	6	2	433	215
南多摩圏	5	4	140		35		12		6	1	31			5	224
北多摩西部圏	2	6	171		13		10	1	20	1	17			8	231
北多摩南部圏	3	11	1			1	2	8						20	3
北多摩北部圏	1		7		6						1				14

表9-6 保健所別、二次医療圏別定点当たり患者報告数（STI） 2010年1月～2010年12月

人／定点

保健所	設置 定点 数	性器クラミジア 感染症		性器ヘルペス ウイルス 感染症		尖圭 コンジローマ		淋菌感染症		膺トリコモナス 症		梅毒様疾患		合 計	
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
千代田	2	55.00	6.50	22.00	1.00	16.50		49.00			0.50	0.50		143.00	8.00
中央区	3	33.33	12.67	5.00	0.33	1.33	1.67	9.00	1.00		3.00			48.67	18.67
みなと	2	59.00	30.00	149.00	50.50	54.50	6.50	30.00	2.50		1.00	2.50		295.00	90.50
新宿区	6	49.14	15.52	25.05	14.50	37.05	12.76	41.86	8.12		1.57	7.81		160.90	52.48
文京	1	60.00		13.00		16.00		37.00						126.00	
台東	3		17.50		11.00		0.50		0.50		3.50				33.00
墨田区	2	9.00	3.50	5.00	4.00	4.50	4.00	8.00	1.00		4.00		1.00	26.50	17.50
江東区	2	60.00	8.50	25.50	5.00	17.00	2.00	48.50	2.50		1.00	2.50		153.50	19.00
品川区	1	8.00		6.00		4.00		17.00				1.00		36.00	
大田区	2	10.50	25.50		0.50		0.50	6.50						17.00	26.50
渋谷区	5	14.82	10.43	7.90	18.30	2.27	11.10	4.17	0.90		2.08	0.20	0.45	29.35	43.27
中野区	2	27.50	5.50	4.00		2.50	6.50	26.50	1.00		5.50	1.50		62.00	18.50
杉並	2	21.00	9.50	0.50	1.50		0.50	6.50	0.50		1.00			28.00	13.00
池袋	3	56.00	39.00	17.00	18.67	23.67	12.67	29.00	6.67		7.00	2.67		128.33	84.00
北区	1	9.00	1.00	4.00	1.00	20.00		4.00						37.00	2.00
荒川区	1		18.00		8.00		1.00		4.00		2.00				33.00
板橋区	2	11.50	33.50	1.00	10.00	2.50	0.50	23.00	3.50		2.00			38.00	49.50
足立	2	14.50	1.50	5.00	1.00	3.50		12.00			0.50			35.00	3.00
江戸川	2	21.00	54.50	2.50	3.50	5.50	1.50	7.00	6.00		5.50	0.50		36.50	71.00
町田	1	2.00	19.00		10.00				1.00	1.00	20.00			3.00	50.00
多摩立川	2	3.00	90.50		6.50		5.00	0.50	10.00	0.50	8.50			4.00	120.50
多摩府中	3	3.67	0.33			0.33	0.67	2.67						6.67	1.00
多摩小平	1		7.00		6.00						1.00				14.00
八王子市	4	0.50	30.25		6.25		3.00		1.25		2.75			0.50	43.50
合 計	55	1,343	1,033	723	471	594	248	920	147	2	148	79	4	3,661	2,051
定点当たり報告数		24.92	19.15	13.41	8.74	11.02	4.60	17.08	2.73	0.04	2.74	1.47	0.07	67.94	38.04

区中央部圏	11	38.80	14.60	37.00	12.60	16.20	1.90	22.20	0.90		1.90	0.60		104.36	29.00
区南部圏	3	9.67	17.00	2.00	0.33	1.33	0.33	10.00				0.33		23.33	17.67
区西南部圏	5	14.82	10.43	7.90	18.30	2.27	11.10	4.17	0.90		2.08	0.20	0.45	24.00	36.00
区西部圏	10	40.26	12.55	16.85	9.48	24.15	9.48	32.69	5.43		2.13	5.30		128.90	42.00
区西北部圏	6	33.33	30.83	9.50	12.83	16.00	6.50	22.83	4.50		4.17	1.33		83.00	58.83
区東北部圏	3	9.67	7.00	3.33	3.33	2.33	0.33	8.00	1.33		1.00			23.33	13.00
区東部圏	6	30.00	22.17	11.00	4.17	9.00	2.50	21.17	3.17		3.50	1.00	0.33	72.17	35.83
南多摩圏	5	0.80	28.00		7.00		2.40		1.20	0.20	6.20			1.00	44.80
北多摩西部圏	2	3.00	90.50		6.50		5.00	0.50	10.00	0.50	8.50			4.00	115.50
北多摩南部圏	3	3.67	0.33			0.33	0.67	2.67						6.67	1.00
北多摩北部	1		7.00		6.00						1.00				14.00

表9－7 年齢階級別患者報告数（STI） 2010年1月～2010年12月

人

年齢階級	性器クラミジア感染症		性器ヘルペスウイルス感染症		尖圭コンジローマ		淋菌感染症		膺トリコモナス症		梅毒様疾患		合 計	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
0歳														
1～4歳														
5～9歳														
10～14歳		5				1		2		1				9
15～19歳	35	120	2	12	8	15	21	18		9			66	174
20～24歳	180	292	42	105	58	70	146	59	1	26	8		435	552
25～29歳	256	293	84	92	80	65	210	41		33	12		642	524
30～34歳	257	187	124	87	112	52	190	9		18	21	1	704	354
35～39歳	212	75	111	44	111	24	140	10		17	16	1	590	171
40～44歳	166	30	94	42	90	8	85	4	1	15	12	1	448	100
45～49歳	108	18	98	20	72	5	61	2		14	2		341	59
50～54歳	54	6	61	15	26	4	25	1		6	6		172	32
55～59歳	36	3	42	12	20	2	18	1		2	1		117	20
60～64歳	22	4	27	7	10	1	17			2			76	14
65～69歳	12		18	11	5	1	3			1		1	38	14
70歳以上	5		20	24	2		4			4	1		32	28
合 計	1,343	1,033	723	471	594	248	920	147	2	148	79	4	3,661	2,051

第 2 章

東京都感染症発生動向調査事業における病原体検索情報

感染症法により位置づけられた感染症発生動向調査事業において、地方感染症情報センターは患者情報と病原体情報を収集・分析し、速やかに医師会等の関係機関に提供・公開することとされている。これに基づいて、東京都健康安全研究センターは、病原体定点などの医療機関から搬入された検体について病原体の検索を行い「東京都感染症週報」及び「東京都微生物検査情報」に病原体情報としてまとめ、関係機関に提供・公開している。以下、ウイルス検査、細菌検査、性感染症の検査結果について年報としてまとめた。

1 ウイルス検査結果

(1) 小児科・基幹病原体定点から搬入された検体の検査結果

ア 臨床診断名別にみた検体搬入状況

2010年1月から12月末までの間に、東京都内の小児科、眼科及び基幹病原体定点より2,299件の検体が搬入された。その内訳は、咽頭拭い液1,336件、髄液350件、糞便296件、鼻汁170件、血液54件、尿42件、結膜拭い液38件及びその他（胸水、皮膚病巣等）13件であった。

表1. 臨床診断名別にみた検体搬入状況

診断名		総 計	検 体 種							
			咽 頭 拭 い 液	髄 液	糞 便	鼻 汁	血 液	尿	結 膜 拭 い 液	そ の 他
呼吸器系疾患	上気道炎	245	219	11	3	12				
	下気道炎	336	299	8	9	16		2		2
	インフルエンザ	193	70	2	1	120				
	RSウイルス感染症	57	48	2	2	4		1		
	咽頭結膜熱	43	39			1		1	2	
	マイコプラズマ	27	24		1	1				1
	不明熱	68	35	16	7	6	3	1		
感染性	胃腸炎	231	13	4	213		1			
神経系疾患	無菌性髄膜炎	172	28	129	6		5	3		1
	けいれん	121	20	93	5	2	1			
	脳炎・脳症	76	17	32	15	2	3	7		
	脊髄炎	9	3	3				3		
発しん性疾患	手足口病	59	58							1
	伝染性紅斑	29	28				1			
	川崎病	28	27	1						
	突発性発しん	17	12	3	1		1			
	ヘルパンギーナ	14	14							
	水痘	12	8	1	1			1		1
	口内炎	12	12							
	麻しん	5	3			1		1		
	不明発しん症	229	210	3	7	1	6			2
流行性耳下腺炎		80	72	5	1		1	1		
流行性角結膜炎		35							35	
リンパ節炎		23	21		2					
敗血症		22	4	15	2		1			
デング熱		21					21			
ギランバレー症候群		11	3	2	3			3		
その他		124	49	20	17	4	10	18	1	5
総計		2299	1336	350	296	170	54	42	38	13

臨床診断名からみた搬入検体数は、呼吸器系疾患 969 件（上気道炎 245 件、下気道炎 336 件、インフルエンザ 193 件、RS ウイルス感染症 57 件、咽頭結膜熱 43 件、マイコプラズマ感染症 27 件、不明熱 68 件）、感染性胃腸炎 231 件、神経系疾患 378 件（無菌性髄膜炎 172 件、けいれん 121 件、脳炎・脳症 76 件、脊髄炎 9 件）、発しん性疾患 405 件（手足口病 59 件、伝染性紅斑 29 件、川崎病 28 件、突発性発しん 17 件、ヘルパンギーナ 14 件、水痘 12 件、口内炎 12 件、麻しん 5 件、不明発しん症 229 件）、流行性耳下腺炎 80 件、流行性角結膜炎 35 件、リンパ節炎 23 件、敗血症 22 件、デング熱 21 件、ギランバレー症候群 11 件、「その他」124 件であった。「その他」には尿路感染症、心筋炎、肝機能障害、子宮内感染症、フィッシャー症候群等が含まれる。また診断名の記載のないものが 11 件あった。

イ 臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

搬入された検体 2,299 件のうち、主に血液を除く 2,245 件を対象に、細胞培養（HeLa、Hep-2、RD-18S、MDCK、Vero、B95a、LLCMK2、C6/36 細胞等）及び乳飲みマウスによるウイルス分離試験と酵素抗体法によるロタウイルス抗原の検出を行った結果、331 件のウイルスが分離検出された（表 2）。分離されたウイルスの内訳は、インフルエンザウイルス 91 株（27.5%）、アデノウイルス 128 株（38.7%）、ポリオウイルス 24 株（7.3%）、ムンプスウイルス 23 株（6.9%）、コクサッキーウイルス 15 株（4.5%）、エコーウイルス 12 株（3.6%）、単純ヘルペスウイルス 9 株（2.7%）、RS ウイルス 2 株（0.6%）、エンテロウイルス 71 型 1 株（0.3%）であった。A 群ロタウイルス抗原は 26 件（7.9%）が確認された。

表 2．臨床診断名別にみたウイルス分離検出状況

	検査検体数	総計	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RS ウイルス感染症	マイコプラズマ感染症	咽頭結膜熱	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	脳炎・脳症	脊髄炎	手足口病	伝染性紅斑	川崎病	突発性発しん	ヘルパンギーナ	水痘	口内炎	不明発しん症	ムンプス	流行性角結膜炎	リンパ節炎	その他
分離ウイルス		2245	245	336	193	57	27	43	65	230	167	73	9	59	28	28	16	14	12	12	223	79	35	23	114
インフルエンザ	AH1pdm09亜型	84	1	4	79																				
	AH3亜型	4	1		3																				
	B型	3			3																				
	1型	22	4	8	1			1		2				1			1		1		3				
	2型	47	11	7	1	2		4	1	7	1	1			1	1			1		3	3			3
	3型	27	8	2				6		4						1					2		4		
	5型	9	5	1																1	1				1
	6型	4		1				2															1		
	7型	1	1																				1		
	11型	1																							1
	31型	2		1						1															
	37型	9																					9		
	41型	6								6															
	1型	7		1						5											1				
	2型	11		1						8											1				1
	3型	6		1			1			2				1								1			
	A群4型	4	1	1														2			1				
	B群1型	2	1					1																	
	B群4型	8	5	1													1					1			
	B群5型	1																			1				
	3型	3																						1	2
	6型	4								1	2						1								
	14型	1									1														
	25型	1									1														
	30型	3	1							2															
エンテロ	71型	1	1																						
単純ヘルペス	1型	9	2						1				1								3		1		1
ムンプス		23									5											18			
RS		2		2																					
A群ロタ		26								26															
総計		331	42	30	87	2	1	14	2	62	12	1	1	2	1	2	3	2	2	4	13	23	15	1	9

2010 年最も多く分離されたウイルスは表 2 に示したように、新型インフルエンザ A/H1N1pdm09 亜型（84 株）で、インフルエンザ患者の検体から 79 株分離された。この他、下気道炎（4 株）、上気道

炎（1株）、患者の検体からも分離された。季節性インフルエンザの原因ウイルスとしては AH3 亜型 4 株、B 型 3 株が分離された。

次に多く分離されたのは、アデノウイルス 2 型（47 株）で、上気道炎（11 株）、下気道炎（7 株）、胃腸炎患者検体（7 株）等から多く分離された。同ウイルスは他にも 3 型が咽頭結膜熱患者検体から 6 株、37 型が流行性角結膜炎患者検体から 9 株分離された。

ムンプスウイルスは 23 株が分離され、昨年と同様にムンプス感染症患者検体(18 株)と、無菌性髄膜炎患者（5 株）検体から分離されていた。

胃腸炎患者検体から、酵素抗体法により A 群ロタウイルス 26 件が確認された。

ウ 臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

臨床診断名別にみた遺伝子検出状況を表 3 及び図 1 に示した。

表 3．臨床診断名別にみたウイルス遺伝子検出状況

	検査総数	陽性総数	上気道炎	下気道炎	インフルエンザ	RSウイルス感染症	マイコプラズマ感染症	咽頭結膜熱	不明熱	感染性胃腸炎	無菌性髄膜炎	けいれん	脳炎	脊髄炎	手足口病	伝染性紅斑	川崎病	突発性発しん	ヘルパンギーナ	水痘	口内炎	麻疹	不明発しん症	流行性角結膜炎	ムンプス	リンパ節炎	デング熱	その他
検査検体数	2293	1261	245	336	193	57	27	43	68	231	172	121	76	9	59	29	28	17	14	12	12	5	229	35	80	23	21	157
インフルエンザ	AH1pdm09 INH3亜型 B型	1039	127 27 6	1 1 6	6 26 6	118 26 6	1 1 1	2 1 1	17 3 2	6 4 1	29 22 4	4 2 3	1 1 1	1 1 19	5 1 4	4 1 1	4 1 1	1 2 10	1 1 1	1 1 1	25 4 11	15 8 11	8 1 2	1 1 1	1 1 1	1 1 1	1 1 1	6 1 1
アデノ	2103	264	60	50	10	11	2	17	6	29	4	3	1	1	5	4	4	1		1			25	15	8	1		6
エンテロ	ポリオ コクサッキーA群 コクサッキーB群 エコー 68型 71型 型別不明	2079	48 92 14 22 33 18 71	6 26 6 3 7 2 9	8 6 1 2 16 2 58	1 1 1 1 2 1 8	1 1 1 1 1 1 3	1 2 3 1 1 3 5	6 2 1 1 1 1 1	29 22 4 1 1 1 16	4 2 3 9 1 1 4	3 1 1 9 2 2 4	1 1 19 1 1 9 12	5 1 4 5 6	4 1 1 1 1 1 1	4 1 1 1 1 1 1	4 1 2 1 1 1 1	1 2 10 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	1 4 11 2 3 1 23	15 8 11 2 3 1 1	8 1 2 1 1 1 5	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	1 1 1 1 1 1 1	6 1 1 2 1 1 8		
ライノ	1型 2型	497	19	1					1		1		2	1							7	1	16	1	2			3
単純ヘルペス	1型 2型	497	1								1																	
サイトメガロ	323	18		1													1						14		1			1
EB	502	73	10	2							5	2	4		2	1	1					11		13	6			16
水痘帯状疱疹	62	6									2									4								
ヒトヘルペス	6型 7型	338	105 29	6 2	2 2	1 1	2 1	1 2	3 2		2 1	9 4	1 1		10 5	1 5		9 1		1 1		54 14						2
麻疹	A型	164	2																			2						
ムンプス	254	66									18														47	1		
パラインフル	1型 2型 3型	159	11 2 27	6 1 7	5 1 15		1 1 1		1 1 1			1 1									1							
RS	392	137	13	73	1	41	3	3					1		1								1					1
ヒトメタニューモ	94	32	2	26			2	1																	1			
パルボB19	123	28					1									14						13						
デング	1型 2型 3型	16	1 1 5																									1 1 4
A群口タウイルス	234	16								16																		
ノロ	G I G II	249	2							1																		1
サボ	249	80		4						73		1																2
マイコプラズマ・ニューモニエ	249	8								8																		
総計	99	22		15			5		1														1					
総計	9722	1596	198	297	176	65	19	33	25	177	52	31	10	2	68	25	13	15	13	8	10	2	197	17	80	11	6	46

搬入された総検体 2,299 件中 2,293 件を対象に遺伝子検索を実施した結果、1,261 検体(55.0%)から 1,595 件のウイルス遺伝子が検出された（複数種のウイルス遺伝子の同時検出例を含む）。陽性例の内訳をみると、エンテロウイルス が 298 件（23.6%）、と最も多く、以下アデノウイルス 264 件（20.9%）、ライノウイルス 183 件（14.5%）、インフルエンザウイルス 160 件（12.7%）、RS ウイルス 137 件（10.9%）、ヒトヘルペスウイルス 134 件（10.6%）、ノロウイルス 82 件（6.5%）、EB ウイルス 73 件（5.8%）、ムンプスウイルス 66 件（5.2%）、パラインフルエンザウイルス 40 件（3.2%）、ヒトメタニューモウイルス 32 件（2.5%）、パルボウイルス B19 28 件（2.2%）、マイコプラズマ・ニューモニエ 22 件（1.7%）、単

純ヘルペスウイルス 20 件 (1.6%)、サイトメガロウイルス 18 件 (1.4%)、サポウイルス 8 件 (0.6%)、デングウイルス 7 件 (0.5%)、水痘帯状疱疹ウイルス 6 件 (0.5%)、麻疹ウイルス 2 件 (0.2%)、であった。

エンテロウイルスについては、ダイレクトシーケンス法により遺伝子増幅産物の遺伝子配列を決定し、NCBI（米国生物工学情報センター）の遺伝子データベースを使用して遺伝子の相同性検索を行い、検出遺伝子のさらなる分類を試みた。エンテロウイルス遺伝子検査結果が陽性となった 298 検体の遺伝子を解析した結果は、コクサッキーウイルス A 群 92 件、コクサッキーウイルス B 群 14 件、ポリオウイルス 48 件、エコーウイルス 22 件、エンテロウイルス 68 型 33 件、同 71 型 18 件、型別不明 71 件であった。

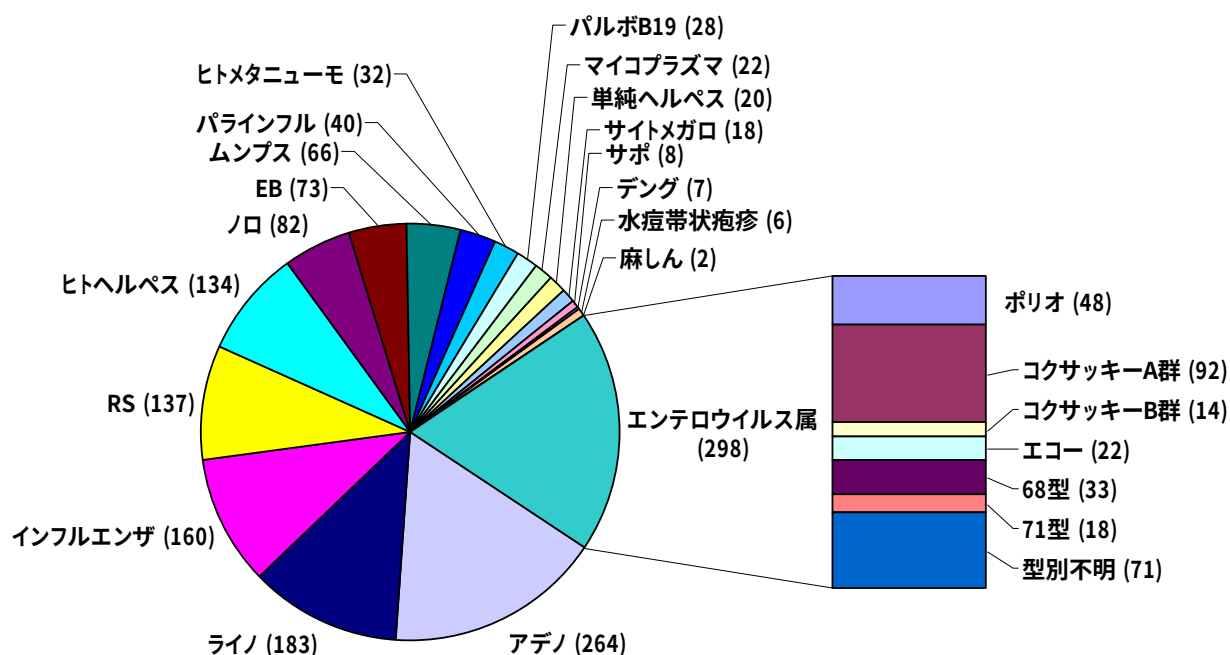


図1．ウイルス遺伝子検出数（陽性例：1,580 件）

この解析の結果、本年はコクサッキーウイルス A 群の遺伝子は昨年より 10 倍以上検出されており、(昨年 8 件)、上気道炎患者、ヘルパンギーナ患者ならびに手足口病患者の検体から多数検出されていることが分かった。また、本年はエンテロウイルス 68 型が、主に呼吸器症状を呈する患者から検出された。

パルボウイルス B19 は、本年 28 件検出されており、都内での流行があったことが示唆された。

ムンプスウイルス遺伝子は、流行性耳下腺炎患者検体以外に、無菌性髄膜炎患者からも多く検出されており、無菌性髄膜炎から検出されたウイルスでは最も多かった。

エ 臨床診断名別にみたウイルス検出状況

① 呼吸器系疾患患者検体からのウイルス検出状況

呼吸器感染症である上気道炎、下気道炎、インフルエンザ、咽頭結膜熱、RS ウイルス感染症患者の咽頭拭い液（鼻汁を含む）から検出された上位7種のウイルスのうちインフルエンザウイルスの検出状況を図2に、その他のエンテロウイルス、パラインフルエンザウイルス、アデノウイルス、ライノウイルス、RS ウイルス、ヒトメタニューモウイルスの月別検出状況を図3に示した。

季節性のインフルエンザウイルスの AH3 亜型（香港型）検出は 12 月、B 型は 3 月が検出のピークであったが、年間の検出数はそれぞれ AH3 亜型 27 件、B 型 6 件で、季節性の AH1 亜型（ソ連型）の検出はなかった。新型インフルエンザ A/H1N1pdm09 亜型は、2009 年に発生したパンデミックの大きな流行が 4 月まで続いた。10 月以降のインフルエンザの流行は、A/H1N1pdm09 亜型と AH3 亜型によるものである。

春から初夏に検出されることの多いヒトメタニューモウイルスの検出のピークは 5 月、初夏に流行することが多いパラインフルエンザウイルスは、6 月から 7 月に多く検出された。

一方、毎年夏に多く検出されるアデノウイルスは例年の様な流行は見られず、冬期に多く検出され 11 月に流行のピークが見られた。また、春と秋に流行することの多いライノウイルスは一年を通して検出され、冬に検出のピークを迎えるという今までにない流行状況を呈している。秋から冬にかけて流行が見られる RS ウイルスは 7 月を除きほぼ一年を通して検出され、例年の様な季節性の検出ピークは見られなかった。

エンテロウイルスは、7 月と 10 月をピークとする夏季を中心とした流行が見られた。今年は、遺伝子解析の結果エンテロウイルス 68 型が 33 件検出された。エンテロウイルス 68 型は 1962 年にアメリカで発見されたウイルスで、ライノウイルスとエンテロウイルスの中間的な性質を持つとされ、呼吸器症状を起こすことが知れている。同ウイルスの検出ピークは 11 月であった。

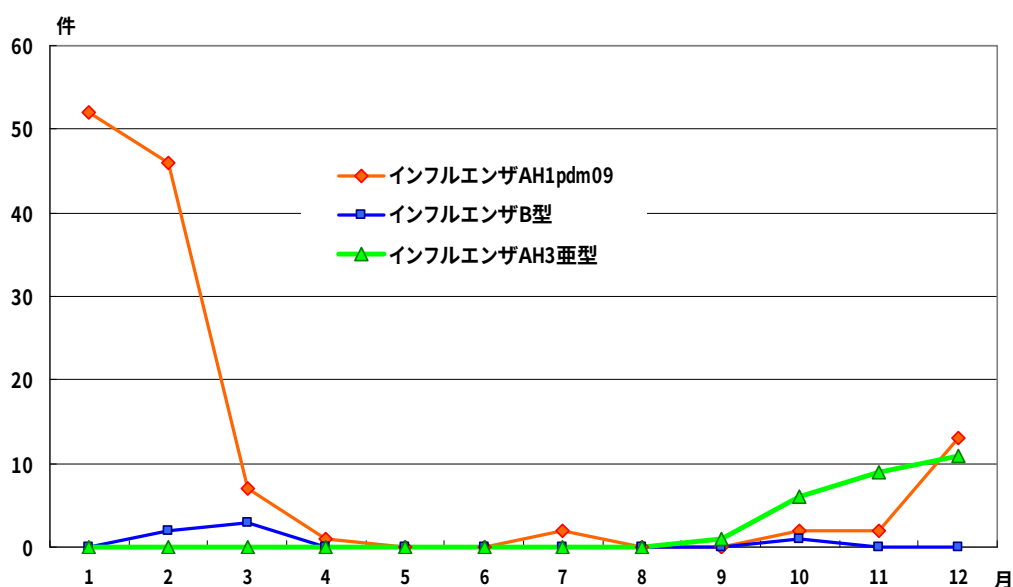


図2．呼吸器系感染症患者検体からのインフルエンザウイルスの月別検出状況

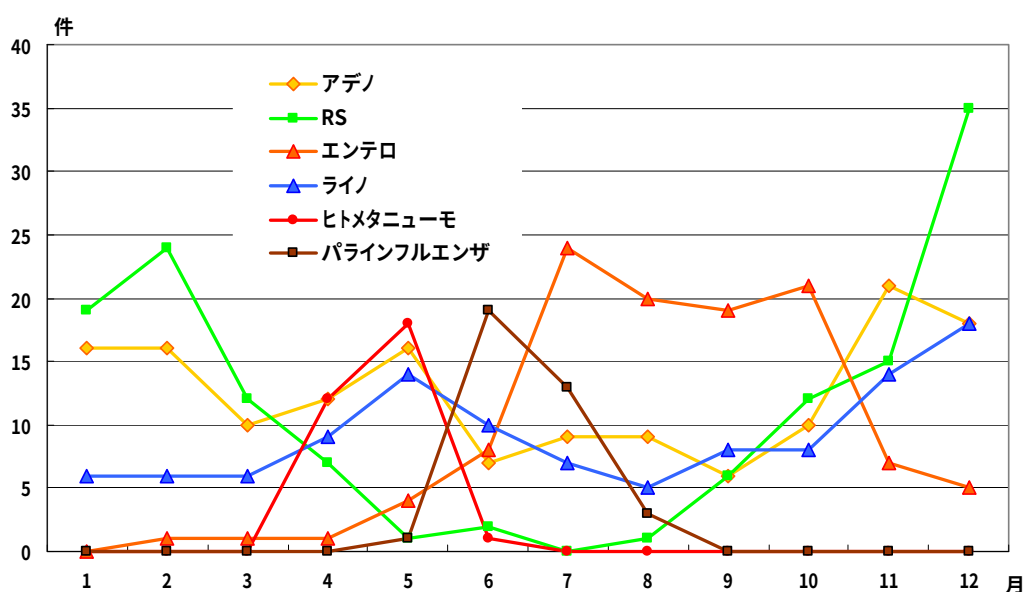


図 3．呼吸器系感染症患者検体からの月別ウイルス検出状況

② 無菌性髄膜炎患者検体からのウイルス検出状況

無菌性髄膜炎患者検体から検出されたエンテロウイルス、ムンプスウイルス及びヘルペスウイルスについて月別の検出状況を図 4 に示した。なお、ヒトヘルペスウイルス、単純ヘルペスウイルス、EB ウイルス等のヘルペスウイルス科に属するウイルスをまとめて「ヘルペス」として計上している。

無菌性髄膜炎は、夏季を中心として流行する中枢神経系の疾患で、毎年夏季に大小の流行を起こすが、原因ウイルスの種類は毎年異なっている。本疾患は、主にエンテロウイルスによって起こることが多いが、ムンプスウイルス、ヘルペスウイルスによっても起こる。2010 年は無菌性髄膜炎患者検体の搬入が少なく、172 件と昨年に比べて検体搬入数は約 1/2 であった（昨年 294 件）。ムンプスウイルスは、2010 年に無菌性髄膜炎患者から一番多く検出されたウイルスで、1 月から 10 月まで検出が続いた。エンテロウイルスは 7 月から 10 月にかけて流行が見られ、エンテロウイルスのひとつであるエコーウイルスが分離されている。検出されたヘルペスウイルスの半数は EB ウイルスによるものであった。

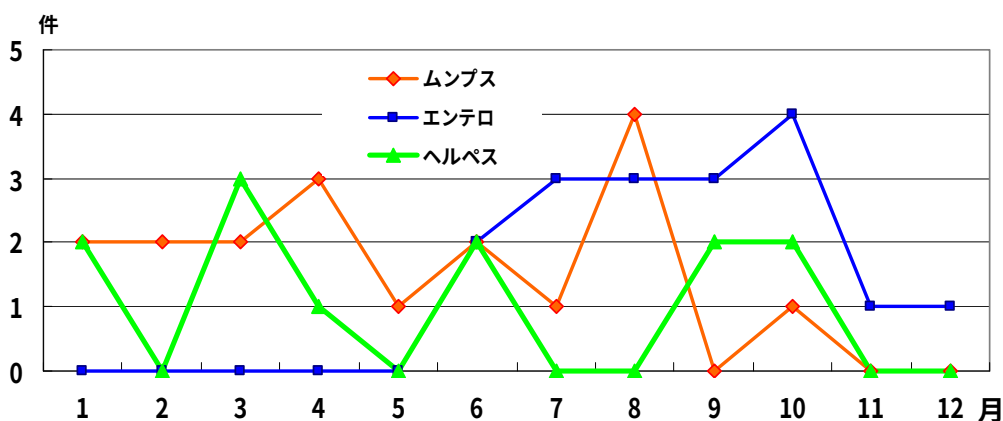


図 4．無菌性髄膜炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

③ 感染性胃腸炎患者検体からのウイルス検出状況

感染性胃腸炎患者検体から、ウイルス分離、遺伝子検索、抗原検出（酵素抗体法）によって検出されたウイルスの月別検出数を図5に示した。ノロウイルスの検出は前年から続く流行のピークが1月に見られ、以降検出数を減少させながら4月まで検出が続き、10月から12月に再び検出数の急激な増加が見られた。毎年、春先から流行の見られることが多いA群ロタウイルスは、2月から6月にかけて検出されていた。エンテロウイルスの夏の検出ピークは、遺伝子解析の結果、ポリオウイルスワクチンに由来するものであることがわかった。

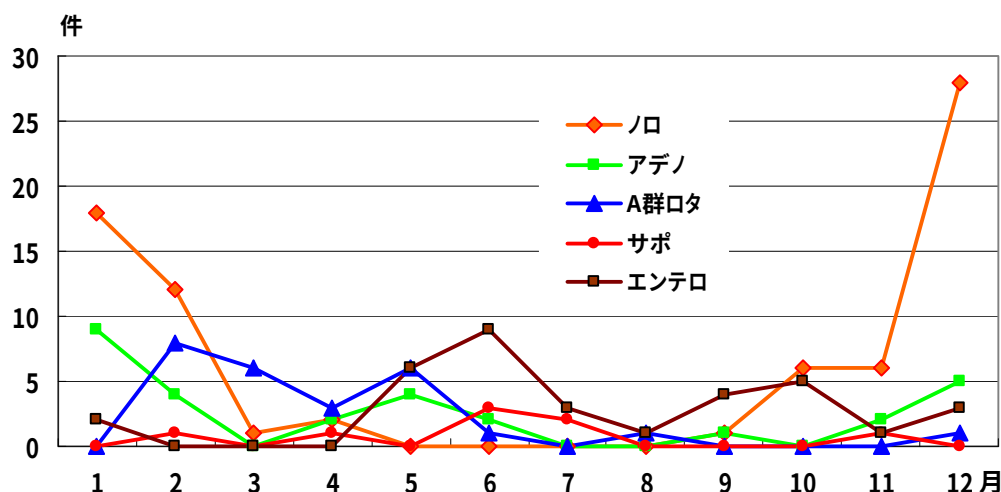


図5．感染性胃腸炎患者検体からの月別ウイルス検出状況

④ 発しん性疾患患者検体からのウイルス検出状況

発しん性疾患（手足口病、伝染性紅斑、川崎病、突発性発しん、ヘルパンギーナ、水痘、口内炎、麻しん）の患者検体176件よりアデノウイルス8株（1型3株、2型3株、3型1株、5型1株）、ポリオウイルス3型1株、コクサッキーウイルスA群4型2株、コクサッキーウイルスB群4型1株、エコーウイルス6型1株、単純ヘルペスウイルス1型3株の計16株が分離された。

遺伝子検出状況を図6に示す。アデノウイルス15件、エンテロウイルス属61件（遺伝子解析；ポリオウイルス1件、コクサッキーウイルスA群32件、同B群1件、エコーウイルス1件、エンテロウイルス68型1件、エンテロウイルス71型10件、型別不明15件）、ライノウイルス19件、ヘルペスウイルス属43件（ヒトヘルペスウイルス6型22件、同7型5件、単純ヘルペスウイルス1型7件、EBウイルス4件、水痘帯状疱疹ウイルス4件、サイトメガロウイルス1件）、パルボB19ウイルス14件、RSウイルス、パラインフルエンザウイルス3型各1件の計154件が検出された。

手足口病の原因ウイルスは、主にコクサッキーウイルスA群とエンテロウイルス71型とされるが、2010年の手足口病患者から分離された主なウイルスは、コクサッキーウイルスA群が19件、エンテロウイルス71型9件、ヒトヘルペスウイルス6型10件であった。

伝染性紅斑の遺伝子陽性例25件では、パルボB19ウイルス遺伝子が14件(56.0%)であった。また、突発性発しん患者検体からの遺伝子検出陽性例15件のうちヒトヘルペスウイルス6型遺伝子が9件(60.0%)を占めていた。口内炎患者検体からは、遺伝子陽性例10件のうち単純ヘルペスウイルス1型遺伝子が7件(70.0%)検出された。

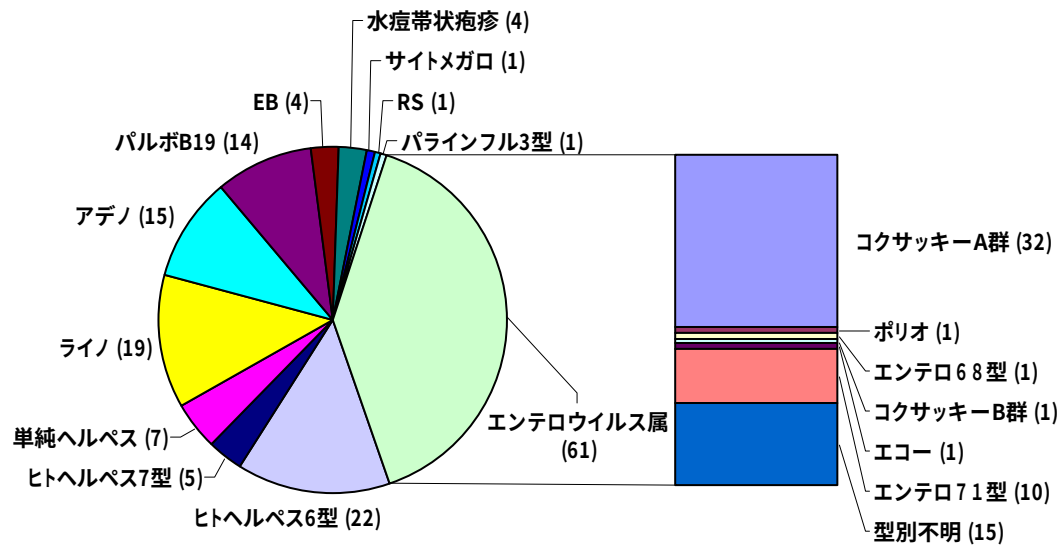


図6．発しん性疾患患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

⑤ 不明発しん症患者検体からのウイルス検出状況（都独自調査疾患）

不明発しん症患者検体 229 件から、アデノウイルス 9 株（1 型 3 株、2 型 3 株、3 型 2 株、5 型 1 株）、ポリオウイルス 2 株（1 型 1 株、2 型 1 株）コクサッキーウイルス A 群 4 型 1 株、コクサッキーウイルス B 群 5 型 1 株が分離された。

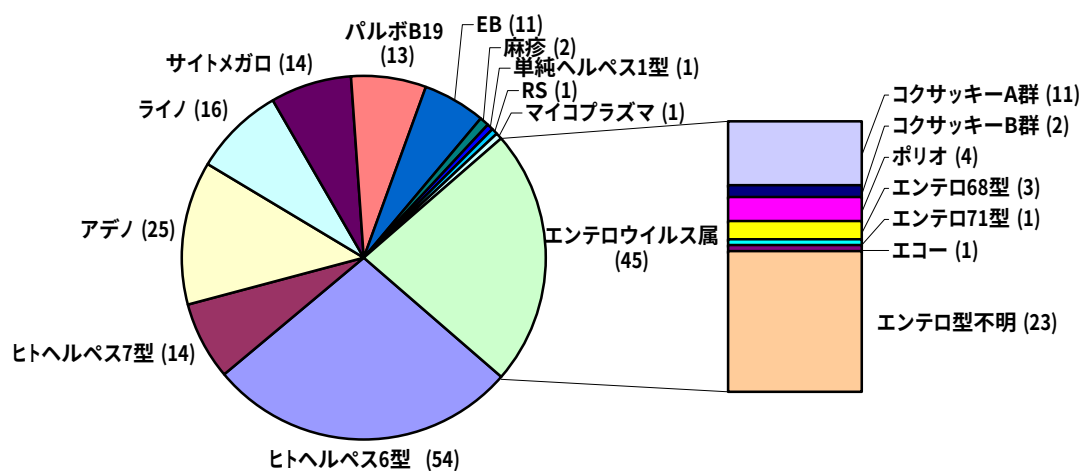


図7．不明発しん症患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

遺伝子検出状況は図 7 に示した。陽性例 197 件の内、ヒトヘルペスウイルスは 68 件 (34.5%) と最も多く、エンテロウイルス 45 件 (22.8%)、アデノウイルス 25 件 (12.7%)、ライノウイルス 16 件 (8.1%)、サイトメガロウイルス 14 件 (7.1%)、さらにパルボウイルス B19 13 件 (6.6%)、EB ウイルス 11 件 (5.6%)、麻疹ウイルス 2 件 (1.0%)、単純ヘルペスウイルス 1 型、RS ウイルス、マイコプラズマの遺伝子がそれぞれ 1 件 (0.5%) 検出された。

⑥ MCLS (川崎病) 患者検体からのウイルス検出状況 (都独自調査疾患) 再掲

MCLS (川崎病) 患者検体 28 件のウイルス分離状況は、アデノウイルス 2 件 (2 型 1 件、3 型 1 件) であった。

遺伝子検出状況を図 8 に示した。13 件からウイルス遺伝子が検出され、ライノウイルスが 6 件 (46.2%)、アデノウイルス 4 件 (30.8%)、またサイトメガロウイルス、エンテロウイルス、EB ウイルスはそれぞれ 1 件 (7.7%) であった。

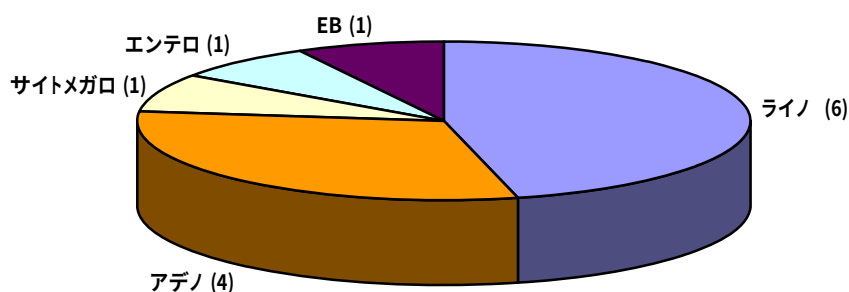


図 8. MCLS (川崎病) 患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

オ 臨床診断名別にみた血中抗体検査状況

2010 年は、都内 3 定点医療機関からデング熱疑い患者の検体が 21 件搬入された。それらの検体および、不明熱性疾患患者検体 1 件の計 22 検体についてデングウイルスの抗体検査を行った結果、デングウイルス IgM が 7 検体から検出された。不明熱性疾患患者の検体は発症後 5 病日で採血したもので、血清検査は IgM 土であったが、遺伝子検査によりデングウイルス 3 型の遺伝子が検出された。

また、都内 4 医療機関からリケッチア症 (紅斑熱、つつが虫病、猫ひっかき病、Q 熱) 疑い患者検体が 8 件搬入され、そのうち 3 件は単項目のリケッチア検査依頼、残り 5 件は複数項目の検査依頼であった。8 件のうち紅斑熱群リケッチア検査の依頼が 6 件で最も多かった。多くは臨床診断上リケッチア症を疑っているものであったが、非定型肺炎、不明熱といった症状で細菌性およびウイルス性疾患に該当しない原因不明の場合に検査を依頼したものも見受けられた。リケッチア症の発生は、春と秋に多いと言われているが検体の搬入時期は、ほとんどが 6～9 月であり、従来の発生時期から若干ずれていることが判明した。検査の結果、つつが虫病 IgG 陽性：1 件、紅斑熱 IgG 陽性：1 件、猫ひっかき病 IgG 弱陽性：1 件の検出が確認された。

カ 東京都における麻しんウイルスの検出状況について

東京都健康安全研究センターでは、2010年7月から「麻しんの病原体レファレンス事業」として、届出のあった麻しん患者を対象に積極的に遺伝子検査を開始した。その後、同年12月からは感染症法に基づく「積極的疫学調査」として検査を行っている。

麻しんウイルスの遺伝子検査は、リアルタイムPCR法と国立感染症研究所の麻しん診断マニュアル（第二版）の「N遺伝子PCR法およびダイレクトシーケンス法」による遺伝子型別検査を併用して行っている。また、2011年4月15日までは、類症鑑別として、ヒトパルボウイルスB19およびヒトヘルペスウイルスの遺伝子検査をNested-PCR法により併せて実施した。

2010年7月1日から12月末日までに、病原体レファレンス事業と積極的疫学調査合わせて19件（26検体）の検査を行った。2010年に実施した19件中麻しんウイルス遺伝子陽性は1件のみであった（図9）。この1件は、麻しんワクチン接種後の患者で、検出されたウイルスの遺伝子型はワクチン株であるA型であった。一方、麻しんウイルスが陰性であった18件中4件（22.2%）からはヒトパルボウイルスB19遺伝子が検出された。

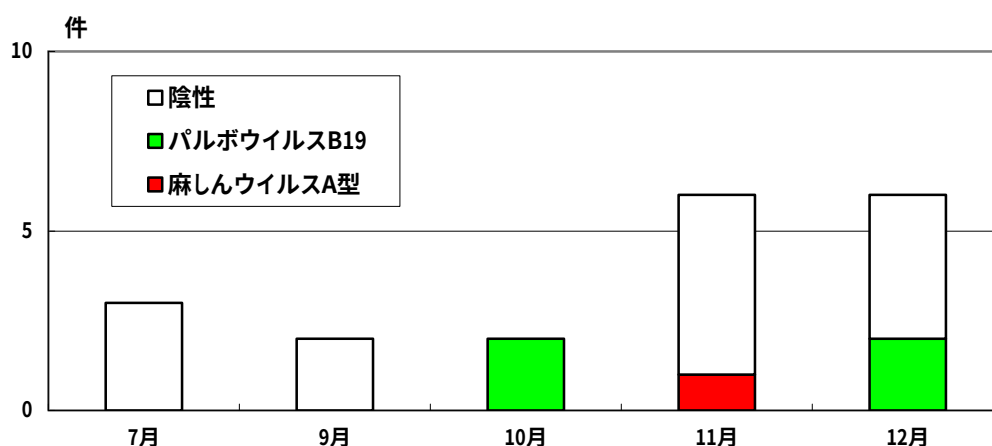


図9．麻しん患者検体からのウイルス遺伝子検出状況

（2）内科病原体定点から搬入された検体の検査結果

インフルエンザウイルスの流行シーズンは毎年9月を境に前シーズンと次シーズンに分けており、2009/2010年シーズン分になる2010年5月に3件（19週はAH3亜型、21、22週はAH1pdm09亜型）、7月に1件（27週はAH3亜型）の検出が見られたが、いずれも散发発生で流行は5月初めには終息していたと思われる。2010/2011年シーズンは、40週（10月4日に採取）に発生したAH3亜型の検出を初発例として2011年4月末までに290件の咽頭ぬぐい液または鼻腔ぬぐい液が搬入された。

インフルエンザウイルスの遺伝子検査を行った結果、AH1pdm09亜型110件、AH3亜型71件、B型42件計223件（76.9%）が陽性となった。また、ウイルス分離試験ではAH1pdm09亜型77株、AH3亜型25株、B型12株の計114株（39.9%）が分離された。

2010/2011年シーズン（2011年4月末まで）におけるインフルエンザの流行は2010年第40週（10月6日）にシーズン初となるAH3亜型が、10月12日にはAH1pdm09亜型が検出され、これ以降2つの亜型による本格的な流行シーズンを迎えた。2010年第50～51週（12月中旬）まではAH3亜型が主な流行株であったが中旬以降、AH1pdm09亜型が優勢となり2011年第6～8週（2月初旬～中旬）までは、

同型が主な流行株となった。その後、再び主たる流行株が入れ替わり、B型も含めた3型の混合感染となった。2011年4月末時点では、B型が主な流行株となったもののAH1pdm09亜型、AH3亜型も散発発生が見られており流行の終息には至っておらず、近年、顕著となっている流行時期の延長が見られている。

2010/2011年シーズンは、2種類のA型インフルエンザウイルスが流行時期を異にして同じ規模で交互に流行を繰り返し、通常のシーズン終盤である3月末には、B型の小流行を交えた3種類のインフルエンザウイルスの混合流行となり、流行規模からは2010/2011年シーズンの主たる流行株はAH1pdm09亜型とAH3亜型の2種類のインフルエンザウイルスであった。

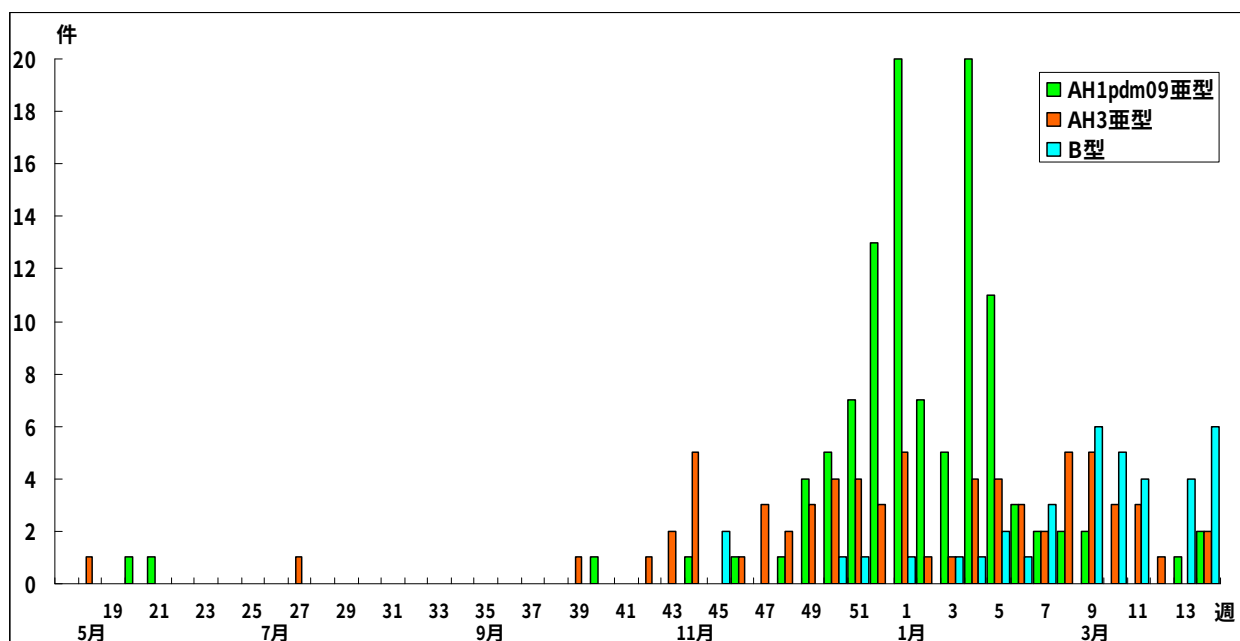


図 10. インフルエンザ病原体定点医療機関からの検体におけるインフルエンザウイルス陽性件数

分離したインフルエンザウイルスの抗原性状を特定するために遺伝子配列の比較ならびにワクチン株抗血清を用いたHI試験による検討を行った。

RT-nested PCR 検査によって得られたインフルエンザ HA(ヘマグルチニン)遺伝子の一部断片を用いてダイレクトシーケンスにより塩基配列を決定し、アミノ酸配列に置換してワクチン株ウイルスならびに過去に流行したウイルス株と遺伝子系統樹上で比較し解析を行った。その結果、AH1pdm09 亜型の流行株は、ワクチン株 (A/California/07/2009、NYMC X-179A : (H1N1) pdm09) の枝の延長上にあり、大きく3グループに分かれていた。現在、国内で発生が見られるのはこの内1グループのみで、さらに12の小グループに細分化されている事が判明した。2010/2011年シーズンのAH1pdm09 亜型株は、この12の小グループのうちの1つに集中しており、2株のみが他の小グループに属していた。これ以外的小グループを形成している系統株に新たな流行株は追加されなかったことから、一部の系統株に特化する方向で変異が進行していることが推察される。2010/2011年シーズンの流行株とワクチン株とのアミノ酸配列を比較すると解析領域中ですべての株が4アミノ酸(共通箇所)で異なっており、さらに1または2アミノ酸が異なっている株も存在した。2011/2012年シーズンのWHOが推奨するAH1型ワクチン株は、引き続き感染拡大の恐れがあるA/California/07/2009株である。

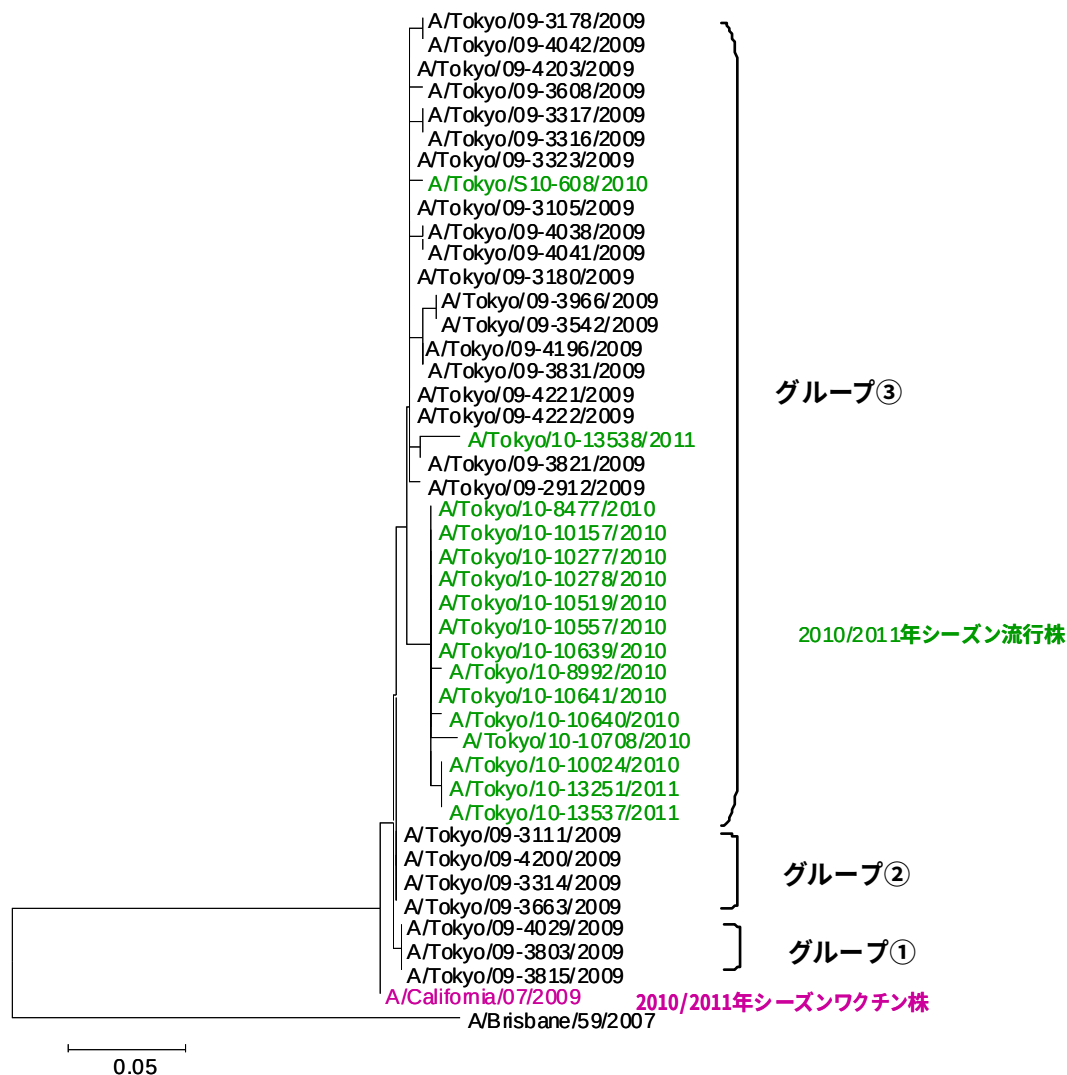


図11. 東京都におけるAH1pdm09亜型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

AH3亜型株のシーズン流行株は、ワクチン株(A/Victoria/210/2009: A/Perth/16/2009類似株)を含む大きな群に属してはいたがワクチン株を含む群と、さらに分枝したところに位置する群との2つのグループに属していた。ワクチン株との解析領域でのアミノ酸相同性は、ワクチン株を含む群が98.0%、含まない群が96.1%であった。アミノ酸相同性では、抗原性に乖離が生じる懸念は低い、系統樹上の位置関係から2つのグループの中間または上位の位置に新しいワクチン株が設定されると最適な効果が得られると思われるが、2011/2012年シーズンのAH3亜型のWHOワクチン推奨株はA/Perth/16/2009類似株であり、日本はA/Victoria/210/2009株がワクチン株に決定した。これらは、新しいワクチン用株として抗原性と増殖性が最適なワクチン株が出現しなかったことが背景にあり、2010/2011年シーズン以降の流行株とは、少しずつ抗原性が乖離してゆくことは避けられない状況にある。

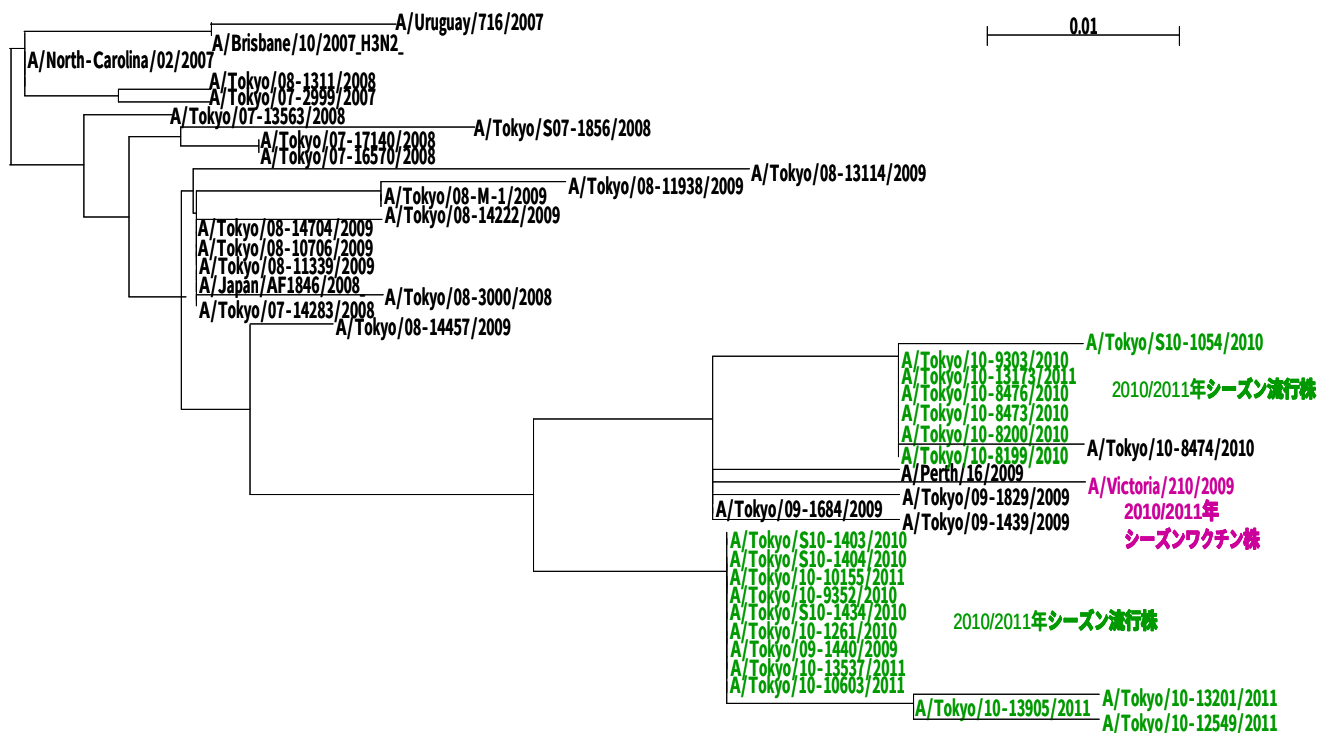


図12. 東京都におけるAH3亜型インフルエンザウイルスのHA遺伝子系統樹

B型のシーズン流行株は、全国的にはVictoria系統株が優勢であったが、山形系統株も検出されており地域によって流行株が異なっている。しかし、東京都では2008/2009年シーズンからワクチン株（B/Brisbane/60/2008）と同様なVictoria系統の株が続いており2010/2011年シーズン検出株もほとんどの株は系統樹上では同様な処に位置している（図13）。しかし、シーズン終盤になってVictoria系統株である旧ワクチン株（B/Malaysia/2506/2004）に近縁な株がわずかに検出された。これらの株の解析領域での2010/2011年シーズンワクチン株とのアミノ酸相同性は、多くの株が100%合致しているが、旧ワクチン近縁株については、97%であった。WHOの2011/2012年シーズンのワクチン推奨株はB/Brisbane/60/2008類似株であることから、B型の主たる流行株に対しては効果が期待できそうである。

一方、ウイルス分離株を国立感染症研究所配布のインフルエンザサーベイランスキットならびにデンカ生研製のワクチン株抗血清を用いたHI試験(0.7%のモルモット赤血球液を使用)に供した結果、AH1pdm09亜型分離株は、A/California/07/2009 : NYMC X-179A株抗血清（ホモHI価320倍）に対して、10～160倍と様々であったが、低HI価（10～20倍）の割合が多く、全国的に抗原変異による赤血球の低凝集性の株が流行している事が報告されたことから、ワクチン株との交差反応性についてはHI試験成績のみで決定できないことが判った。AH3亜型分離株は、A/Victoria/210/2009株抗血清（ホモHI価640倍）に対して、40～1280倍のHI価で、系統樹上でワクチン株を含まないグループの株が若干低いHI価を示したが、ほとんどの株はワクチン株と交差反応性の高い株であることが判った。B型分離株は、Victoria系統のワクチン株であるB/Brisbane/60/2008株抗血清（ホモHI価160倍）に対しては、20～320倍のHI価で、旧ワクチン株であるB/Malaysia/2506/2004株に近縁な株のみ低HI価を示したがMalaysia株抗血清（ホモHI価320倍）に対しては160～320倍のHI価を示した。これよりB型分離株は、それぞれ新旧ワクチン株とは交差反応性の高い株であることが判った。

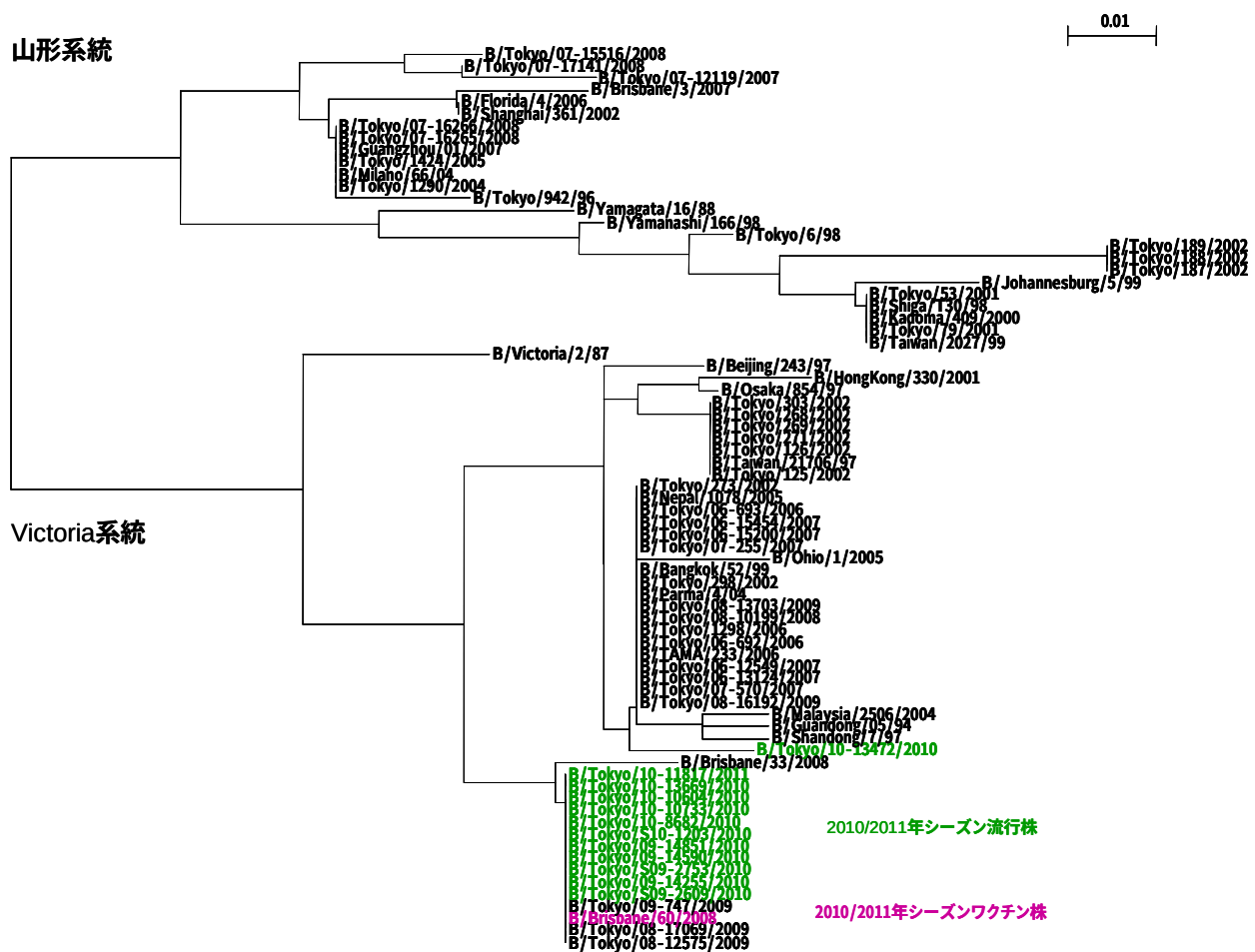


図 13. 東京都における B 型インフルエンザウイルスの HA 遺伝子系統樹

遺伝子配列及び HI 試験の結果から 2010/2011 年シーズンの AH1pdm09 亜型はワクチン株との類似性はあるものの、今後、新しいワクチン株の選定が必要な株であることが判った。AH3 亜型および B 型流行株はワクチン株との類似性が高い株がほとんどであるが一部に類似性が低下した株が存在していたことが判った。今後のシーズンにおけるインフルエンザウイルスの流行拡大を阻止するためには、流行株に抗原性が近縁と思われる新たなワクチン株の選択が必要であると思われる。

2 細菌検査結果

(1) 二類感染症の病原体検索

ア ジフテリア

ジフテリア疑い患者（75 歳、男性）の咽頭拭い液についてジフテリア菌の分離同定および遺伝子検査を実施した。その結果、培養および遺伝子検査ともに陰性であった。

(2) 三類感染症の病原体検索

ア 細菌性赤痢菌

小児科病原体定点から搬入された下痢、腹痛、発熱等を呈した女児（4 歳）の糞便について細菌検査を実施した結果、赤痢菌が検出された。本菌は生化学的および血清学的試験により *S. sonnei* と同定された。患者は中国（ハルビン）から帰国した当日に発熱等の症状が認められて入院しており、輸入例と考えられた。

(3) 四類感染症の病原体検索

ア レジオネラ症

2010 年に当センターに搬入された患者の喀痰 3 件および患者由来株 1 件の合計 4 件を対象とした。喀痰からの菌検出を実施した結果、分離培養検査は全て陰性であったが、いずれの喀痰からも *Legionella pneumophila* の遺伝子が検出された。また、患者由来株 1 件について血清型別試験を行った結果、*L. pneumophila* 1 群であった。

(4) 五類感染症（全数把握対象）の病原体検索

ア 劇症型溶血性レンサ球菌感染症

2010 年に搬入された患者由来株は 11 株で、A 群レンサ球菌が 5 株、B 群レンサ球菌が 1 株、G 群レンサ球菌が 5 株であった。A 群レンサ球菌 5 株の T 血清型および発熱性毒素（SPE）産生性を検査したところ、3 株が T-1 型で SPE A+B 産生株であった。また、B 群の血清型は II 型であり、G 群レンサ球菌 5 株を同定試験した結果、全てが *Streptococcus dysgalactiae* subsp. *equisimilis* と判定された。

イ バンコマイシン耐性腸球菌（VRE）感染症

2010 年に搬入された菌株は、患者由来株 12 株であり、これらの菌について同定試験及び *van* 遺伝子の検出試験を実施した。その結果、7 株は *Enterococcus faecium*、4 株は *E. casseliflavus*、1 株は *E. faecalis* と同定された。*E. faecium* 2 株は *vanA* 遺伝子を保有し、*E. faecium* 5 株および *E. faecalis* 1 株は *vanB* 遺伝子を保有していた。

(5) 五類感染症（定点把握対象）の病原体検索

ア A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎

2010 年に都内の小児科及び基幹病原体定点から送付された検体を対象に、A 群溶血性レンサ球菌の検出および同定を行った。患者由来 46 株及び患者咽頭拭い液から分離した 7 株の合計 53 株について、月別の検出状況をまとめるとともに、T 血清型別を実施した。

T 血清型別では 1 型が 14 株と最も多く、次いで 28 型が 9 株、12 型が 8 株であった。2008 年から 2009 年に急増した 25 型は 1 株も見られなかった。1 型は、53 株中 14 株(26.4%)であり、2009 年の 11.6%

に比べ増加していることが判明した。

表 4. A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎患者から分離された *S. pyogenes* の T 血清型及び月別検出状況

T型	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	計	(%)
1			1	2	2	4	4	1					14	(26.4)
4	2		1										3	(5.6)
6	1												1	(1.9)
11	1												1	(1.9)
12	3		1			1	2	1					8	(15.1)
3/13			1										1	(1.9)
13							1					2	3	(5.6)
28				1	6	1	1						9	(17.0)
その他				1			1		1			1	4	(7.6)
UT		4			2		1	1				1	9	(17.0)
計	7	4	4	4	10	6	10	3	1	0	0	4	53	(100)

UT：型別不能

イ 感染性胃腸炎

小児科病原体定点から搬入された感染性胃腸炎疑い患者の糞便 34 件について細菌検査を実施した。その結果、6 件 (17.6%) から腸管系病原菌が検出された。その内訳は、カンピロバクター 5 件 (全て *C. jejuni*)、赤痢菌 1 件 (*S. sonnei*) であった。患者年齢階級別病原体の検出状況を表 5 に示した。

表 5. 感染性胃腸炎患者からの年齢階級別腸管系病原菌検出状況

年齢階級	検査件数	検 出 病 原 菌	
		カンピロバクター	赤痢菌
1歳未満	8		
1 - 4歳	15	1	1
5 - 9歳	2	1	
10 - 14歳	1	1	
15 - 19歳			
20歳以上	7	1	
不明	1	1	
計	34	5	1
(%)		(14.7)	(2.9)

ウ 百日咳

2010 年に都内の小児科定点及び基幹定点医療機関から百日咳疑い患者の鼻汁及び鼻腔拭い液が 89 検体搬入され、分離同定及び遺伝子検索を実施した。その結果、百日咳菌は 5 株 (5.6%) 分離され、58 件 (65.2%) から百日咳菌遺伝子が検出された。百日咳菌以外に、メチシリン感受性黄色ブドウ球菌 (MSSA) 16 株、肺炎球菌 (*Streptococcus pneumoniae*) が 7 株、A 群溶血性レンサ球菌が 2 株分離された。

エ メチシリン耐性黄色ブドウ球菌 (MRSA) 感染症

2010 年に都内の小児科及び基幹病原体定点から検体を対象に MRSA 保菌状況を検索した。検出された黄色ブドウ球菌については、コアグララーゼ型別 (コ型と略す)、エンテロトキシン (SE と略す)

産生性、Toxic shock syndrome toxin-1(TSST-1 と略す)産生性および表皮剥脱毒素産生性の試験を実施した。患者由来 MRSA 10 株のコ型は、Ⅰが 5 株、Ⅱが 1 株、Ⅲが 2 株、Ⅵが 1 株、Ⅶが 1 株であった。また、MSSA は 18 株分離され、コ型はⅢが 2 株、Ⅳが 7 株、Ⅴが 5 株、Ⅳが 1 株およびⅦが 3 株であった。

毒素産生性では、Toxic Shock 疑いの 3 歳児の皮膚から分離された MRSA は、コ型はⅠで表皮剥脱毒素 B 産生株であった。

オ マイコプラズマ肺炎

2010 年にマイコプラズマ肺炎または肺炎疑いで搬入された 54 検体のうち、*Mycoplasma pneumoniae* 遺伝子が 8 検体 (14.8%) から検出された。また、その他に肺炎球菌が 2 株分離され、2 検体からは肺炎球菌の遺伝子が検出された。

3 性感染症 (STI) 病原体定点から搬入された検体の検査結果

(1) クラミジア・淋菌遺伝子検査・細菌分離同定

2010 年に性感染症病原体定点から搬入された 276 件について検査を実施した。搬入検体の内訳は、女性では子宮頸管擦過 (分泌) 物 (スワブ) 9 件、男性では陰部尿路擦過物 (スワブ) 59 件および尿 206 件、性別不明の尿 2 件の計 276 件である。遺伝子検査については、各検体から核酸抽出後、クラミジア・トラコマチスおよび淋菌遺伝子の検索を PCR 法 (コバスアンプリコア法) で実施した。

また、クラミジア・トラコマチス血清型検査は遺伝子解析法により行った。上記 PCR 陽性検体より核酸を抽出し、血清型特異抗原となる主要外膜蛋白 (omp 1) 遺伝子の可変領域を挟む共通プライマーにより PCR で増幅後、塩基配列を決定し、NCBI (米国生物工学情報センター) の核酸データベースにおける BLAST 検索、ならびに系統樹解析により血清型を判定した。

淋菌およびその他の菌の分離培養は、5%ウマ血液寒天培地およびサイヤ・マーチン寒天培地を用い、発育した集落について菌種を同定した。同定された淋菌については薬剤感受性試験を行った。

検体の年齢構成および検査成績を表 6 に示した。クラミジア・トラコマチス遺伝子は女性 4 例 (44.4%)、男性 51 例 (19.2%) で検出された。淋菌遺伝子は女性では 1 例 (11.1%)、男性 67 例 (25.3%) で検出された。これらのうち男性 7 例でクラミジア・トラコマチス遺伝子と淋菌遺伝子が共に検出された。

淋菌遺伝子が検出された男性 67 例のうち 46 例 (68.7% 男性全体の 17.4%) と性別不明の 2 例から淋菌が分離された。そのうち男性 30 歳代の 1 例からは淋菌が 2 株分離されたが、1 株は近年明らかになったプロリンアミノペプチダーゼ陰性株であり、分離後遺伝子検索で淋菌であることを確認した。その他に分離された主な菌は A 群溶血性レンサ球菌が男性 6 例 (2.3%)、B 群溶血性レンサ球菌は女性 2 例 (22.2%)、男性 39 例 (14.7%) から分離された。また、カンジダ・アルビカンスは女性 1 例 (11.1%)、男性 5 例 (1.9%) から分離された。

診断別の検査成績を表 7 に示した。クラミジア感染症 (または疑い例) では、女性は 9 例中 4 例 (44.4%) で、男性では 209 例のうち 46 例 (22.0%) でクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出され、女性 1 例、男性 26 例 (12.4%) に淋菌遺伝子が検出された。淋菌が分離できたのは男性 17 例である。また、クラミジア・トラコマチス遺伝子と淋菌遺伝子共に検出されたのは女性 1 例と男性の 2 例であった。この他男性 3 例 (1.4%) から A 群溶血性レンサ球菌、女性 2 例 (22.2%)、男性 33 例 (15.8%) から B 群溶血性レンサ球菌、女性 1 例 (11.1%)、男性 4 例 (1.8%) からカンジダ・アルビカン

スが分離された。

淋菌感染症では、男性 47 例中 40 例(85.1%)で淋菌遺伝子が検出された。淋菌が分離できたのは 28 例 29 株である。また、男性 5 例(10.6%)からクラミジア・トラコマチス遺伝子が検出されている。淋菌以外では A 群溶血性レンサ球菌が男性 1 例(2.1%)、B 群溶血性レンサ球菌が男性 6 例(12.8%)から分離された。淋菌が 2 株分離された例からは B 群溶血性レンサ球菌も分離されている。カンジダ・アルビカンズが分離されたのは男性 1 例である。

表 6．性感染症病原体定点から搬入された検体の年齢階級別内訳と検査成績

年齢群		検査数 男、女計 に対する 割合		遺伝子検査 クラミジア トラコマチス		淋 菌		細 菌 分 離			
								溶血性レンサ球菌		カンジダ・ アルビカンズ	
								A 群	B 群		
女 性	20歳代	7	77.8%	4	57.1%	1	14.3%		1	14.3%	
	40歳代	1	11.1%						1	100.0%	1
	50歳代	1	11.1%								
	計	9		4	44.4%	1	11.1%		2	22.2%	1
男 性	10歳代	3	1.1%	2	67%	1	33.3%	1	33.3%	1	33.3%
	20歳代	52	19.6%	7	13.5%	14	26.9%	9	17.3%	1	1.9%
	30歳代	96	36.2%	18	18.8%	32	33.3%	23*	24.0%	3	3.1%
	40歳代	74	27.9%	13	17.6%	12	16.2%	7	9.5%	1	1.4%
	50歳代	25	9.4%	5	20.0%	5	20.0%	4	16.0%	7	9.5%
	60歳代以上	13	4.9%	6	46.2%	1	7.7%	1	7.7%	8	32.0%
	不明	2	0.8%			2	100%	1	50.0%	1	50.0%
	計	265		51	19.2%	67	25.3%	46	17.4%	6	2.3%
不 明		2				2	100%	2	100%		
合 計		276		55	19.9%	70	25.4%	48	17.4%	6	2.2%

*：30 歳代男性一人から淋菌 2 株が分離された

表 7．診断別の検査成績

診断 (疑い例を含む)		検査数 男、女計 に対する 割合		遺伝子検査 クラミジア トラコマチス		淋 菌		細 菌 分 離			
								溶血性レンサ球菌		カンジダ・ アルビカンズ	
								A 群	B 群		
女性	クラミジア感染症	9	100.0%	4	44.4%	1	11.1%		2	22.2%	1
男 性	クラミジア感染症	209	78.9%	46	22.0%	26	12.4%	17	8.1%	3	1.4%
	淋菌感染症	47	17.7%	5	10.6%	40	85.1%	28*	59.6%	1	2.1%
	その他	9	3.4%			1	11.1%	1	11.1%	2	22.2%
	計	265		51	19.2%	67	25.3%	46	17.4%	6	2.3%
不 明	クラミジア感染症	1	50.0%			1	100%	1	100%		
	淋菌感染症	1	50.0%			1	100%	1	100%		
	計	2				2	100%	2	100%		
合 計		276		55	19.9%	70	25.4%	48	17.4%	6	2.2%

*：淋菌感染症 1 例において淋菌 2 株が分離されている

クラミジア・トラコマチス遺伝子陽性 55 例のうち血清型が同定出来たのは 40 例である（表 8）。クラミジア・トラコマチス血清型は、B 群（B、Ba、D、E、L1、L2）、C 群（A、C、H、I、J、K、L3）およびその中間群（F、G）に分けられ、一部血清型にはその亜型も存在する。地域や年次推移に伴い、血清型分布に変化がみられるという報告もあり、当センターでも 2009 年から血清型検査を開始した。2009 年の結果では D、E が 63.4%を占め、F は 7.3%であったが、今年度は D、E が 32.5 %、F が 32.5 % と前年度と異なる結果であった。この分布の変化について、一定の傾向の有無、またその原因や影響等について考察するためには更に観察と検討を重ねて行く必要がある。

表 8．クラミジア トラコマチス血清型の分布

D	E	F	G	H	I	Ia	J	K
8 20.0%	5 12.5%	13 32.5%	2 5.0%	3 7.5%	2 5.0%	1 2.5%	3 7.5%	3 7.5%

次に分離された淋菌 49 株の薬剤耐性試験の結果を表 9 に示す。ペニシリンでは最小発育阻止濃度が中等度（0.125μg/ml）以上の耐性株は 38 株(77.6%)あり、そのうちの 1 株は β ラクタマーゼ産生株であった。テトラサイクリンでは中等度（0.5μg/ml）以上の耐性株は 23 株(46.9%)、シプロフロキサシンでは中等度（0.125μg/ml）以上の耐性株は 32 株(65.3%)、セフロキシムでは中等度（2μg/ml）以上の耐性株は 24 株(49.0%)あった。セフトキシムでは 1 株が耐性（1μg/ml）を示した。セフトリアキソン、およびスペクチノマイシンではすべての株が感受性を示した。

表 9．分離された淋菌の薬剤感受性試験の成績

	ペニシリン PCG	テトラ サイクリン TC	シプロフロ キサシン CPFX	セフロ キシム CXM	セフト キシム CTX	セフトリ アキソン CTR	スペクチノ マイシン SPCM
耐性	6	2	32	16	1	0	0
中等度耐性	32	21	0	8		0	0
感受性	11	26	17	25	48	49	49

（２）ヒトパピローマウイルス（HPV）の遺伝子検査

2010 年に STI 病原体定点医療機関から 45 例の検体（陰部尿道擦過物または尖圭コンジローマ部位擦過物）が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする L1 領域を対象とした PCR 法による HPV 遺伝子の検出を行った。また、標的遺伝子が検出された場合、塩基配列を決定し NCBI Blast を用いた相同性検索により遺伝子型を同定した。さらに、得られた遺伝子型を子宮頸がん等へのリスク評価（High 及び Low リスク）に基づいて分類した。

その結果、45 件中 30 件（66.7%）から HPV 遺伝子を検出した。リスク評価による分類では、16、39、58 型などの High リスク群に分類されたものは 3 件（6.7%）、6、11 型などの Low リスク群に分類されたものは 27 件（60.0%）であった。

（３）単純ヘルペスウイルス（HSV：HSV-1 型及び HSV-2 型）の遺伝子検査

2010 年に STI 病原体定点医療機関から 73 件の検体（主として性器ヘルペス感染症を疑う患者の陰部尿道擦過物、性器ヘルペス部位擦過物または水泡内容物）が搬入された。

試料よりウイルス DNA を抽出した後、キャプシド蛋白をコードする glycoprotein D 領域を対象としたリアルタイム PCR 法による HSV の遺伝子検査を実施した。

その結果、73 件中 11 件（15.1％）から HSV-1 型、19 件（26.0％）から HSV-2 型の遺伝子を検出した。

第 3 章

資 料

2 東京都医師会感染症予防検討委員会委員名簿

平成 22 年（2010 年）12 月 31 日現在 ： 順不同

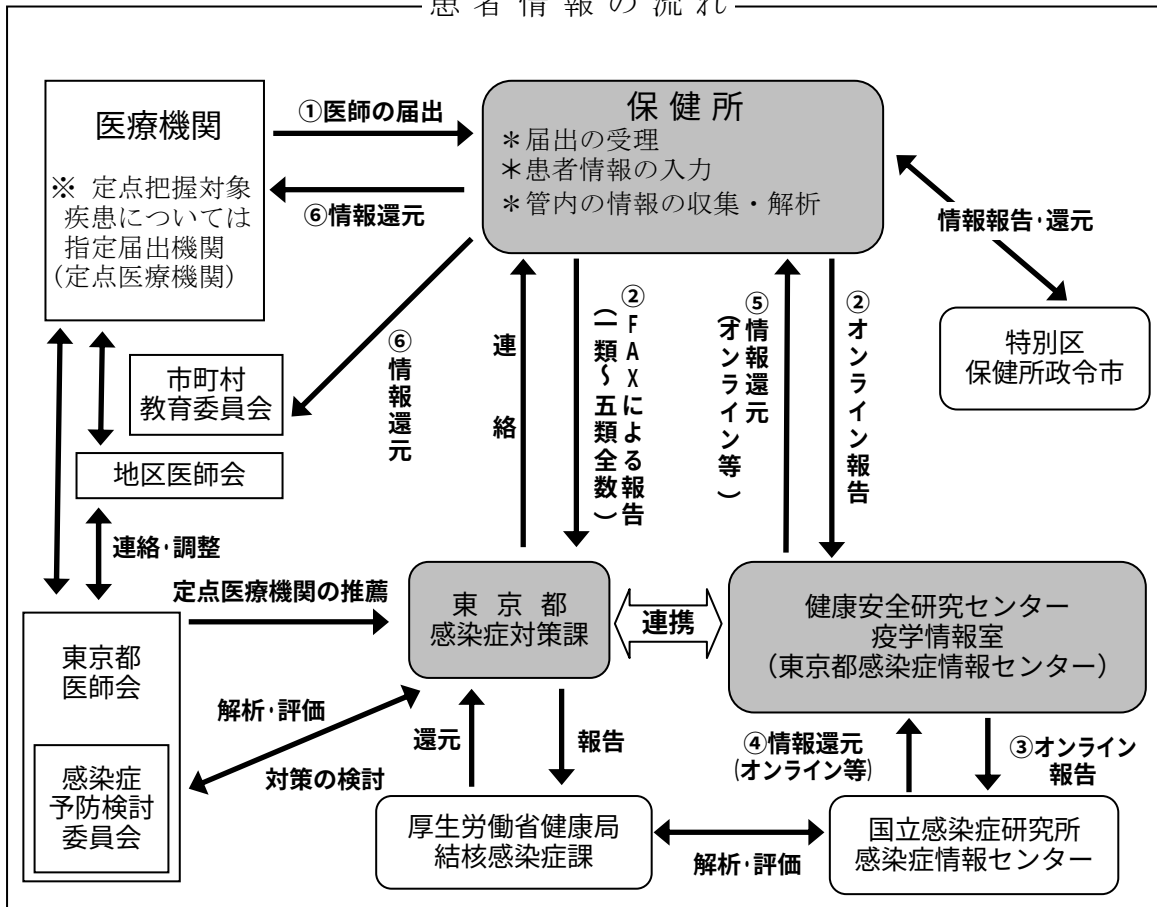
氏 名	役 職
◎ 長 岡 常 雄	幡多希望の家理事長、元東京都健康局技監
○ 岡 部 信 彦	国立感染症研究所感染症情報センター長
○ 沼 口 俊 介	練馬区医師会（東京小児科医会）
長 山 直 弘	独立行政法人国立病院機構東京病院呼吸器内科医長
尾 形 英 雄	（財）結核予防会複十字病院副院長
吉 村 伸 子	目黒区保健所長
大 井 洋	町田保健所長
味 澤 篤	東京都立駒込病院感染症科部長
田 崎 達 明	東京都福祉保健局健康安全部食品危機管理担当課長
増 田 和 貴	東京都健康安全研究センター微生物部副参事研究員
山 下 和 予	国立感染症研究所感染症情報センター主任研究官
成 田 友 代	東京都福祉保健局健康安全部感染症対策課長
小 島 弘 敬	東京都南新宿検査・相談室長
松 田 静 治	江東区医師会（東京産婦人科医会）
黒 澤 サト子	北多摩医師会（東京小児科医会）
福 田 敏 雅	中野区医師会（東京都眼科医会）
小早川 隆 敏	東京女子医科大学名誉教授
平 山 宗 宏	（社福）恩賜財団母子愛育会日本子ども家庭総合研究所名誉所長
池 田 忠 生	NPO法人 日本パスツール協会理事
道 永 麻 里	東京都医師会理事（公衆衛生担当）

◎は委員長

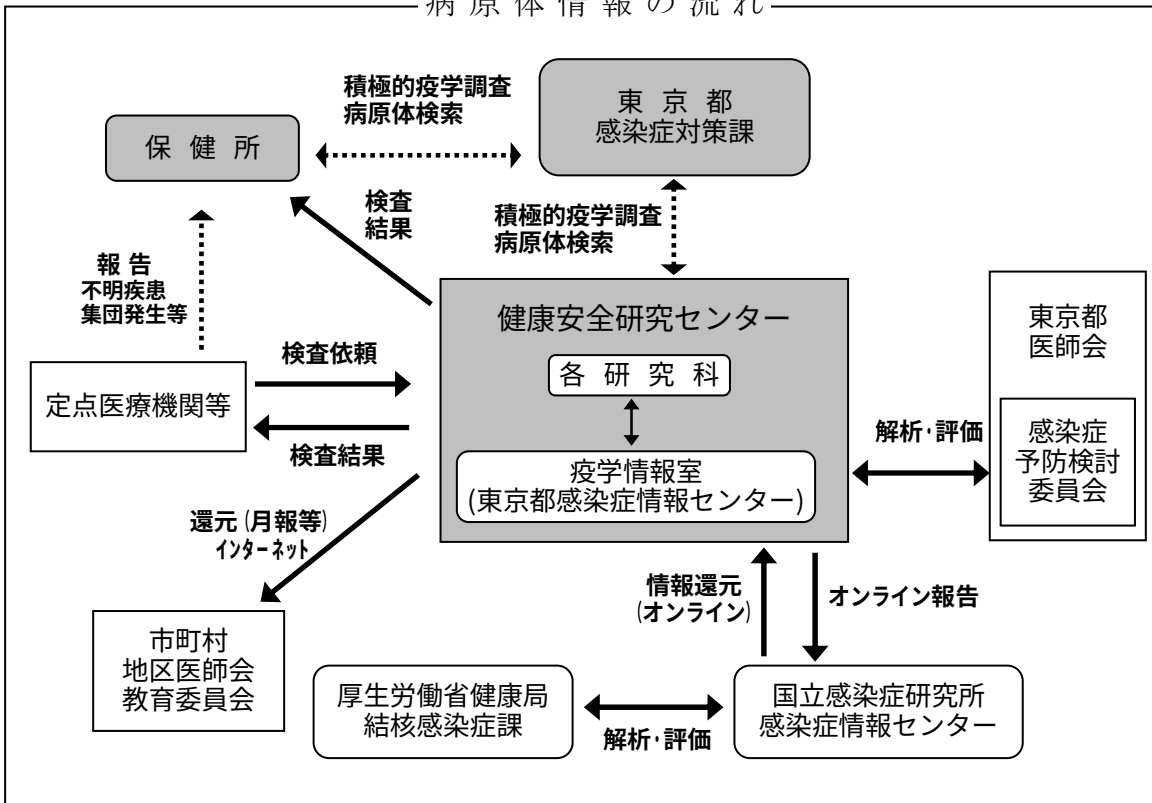
○は副委員長

3 東京都感染症発生動向調査事業の流れ

— 患者情報の流れ —



— 病原体情報の流れ —



4 東京都感染症発生動向調査事業実施要綱

11 衛福結第680号

平成12年3月30日

最終改正 21 福保健感第984号

平成22年3月16日

第1 趣旨及び目的

感染症発生動向調査事業については、昭和56年7月から18疾病を対象に開始され、昭和62年1月からは対象疾病を27に拡大するとともにコンピュータを用いたオンラインシステムを導入、以後、順次対象疾病の拡大を図りながら運用されてきたところである。

平成11年4月から施行された「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律」（以下「感染症法」という。）により、本事業が、事前対応型行政を重視した感染症対策の一つとして位置づけられることになった。

これを受け、本事業は、感染症の発生情報を正確に把握・分析し、その結果を国民や医療関係者への確に提供・公開することによって、必要な措置を講じ感染症のまん延を防止することを目的として実施するものとする。

第2 根拠法令等

本事業の実施に当たっては、感染症法及び国の定める感染症発生動向調査事業実施要綱に基づくものとする。

第3 対象感染症

この事業の対象とする感染症は、別表1のとおりとする。

第4 実施体制

1 地方感染症情報センター及び基幹地方感染症情報センター

地方感染症情報センターは、東京都及び特別区における患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、東京都及び特別区の本庁に報告するとともに、全国情報と併せて、これらを速やかに医師会等の関係機関に提供・公開するために、東京都及び各特別区内に1か所、地方衛生研究所等の中に設置されている。

基幹地方感染症情報センターである東京都健康安全研究センター（以下「健康安全研究センター」という。）は、東京都全域の患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集・分析し、その結果を各地方感染症情報センターに送付する。

2 指定届出機関（定点）

東京都は、定点把握対象の五類感染症についての、患者情報、疑似症情報及び病原体情報を収集するため、患者定点、疑似症定点及び病原体定点をあらかじめ選定する。

第5 事業の実施

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症、新型インフルエンザ等感染症及び指定感染症を「感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項及び第14条第2項に基づく届出の基準等について」（平成18年3月8日付健感発第0308001号厚生労働省健康局結核感染症課長通知、平成22年3月11日最終改正。以下「届出基準」という。）に基づき診断した場合は、国の定める届出基準の別記様式1－1から4－4.1を用いて、直ちに最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの情報の入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、患者が一類感染症と診断されている場合（疑いを含む。）又は東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

2 全数把握対象の五類感染症

(1) 調査単位及び実施方法

ア 診断した医師

五類感染症（全数）を届出基準に基づき診断した医師は、国の定める届出基準の別記様式5

ー 1 から 5 - 1 4 - 2、及び本要綱の別記様式 9 を用いて、7 日以内に最寄りの保健所に届出を行う。

また、保健所等から当該患者の病原体検査のための検体又は病原体情報の提供の依頼を受けた場合にあっては、協力可能な範囲において、検体又は病原体情報について、保健所の協力を得て、健康安全研究センターに送付する。

イ 保健所

(ア) 上記アの届出を受けた保健所は、直ちに感染症発生動向調査システムに届出内容を入力するものとする。

また、保健所は、当該患者を診断した医師に対して、必要に応じて病原体検査のための検体又は病原体情報の健康安全研究センターへの提供について依頼するものとする。

(イ) 保健所は、届出を受けた感染症に係る発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

ウ 健康安全研究センター

(ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。

(イ) 健康安全研究センターは、検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。

(ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。

(エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。

(オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

3 定点把握対象の五類感染症

(1) 対象とする感染症患者の状態

各々の定点把握対象の五類感染症について、届出基準を参考とし、当該疾病の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 患者定点

定点把握対象の五類感染症の発生状況を地域的に把握するため、東京都は次の点に留意し、関係医師会の協力を得て、医療機関の中から可能な限り無作為に患者定点を選定する。また、定点の選定に当たっては、人口及び医療機関の分布等を勘案して、できるだけ東京都全体の感染症の発生状況を把握できるよう考慮する。

(ア) 小児科定点

対象感染症のうち、別表 1 の 7 5 から 8 7 までに掲げるものについては、小児科を標ぼうする医療機関（主として小児科医療を提供しているもの）を小児科定点として指定する。この場合において、小児科定点として指定された医療機関は、インフルエンザ定点として協力

するよう努めること。

(イ) インフルエンザ定点

対象感染症のうち、別表１の８８に掲げるインフルエンザ（鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。以下同じ。）については、前記（ア）で選定した小児科定点のうちインフルエンザ定点として協力する小児科定点に加え、内科を標ぼうする医療機関（主として内科医療を提供しているもの）を内科定点として指定し、両者を合わせてインフルエンザ定点とする。

(ウ) 眼科定点

対象感染症のうち、別表１の８９及び９０に掲げるものについては、眼科を標ぼうする医療機関（主として眼科医療を提供しているもの）を眼科定点として指定する。

(エ) 性感染症定点

対象感染症のうち、別表１の９１から９６までに掲げるものについては、産婦人科若しくは産科若しくは婦人科（産婦人科系）、性病科又は泌尿器科若しくは皮膚科若しくは皮膚泌尿器科（泌尿器科・皮膚科系）を標ぼうする医療機関（主として各々の標ぼう科の医療を提供しているもの）を性感染症定点として指定する。

(オ) 基幹定点

対象感染症のうち、別表１の９７から１０３までに掲げるものについては、患者を３００人以上収容する施設を有する病院であって、内科及び外科を標榜する病院（小児科医療と内科医療を提供しているもの）を二次医療圏毎に１か所以上、基幹定点として指定する。

イ 病原体定点

病原体の分離等の検査情報を収集するため、東京都は次の点に留意し、病原体定点を選定する。

(ア) 原則として、患者定点として選定された医療機関の中から選定する。

(イ) アの（ア）により選定された患者定点の概ね１０％を小児科病原体定点とする。

(ウ) アの（ア）及び（イ）により選定された患者定点の概ね１０％をインフルエンザ病原体定点とする。

(エ) アの（ウ）により選定された患者定点の中から眼科病原体定点を選定する。

(オ) アの（エ）により選定された患者定点の中から性感染症病原体定点を選定する。

(カ) アの（オ）により選定された患者定点の中から基幹病原体定点を選定する。

(３) 調査単位等

調査単位の期間等は、別表２のとおりとする。

(４) 実施方法

ア 患者定点

(ア) 患者定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準を参考とし、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (２) のアにより選定された定点把握の対象の指定届出機関においては、届出基準に従い、それぞれの調査単位の患者発生状況を別記様式２から７に記載する。

(ウ) (イ) の届出に当たっては、法施行規則第７条に従い行うものとする。

イ 病原体定点

(ア) 病原体定点として選定された医療機関は、別に定める病原体検査指針により、微生物検査

のために検体を採取する。

- (イ) 病原体定点で採取された検体は、別記様式 1（インフルエンザ定点については別記様式 8）の検査票を添付し、速やかに健康安全研究センターへ送付する。

ウ 保健所

- (ア) 保健所は、患者定点から得られた患者情報が週単位の場合は調査対象の週の翌週の火曜日までに、月単位の場合は調査対象月の翌月の 3 日までに、感染症発生動向調査システムに入力するものとする。

また、対象感染症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

- (イ) 保健所は、定点把握の対象の五類感染症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

- (ア) 健康安全研究センターは、管内の患者情報について保健所からの入力があり次第、登録情報の確認を行う。
- (イ) 健康安全研究センターは、別記様式 1 の検査票及び検体又は病原体情報が送付された場合にあっては、当該検体を検査し、その結果を保健所を経由して診断した医師に通知するとともに、別記様式 1 により保健所、福祉保健局健康安全部感染症対策課に送付する。
- (ウ) 検査のうち、健康安全研究センターにおいて実施することが困難なものについては、必要に応じて国立感染症研究所に検査を依頼する。
- (エ) 健康安全研究センターは、東京都域を越えた集団発生があった場合等の緊急の場合にあっては、検体を国立感染症研究所に送付する。
- (オ) 基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての患者情報及び病原体情報を収集、分析するとともに、その結果を週報（月単位の場合は月報）等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

4 法第 14 条第 1 項に規定する厚生労働省令で定める疑似症

(1) 対象とする疑似症の状態

各々の疑似症について、届出基準を参考とし、当該疑似症の患者と診断される場合とする。

(2) 定点の選定

ア 疑似症定点

疑似症定点は下記のとおりとする。

- (ア) 本要綱に定める小児科定点及び内科定点

- (イ) 疑似症単独定点

(3) 調査単位

調査単位の期間等は、別表 3 のとおりとする。

(4) 実施方法

ア 疑似症定点

- (ア) 疑似症定点として選定された医療機関は、速やかな情報提供を図る趣旨から、調査単位の期間の診療時において、届出基準により、患者発生状況の把握を行うものとする。

(イ) (2) のアの (ア) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を本要綱の別記様式 10 に記載する。なお、届出に当たっては、法施行規則第 7 条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で本要綱の別記様式 2 又は別記様式 3 による報告を行う。

(ウ) (2) のアの (イ) の医療機関においては、届出基準に従い、直ちに疑似症発生状況を感染症健康危機管理情報ネットワークシステム (以下「K-net」という。) へ入力する。なお、届出に当たっては、法施行規則第 7 条に基づくほか、発生が無い場合であっても、その旨、週単位で K-net への入力による報告を行う。

イ 保健所

(ア) 保健所は、(2) のアの (ア) の医療機関から得られた疑似症情報を、随時又は調査対象の週の翌週の火曜日までに、K-net へ入力するものとする。

また、対象疑似症についての集団発生その他特記すべき情報については、福祉保健局健康安全部感染症対策課及び健康安全研究センターに報告する。

(イ) 保健所は、疑似症の発生状況等を把握し、市町村、指定届出機関その他の関係医療機関、地区医師会、教育委員会等の関係機関に発生状況等を提供し、連携を図る。

エ 健康安全研究センター

基幹地方感染症情報センターである健康安全研究センターは、東京都内のすべての疑似症情報を収集、分析するとともに、その結果を週報等として公表される全国情報と併せて、地方感染症情報センター等の関係機関に提供・公開する。

5 その他

(1) 上記の実施方法以外の部分について、必要と認められる場合には、東京都の実情に応じた追加を行い、地域における効果的・効率的な感染症発生動向調査体制を構築していくこととする。

(2) 本実施要綱に定める事項以外の内容については、必要に応じて福祉保健局長が定めることとする。

6 特別区及び保健所政令市との関係

東京都は、本事業を実施するため特別区及び保健所政令市と協議し、連携を図るものとする。

附 則

この実施要綱は、平成 12 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 13 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 14 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 15 年 4 月 1 日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成 15 年 11 月 5 日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成16年8月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成18年6月12日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成19年6月15日から施行し、同年4月1日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成20年1月31日から施行し、同年1月1日から適用する。

附 則

この実施要綱は、平成20年4月1日から施行する。

附 則

この実施要綱は、平成22年3月16日から施行し、同年3月11日から適用する。

感染症法に基づく感染症の分類

1 一類感染症、二類感染症、三類感染症、四類感染症及び指定感染症

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑似症 患 者	無症状 病原体 保有者	届 出 種 別	時 期
一 類	1	エボラ出血熱	○	○	○	全数	直ちに
	2	クリミア・コンゴ出血熱					
	3	痘そう					
	4	南米出血熱					
	5	ペスト					
	6	マールブルグ病					
	7	ラッサ熱					
二 類	8	急性灰白髄炎	○	—	○	全数	直ちに
	9	結核	○	○	△※		
	10	ジフテリア	○	—	○		
	11	重症急性呼吸器症候群 (病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る)	○	○	○		
	12	鳥インフルエンザ (H 5 N 1)	○	○	○		
三 類	13	コレラ	○	—	○	全数	直ちに
	14	細菌性赤痢	○	—	○		
	15	腸管出血性大腸菌感染症	○	—	○		
	16	腸チフス	○	—	○		
	17	パラチフス	○	—	○		

※結核の無症状病原体保有者については、結核医療を必要としないと認められる場合は届出不要。

[illegible]

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑似症者	無症状病原体保有者	届 出 別	時 期
四 類	48	発しんチフス	○	—	○	全数	直ちに
	49	ボツリヌス症	○	—	○		
	50	マラリア	○	—	○		
	51	野兔病	○	—	○		
	52	ライム病	○	—	○		
	53	リッサウイルス感染症	○	—	○		
	54	リフトバレー熱	○	—	○		
	55	類鼻疽	○	—	○		
	56	レジオネラ症	○	—	○		
	57	レプトスピラ症	○	—	○		
	58	ロッキー山紅斑熱	○	—	○		

		疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
			患 者	疑似症者	無症状病原体保有者	届 出 別	時 期
指定感染症		—	—	—	—	—	—

※平成20年6月30日現在、政令に基づく指定感染症なし。

2 五類感染症（全数把握）

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症 患 者	無症状 病原体 保有者	届 種 別	時 期
59	アメーバ赤痢	○	—	—	全数	7日以内
60	ウイルス性肝炎 (E型肝炎及びA型肝炎を除く。)	○	—	—		
61	急性脳炎 (ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。)	○	—	—		
62	クリプトスポリジウム症	○	—	—		
63	クロイツフェルト・ヤコブ病	○	—	—		
64	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	○	—	—		
65	後天性免疫不全症候群	○	—	○		
66	ジアルジア症	○	—	—		
67	髄膜炎菌性髄膜炎	○	—	—		
68	先天性風しん症候群	○	—	—		
69	梅毒	○	—	○		
70	破傷風	○	—	—		
71	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
72	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	○	—	—		
73	風しん	○	—	—		
74	麻しん	○	—	—		

3 新型インフルエンザ等感染症

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似症 患 者	無症状 病原体 保有者	届 種 別	時 期
104	新型インフルエンザ	○	○	○	全数	直ちに
105	再興型インフルエンザ	○	○	○		

4 五類感染症（定点把握）

	疾 患 名	届 出 対 象 者			届 出 方 法	
		患 者	疑似患者	無症状病原体保有者	届 出 種 別 (定点)	時 期
75	R S ウイルス感染症	○	—	—	別表 2 参照	
76	咽頭結膜熱	○	—	—		
77	A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎	○	—	—		
78	感染性胃腸炎	○	—	—		
79	水痘	○	—	—		
80	手足口病	○	—	—		
81	伝染性紅斑	○	—	—		
82	突発性発しん	○	—	—		
83	百日咳	○	—	—		
84	ヘルパンギーナ	○	—	—		
85	流行性耳下腺炎	○	—	—		
86	不明発しん症 (都単独)	○	—	—		
87	M C L S (川崎病) (都単独)	○	—	—		
88	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感染症を除く。)	○	—	—		
89	急性出血性結膜炎	○	—	—		
90	流行性角結膜炎	○	—	—		
91	性器クラミジア感染症	○	—	—		
92	性器ヘルペスウイルス感染症	○	—	—		
93	尖圭コンジローマ	○	—	—		
94	淋菌感染症	○	—	—		
95	膣トリコモナス症 (都単独)	○	—	—		
96	梅毒様疾患 (都単独)	○	—	—		
97	クラミジア肺炎 (オウム病を除く。)	○	—	—		
98	細菌性髄膜炎	○	—	—		
99	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	○	—	—		
100	マイコプラズマ肺炎	○	—	—		
101	無菌性髄膜炎	○	—	—		
102	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症	○	—	—		
103	薬剤耐性緑膿菌感染症	○	—	—		

5 疑似症

	届 出 対 象	届 出 対 象 者			調 査 単 位 (期間)	時 期
		患 者	疑似症 患 者	無症状 病原体 保有者		
106	摂氏 3 8℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因 するものを除く。)	—	○	—	別表 3 参照	
107	発熱及び発しん又は水疱	—	○	—		

五類感染症（定点把握）の調査単位と報告時期

定点 種別	疾 患 名	調査単位 (期間)	時 期
小児科 定点 ※	R S ウイルス感染症	週単位 (月曜日から 日曜日。以 下同じ。)	次の月曜日
	咽頭結膜熱		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎		
	感染性胃腸炎		
	水痘		
	手足口病		
	伝染性紅斑		
	突発性発しん		
	百日咳		
	ヘルパンギーナ		
	流行性耳下腺炎		
	不明発しん症 (都単独)		
	MC L S (川崎病) (都単独)		
	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感 染症を除く。)		
内科定点※	インフルエンザ (鳥インフルエンザ及び新型インフルエンザ等感 染症を除く。)	週単位	次の月曜日
眼科定点	急性出血性結膜炎	週単位	次の月曜日
	流行性角結膜炎		
性感 染症 定点	性器クラミジア感染症	月単位	翌月初日
	性器ヘルペスウイルス感染症		
	尖圭コンジローマ		
	淋菌感染症		
	膣トリコモナス症 (都単独)		
	梅毒様疾患 (都単独)		
基幹 定点	クラミジア肺炎 (オウム病を除く)	週単位	次の月曜日
	細菌性髄膜炎		
	マイコプラズマ肺炎		
	無菌性髄膜炎		
	ペニシリン耐性肺炎球菌感染症	月単位	翌月初日
	メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症		
	薬剤耐性緑膿菌感染症		

※小児科定点と内科定点を合わせてインフルエンザ定点とする。

疑似症の調査単位と報告時期

定点 種別	届 出 対 象	調査単位 (期間)	時 期
疑似症定点	摂氏 38℃以上の発熱及び呼吸器症状 (明らかな外傷又は器質的疾患に起因 するものを除く。)	随時 及び	直ちに 及び
	発熱及び発しん又は水疱	週単位 (月曜日から日 曜日)	次の月曜日

(注)

- 1 感染症法に規定する感染症によるものでないことが明らかである場合には、本届出の対象とはならない。
- 2 感染症法に規定する感染症によるものであることが明らかであり、かつ、いずれの感染症であるかが特定可能な場合には、当該感染症の届出基準に基づき届出を行うこととなるため、本届出の対象とはならない。
- 3 当該疑似症が発生した場合は直ちに報告するとともに、発生が無い場合についても週単位で報告する。

別記様式一覧表

番号	件名等
別記様式1	感染症発生動向調査病原体定点検査票
別記様式2	五類感染症(定点把握対象)小児科患者定点報告票
別記様式3	五類感染症(定点把握対象)インフルエンザ患者定点報告票
別記様式4	五類感染症(定点把握対象)眼科患者定点報告票
別記様式5	五類感染症(定点把握対象)性感染症患者定点報告票
別記様式6	五類感染症(定点把握対象)基幹患者定点報告票(週報告分)
別記様式7	五類感染症(定点把握対象)基幹患者定点報告票(月報告分)
別記様式8	インフルエンザ検査票(内科病原体定点用)
別記様式9	麻しん発生届
別記様式10	疑似症定点報告票

(注) 発生届(国の定める別記様式) 1-1 から 5-14 は、
<http://idsc.tokyo-eiken.go.jp/survey/kobetsu/> に記載されている。

感染症発生動向調査病原体定点検査票

[医療機関記入欄]		センター検体受付日		センター収受番号		検体番号	
医療機関名							
医師名							
診断名							
ID (イニシャル)						居住地	区市町村
発病日	年	月	日	検体採取日	年	月	日
性別	男・女		年齢	歳 月			
検体	・便 ・直腸ぬぐい液 ・尿 ・髄液 ・咽頭ぬぐい液、うがい液、鼻汁 ・皮膚病巣（水疱内容、痂皮、創傷） ・吐物 ・喀痰 ・気管吸引液 ・陰部尿道頸管擦過物／分泌物 ・結膜ぬぐい液（結膜擦過物、眼脂） ・血液（全血、血清、血漿） ・その他 []						
臨床症状・兆候等	・発熱（最高 ℃） ・頭痛 ・胃腸炎（下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛） ・筋肉痛、関節痛（関節炎） ・結膜炎、角膜炎、角結膜炎 ・上気道炎（咽頭炎／痛、扁桃炎） ・髄膜炎、意識障害 ・下気道炎（肺炎、気管支炎） ・中枢神経系症状（脳炎、脳症、髄膜炎） ・口内・咽頭所見（ ） ・肝機能障害 ・黄疸 ・出血傾向※全身のもの ・発疹（丘疹、紅斑、バラ疹、水疱） ・腎機能障害 ・唾液腺腫脹、リンパ節腫脹（部位 ） ・尿路生殖器症状（排尿時痛、かゆみ、膿） （上記以外の症状は、下の備考欄へ記載してください。） ・コンジローマ ・下腹部痛						
転 帰	経過観察中、軽快、治癒、後遺症有り、死亡（原因 ）						
発生の状況	・散発 ・地域流行 ・家族内発生 ・集団発生（保育所、幼稚園、小学校、中学校、その他 []）						
最近の海外渡航歴	国名 期間 年 月 日 ～ 年 月 日						
ワクチン接種歴（当該疾患に係るもの）	（ 無、有、不明 ） 最近の接種年月日 ワクチン名 年 月 日						
備考欄（主治医等からの連絡事項、詳細な症状、動物との接触など）							
[健康安全研究センター記入欄] 報告年月日 年 月 日							
結果 センター記入欄につき ここには記入しないで下さい。							
検出方法	・抗体検出（蛍光、EIA、イムノブロット、その他 []） ・分離培養（培養細胞：細胞名 []、人工培地、発育鶏卵、動物、その他 []） ・抗原検出等（蛍光、EIA、イムノクロマト、凝集反応（RPHA、LA、PA、その他）、その他 []） ・遺伝子検出 増幅（PCR、PCR＋ハイブリ、PCR＋シーケンス、LAMP、その他 []） ・鏡検						

(1) 複写 1組6枚（病原体定点控）

感染症発生動向調査（小児科定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日(月) ～ 月 日(日)

医療機関名：

疾患名	年齢	～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20歳 以上	合 計
R S ウ イ ル ス 感 染 症	男															
	女															
咽 頭 結 膜 熱	男															
	女															
A群溶血性レンサ 球 菌 咽 頭 炎	男															
	女															
感 染 性 胃 腸 炎	男															
	女															
水 痘	男															
	女															
手 足 口 病	男															
	女															
伝 染 性 紅 斑	男															
	女															
突 発 性 発 し ん	男															
	女															
百 日 咳	男															
	女															
ヘルパンギーナ	男															
	女															
流行性耳下腺炎	男															
	女															
不 明 発 し ん 症	男															
	女															
M C L S (川 崎 病)	男															
	女															

注) MCL S、不明発しん症は東京都独自の報告対象疾患です

疾患名	年齢	～5 ヶ月	～11 ヶ月	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10 ～14	15 ～19	20 ～29
インフルエンザ (鳥インフルエンザ 及び新型インフル エンザ等感染症 を の そ く)	男														
	女														
		30 ～39	40 ～49	50 ～59	60 ～69	70 ～79	80歳 以上	合 計							
	男														
	女														

定点医療機関からのコメント

疑似症	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計
※			

※注

1. 1週間の疑似症発生病数を全て記入してください。
2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

感染症発生動向調査（インフルエンザ定点・疑似症定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名：

	0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～ 14	15～ 19	20～ 29	30～ 39	40～ 49	50～ 59	60～ 69	70～ 79	80歳 以上	合計
	男	女																			
インフルエンザ (鳥インフルエ ンザ及び新型イ ンフルエンザ等 感染症をのぞ く)																					

疑似症 ※	1. 発熱及び 呼吸器症状	2. 発熱及び 発しん・水泡	合計

※注

1. 1週間の疑似症発生件数を全て記入してください。
2. 疑似症発生時は、この様式ではなく、随時報告用紙を保健所あてFAX送付してください。

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査（眼科定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名：

		0～5 カ月	6～11 カ月	1歳	2	3	4	5	6	7	8	9	10～14	15～19	20～29	30～39	40～49	50～59	60～69	70歳 以上	合計
		男	女																		
急性出血性 結膜炎	男																				
	女																				
流行性角結膜炎	男																				
	女																				

定点医療機関 からのコメント	
-------------------	--

感染症発生動向調査（S T I 定点）

月報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名：

		0歳	1～4	5～9	10～14	15～19	20～24	25～29	30～34	35～39	40～44	45～49	50～54	55～59	60～64	65～69	70歳以上	合計
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	
性器クラミジア 感染症	男																	
	女																	
性器ヘルペス ウイルス感染症	男																	
	女																	
尖圭コンジローマ	男																	
	女																	
淋菌感染症	男																	
	女																	
膣トリコモナス症	男																	
	女																	
梅毒様疾患	男																	
	女																	

定点医療機関からのコメント	
---------------	--

感染症発生動向調査（基幹定点）

週報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日

医療機関名:

I D 番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名 *	病原体名称 (検査結果)	病原体検査	
					左記の結果を得た 病原体検査方法 **	検体名
1			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
2			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
3			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
4			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
5			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
6			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
7			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
8			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
9			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	
10			1 2 3 4 5		1 2 3 4 5 6 7	

* 疾病名

- 1: 細菌性髄膜炎
2: 無菌性髄膜炎 (真菌、結核菌、マイコプラズマ、リケッチア、クラミジア、原虫を含む)
3: マイコプラズマ肺炎
4: クラミジア肺炎 (全数届出疾患のオウム病を除く)

** 病原体検査方法

- 1: 分離・同定 2: 抗原検出 3: 核酸・PCR
4: 塗抹検鏡 5: 電顕 6: 抗体検出
7: その他

<記載上の注意>

- ・細菌性髄膜炎および無菌性髄膜炎: 病原体が判明している場合は、その病原体名 (複数検出された場合は、主要なもの二種のみ記載)、その結果を得た病原体検査方法 (複数の場合は、最も相拠となった方法一つを選択) 及びその検体名を記載。病原体が判明していない場合は、病原体名称欄に “検出せず” と記載してください (病原体検査欄の記載は不要)。
- ・マイコプラズマ肺炎: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *M. pneumoniae* と記載の上、病原体検査方法 (1、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択) 及びその検体名を記載してください。
- ・クラミジア肺炎: 病原体検査診断が必須。病原体名称欄に *C. pneumoniae*、*C. trachomatis* を記載の上、病原体検査方法 (1、2、3、6、7のいずれか。複数の場合は主要な一つを選択) 及びその検体名を記載してください。

感染症発生動向調査（基幹定点）

月報

調査期間 平成 年 月 日 ～ 年 月 日 医療機関名:

ID番号	性	年齢 (0歳は月齢)	疾 病 名 *	検体採取部位 **
1			1 2 3	
2			1 2 3	
3			1 2 3	
4			1 2 3	
5			1 2 3	
6			1 2 3	
7			1 2 3	
8			1 2 3	
9			1 2 3	
10			1 2 3	

* 疾病名（番号を○で囲む）
1：メチシリン耐性黄色ブドウ球菌感染症
2：ペニシリン耐性肺炎球菌感染症
3：薬剤耐性緑膿菌感染症

** 検体採取部位
複数部位から検出された場合は、最も重要と考えられる1カ所のみを記載。

インフルエンザ検査票
(内科病原体定点用)

医療機関名（または定点コード）				医 師 名			
I D				年 齢		歳 か月	
性 別		男 ・ 女		居住地		区市町村	
発 病 日		年 月 日		検体採取日		年 月 日	
臨床症状・徴候等		該当するものをすべてを○で囲んでください。					
患者情報		・ 発熱（最高 _____ °C） ・ 関節痛、筋肉痛 ・ 口内炎、上気道炎、下気道炎（肺炎、気管支炎） ・ 胃腸炎（下痢、血便、嘔気、嘔吐、腹痛） ・ 中枢神経系症状（脳炎、脳症、脊髄炎、その他 _____） ・ その他の症状 [_____]					
迅速診断キットによる診断		無 ・ 有（A型： _____ B型： _____）					
最近のインフルエンザワクチン接種歴		無 ・ 有（ _____ 年 月 日）					
最近の海外渡航歴		国 名 _____ 期 間 _____		年 月 日 ～ 年 月 日			
発生状況		集団発生（学校等）、家族内発生等、わかる範囲で記入してください。					

健康安全研究センター記入欄		検体受付日		収受番号		検体番号	
報告日		年 月 日		病原体検出方法		遺伝子増幅（PCR）	
結 果 インフルエンザ ウイルス		AH1 型					
		AH3 型					
		B 型					
		型					
		型					
※ ウイルス分離結果については、後日報告します。							

1. 麻しんについては、診断を行った医師は7日以内に届出をしていただくこととなっておりますが、麻しんに対するより迅速な行政対応に資するため、麻しんを診断した医師は24時間以内を目処に最寄りの保健所への届出を行っていただくようお願いします。
2. 臨床診断例については、届出後であっても可能な限り検査診断を実施し、その結果について最寄りの保健所に報告していただくようお願いします。

別記様式 5-14-3

麻 し ん 発 生 届

東京都知事（保健所）
 特別区長（保健所）
 八王子市長（八王子市保健所）

感染症の予防及び感染症の患者に対する医療に関する法律第12条第1項（同条第6項において準用する場合を含む。）の規定により、以下のとおり届け出る。

報告年月日 平成 年 月 日

医師の氏名 印（署名又は記名押印のこと）

従事する病院・診療所の名称

上記病院・診療所の所在地（※）

電話番号（※）（ ） — （※病院・診療所に従事していない医師にあっては、その住所・電話番号を記載）

1 診断（検案）した者（死体）の種類 ・患者（確定例） ・感染症死亡者の死体	2 性別 男 ・ 女	3 診断時の年齢（0歳は月齢） 歳（ か月）
---	---------------	---------------------------

病 型	1 1 感染原因・感染経路・感染地域
1) 麻しん（検査診断例） 2) 麻しん（臨床診断例） 3) 修飾麻しん（検査診断例）	①感染原因・感染経路（ 確定・推定 ） 1 飛沫・飛沫核感染（感染源の種類・状況： ） 2 接触感染（接触した人・物の種類・状況： ） 3 その他（ ）
4 症 状 ・発熱 ・咳 ・鼻汁 ・結膜充血 ・眼脂 ・コプリック斑 ・発疹 ・肺炎 ・中耳炎 ・腸炎 ・クルーズ ・脳炎 ・その他（ ） 入院の有無：無、有（入院日： 月 日）	②感染地域（ 確定 ・ 推定 ） 1 日本国内（ 都道府県 市区町村） 2 国外（ 国、詳細地域 ） ③麻しん含有ワクチン接種歴 1回目 有（ 歳）・無・不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（ S・H 年 月 日 ・不明） 製造会社/Lot番号（ / ・不明） 2回目 有（ 歳）・無・不明 ワクチンの種類（麻しん単抗原・MR・MMR・不明） 接種年月日（ S・H 年 月 日 ・不明） 製造会社/Lot番号（ / ・不明）
5 診 断 方 法 ・分離同定による病原体の検出 検体： 咽頭拭い液・血液・髄液・その他（ ） 遺伝子型：（ ） ・検体から直接のPCR法による病原体遺伝子の検出 検体： 咽頭拭い液・血液・髄液・その他（ ） 遺伝子型：（ ） ・血清IgM抗体の検出 ・ペア血清での抗体の検出 結果：抗体陽転・抗体価の有意上昇 検査方法：EIA・HI・NT・PA・その他（ ） ・その他の検査方法（ ） 検体（ ） 結果（ ） ・臨床決定（ ）	
6 初診年月日 平成 年 月 日	
7 診断（検案※）年月日 平成 年 月 日	
8 感染したと推定される年月日 平成 年 月 日	
9 発病年月日（*） 平成 年 月 日	
10 死亡年月日（※） 平成 年 月 日	

（1, 2, 4, 5, 11 欄は該当する番号等を○で囲み、3, 6 から 10 欄は年齢、年月日を記入すること。（※）欄は、死亡者を検案した場合のみ記入すること。（*）欄は、患者（確定例）を診断した場合のみ記入すること。4, 5 欄は、該当するものすべてを記載すること。）

診断した医師の方へのお願い

1. 集団感染のおそれがある場合には、感染拡大防止指導を実施いたします。このため、以下の情報提供をお願い致します。

(1) 集団感染を起こしやすい要因

- ア. 集団生活：無、有（園児・小・中・高・大・その他の学生、施設入所者、その他（ ））
 イ. 集団に接する職業：無、有（保育士、教師、施設職員、医療従事者、その他（ ））
 ウ. 集団に接する機会：無、有（施設での実習、ボランティア活動、その他（ ））

(2) 患者の住所：（ ）区・市・町・村

2. 集団感染のおそれがある場合には、感染症法第15条により、積極的疫学調査（患者個人情報を含む）を実施致します（この場合、医師の守秘義務は解除されます）。しかし、迅速な集団感染防止対策のため、保健所の調査前であっても、患者（又は保護者）の同意が得られた場合には、裏面調査票により情報提供をお願い致します。

保健所への個人情報等の提供に関する患者（あるいは保護者）の同意 （有・無）

※ 下記の個人情報等については、患者（あるいは保護者）の同意が取れた場合に、情報提供をお願い致します。

質問については、可能な範囲でご記入ください。

保健所における麻しん対応調査票

患者氏名	
患者住所・電話番号	・（ ）
所属名（学校、勤務先等）・連絡先（学校、勤務先）	・（ ）
同居している家族の構成	

質問1 診断前までに以下の症状がありましたか。該当する項目を○で囲んでください。また、症状があった場合には詳しく教えてください。

- 1) 37.5℃以上の発熱：無、不明、有（期間： 月 日～ 月 日）
- 2) 発疹：無、不明、有（頭部、顔、体、手足、その他（ ）、期間 月 日～ 月 日）
- 3) 咳：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）
- 4) 鼻水：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）
- 5) 目の充血：無、不明、有（ 月 日～ 月 日）

質問2 患者のご家族についてお聞きます。

- 1) 患者家族で今回、麻しんに罹患した人はいますか。無、有（患者との関係： 、年齢： 歳）
- 2) 患者家族で麻しんに未罹患かつワクチン未接種の人はいますか。
 無、有（患者との関係： 、年齢： 歳）

質問3 感染の機会に係わる生活状況についてお聞きます。発熱初日の2週間前から解熱3日後までの期間についてお答えください。

- 1) 最終登園・登校・出勤日：（ 月 日）
- 2) 人が多く集まる所（クラブ、習い事、イベント等）の参加：無、有（場所： 時期： ）

この届出は診断後直ちに行ってください

感染症発生動向調査（疑似症定点）

報告日 平成 年 月 日

医療機関名: _____

	届出基準	年齢	性別	備考（定点医療機関からのコメント）
1	1 . 2	歳	男・女	
2	1 . 2	歳	男・女	
3	1 . 2	歳	男・女	
4	1 . 2	歳	男・女	
5	1 . 2	歳	男・女	
6	1 . 2	歳	男・女	
7	1 . 2	歳	男・女	
8	1 . 2	歳	男・女	
9	1 . 2	歳	男・女	
10	1 . 2	歳	男・女	

【届出基準】 1：摂氏38度以上の発熱及び呼吸器症状（明らかな外傷又は器質的疾患に起因するものを除く。）
 （上欄の数字を○で囲む） 2：発熱及び発しん又は水泡

感染症発生動向調査事業報告書
平成22年（2010年）

平成23年7月

登録番号（23）5

編集・発行 東京都健康安全研究センター
〒169-0073 東京都新宿区百人町3-24-1
電 話 （03）3363-3231
印 刷 所 有限会社 太平印刷
〒171-0051 東京都豊島区长崎6-22-10
電 話 （03）3957-3911